

平成 30 年度授業計画
— 幼児教育学科 —

岡山短期大学

履修にあたって

必修科目……各学科の教育目標を達成する為に必ず履修しなければなりません。1科目でも不認定になると卒業できませんので、授業の教育目標・教育方法・単位認定基準をよく読んで、授業のアウトラインをつかんで履修して下さい。

選択必修科目……一定の授業科目群のなかから自分で履修する授業科目を選択することができますが、その授業科目群に定められた必修単位数は必ず修得しなければなりません。

選択科目……自分の目的にあわせて選択履修することができます。授業の内容をみて興味のある授業科目や、自分の希望する職業また取得したい資格に必要な知識、技術と照らしあわせながら選択して下さい。

カリキュラム表及び担当教員掲載頁一覧					
注1)一般教育科目					
授業科目	必修	選択	計	担当教員名	職名
	注2)	注3)		注4)	注5)

注1)一般教育科目について具体的に自分の学年でどの授業科目がいつ開講されているかは、「学生のしおり」の授業科目時間配当表を参照して下さい。

注2)単位数が記載されている科目は必修科目です。1単位でも落とすと卒業できません。又、2つ以上の授業科目にわたって単位数が記載されている場合は、選択必修科目でその区分の選択科目のなかから、定められた必修単位数を修得しなければなりません。

注3)注2)に単位数の記載がない授業科目で、ここに単位数が記載されている科目は選択科目です。各資格取得に必要な科目もありますので、詳しくは「学生のしおり」を参照して下さい。

注4)各授業科目の担当教員名とその授業科目のシラバス掲載頁を明記しています。一つの授業科目を複数の教員が担当している場合もありますので、必ず時間割で自分のクラスの担当教員名を確認して下さい。

注5)岡山学院大学の教員、非常勤の教員は職名の後に(兼)と記載してあります。

カリキュラム表及び担当教員掲載頁一覧

一般教育科目

授 業 科 目	必修	選択	計	担当教員名	職 名	掲載頁	備 考
倫 理 学	10	2	2	尾崎 聡	教 授	I - 1	
文 学		2	2	開講せず			
国 際 文 化 史		2	2	開講せず			
日 本 国 憲 法		2	2	近 勝彦	教 授(兼)	I - 5	
社 会 学		2	2	坂元 晶	講 師(兼)	I - 8	
経 済 学		2	2	張 秉煥	准教授	I -13	
教 育 学		2	2	開講せず			
心 理 学		2	2	開講せず			
統 計 学		2	2	開講せず			
環 境 保 全 学		2	2	開講せず			
基 礎 数 学		2	2	開講せず			
物 理 学		2	2	開講せず			
化 学		2	2	開講せず			
生 物 学		2	2	開講せず			
生 理 学		2	2	開講せず			
情 報 処 理 基 礎		2	2	張 秉煥	准教授	I -16	
情 報 処 理 演 習		1	1	張 秉煥	准教授	I -19	
文 書 処 理 演 習(A)		1	1	張 秉煥	准教授	I -22	
文 書 処 理 演 習(B)		1	1	張 秉煥	准教授	I -25	
キャリアガイダンス		2	2	張 秉煥	准教授	I -28	
英 語(A)		1	1	濱田佐保子	教 授	I -31	
英 語(B)		1	1	濱田佐保子	教 授	I -35	
体 育 実 技		1	1	西谷 光正	講 師(兼)	I -39	
体 育 理 論		1	1	藤井 真理	教 授	I -42	
基 礎 音 楽		1	1	大羽 敬子	講 師(兼)	I -44	
ボランティア活動(A)		1	1	学科教員		I -48	
ボランティア活動(B)		1	1	学科教員		I -48	
ク ラ ブ 活 動(A)	1	1	学科教員		I -49		
ク ラ ブ 活 動(B)	1	1	学科教員		I -49		
教 養 演 習	2	2	張 秉煥	准教授	I -50		
合 計	10	51	51				

専門教育科目

授 業 科 目	必修	選択	計	担当教員名	職 名	掲載頁	備 考
教 育 心 理 学	2	2	2	井頭久子	教 授	Ⅱ- 1	
発 達 心 理 学 I		2	2	大賀恵子	講 師	Ⅱ- 4	
発 達 心 理 学 II		2	2	井頭久子	教 授	Ⅱ- 8	
発 達 心 理 学 III		2	2	井頭久子	教 授	Ⅱ- 11	
臨 床 心 理 学(A)		1	1	鈴木久子	講 師	Ⅱ- 14	
臨 床 心 理 学(B)		1	1	開講せず			
社 会 心 理 学		2	2	大賀恵子	講 師	Ⅱ- 17	
教 師 論		2	2	都田修兵	講 師	Ⅱ- 21	
教 育 原 理	2		2	都田修兵	講 師	Ⅱ- 27	
教 育 制 度 論		2	2	都田修兵	講 師	Ⅱ- 33	
保 育 相 談 の 基 礎		2	2	井頭久子	教 授	Ⅱ- 39	
事 前 ・ 事 後 指 導		1	1	都田修兵	講 師	Ⅱ- 42	
幼 稚 園 教 育 実 習		4	4	都田修兵	講 師		
教 職 実 践 演 習		2	2	井頭久子 浦上博文 鈴木久子 都田修兵	教 授 教 授 講 師 講 師	Ⅱ- 45	
社 会 福 祉		2	2	松尾 冀	教 授(兼)	Ⅱ- 48	
相 談 援 助		1	1	大賀恵子	講 師	Ⅱ- 52	
保 育 相 談 支 援		1	1	井頭久子	教 授	Ⅱ- 55	
児 童 家 庭 福 祉		2	2	松尾 冀	教 授(兼)	Ⅱ- 58	
保 育 者 論	2		2	都田修兵	講 師	Ⅱ- 61	
保 育 原 理 I	2		2	都田修兵	講 師	Ⅱ- 67	
保 育 原 理 II		2	2	都田修兵	講 師	Ⅱ- 73	
乳 児 保 育		2	2	山本婦佐江	講 師	Ⅱ- 79	
社 会 的 養 護		2	2	新田満穂	教 授(兼)	Ⅱ- 83	
障 害 児 保 育		2	2	鈴木久子	講 師	Ⅱ- 86	
社 会 的 養 護 内 容		1	1	新田満穂	教 授(兼)	Ⅱ- 90	
保 育 実 践 演 習		2	2	大賀恵子 山本婦佐江	講 師 講 師	Ⅱ- 93	
保 育 実 習 I		4	4	大賀恵子 山本婦佐江	講 師 講 師		
保 育 実 習 指 導 I		2	2	大賀恵子 山本婦佐江 濱田佐保子	講 師 講 師 教 授	Ⅱ- 96	
保 育 実 習 II		2	2	濱田佐保子	教 授		
保 育 実 習 指 導 II		1	1	大賀恵子 山本婦佐江 濱田佐保子	講 師 講 師 教 授	Ⅱ- 99	

授 業 科 目	必修	選択	計	担当教員名	職 名	掲載頁	備 考
子どもの保健Ⅰ(A)		2	2	野々上敬子	講 師(兼)	Ⅱ-102	
子どもの保健Ⅰ(B)		2	2	野々上敬子	講 師(兼)	Ⅱ-104	
子どもの保健Ⅱ		1	1	野々上敬子	講 師(兼)	Ⅱ-106	
家 庭 支 援 論		2	2	大賀恵子	講 師	Ⅱ-109	
子どもの食と栄養		2	2	高槻悦子	講 師(兼)	Ⅱ-113	
保 育 内 容 総 論	1		1	福野裕美	准教授(兼)	Ⅱ-116	
教 育 課 程 総 論	2		2	福野裕美	准教授(兼)	Ⅱ-119	
健 康 (保育内容)	2		2	藤井真理	教 授	Ⅱ-122	
人 間 関 係 (保育内容)	2		2	尾崎 聡	教 授	Ⅱ-125	
環 境 (保育内容)	2		2	鈴木久子	講 師	Ⅱ-131	
言 葉 (保育内容)	2		2	浦上博文	教 授	Ⅱ-135	
表 現 Ⅰ(A) (保育内容)	1		1	藤井真理	教 授	Ⅱ-138	
表 現 Ⅰ(B) (保育内容)	1		1	藤井真理	教 授	Ⅱ-142	
表 現 Ⅱ(A) (保育内容)	1		1	関野智子	講 師	Ⅱ-146	
表 現 Ⅱ(B) (保育内容)	1		1	関野智子	講 師	Ⅱ-151	
音 楽 Ⅰ(A)		1	1	白神厚子 河原真理	教 授 講 師(兼)	Ⅱ-155	
音 楽 Ⅰ(B)		1	1	荒木淳子 門田晶子	講 師(兼) 講 師(兼)	Ⅱ-159	
音 楽 Ⅰ(C)	1		1	白神厚子 河原真理	教 授 講 師(兼)	Ⅱ-163	
音 楽 Ⅰ(D)	1		1	荒木淳子 門田晶子	講 師(兼) 講 師(兼)	Ⅱ-167	
音 楽 Ⅱ(A)	1		1	大羽敬子	講 師(兼)	Ⅱ-171	
音 楽 Ⅱ(B)		1	1	大羽敬子	講 師(兼)	Ⅱ-175	
体 育(A)	1		1	西谷光正	講 師(兼)	Ⅱ-179	
体 育(B)	1		1	西谷光正	講 師(兼)	Ⅱ-182	
図 画 工 作 (図 画 A)	1		1	関野智子	講 師	Ⅱ-185	
図 画 工 作 (工 作 A)	1		1	関野智子	講 師	Ⅱ-190	
図 画 工 作 (図 画 B)		1	1	関野智子	講 師	Ⅱ-194	
図 画 工 作 (工 作 B)		1	1	関野智子	講 師	Ⅱ-198	
図 画 特 修 (A)		1	1	開講せず			
図 画 特 修 (B)		1	1	開講せず			
国 語	2		2	浦上博文	教 授	Ⅱ-202	
生 活 と 科 学		2	2	鈴木久子	講 師	Ⅱ-205	
児 童 文 化		2	2	尾崎 聡	教 授	Ⅱ-208	
卒 業 予 備 研 究(A)		1	1	学科教員		Ⅱ-211	
卒 業 予 備 研 究(B)		1	1	学科教員			
卒 業 研 究(A)		1	1	学科教員			
卒 業 研 究(B)		1	1	学科教員			
合 計	33	76	107				

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	倫理学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	尾崎 聡
質問受付の方法：e-mail は osaki@owc.ac.jp、オフィスアワーは B308 土曜 0900～							
教育目標と学生の学習成果	<p>【教育目標】短期大学生としての初歩的な教養形成、すなわち世の中で生じている様々な事柄について、人間・社会・歴史・文化・文明などの視点から、素朴であっても、ものごとの根本から思索できるようになることを目指す。まず社会現象、諸々のメディアなど身近な素材によって倫理的な世界に関心を持つことから始める。次に人間存在（いのちをもって生まれてきたもの）や規範（きまり）、共同体（なかま）や歴史という視点から倫理的思索の入口に立つことを試みる。</p> <p>【学生の学習成果】世の中で生じている様々な事柄について、高等教育を受けた者にふさわしく、素朴であっても人間存在や歴史性、共同体や規範といった視点から見たり、聞いたり、述べたりすることが出来るようになる。（汎用的学習成果「価値観・意見・信念・態度」にも相当）</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>（講義・演習・実験・実習・実技）</p> <p>担当教員が準備し、進行させていく講義であるが、現代社会情勢を意識して序盤は「生命倫理」、受講生の専門を意識して中・終盤は「精神世界（心と物）と倫理」「コミュニケーションと倫理」をキーワードに授業のラインナップを構成し、題材を準備する。授業中は対話という双方向性も取り入れて受講生の頭脳を活性化させながら進めていく。また毎回、積極的に画像・図像、映像を使って立体的に理解を補っていく。</p>	<p>予習・復習</p> <p>1回の授業に対して予習・復習が義務付けられる。予習・復習・課題の成果を残す場としては授業内容・参考文献・参考映像などに関する感想をシャトルカードに記述することとする。</p>	<p>テキスト</p> <p>特にテキストは指定しないが、毎回参考資料をプリントで配布する。</p>			
学習評価の方法	<p>【達成基準】</p> <p>① 身近な素材に倫理的な世界を見出せるようになっていくこと（筆記試験の50%）</p> <p>② 世の中で生じている様々な事柄について人間存在や規範、共同体や歴史性といった根本的な立場から思索できるようになっていくこと（筆記試験の50%）</p> <p>以上を試験における論述で証明すること。論述は以下の観点から採点する</p> <p>1. 倫理性（すなわち思考の規範性、思考の内面性、深さ） 題材の選び方・題材の切り口（5秀逸・4良し・3普通・2やや不満・1不満）。 記述内容（5秀逸・4良し・3普通・2やや不満・1不満）。</p> <p>2. 哲学度（すなわち思考の自由さ、思考の立体性、広さと高さ） 題材の選び方、題材の切り口（5秀逸・4良し・3普通・2やや不満・1不満） 記述内容（5秀逸・4良し・3普通・2やや不満・1不満）。</p> <p>【評価方法】</p> <p>筆記試験：簡単な用語や事例の説明および1,000字の論述を課する（80%） 中間提出物：試験前に受講者各自の倫理および倫理学への興味関心・理解の発達を確認する（20%） 上記以外に授業態度を汎用的学習成果として評価する。</p>						
注意事項	参考図書は古今東西の名著から毎回指示する						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>■ガイダンス：教育目標、教育方法、評価方法、半期の講義計画について予告し、受講者と合意する。倫理学の導入を行う。</p> <p>■授業内容：倫理・倫理学・現代倫理について知る。</p> <p>■参考映像：M・シェリー原作、F・コッポラ監督、1994、映画『フランケンシュタイン』（人間の野望、未知への挑戦、永遠の生命を求める人、生命より永遠の名声を求める人など様々な人間像に注目）</p> <p>■予習と復習：新聞やテレビ、ネットなどで見かける「〇〇倫理」という用語を調べてみよう。</p>
2 回	<p>シリーズ生命倫理 アプローチ編</p> <p>■授業内容：19世紀ヨーロッパ諸科学と生命倫理（特定の科学が躍進する時、倫理論争が起きる）について知る。</p> <p>■参考映像：M・シェリー原作、F・コッポラ監督、1994、映画『フランケンシュタイン』（19世紀のドイツの大学において展開される生命倫理論争に注目）</p> <p>■予習と復習：フランケンシュタインの他にも人造人間の話でどのようなものがあるか、調べてみよう。</p>
3 回	<p>シリーズ生命倫理 アプローチ編</p> <p>■授業内容：人間存在の意味、ヨーロッパの人間観・日本の人間観と生命倫理（神と人と動物の違い、聖書における神と人と動物）について知る。</p> <p>■参考映像：M・シェリー原作、F・コッポラ監督、1994、映画『フランケンシュタイン』（人造人間創造のおぞましい場面に注目）</p> <p>■予習と復習：授業で習った以外にも世界各地には様々な人間の起源に関する考えがある。調べてみよう。</p>
4 回	<p>シリーズ生命倫理 応用編</p> <p>■授業内容：科学技術文明の発達とそれへの警告（人造人間伝説 ホムンクルスとゴーレム）について知る。</p> <p>■参考文献：ゲーテ『ファウスト』、マイリンク『ゴーレム』</p> <p>■参考映像：宮崎駿、1984、映画『風の谷のナウシカ』（異様なキャラクター”巨神兵”は地球の文明を滅ぼした最終兵器、生命工学の粋を結集したバイオ・ソルジャーで、ホムンクルスからインスパイアしたものであることに注目）</p> <p>■予習と復習：カレル・チャペックの『ロボタ』はロボットの起源話である。調べてみよう。</p>
5 回	<p>シリーズ生命倫理 応用編</p> <p>■授業内容：過ちやすき存在である人間の罪と贖（あがない）について知る。</p> <p>■参考映像：庵野秀明プロデュース、TV・映画・漫画『エヴァンゲリオン』（ストーリーの構成要素は神と人間を媒介する使徒＝エンジェル、人類最初の女性＝エヴァに由来する人造人間エヴァンゲリオン、最初の人＝アダムに由来する磔刑された肉塊など、クローン人間のヒロイン、精子バンクからの人工授精児など、聖書、偽典、オカルト、ユング心理学から生命科学まで、教養の集大成であることに注目）</p> <p>■予習と復習：エヴァンゲリオンの他にも、人造人間に関してアニメーションなどサブカルチャーでどのようなものがあるか、調べてみよう。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
6 回	<p>シリーズ生命倫理 思索編</p> <p>■授業内容： 文明史の中で揺れ動く生と死の定義（生命哲学、死生学、安楽死・尊厳死と延命、脳死と心臓死、法律的死と医学的死、QOL など）について知る。</p> <p>■参考映像：ドキュメンタリー『和田移植』（渡辺淳一が語る、日本最初の心臓移植、提供者は脳死体だったのか？生体だったのか？）</p> <p>■予習と復習：脳死体の定義、安楽死と尊厳死の違いについて調べてみよう。</p>
7 回	<p>シリーズ生命倫理 思索編</p> <p>■授業内容： 文明史の中で揺れ動く生と死の定義（生命哲学、死生学、安楽死・尊厳死と延命、脳死と心臓死、法律的死と医学的死、QOL など）について知る。</p> <p>■参考映像：NHK スペシャル・エッセイドラマ『家族』（大原健士郎原作）</p> <p>■予習と復習：インフォームドコンセントや告知の問題について調べてみよう。</p>
8 回	<p>シリーズ生命倫理 思索編</p> <p>■授業内容： 文明史の中で揺れ動く生と死の定義（生命哲学、死生学、安楽死・尊厳死と延命、脳死と心臓死、法律的死と医学的死、QOL など）について知る。</p> <p>■参考映像：フジテレビドラマ『白い巨塔』（山崎豊子原作）</p> <p>■予習と復習：ホスピスについて調べてみよう。</p>
9 回	<p>シリーズ 精神世界と倫理 入門編</p> <p>■授業内容：世紀末ヨーロッパにおける人間の発見（無意識の発見＝人間観のコペルニクス的転換）について知る。</p> <p>■参考映像：ニコラス・メイヤー原作、ハーバート・ロス監督、映画『シャーロックホームズの素敵な挑戦』（ワトソンは神経衰弱に陥ったホームズを救うため、はるばるウィーンのプロイトのもとに連行する。無意識やマザーコンプレックスの発見者フロイトは学会から孤立し、ユダヤ人ゆえキリスト教社会から迫害を受けていたが、信念をもって力強く生きていた）</p> <p>■予習と復習：フロイト以外にも授業などでどのような心理学者を習っただろうか。また彼らはどのような人間観を示してくれただろうか、調べてみよう。</p>
10 回	<p>シリーズ 精神世界と倫理 入門編</p> <p>■授業内容：精神分析が変えた現代的人間観（夢の不思議、催眠術、心身論、心因性という生き方）について知る。</p> <p>■参考映像：ニコラス・メイヤー原作、ハーバート・ロス監督、映画『シャーロックホームズの素敵な挑戦』（ホームズはコカイン中毒に陥ってしまい、悪夢、幻覚、幻聴に悩んでいた。自らもコカイン中毒の体験者であり、友人をコカイン中毒で失ったフロイトはホームズを軟禁、催眠術などを駆使し、命がけの治療を試みる）</p> <p>■予習と復習：この時代は麻薬の研究をしながら、自らもそれに手を出す研究者が非常に多かった。倫理に関する意識が異なったのだろうか、考えてみよう。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
11 回	<p>シリーズ 精神世界と倫理 キャリア編（職業と学問 社会と人生）</p> <p>■授業内容：職業倫理（若きフロイトの職業選択、勉学、修行）について知る。</p> <p>■参考映像：ジェラルド・キコアーヌ監督、アンソニー・パーキンス主演『ジキルとハイド』（ジキル博士はコカインの安全性を確かめず、鎮痛から潜在意識の覚醒まで万能の秘薬として期待する）</p> <p>■予習と復習：この時代は麻薬の潜在可能性に魅惑されてしまう研究者が非常に多かった。研究の倫理に関する意識が異なったのだろうか、考えてみよう。</p>
12 回	<p>シリーズ 精神世界と倫理 発展編</p> <p>■授業内容：深層心理の発見と探訪（ユングによる集合的無意識の発見。集合的無意識＝単なる個人を超越して太古・未来・宇宙につながり、仲間と共有することによって増幅される無意識。交霊術から伝承遊び“かごめかごめ”まで）について知る。</p> <p>■参考映像：つのだじろう 漫画・アニメ『うしろの百太郎 こっくりさん編』（こっくりさんは西洋の交霊術が幕末から明治初に輸入されたもので、深層心理の不思議にアプローチするのに都合の良い題材である。狐狗狸とも言い、憑依現象とも関係する）</p> <p>■予習と復習：集合的無意識に関する事例はサブカルチャーの世界に数多く発見できる。調べてみよう。</p>
13 回	<p>シリーズ コミュニケーションと倫理 入門編①</p> <p>■授業内容：「愛」の種類（エロス・アガペー・フィリア）と作用（働き）について知る。</p> <p>■参考映像：海外ドラマ『ヤング・インディー・ジョーンズ -ウィーン編-』（19世紀ウィーンを舞台に特殊メイクを施したフロイト、ユング、アードラーが動いてしゃべる。愛についてフロイトは性欲、ユングは神秘、アードラーは人間の成長という視点からそれぞれ自説を展開することに注目）</p> <p>■予習と復習：深層心理の巨人はフロイトだけではない。ユングとアードラーという人物についても調べてみよう。</p>
14 回	<p>シリーズ コミュニケーションと倫理 入門編②</p> <p>■授業内容：「愛」の種類（エロス・アガペー・フィリア）と作用（働き）の実例について知る。</p> <p>■参考映像：日本テレビ 知ってるつもり『マザー・テレサ』</p> <p>■予習と復習：アガペーを象徴する人物としてマザー・テレサがいる、調べてみよう。</p>
15 回	<p>シリーズ コミュニケーションと倫理 発展編</p> <p>■授業内容：複雑多様な「愛」の種類（サディズム…フェティシズム（物）…ネクロフィリア（死）…ペドフィリア（幼・弱・小））について知る。（これらは異常心理として扱われることが多いが、本来は全ての人間に日常的感性あるいは芸術的感性として存在し、学問的に理解可能なものという認識が必要である）</p> <p>■参考映像：グリム童話『青ひげ』（主人公はマザーコンプレックス、ペドフィリア、ネクロフィリア、ヘマトフィリア（嗜血）…であったことに注目）</p> <p>■予習と復習：青ひげ以外にも深層心理学的な童話でどのようなものがあるだろうか、調べてみよう。</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	日本国憲法	授業回数	15	単位数	2	担当教員	近 勝彦
質問受付：毎月曜日午後 4 時 10 分—午後 5 時		e-mail： dark-blue@star.nifty.jp					
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：憲法は、「国法の最高法規である (98 条)」であり、すべての法の最高規範である。この観念は、近代市民革命の頃から現れたことからしても、国民の基本的な人権を擁護し、国家の統治権力に制限を課したものである。この見方は、日本国憲法の構成にもみてとれる。すなわち、きわめて大きく内容を分けると、国民の基本的な人権の保障と国家機関の設置とその権能について書かれているのである。そこでまずは、憲法の基本的意義と内容を理解する必要がある。</p> <p>学生の学習成果：栄養士は、日本国民の健康で安全な食生活の維持や公衆衛生にかかわっている (25 条)。その活動には、様々な法律が関わっている。そこで、まずは基礎的な法概念や法知識を学ぶことが必要であろう。そのうえで、個別法規の理解やそれにもとづく業務における法律解釈がおこなえる応用力の獲得を成果と考える。</p>						
教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>日本国憲法の基本的な考え方や内容を知る必要がある。そのためには、憲法の主要な条文をやはり読む必要がある。しかし、法学部の学生ではないので、精緻な条文の解釈というよりは、現代に起きている社会問題の解決のために、憲法がどのように機能しているのかという視点で講義を進める。そこで、最低限度の条文の解釈を試みた後に、主要な憲法事件 (判例) を取り上げて、じっくりと講義していくことにする。また、公務員試験や民間会社の社会科学系の一般知識試験としてもよく出題されるので、内容を網羅するように授業を進めたい。講義の終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問や感想を求める。次回の講義時に、質問等の回答を記入して返却する。これによって、各々の学習進行状況を確認しながら講義を進める。</p>					
	予習・復習	<p>毎回講義した条文を筆記するとともに、予習としては、次回の章を読んでくる。「シャトルカード」により効果的な復習を促進する。</p>					
	テキスト	『日本国憲法講義ノート』(小野高速印刷)					
学習評価の方法	<p>憲法の基本的な理解の習得を目指す。さらには、主要な条文の概念や法用語を習得する。なお、講義の期間中に、憲法全文を読んでいく (上記テキストの中にも出ている)。なお、評価方法としては、期末試験(80%)、レポート(20%)。</p>						
注意事項							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション：憲法を学ぶ意義と基本的な考え方 法となにかを考える 人のリーガルマインドと感覚の差の意味</p>
2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義内容：憲法の歴史と各国の憲法の歴史を学ぶ 人権獲得の歴史 ・ 予習内容：次回の箇所を読んでおく ・ 復習事項および課題：「日本国憲法はいかなる淵源をもっているか」
3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義内容：人権とは 人権の主体とその制限 ・ 予習内容：次回の箇所を読む ・ 復習事項および課題：「マクリーン事件」
4 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義内容：法の下での平等について 実質的平等とは何かを学ぶ ・ 予習内容：次回の箇所を読む ・ 復習事項および課題：「尊属殺重刑違憲判決」
5 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義内容：思想・良心の自由について 精神的自由の内容とその制約 ・ 予習内容：次回の箇所を読む ・ 復習事項および課題：「三菱樹脂事件」
6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義内容：宗教の自由について 宗教活動の意義と課題 ・ 予習内容：次回の箇所を読む ・ 復習事項および課題：「政教分離の意義と課題」
7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義内容：表現の自由について 権利の侵害と自由 ・ 予習内容：時間の箇所を読む ・ 復習事項および課題：「名誉毀損と表現の自由」
8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義内容：社会権 生存権の本質と現代的意義 ・ 予習内容：次回の箇所を読む ・ 復習事項および課題：「社会保障と労働者の権利」

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義内容：経済的自由について 二重の基準論 ・ 予習内容：次回の箇所を読む ・ 復習事項および課題：「所得格差と公平性」
10 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義内容：平和憲法について 国家の安全と憲法 ・ 予習内容：次回の箇所を読む ・ 復習事項および課題：「平和をいかにして実現するか」
11 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義内容：国会について 国権の最高機関性と権能 ・ 予習内容：次回の箇所を読む ・ 復習事項および課題：「法律を作る過程」
12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義内容：裁判所について 違憲立法審査権 ・ 予習内容：次回の箇所を読む ・ 復習事項および課題：「訴訟とそのプロセス」
13 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義内容：内閣について ・ 予習内容：次回の箇所を読む ・ 復習事項および課題：「内閣制度と大統領制」
14 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義内容：地方自治体について ・ 予習内容：次回の箇所を読む ・ 復習事項および課題：「自治体の意義と道州制」
15 回	<ul style="list-style-type: none"> 講義内容：憲法改正と制定権について ・ 予習内容：次回の箇所を読む ・ 復習事項および課題：「自治体の意義と道州制」

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	社会学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	坂元 晶
質問受付の方法 (e-mail) : okashakai@hotmail.com (OH) : 授業時間の前後 (A202)							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：自律した信念のある社会人として必要な、現代社会に関する知識を習得する。</p> <p>学生の学習成果：</p> <p>専門的学習成果としては、現代社会において、社会的・文化的性別である「ジェンダー」が、個人の生き方や社会構造に与えている影響について理解する。</p> <p>また、汎用的学習成果として、①論理的思考力、②社会人として自らの生き方を考える力、を涵養する。</p>						
教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>1. 配布するプリント資料に基づき、パワーポイントを使用した口頭による講義形式を基本とする。</p> <p>2. 下に挙げた以外にも、授業の進度に応じて参考文献を紹介する。 また、必要に応じて新聞・雑誌等のニュース記事などを使用する。</p> <p>3. 毎回授業の終わりには「シャトルカード」で授業内容に即した小題に取り組んでもらい、理解の定着を図る。</p> <p>4. 単位認定の参考として、課題の提出を求めることがある。</p>					
	予習・復習	<p>予習事項&復習事項：授業では時事的な話題に触れることが多いので、理解のため、また予習・復習を兼ねて、意識的に新聞やTVのニュース番組を閲読・視聴し(1日に最低でも15分)、その中で、授業に関することなどに触れられていれば、授業で取り上げたことと関連付けながら考える、という作業をすること。</p>					
	テキスト	<p>テキストは指定しませんが、プリント資料を配布して授業を行う。</p> <p>下記に挙げた参考図書のうち、特に1・2を読むことを推奨する。</p>					
学習評価の方法	<p>以下の2つの学習成果について、おおよそ「①：②=1：2」の割合でその獲得度合いを量的に評価する。</p> <p>① 授業で取り上げた事例について、「ジェンダー」が個人の生き方や社会構造に与えている影響について理解し、論理的に説明できる。</p> <p>② ①に基づき、いくつかの事例について、自身がどのように行動するべきか、意見を陳述できる。</p> <p>学習評価は期末試験及び提出課題によって行う。</p> <p>期末試験 90点、提出課題 10点、総合得点 60点以上を合格とする。</p> <p>受講態度に問題が合った者は、将来専門職として保育に携わる者としての倫理観が十分でないとして、ケースに応じて減点する。</p>						
注意事項	<p>参考図書等：</p> <p>1. 目黒依子編：『ジェンダーの社会学』、放送大学教材、1994年</p> <p>2. 江原由美子・山田昌弘：『ジェンダーの社会学 入門』、岩波書店、2008年</p> <p>*授業の進度に応じて、さらに参考文献を紹介する。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>【オリエンテーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容：シラバスの解説、授業の進め方、注意点などについて説明する。 <p>【「社会学」って何？】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容：社会学の成り立ちとその学問分野の特徴について解説する。 ・学習成果：社会学についての基礎知識を習得する。 ・時間内の課題：自分が男/女で今まで得したこと/損したことなどについて書く。 ・予習事項：生物学的に男/女でなければできないこと、両性どちらでもできることなのに「男/女にしかできない」と思っていることはないか考えてみる。
2 回	<p>【「ジェンダー」とは？】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容：「ジェンダー」が社会的・文化的につくられた性別をあらわす言葉であり、生物学的性別をあらわす「セックス」とは異なることを述べ、「ジェンダー」に基づく「性別役割分業」について、それが人々（自分も含めて）の生き方や社会に大きな影響を与えていることを伝える。 ・学習成果：社会的・文化的につくられた性別である「ジェンダー」とそれに基づく性別役割分業についての基礎知識を習得する。
3 回	<p>【ジェンダーの「社会化」① 教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容：「社会化」の定義について述べ、「ジェンダー」を子どもが内面化していく際に「性別社会化」の場としての「家庭」と「学校」が大きな影響を与えていることを説明し、「ジェンダー」が与える子どもの進路への影響は、大人になってからの就業分野や収入、年金の差と無関係ではないことを伝える。 ・学習成果：自分がどのようにして「男らしく」/「女らしく」ふるまったり考えたりするようになったのか説明することができるようになる。 ・予習事項：CM や広告などを目にしたときに、「誰がその商品を購入/使用すると想定されているか」、「そこに男女の偏りはあるか」などを考えながら観察する。
4 回	<p>【ジェンダーの「社会化」② マスメディア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容：「性別社会化」にはマスメディアのもたらす膨大な情報も大きな影響を与えていることを述べ、社会人として必要な、マスメディアのもたらす情報に対して批判的に接する能力「メディア・リテラシー」の重要性を説明する。 ・学習成果：「メディア・リテラシー」の視点から、CMなど身近なメディアの情報がどのようなジェンダー観に基づいて作成された/どのようなジェンダー観を伝えようとしているか説明できるようになる。 ・予習事項：総務省統計局のHP「統計データ」から、「16-27 主要職種別平均年齢，勤続年数，実労働時間数と月間給与額」を閲覧して、将来自分の就きたい職業の平均賃金を確認し、ついでに他の職種の平均賃金にも目を通す。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
5 回	<p>【ライフスタイルの変化とジェンダー—① 就業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容：「ジェンダー」に規定されて職業への関り方（雇用期間、雇用形態、就業分野、職種など）が男女で異なることが、職業活動から得られる報酬の男女差（日本全体で見ると男>女）につながることを解説する。 ・学習成果：社会人として、自分にとってより有益な職業との関り方について考えることができるようになる。 ・予習事項：もし自分が結婚したとしたら／結婚しないとしたら、どのような人生を送って暮らしているか、深く考えて想像してみる。
6 回	<p>【「少子化」の背景—ライフスタイルの変化—② 結婚—専業主婦】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容：「男は仕事、女は家庭」といったジェンダーに基づく「性別役割分業」は、近代社会になって出現した分業形態であり、その役割の一端を担う「専業主婦」は歴史的にみれば特異な存在であるとともに、社会階層としてみても特徴的な一面を持つ存在であることを説明する。 ・学習成果：社会人として結婚は（するにせよ、しないにせよ）避けて通ることはできない問題であるが、結婚と結婚後の自分の役割について、より自覚的に考えることができるようになる。 ・予習事項：自分がどのような相手にどのような「魅力」を感じるのか、あらためて考えてみる。
7 回	<p>【「少子化」の背景—ライフスタイルの変化—③ 結婚—魅力のミスマッチ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容：「少子化」の原因として挙げられることの多い「未婚化」「晩婚化」の社会的背景について説明し、恋愛感情の根本となる相手に感じる「魅力」が自身の属する社会の「ジェンダー」観に大きく影響されていることを伝える。 ・学習成果：変化する社会状況の中で社会人としてどのように生きるか、より自覚的に考えることができるようになる。 ・予習事項：自分/パートナーが妊娠して出生前診断を受け、何らかの「異常」があると告げられた、と仮定したときに、出産/中絶の判断をどうするか真剣に考える。
8 回	<p>【「少子化」の背景—ライフスタイルの変化—④ 生殖医療とジェンダー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容：新しい生殖技術に法制度など社会の対応が追いついていない現状を説明し、「生殖に縛られる」期間の長くなることが女性の生き方にも影響を与えるようになっていることを伝え、同時に生殖は女性だけの問題でないことも伝える。 ・学習成果：周囲の意見に流されるのではなく、究極のプライベート問題として自分自身の意思で生殖について決断することの重要性を理解する。 ・予習事項：自分/パートナーに子どもが生まれた後も自分が保育士として働きたい、と仮定したときに、自分が保育所に求めるニーズにはどのようなものがあるか考えてみる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	<p>【「少子化」の背景—ライフスタイルの変化—⑤ 育児休業と保育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義内容：「育児休業法」など政府の子育て支援策について解説し、親のニーズとのズレなど現状の保育制度が抱える問題点について説明する。 ・ 学習成果：将来の専門的保育者として「育児休業法」や保育制度について、その現状と問題点について説明できるようになる。 ・ 予習事項：自分が高齢者となったとき、自分がどのようなことで困ることになるか考える。
10 回	<p>【高齢期の問題① 高齢期に起こる問題とその男女差】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義内容：高齢期に直面する種々の問題には男女差が存在するが、その主な原因は「ジェンダー」に基づく性別役割分業に影響されて送ってきた、現役時代の生き方にあることを説明し、分業相手を失うと男女でそれぞれ困難に直面することから、若いうちから性別役割にとらわれずスキルを身に付けておくことが重要であると伝える。 ・ 学習成果：自分が老後に困らないように、社会人として若いうちからどのように生きれば老後の問題を軽減することができるか考えることができるようになる。 ・ 予習事項：自分が介護を担う立場になったと仮定し、そうすると自分の生活がどのように変化するか考えてみる。
11 回	<p>【高齢期の問題② 介護と福祉活動の担い手】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義内容：介護と福祉が主に女性によって担われるようになった背景について解説し、「少子高齢化」がすすむと、現状のしくみは維持することが困難であることを説明する。 ・ 学習成果：第5回の講義でもとりあげた、「女性向き」とされる職業から得られる報酬が低い傾向にある現状について、その原因を複合的に説明することができる。 ・ 予習事項：日本年金機構 HP「学生用 5分でわかる！ 知っておきたい年金のはなし」(http://www.nenkin.go.jp/n/www/service/detail.jsp?id=25467)を閲覧する。
12 回	<p>【高齢期の問題③ 年金 I】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義内容：年金制度についての基本的なしくみについて説明し、年金制度が抱えるさまざまな問題点について伝える。 ・ 学習成果：20歳になれば学生でも国民年金加入の義務を生じるが、年金について自分の問題として考えることの重要性を認識する。 ・ 予習事項：日本年金機構 HP「知っておきたい年金のはなし 二十歳になったら国民年金」(http://www.nenkin.go.jp/n/data/service/0000025312HNBOjcDHMT.pdf)を閲覧する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 回	<p>【高齢期の問題④ 年金Ⅱ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義内容：年金は障害年金など老後に受け取るだけのものではないことを伝え、生活防衛のため、学生納付特例制度など年金保険料の納付が困難な場合に用意されている諸手続きについて説明する。また、年金制度の改革案について主なものを紹介する。 ・ 学習成果：自分が無年金障害者となるリスクを避けるため、どのように行動するべきか説明できるようになる。 ・ 予習事項：今までに自分が不愉快な目に遭った体験を振り返り、その時の自分と相手の力関係についてどのようなものだったか客観的に考えてみる。
14 回	<p>【「ジェンダー」に起因する暴力 ー特に DV についてー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義内容：セクハラ、DV などの暴力には、「ジェンダー」に起因する社会的な権力構造が背景として存在することを説明し、DV・デート DV についての基本的知識について解説する。 ・ 学習成果：社会人として自分や自分の大切な人の生命を守るために、DV やデート DV の被害に遭ったり相談を受けたりした場合に、どう対処するか考えることができるようになる。 ・ 予習&復習事項：それまでの授業内容を振り返って、質問しておきたい事項がないか準備する。
15 回	<p>【まとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義内容：それまでの授業の内容を振り返りながら、「ジェンダー」が人の生き方や社会に対してさまざまな影響を及ぼしていることを伝える。 また、質問事項があれば答え、期末試験についての注意事項も伝える。 ・ 学習成果：「ジェンダー」が自分の生き方や社会に対して影響を及ぼしていることを理解し、自分と関連付けながら考えることができるようになる。

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	経済学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	張 秉煥
質問受付の方法：M棟 511 号研究室で「随時」受け付ける							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：日常生活で目にするさまざまな価格に関する経済学的思考を修得し、生活への応用可能性を探ることに重点をおく。具体的には消費者、企業、個別製品の市場といった経済主体の経済活動に焦点をあてながら、現実経済問題への応用、理論の制約などに関する知識を学ぶ。</p> <p>学生の学習成果：専門的学習効果としては、将来専門職業人として社会生活を営むために必要とする社会経済現象を論理的に理解することができる。たとえば、豊作貧乏現象の背景要因、国民所得と経済成長、そしてインフレと失業などを理解することで、将来社会生活への応用に資する教養を磨く。なお、汎用的学習成果としては、経済学的思考で社会現象を捉えることで、論理力とコミュニケーション力を高めることができる。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方 (講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>1. レジюме (講義録の要約) を中心に行なう。 2. 小テスト・課題を課す。</p>	<p>予習・復習</p> <p>授業は授業時間以外の修学 (予習および復習) を前提としている。なお、単なる暗記ではなく、毎回の授業内容やポイントを総合的に捉え、全体像を理解する方法で修学することを勧奨する。</p>	<p>テキスト</p> <p>マンキュー、『マンキュー入門経済学』、東洋経済新報社。</p>			
学習評価の方法	<p>「教育目標」と「学習成果」に照らし合わせて、定期筆記試験 70 点およびレポート課題 (小テストを含む) や授業への没入 (コメントシートなど) のような形成的評価 (30 点) によって評価・判定する。ただし、筆記試験においては、各問いに関する理解水準に着目しつつ、答案全体の総合評価を加える。</p>						
注意事項							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション：講座の概要及び単位認定の方法など</p> <p>経済学の概要（経済学の構成、経済学の基本手法、経済モデルの意義）や実証分析と規範的分析の違いについて学ぶ。とりわけ経済的思考という道具を用いて現実の様々な問題について理解を深めることができるインセンティブを共感する機会を設ける。</p> <p>成果：講座の概要や評価方法について理解する。経済学を学ぶことで得られるインセンティブについて理解する。</p>
2 回	<p>経済学の十大原理（1）：トレードオフ、機会費用、限界分析、価格、市場の失敗</p> <p>経済学の十大原理のなか、5つの原理について学ぶ。基本的概念とそれを応用した現実の経済問題を豊富に取り上げることで理解を深める。</p> <p>成果：経済学を学ぶインセンティブについて具体的に理解することができる。</p> <p>復習：基本的概念と現実問題とのつながり</p>
3 回	<p>経済学の十大原理（2）：国民所得、経済成長、経済政策、インフレと失業等</p> <p>経済学の十大原理のなか、残りの5つの原理について学ぶ。基本的概念と祖霊を応用した現実の経済問題を豊富に取り上げることで理解を深める。</p> <p>成果：経済学を学ぶインセンティブについて具体的に理解することができる。</p> <p>復習：基本的概念と現実問題とのつながり</p>
4 回	<p>需要と供給：基本モデルとその応用</p> <p>市場の仕組みや需要と供給の属性について基本モデルと現実の事例について学ぶ。補完財や代替財の概念を用いて現実のビジネスモデルへの理解を深める。</p> <p>成果：需要と供給の基本モデルを理解し、現実の事例への理解を深めることができる。</p> <p>復習：市場で働く力関係</p>
5 回	<p>市場構造と価格：なぜダイヤモンドは高いか</p> <p>4つの市場構造に関する概要を説明し、競争市場の特徴について学ぶ。次に参入障壁による独占市場の源泉になる要因について現実の例を踏まえ理解を深める。</p> <p>成果：現実の競争市場と独占市場の成立要件について理解することができる。</p> <p>復習：競争市場の特徴と独占市場における価格差別化の要件と事例</p>
6 回	<p>現実における様々な価格の裏に秘められているビジネスモデル、そして独占的市場の仕組みや現実の事例について理解を深める。</p> <p>成果：価格とビジネスモデル、そして現実の独占的市場の事例について理解する。</p> <p>復習：様々な価格のインプリケーションと独占的市場の事例</p>
7 回	<p>価格変化への需要反応と価格戦略：同じものなのに値段が違うのはなぜか。弾力性という分析道具を用いて様々な現実経済問題について理解を深める。価格差別化戦略の成立要件とその事例について学ぶ。</p> <p>成果：経済学の分析道具を活用して、現実に事例を説明することができる。</p> <p>復習：弾力性と価格差別化戦略の基本概念とその活用事例</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	<p>政府による市場介入：最低賃金制度（得する人と損する人）</p> <p>価格規制の背景要因と上限規制・下限規制について現実の例を取り上げ学ぶ。</p> <p>成果：最低賃金制度の経済学的インプリケーションについて理解することができる。</p> <p>復習：価格規制におけるトレードオフ関係</p>
9 回	<p>公共財と外部性</p> <p>市場失敗について具体例を取り上げ学ぶ。なぜ教育が奨励されるのか、野生の象を保護するための手段などについて経済学の視点から学ぶ。</p> <p>成果：市場の失敗による公共財や外部性について理解することができる。</p> <p>復習：教育の外部効果と奨学金制度、公共財の例、共有地の悲劇の意味</p>
10 回	<p>国民所得：豊かな国と貧しい国との違い</p> <p>経済活動を単純化した経済循環図について学ぶ。マクロ経済指標「国内総生産」に関する理解を深める。</p> <p>成果：マクロ経済学の基本概念について理解することができる。</p> <p>復習：経済循環図や国内総生産の概念</p>
11 回	<p>経済成長：経済成長の源泉と公共政策</p> <p>経済成長を支える主要要因について詳しく学ぶ。なお、各要因に関する現実的意味ないについて理解を深める。実践的手法としての72の法則の活用例を紹介する。</p> <p>成果：経済成長に関する3つの源泉と公共政策について理解することができる。</p> <p>復習：経済成長の源泉と公共政策の具体例</p>
12 回	<p>財政政策と金融政策：マクロ経済政策の概要</p> <p>マクロ経済政策の手段について学ぶ。なお、経済政策の時間的要因については「シャワを浴びているマヌケ現象」を取り上げる。</p> <p>成果：財政政策と金融政策の具体的手段について理解することができる。</p> <p>復習：経済政策と時間のズレ</p>
13 回	<p>景気循環とインフレ</p> <p>景気循環に関する特性やインフレの属性・フィリップス曲線などについて学ぶ。</p> <p>成果：景気循環やインフレの現実的インプリケーションについて理解することができる。</p> <p>復習：景気循環の特性とインフレの現実的インプリケーション</p>
14 回	<p>国民所得と国民の幸福度</p> <p>経済学の制約について具体例をあげ学ぶ。なお、賃金など労働所得の推移などについて学ぶ。</p> <p>成果：経済学の制約や労働所得の現状について理解することができる。</p> <p>復習：所得と幸福度、国内労働者の所得と景気変動との相関関係</p>
15 回	<p>総括</p> <p>主要内容について復習するとともに小テストの結果についてレビューする。</p> <p>成果：授業内容全体のイメージを捉えることができる。</p>

平成30年度教育計画							
科目名	情報処理基礎	授業回数	15	単位数	2	担当教員	張 秉煥
質問受付の方法：M棟 511 号研究室で「随時」受け付ける							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：</p> <p>現代の情報化社会においてあまねく求められる情報リテラシーを習得する。一般的な情報機器の仕組みや情報技術などについて基礎的な概念を理解するとともに、パソコンやネットワークなどを活用し、情報の収集、加工、伝達、蓄積といった知的活動に広く通用する汎用的な考え方や技術を習得することを目指す。主に応用ソフトの活用に重きをおく。</p> <p>学生の学習成果：</p> <p>コンピュータやネットワークの基礎的な理解から、コンピュータやソフトウェアの操作、データ作成・整理、インターネットでの情報検索能力などを身につける。主にウィンドウズの基本操作、ワード・エクセル・パワーポイントのような応用ソフトの基本操作能力を身につける。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>講義(配付資料)と演習(テキスト)を並行して行う。</p> <p>演習課題は毎回提出を求める。</p>	<p>予習・復習</p> <p>授業内容を復習し、要点については理解を深めること。</p>	<p>テキスト</p> <p>配付資料およびよくわかる Microsoft Word 2013 & Excel 2013 & PowerPoint 2013 (FOM 出版)</p>			
学習評価の方法	<p>定期筆記試験(70%)と演習課題(30%)より評価し、総合得点が60点以上を合格とする。主な評価項目は次の三点である。</p> <p>①コンピュータの基本操作能力(ウィンドウズ、ブラウザなど)</p> <p>②ワード、エクセル、パワーポイントの基本操作能力</p> <p>③高度情報化社会に関する基礎知識(社会人の教養レベル)</p>						
注意事項	<p>参考図書：</p> <p>阿部正平他：2014、『保育者のためのパソコン講座』、萌文書林。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション（目標・進め方・成績評価方法）および次回以降の授業環境づくり</p> <p>講義 パソコンの基本操作および基本ソフトウェアの特徴について学ぶ。</p> <p>演習 パソコンやWindows8の基本的操作（メールを含む）を演習する。 3回目以降は毎回テキストの「練習問題」を作成し、メールで提出を求める。</p> <p>成果 パソコンの基本的操作や基本ソフトウェアの特徴について理解することができる</p>
2 回	<p>講義 情報行動（概要、デジタルデトックス、忘れられる権利など）について学ぶ。</p> <p>演習 ワードの概要・基本操作について演習する。</p> <p>成果 情報行動のインプリケーションを理解し、ワードの基本操作ができる。</p> <p>復習 情報行動の特性や効果的情報行動のパターン</p>
3 回	<p>講義 ビジネス現場を想定して電子メールの使い方について学び、演習を行う。</p> <p>演習 文書の新規作成やページ設定、文章の入力や簡単な編集方法について演習を行う。</p> <p>成果 電子メールやワードの簡単な操作ができる。</p> <p>復習 電子メールの使い方に関する主要事項</p>
4 回	<p>講義 情報通信環境の変容に伴うユニバーサルサービスの現状について学ぶ。</p> <p>演習 グラフィック機能を使った文書作成方法について演習を行う。</p> <p>成果 情報通信サービスとのかかわりに関する理解やグラフィック文書作成ができる。</p> <p>復習 講義セッションのポイントやワードアート・画像操作方法</p>
5 回	<p>講義 技術の進化と自分の仕事とのかかわりや将来像について学ぶ。</p> <p>演習 表のある文書作成について演習を行う。</p> <p>成果 表の作成、レイアウトの変更や書式の設定などができる。</p> <p>復習 講義セッションのポイントや表の操作</p>
6 回	<p>講義 生活の中に浸透されつつあるスマート化する情報サービスについて学ぶ。</p> <p>演習 エクセルの概要や基本操作について演習を行う。 ワードの総合問題を課す。</p> <p>成果 最新の IT サービスを理解するとともに、ワード文書作成の基本を覚える。</p>
7 回	<p>講義 ウェブ検索方法（1） 検索エンジンの概要や検索方法の基本について学び、演習を行う。</p> <p>演習 エクセルデータの入力方法と関連機能の活用について演習を行う。</p> <p>成果 検索方法の基本やエクセルデータの入力方法が分かる。</p> <p>復習 検索方法の基本やエクセルデータの入力方法</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	<p>講義 ウェブ検索方法（2） 文書作成に活用するための情報検索方法について学び、演習を行う。</p> <p>演習 関数の入力や表の操作などについて演習を行う。</p> <p>成果 ネット上の情報を活用した文書作成やエクセルの表操作ができる。</p>
9 回	<p>講義 ウェブ検索方法（3） 文献検索の基本手法について学び、演習を行う。</p> <p>演習 グラフの作成（1）：グラフィック機能を学び、簡単なグラフを作成する。</p> <p>成果 文献検索の効率的な方法や簡単なグラフの作成ができる。</p> <p>復習 ウェブ検索方法について内容を復習し、理解を深めること</p>
10 回	<p>講義 電子商取引に関する基礎について学ぶ。</p> <p>演習 グラフの作成（2）：多様なグラフ作成について演習を行う。</p> <p>成果 電子商取引に関する常識を理解し、多様なグラフを作成することができる。</p> <p>復習 講義セッションのポイントとグラフの作成方法</p>
11 回	<p>演習 エクセル総合問題 多様な機能を活用する課題を作成し、メールで提出する演習を行う。</p> <p>演習 パワーポイントの概要や基本操作について演習を行う。</p> <p>成果 エクセルを使った文書作成ができる。</p>
12 回	<p>講義 デジタルコンテンツの無料ビジネスについて学ぶ。</p> <p>演習 プレゼンテーションスライドの作成（1） プレゼンテーションの新規作成やテーマの適用、図形作成などについて演習を行う。</p> <p>成果 ビッグデータについて理解し、基本的なプレゼン原稿を作成することができる。</p> <p>復習 講義セッションのポイントとパワーポイントの基本操作</p>
13 回	<p>講義 情報技術が身近なところまで浸透している現事例について学ぶ。</p> <p>演習 プレゼンテーションスライドの作成（2） スマートアートグラフィックの作成、スライドショー、アニメーションの設定など</p> <p>演習 総合問題（1）：ワードやエクセルを連携した文書作成について演習を行う。</p> <p>成果 パワーポイントの基本操作やワード・エクセルの復習</p>
14 回	<p>講義 講義セッションのレビュー（1）</p> <p>演習 プレゼンテーションスライドの作成（3） スマートアートグラフィックの作成、スライドショー、アニメーションの設定など</p> <p>演習 総合問題（2）：ワードやエクセルを連携した文書作成について演習を行う。</p> <p>成果 パワーポイントの基本操作やワード・エクセルの復習</p>
15 回	<p>講義 講義セッションのレビュー（2）</p> <p>演習 総合問題（3） スマートアートグラフィックの作成、スライドショー、アニメーションの設定などについて演習を行う。</p> <p>復習 講義セッション全体の主要内容について理解を深めること</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	情報処理演習	授業回数	15	単位数	1	担当教員	張 秉煥
質問受付の方法：M棟 511 号研究室で「随時」受け付ける							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：</p> <p>情報処理基礎の学習をさらに発展させ、文書処理ソフトのワードとプレゼンテーションソフトのパワーポイント、そしてエクセルを用いた実用的なビジネス文書作成ができる能力を習得する。</p> <p>学生の学習成果：</p> <p>コンピュータやネットワークの基礎的な理解から、コンピュータやソフトウェアの操作、データ作成・整理、インターネットでの情報検索能力などを身につける。主にウィンドウズの操作、ワードやパワーポイントのような応用ソフトの操作能力を身につける。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方 (講義・<u>演習</u>・実験・実習・実技)</p> <p>情報処理基礎 (前期) で学習した基本操作能力を深化させる。 (毎回の課題を提出することが必要条件)</p> <p>予習・復習 演習のポイントを復習し、情報機器の操作能力の向上を心がけること。</p> <p>テキスト 『Word ビジネス問題集』高島知子、日経 BP 社 『PowerPoint ビジネス問題集』高島知子、日経 BP 社</p>					
学習評価の方法	<p>毎回の課題提出 (90%、ワード・パワーポイント・エクセル)、タッチタイピング能力 (10%) より評価し、総合得点が 60 点以上を合格とする。</p>						
注意事項							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の目標・進め方・成績評価の方法に関する説明 <p>タッチタイピング環境の準備および練習を行う。 ワードやパワーポイント環境をチェックする。</p>
2 回	<p>ワード演習：社内通知文書作成 2 点 パワーポイント演習：研修案内課題 1 点</p> <p>成果 一般的なビジネス文書の形を接し、基本的な表作成や編集ができる。 デザインのバリエーション機能などの編集ができる。</p>
3 回	<p>ワード演習：通知状文書作成 2 点 パワーポイント演習：掲示原稿課題 1 点</p> <p>成果 テンプレートを利用した新規作成、SmartArt グラフックなどの編集ができる。 テーマやグラデーションなどの編集ができる。</p>
4 回	<p>ワード演習：案内状作成 2 点 パワーポイント演習：組織図課題 1 点</p> <p>成果 多様な罫線操作や表の編集ができる。 SmartArt グラフィックやツールの使ったスライドの作成ができる。</p>
5 回	<p>ワード演習：見積書作成 1 点 パワーポイント演習：報告原稿課題 1 点</p> <p>成果 実用的なビジネス文書のテンプレートの作成ができる。 エクセルグラフィックと連携、活用したスライドを作成することができる。</p>
6 回	<p>ワード演習：エントリーシートフォーマット作成 1 点 パワーポイント演習：告知原稿課題 1 点</p> <p>成果 文書パーツオーガナイザーの操作、表の編集などができる。 テーマのバリエーション機能や画像を活用したスライドを作成することができる。</p>
7 回	<p>ワード演習：出張旅費清算書作成 1 点 パワーポイント演習：社員報奨旅行計画課題 1 点</p> <p>成果 文書パーツオーガナイザーの操作、表の編集などができる。 図形の編集や SmartArt グラフィックの機能を活用したスライドを作成できる。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	<p>ワード演習： 会議報告書および議事録作成演習</p> <p>パワーポイント演習： 組織の概要紹介原稿課題 1 点</p> <p>成果 セルの分割等の操作、表の均等割り付けなどの編集ができる。 クイックスタイル、図形の結合機能を使ったスライドを作成することができる。</p>
9 回	<p>ワード演習： パンフレット作成 1 点</p> <p>パワーポイント演習： 掲示文のデザイン演習 1 点</p> <p>成果 フォントの操作、エクセルファイルと連携した文書作成ができる。 オンライン画像の操作、アニメーション機能を使ったスライドを作成できる。</p>
10 回	<p>ワード演習： 案内状およびあいさつ状など 2 点</p> <p>パワーポイント演習： セミナー教材</p> <p>成果 クリップアート、段組み、図のスタイル、ワードアートなどの編集ができる。 ノート形式や配付資料印刷モードなどを利用することができる。</p>
11 回	<p>エクセルの基礎： ワークシートの作成方法や編集機能</p> <p>成果 簡単なワークシートの作成およびいろいろな編集機能を活用することができる。</p>
12 回	<p>エクセルの基礎： グラフ作成 1</p> <p>成果 棒グラフ、積み上げグラフ、折れ線グラフ、円グラフなどを作成することができる。</p>
13 回	<p>エクセルの基礎： グラフ作成 2（複合グラフに重点を置く）</p> <p>成果 3-D グラフ、複合グラフなどを作成することができる。</p>
14 回	<p>エクセルとワードの連携演習： エクセルを活用したワード原稿作成演習</p> <p>成果 エクセルとワードを連携した文書を作成することができる。</p>
15 回	<p>エクセルとパワーポイントの連携演習： エクセルを活用したプレゼン原稿作成演習</p> <p>成果 エクセルとパワーポイントを連携した文書を作成することができる。</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	文書処理演習 (A)	授業回数	15	単位数	1	担当教員	張 秉煥
質問受付の方法：M棟 511 号研究室で「随時」受け付ける							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標： 情報処理基礎および情報処理演習で修得したコンピュータの基本操作能力をさらに深化させる。主にワードの活用に重きをおき、とりわけ保育者としての就業現場を想定した実務的な利用能力を高める。</p> <p>学生の学習成果： 保育者としての仕事を想定した実用的利用能力を身につける。</p>						
教育方法	授業の進め方	(講義・ 演習 ・実験・実習・実技) 情報処理基礎および情報処理演習などで学習した基礎能力をさらに深化させる。					
	予習・復習	演習のポイントを復習し、操作能力の向上を心がけること。					
	テキスト	佐藤薫：2014 『MOS 攻略問題集 WORD2013』 (前半)					
学習評価の方法	毎回の課題提出 (80%) およびタッチタイピング能力 (20%) より評価し、総合得点が 60 点以上を合格とする。						
注意事項	参考図書 日経 BP 社 『Word ビジネス問題集』						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション</p> <p>・授業の目標・進め方・成績評価などに関する説明</p> <p>タッチタイピング環境の準備および練習を行う。</p> <p>CD-ROM やワード環境をチェックする。</p>
2 回	<p>テンプレートを使用して文書を作成する演習を行う。</p> <p>ファイルをインポートして文書を作成する演習などを行う。</p> <p>練習問題</p> <p>成果 オンラインテンプレートの入手や活用することができる。</p> <p>ファイルをインポートし、編集することができる。</p>
3 回	<p>Word で外部データを利用する演習を行う。</p> <p>文書内文字列の検索とハイパーリンクを作成する演習などを行う。</p> <p>練習問題</p> <p>成果 外部のデータを直接開き、ワード文書に変換することができる。</p> <p>ハイパーリンクを編集することができる。</p>
4 回	<p>文書の書式設定の細部機能を操作する演習を行う。</p> <p>スタイルセットを変更する演習などを行う。</p> <p>練習問題</p> <p>成果 ページの設定、テーマの変更、ページの背景色の変更などの編集ができる。</p> <p>スタイルセット、ヘッダーとフッターの編集ができる。</p>
5 回	<p>透かしを挿入する演習を行う。</p> <p>ページ番号を挿入する演習などを行う。</p> <p>練習問題</p> <p>成果 透かしの挿入や編集ができる。</p> <p>ページ番号の挿入と書式設定などの操作ができる。</p>
6 回	<p>文書のオプションと表示をカスタマイズする演習を行う。</p> <p>ワードのオプションを設定する演習などを行う。</p> <p>練習問題</p> <p>成果 文書の表示モード機能、ウィンドウの分割、文書のプロパティ変更などができる。</p>
7 回	<p>ワードのオプション設定やクイックアクセスツールバーのカスタマイズの演習を行う。</p> <p>リボンをカスタマイズする演習などを行う。</p> <p>練習問題</p> <p>成果 編集や段落記号などの設定を変更することができる。</p> <p>クイックアクセスツールバー、リボンなどをカスタマイズすることができる。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	第1回総合演習課題（模擬練習問題1） 成果 模擬演習問題で第1回から第7回の授業内容の要点を復習する。
9 回	マクロを実行する演習を行う。 マクロのセキュリティを管理する演習などを行う。 練習問題 成果 マクロの作成、編集や削除などの機能进行操作することができる。 マクロのセキュリティを管理することができる。
10 回	セクションの印刷や拡大縮小印刷を設定する演習を行う。 パスワードを設定して文書を保護する演習などを行う。 練習問題 成果 印刷する文書の設定、セクションの印刷などの操作できる。 文書を暗号化して保護することができる。
11 回	文字列を検索する、置換する演習を行う。 オートコレクトを使用して文字列を挿入する演習などを行う。 練習問題 成果 検索と置換の機能を利用することができる。 自動修正の機能を利用することができる。
12 回	組み込みのフィールドを挿入する演習を行う。 特殊文字を挿入する演習などを行う。 練習問題 成果 フィールドの書式を設定、操作することができる。 特殊文字を入力することができる。
13 回	段落、行間、インデントなどを設定する演習を行う。 文字列にスタイルを適用する演習を行う。 練習問題 成果 編集機能进行操作することができる。
14 回	文字列をワードアートに変換する演習を行う。 文字列にスタイルを適用する演習などを行う。 練習問題 成果 文書の文字列の書式进行操作することができる。
15 回	第2回総合演習課題（模擬練習問題2） 成果 模擬演習問題で授業内容の要点を復習する。

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	文書処理演習 (B)	授業回数	15	単位数	1	担当教員	張 秉煥
質問受付の方法：M棟 511 号研究室で「随時」受け付ける							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：</p> <p>情報処理基礎、情報処理演習および文書処置演習 (A) で修得したコンピュータの基本操作能力をさらに深化させる。主にワードの活用に重きをおき、とりわけ保育者としての就業現場を想定した実務的な利用能力を高める。</p> <p>学生の学習成果：</p> <p>保育者としての仕事を想定した実用的利用能力を身につける。</p>						
教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>情報処理基礎および情報処理演習などで学習した基礎能力をさらに深化させる。</p>					
	予習・復習	<p>演習のポイントを復習し、操作能力の向上を心がけること。</p>					
	テキスト	<p>佐藤薫：2014 『MOS 攻略問題集 WORD2013』 (後半)</p>					
学習評価の方法	<p>毎回の課題提出 (80%) およびタッチタイピング能力 (20%) より評価し、総合得点が 60 点以上を合格とする。</p>						
注意事項	<p>参考図書</p> <p>日経 BP 社 『Word ビジネス問題集』</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション</p> <p>・授業の目標・進め方・成績評価などに関する説明</p> <p>タッチタイピング環境の準備および練習を行う。</p> <p>CD-ROM やワード環境をチェックする。</p>
2 回	<p>既存のスタイルの属性を変更する演習を行う。</p> <p>既存の書式を編集する演習などを行う。</p> <p>練習問題</p> <p>成果 文書内の複数箇所の書式を統一したり、まとめて変更したりすることができる。</p> <p>文字や段落に設定された書式を編集することができる。</p>
3 回	<p>文字列や段落を操作する演習を行う。</p> <p>セクション内に段組みを作成する演習などを行う。</p> <p>練習問題</p> <p>成果 段落・ページ・セクションの区切りができる。</p> <p>複数のブロックに分けてレイアウトすることができる。</p>
4 回	<p>文字列を表に変換する演習および表を文字列に変換する演習を行う。</p> <p>クイック表作成を使用する演習などを行う。</p> <p>練習問題</p> <p>成果 既に入力されている文字列を表に変換する（その逆も）ことができる。</p> <p>組み込みの表を編集することができる。</p>
5 回	<p>表にスタイルを適用する演習および表のサイズやセルの余白を設定する演習を行う。</p> <p>計算式を使用する演習などを行う。</p> <p>練習問題</p> <p>成果 表の書式を切り替えることができる。</p> <p>数値データの計算結果を表示することができる。</p>
6 回	<p>段落番号や箇条書きを追加する演習を行う。</p> <p>リストのインデントやレベルを変更する演習などを行う。</p> <p>練習問題</p> <p>成果 情報が整理された文書を作成することができる。</p> <p>階層構造の読みやすい文書を作成することができる。</p>
7 回	<p>文末脚注を挿入し、書式を設定する演習を行う。</p> <p>脚注の挿入場所や番号書式を操作する演習などを行う。</p> <p>練習問題</p> <p>成果 脚注や文末脚注を利用することができる。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	第1回総合演習課題（模擬練習問題3） 成果 模擬演習問題で第1回から第7回の授業内容の要点を復習する。
9 回	引用文献を管理する演習を行う。 図表番号を管理する演習などを行う。 練習問題 成果 参考文献や引用文献を記述・編集することができる。 文書の画像や表、グラフなどを管理することができる。
10 回	テキストボックスを挿入する演習を行う。 文書パーツを操作する演習などを行う。 練習問題 成果 クイックパーツやテキストボックスの挿入ができる。 文書パーツオーガナイザーを操作することができる。
11 回	図形を挿入する演習を行う。 図形の周囲の文字列を折り返す演習などを行う。 練習問題 成果 標準の図形を操作することができる。 図形の周囲の文字列を編集することができる。
12 回	スマートアートを挿入する演習を行う。 スマートアートのプロパティを変更する演習などを行う。 練習問題 成果 デザイン化された図表のレイアウトを利用することができる。 スマートアートグラフィックの色、スタイルやサイズなどの編集ができる。
13 回	画像を挿入する演習を行う。 アート効果や図の効果を適用する演習などを行う。 練習問題 成果 文書の中に画像ファイルを挿入する方法と変更する方法が分かる。
14 回	画像のプロパティを変更する演習を行う。 画像にクイックスタイルを適用する演習などを行う。 練習問題 成果 文書の中の画像を編集することができる。 挿入する画像を圧縮することができる。
15 回	第2回総合演習課題（模擬練習問題4） 成果 模擬演習問題で授業内容の要点を復習する。

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	キャリアガイダンス	授業回数	15	単位数	2	担当教員	張 秉煥
質問受付の方法：M棟 511 号研究室で「随時」受け付ける							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：社会的・職業的自立に向け、学生自らの職業観ないし勤労観を培い、今日の日本社会に求められる資質や能力としての「就業力」を育んでいく。毎回講義内容に基づく個人ベースのワークショップもしくはグループワークを通して、主体的に自分のキャリア設計に必要な実践的知識や手法の修得を図る。</p> <p>学生の学習成果：専門職への就業意識や職業活動に対する準備(キャリアレディネス)に心がける。就業する将来についてイメージすることができ、社会で自分を活かして生きていく力を計画的に身につける。本講座における「キャリアレディネス (Career Readiness)」とは、「将来自分の働き方への気づき」と「自分の就業力向上」の総和として捉える。</p>						
教育方法	授業の進め方	(講義・ 演習 ・実験・実習・実技) 毎回講義セッション後、ワークショップもしくはグループワークを行う。					
	予習・復習	各授業の後に講義内容を復習し、理解を深めること。 グループワークや事例研究については、自分とのかかわり合いを中心に応用力をつけること。					
	テキスト	配布資料 (レジュメおよびワークシート)					
学習評価の方法	自分の生き方について真剣に考え、将来の就職に関連することを積極的に取り組んでいるかに重点をおき、学習評価を行う。毎回の授業における個人ベースのワークショップの評価 (70%) と、グループワークの評価 (30%) の総合点 60 点以上を合格とする。具体的には量的基準としての「ワークシート」の作成・提出と質的基準としてのその内容を 1 : 1 で評価する。						
注意事項	<p>参考図書：</p> <p>ケリー・マクゴニガル『スタンフォードの自分を変える教室』 大和書房。</p> <p>渡辺和子『置かれた場所で咲きなさい』 幻冬舎。</p> <p>瀧本哲史『僕は君たちに武器を配りたい』 講談社。</p> <p>海老原嗣生『若者はかわいそう論：データで暴く雇用不安の正体』 扶桑社。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>講座の概要と意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育目標と学習成果、授業の進め方、具体的な授業内容、評価の方法など ・何を学ぶか、本学での学びと自分のキャリアについて考える。 ・なぜ「いま」自分のキャリアや就職問題について真剣に向き合わなければならないのか <p>成果 授業の全体像を把握し、自分のキャリアについて気づく (Career Awareness)</p>
2 回	<p>講義 専門職への就業インセンティブと移行問題について学ぶ。</p> <p>キャリア設計に大学教育をどう活かすか、ソフトスキルモデルについて学ぶ。</p> <p>演習 ミニグループワーク</p> <p>成果 専門職への就業インセンティブとソフトスキルモデルについて意識を高める。</p>
3 回	<p>講義 就職活動の現状と就職後のイメージ、そして論理的思考モデルについて学ぶ。</p> <p>なぜソフトスキルに注目すべきかについて再論する。</p> <p>演習 事例分析を通してキャリア設計のインプリケーションについて気づく。</p> <p>成果 論理的思考への動機を高め、実践的手法の活用度への意識を高める。</p>
4 回	<p>講義 就業基礎能力としてのプレゼンの手法について学ぶ。</p> <p>演習 自己更新プロセス</p> <p>成果 より効果的問題解決方法を応用することができる。</p>
5 回	<p>講義 論理的思考や理解を高める方法論について学ぶ。</p> <p>PREP 演習</p> <p>演習 他者理解：事例分析を通して自分のキャリア設計への意識を高める。</p> <p>成果 構造的プレゼン手法やキャリア設計への意識を高めることができる。</p>
6 回	<p>講義 ケアサービスにおける感情労働について学ぶ。</p> <p>専門職に求められるソフトスキルと感情労働とのつながりについて学ぶ。</p> <p>演習 グループワーク</p> <p>身近なテーマを取り上げ構造的手法で発表原稿を作成する。</p> <p>成果 チームで働く力を育むとともに、相互学習効果を期待する。</p>
7 回	<p>講義 社会人基礎力モデルとストレス耐性について学ぶ。</p> <p>感情労働とスマイルのインセンティブについて考える。</p> <p>演習 中間まとめワークショップを行う。</p> <p>講義や演習内容を踏まえ6回までの授業内容をまとめる。</p> <p>成果 人間の成長への気づきと中間まとめによる復習ができる。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	<p>講義 就業基礎能力としてのコミュニケーション力について学ぶ。 雑談力の効用について気づく。</p> <p>演習 コミュニケーション能力と会話のつなぎ方について演習を行う。</p> <p>成果 感情労働の基本と現状について気づき、会話のつなぎ方について動機を高める。</p>
9 回	<p>講義 不連続な人間の成長とキャリア設計のかかわり合いについて学ぶ。 主にメタモルフォシスモデルを用いてキャリア設計への動機を高める。</p> <p>演習 事例分析を通してキャリア設計への意識を高める。</p> <p>成果 社会人基礎力として求められるストレスコントロール方法について気づく。</p>
10 回	<p>講義 若者の就職問題とかかわる制度の事例について調べる。 計画された偶発性とセレンディピティモデルについて学ぶ。</p> <p>演習 感情労働の度合いを比較する演習を行う。</p> <p>成果 キャリアと偶然の出来事とのかかわり合いや現実の感情労働について理解できる。</p>
11 回	<p>講義 潜在能力と発揮能力モデルについて学ぶ。 資格を活かす就業と一般的就業、そして自分とのかかわり合いについて考える。</p> <p>演習 事例分析を通して自分のキャリア設計への意識を高める。</p> <p>成果 キャリア設計における発揮能力モデルについて理解を深めることができる。</p>
12 回	<p>講義 働く女性のキャリアと経済的機会について学ぶ。 ケアサービスと感情労働について学ぶ。</p> <p>演習 協働学修のための課題を通して論理的思考とプレゼン力を高める。</p> <p>成果 主に上記の三つの事項に関する理解を高めることができる。</p>
13 回	<p>講義 長期的なキャリアと環境への順応性について学ぶ。 労働現場の常識をクイズ方式で学ぶ (1/2)。</p> <p>演習 就活と恋愛の共通点についてグループワークを行う。</p> <p>成果 環境との相互作用によるキャリア設計に気づき、労働現場の基礎知識を身に付ける。</p>
14 回	<p>講義 前回協働学修テーマに関するフィードバック&レビュー。 労働現場の常識をクイズ方式で学ぶ (2/2)。</p> <p>演習 働く現場統計。</p> <p>成果 労働現場の基礎知識を身に付けるとともに、ミニ・ジョブカードを作成することができる。</p>
15 回	<p>総括 講義および演習などの成果を踏まえた総括ワークショップを行う。</p> <p>成果 専門職への就業意識や職業活動に対するキャリアレディネスを最終的に点検することができる。</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画																
科目名	英語 (A)	授業回数	15	単位数	1	担当教員	濱田 佐保子									
質問受付の方法: オフィスアワー: 月曜日 1 限、研究室: M509、 sahoko@owc.ac.jp																
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標:</p> <p>国際化が急速に進んでいる今日、英語力を身につけることは不可欠である。次のことを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 読むことを基盤として、英語の総合力を向上させるために基本的な文法、構文把握、語彙を強化する。 2. 異文化に親しみ、理解を深める。 3. 子供の小学校での英語活動に備えて、保育の現場で英語を取り入れた活動を指導できるようになるための能力を養い、アイデアを身につける。 4. グループ活動を通じて、英語で意思疎通を行う力を養う。 <p>学生の学習成果:</p> <p>専門的学習成果として、教育目標に記載した力を身につけ、大学初級レベルの英文を自力で理解する力を養う。</p> <p>汎用的学習成果として、人間関係力 (自己表現、他者理解、問題解決) を涵養する。</p>															
	教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Warm-Up: 英文の内容把握を行う。 2. Grammar Practice: 文法の演習問題を行う。 3. Reading: 和訳を行ってもらい、解説する。内容把握問題を行う。 4. Writing: ポイントとなる文法事項に留意して英文を理解し、簡単な自己表現を行う。 5. 語彙の復習を行う。 6. グループ活動を行う。(保育の現場での指導につながるなど) 													
		予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業前に、「授業回数別教育内容」に記載された予習を求める。 ・毎授業後に、「授業回数別教育内容」に記載された復習を求める。 ・復習を行ったかどうかは単語テストや指名により、予習については授業中に発言を求めることやノートチェックにより確認する。 													
テキスト		<ul style="list-style-type: none"> ・山本厚子、大須賀直子、真野千佳子、岡本京子、Benedict Rowlett、2016、<i>Living Grammar</i>、成美堂 ・プリント教材 														
学習評価の方法	<p>以下の4つの学習成果について、おおよそ「①②③が95%、④が5%」の割合で評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>① 英語の総合力向上</td> <td>② 異文化への理解</td> </tr> <tr> <td>③ 保育の現場での英語の指導力養成</td> <td>④ 英語で意思疎通を行う力の養成</td> </tr> </table> <p>学習評価は次のように行う。</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 復習テスト: 40点 (100点満点×0.4)</td> <td>2. 定期試験: 40点 (100点満点×0.4)</td> </tr> <tr> <td>3. 小テスト: 10点 (10点満点×2回×0.5)</td> <td>4. ノート提出: 5点 (1回または2回)</td> </tr> <tr> <td>5. グループ活動: 5点</td> <td>6. テキスト等忘れ物: 減点0.5点</td> </tr> </table> <p>7. 受講態度などに問題がある学生には注意指導を行うが、改善が見られない場合は倫理観が十分でないとして、1件につき1点減点する。</p>						① 英語の総合力向上	② 異文化への理解	③ 保育の現場での英語の指導力養成	④ 英語で意思疎通を行う力の養成	1. 復習テスト: 40点 (100点満点×0.4)	2. 定期試験: 40点 (100点満点×0.4)	3. 小テスト: 10点 (10点満点×2回×0.5)	4. ノート提出: 5点 (1回または2回)	5. グループ活動: 5点	6. テキスト等忘れ物: 減点0.5点
① 英語の総合力向上	② 異文化への理解															
③ 保育の現場での英語の指導力養成	④ 英語で意思疎通を行う力の養成															
1. 復習テスト: 40点 (100点満点×0.4)	2. 定期試験: 40点 (100点満点×0.4)															
3. 小テスト: 10点 (10点満点×2回×0.5)	4. ノート提出: 5点 (1回または2回)															
5. グループ活動: 5点	6. テキスト等忘れ物: 減点0.5点															
注意事項	<p>参考図書</p> <p>「基礎からよくわかる英文法」綿貫陽、旺文社、2002年。</p>															

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション：授業の進め方、成績評価の方法などを理解する。</p> <p>演習内容：自己紹介を題材とした活動を行い、自己紹介の時に頻出する語彙・表現を習得し、使えるようにする。</p> <p>学習成果：自己紹介に関するやりとりを英語で行える。</p> <p>予習事項：問題演習と指定した部分の和訳</p>
2 回	<p>演習内容：Unit 1 Profile be 動詞を習得する。</p> <p>グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。</p> <p>学習成果：読解力を向上させ、be 動詞を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。</p> <p>予習事項：問題演習と指定した部分の和訳</p> <p>復習事項：間違えた部分を中心とした見直しと語彙の暗記</p>
3 回	<p>演習内容：Unit 2 Sports 一般動詞（自動詞、他動詞）を習得する。</p> <p>グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。</p> <p>学習成果：読解力を向上させ、一般動詞を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。</p> <p>予習事項：問題演習と指定した部分の和訳</p> <p>復習事項：間違えた部分を中心とした見直しと語彙の暗記</p>
4 回	<p>演習内容：Unit 3 Special Occasions 一般動詞（二重目的語、目的語と補語をとる動詞）を習得する。</p> <p>グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。</p> <p>学習成果：読解力を向上させ、一般動詞を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。</p> <p>予習事項：問題演習と指定した部分の和訳</p> <p>復習事項：間違えた部分を中心とした見直しと語彙の暗記</p>
5 回	<p>演習内容：Unit 4 Families 人称代名詞を習得する。</p> <p>グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。</p> <p>学習成果：読解力を向上させ、人称代名詞を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。</p> <p>予習事項：問題演習と指定した部分の和訳</p> <p>復習事項：間違えた部分を中心とした見直しと語彙の暗記</p>
6 回	<p>演習内容：Unit 5 Japan Quiz Wh-疑問文を習得する</p> <p>グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。</p> <p>小テストにより、語彙と重点項目の確認をする。</p> <p>学習成果：読解力を向上させ、Wh-疑問文を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。</p> <p>予習事項：問題演習と指定した部分の和訳</p> <p>復習事項：間違えた部分を中心とした見直しと語彙の暗記</p>
7 回	<p>演習内容：Unit 5 Japan Quiz Wh-疑問文を習得する。試験範囲の語彙の復習を行う。</p> <p>学習成果：読解力を向上させ、Wh-疑問文を正しく理解できる。試験範囲の語彙を身につける。</p> <p>復習事項：復習テストに備えて、第7回までの学習内容を間違えた問題（箇所）を中心に復習しておく。（指定したプリントからも出題される）</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	<p>演習内容：第7回目までに学習したことの総復習を行い、重要なポイントを確認する。 復習テスト ノート提出</p> <p>学習成果：第7回目までに学習したことを、体系的に理解できる。 予習事項：問題演習と指定した部分の和訳 復習事項：復習テストで難しかった箇所の見直し</p>
9 回	<p>演習内容：復習テストで間違いが多かった問題について解説する。 Unit 7 Love and Marriage 過去形を習得する。 グループ活動を通じて英語で意思疎通することを体験する。</p> <p>学習成果：読解力を向上させ、過去形を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。</p> <p>予習事項：問題演習と指定した部分の和訳 復習事項：間違えた部分を中心とした見直しと語彙の暗記</p>
10 回	<p>演習内容：Unit 7 Life History 現在完了形（継続）を習得する。 グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。</p> <p>学習成果：読解力を向上させ、現在完了形（継続）を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。</p> <p>予習事項：問題演習と指定した部分の和訳 復習事項：間違えた部分を中心とした見直しと語彙の暗記</p>
11 回	<p>演習内容：Unit 8 Leisure 現在完了形（経験・完了）の使い方を習得する。 グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。</p> <p>学習成果：読解力を向上させ、現在完了形（経験・完了）を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。</p> <p>予習事項：問題演習と指定した部分の和訳 復習事項：間違えた部分を中心とした見直しと語彙の暗記</p>
12 回	<p>演習内容：Unit 9 College Life 進行形（現在進行形、過去進行形）を習得する。 グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。</p> <p>学習成果：読解力を向上させ、進行形を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。</p> <p>予習事項：問題演習と指定した部分の和訳 復習事項：間違えた部分を中心とした見直しと語彙の暗記</p>
13 回	<p>演習内容：Unit 9 College Life 進行形（現在進行形、過去進行形）の使い方を習得する。 グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。 小テストにより語彙と文法の重点項目を確認する。</p> <p>学習成果：読解力を向上させ、進行形を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。</p> <p>予習事項：問題演習と指定した部分の和訳 復習事項：間違えた部分を中心とした見直しと語彙の暗記</p>
14 回	<p>演習内容：Unit 10 On Vacation 未来表現（be going to , will ）を習得する グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。</p> <p>学習成果：読解力を向上させ、未来表現を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。</p> <p>予習事項：問題演習と指定した部分の和訳 復習事項：間違えた部分を中心とした見直しと語彙の暗記</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
15 回	<p>演習内容：Unit 10 On Vacation 未来表現 (be going to, will) を習得する 試験範囲の語彙の復習を行う。</p> <p>学習成果：読解力を向上させ、未来表現を正しく理解する。試験範囲の語彙を身につけることができる。</p> <p>復習事項：第9回から第15回までの学習内容を復習しておく。指定した範囲の和訳と指定したプリントも出題される。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション：授業の進め方、成績評価の方法などを理解する。</p> <p>演習内容：英語で意思疎通を行うことを体験する。</p> <p>学習成果：簡単な英語で意思疎通ができ、保育の現場での英語指導力を養うことができる。</p> <p>予習事項：問題演習と指定した部分の和訳</p>
2 回	<p>演習内容：Unit 11 Out and About 助動詞（can, may など）の使い方を習得する。 グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。</p> <p>学習成果：読解力を向上させ、助動詞を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。</p> <p>予習事項：問題演習と指定した部分の和訳</p> <p>復習事項：間違えた個所を中心とした見直しと語彙の暗記</p>
3 回	<p>演習内容：Unit 12 Rules 助動詞（must, should など）の使い方を習得する。 グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。</p> <p>学習成果：読解力を向上させ、助動詞を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。</p> <p>予習事項：問題演習と指定した部分の和訳</p> <p>復習事項：間違えた個所を中心とした見直しと語彙の暗記</p>
4 回	<p>演習内容：Unit 13 Folk Tales 接続詞（and, but, or, so）を習得する。 グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。</p> <p>学習成果：読解力を向上させ、接続詞を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。</p> <p>予習事項：問題演習と指定した部分の和訳</p> <p>復習事項：間違えた個所を中心とした見直しと語彙の暗記</p>
5 回	<p>演習内容：Unit 13 Folk Tales 接続詞（and, but, or, so）を習得する。 グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。</p> <p>学習成果：読解力を向上させ、接続詞を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。</p> <p>予習事項：問題演習と指定した部分の和訳</p> <p>復習事項：間違えた個所を中心とした見直しと語彙の暗記</p>
6 回	<p>演習内容：Unit 14 News & Events 受動態の使い方を習得する。 グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。小テストにより、語彙と重点項目の確認を行う。</p> <p>学習成果：読解力を向上させ、受動態を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。</p> <p>予習事項：問題演習と指定した部分の和訳</p> <p>復習事項：間違えた個所を中心とした見直しと語彙の暗記</p>
7 回	<p>演習内容：Unit 14 News & Events 受動態を習得する。 グループ活動を通じて保育の現場での英語指導力を養う。</p> <p>学習成果：読解力を向上させ、受動態を正しく理解できる。試験範囲の語彙を習得できる。</p> <p>復習事項：復習テストに備えて第7回までの学習内容を間違えた問題（箇所）を中心に復習しておく。（指定したプリントも含む）</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	<p>演習内容：第7回目までの学習したことの総復習を行い、重要なポイントを確認する。 復習テスト</p> <p>ノート提出</p> <p>学習成果：第7回目までに学習したことを、体系的に理解できる。</p> <p>予習事項：問題演習と指定した部分の和訳</p> <p>復習事項：復習テストで難しかった箇所の見直し</p>
9 回	<p>演習内容：Unit 15 Amazing Animals 頻度を表す副詞を習得する。 グループ活動を通じて、保育の現場での英語指導力を養う。</p> <p>学習成果：読解力を向上させ、頻度を表す副詞を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通ができ、保育の現場での英語指導力を養う。</p> <p>予習事項：問題演習と指定した部分の和訳</p> <p>復習事項：間違えた箇所を中心とした見直しと語彙の暗記</p>
10 回	<p>演習内容：Unit 16 Feelings -ing, -ed で終わる形容詞を習得する。 グループ活動を通じて、保育の現場での英語指導力を養う。</p> <p>学習成果：読解力を向上させ、-ing, -ed で終わる形容詞を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。</p> <p>予習事項：問題演習と指定した部分の和訳</p> <p>復習事項：間違えた箇所を中心とした見直しと語彙の暗記</p>
11 回	<p>演習内容：Unit 17 World Quiz 原級、比較級、最上級を習得する。 グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。</p> <p>学習成果：読解力を向上させ、原級、比較級、最上級を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。</p> <p>予習事項：問題演習と指定した部分の和訳</p> <p>復習事項：間違えた箇所を中心とした見直しと語彙の暗記</p>
12 回	<p>演習内容：Unit 18 Business 基本的な前置詞 (at, on, in) を習得する。 グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。</p> <p>学習成果：読解力を向上させ、前置詞を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。</p> <p>予習事項：問題演習と指定した部分の和訳</p>
13 回	<p>演習内容：Unit19 Environment 接続詞 (when, because, although, if) を習得する。試験範囲の語彙の復習を行う。グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。小テストにより、語彙と重点項目の確認をする。</p> <p>学習成果：読解力を向上させ、接続詞を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。</p> <p>予習事項：問題演習と指定した部分の和訳</p> <p>復習事項：間違えた箇所を中心とした見直しと語彙の暗記</p>
14 回	<p>演習内容：Unit19 Environment 接続詞 (when, because, although, if) を習得する。試験範囲の語彙の復習を行う。 グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。</p> <p>学習成果：読解力を向上させ、接続詞を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。</p> <p>予習事項：問題演習と指定した部分の和訳</p> <p>復習事項：間違えた箇所を中心とした見直しと語彙の暗記</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
15 回	<p>演習内容：Unit 20 Old Sayings 不定詞と動名詞を習得する。</p> <p>学習成果：読解力を向上させ、不定詞と動名詞を正しく理解できる。試験範囲の語彙を身につける。</p> <p>復習事項：定期試験に備えて、第9回から第15回までの学習内容を復習しておく。指定した範囲の和訳と指定したプリントも出題される。</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画								
科目名	体育実技	授業回数	15	単位数	1	担当教員	西谷 光正	
質問受付の方法：体育館 火曜日・水曜日 ～15：00 シャトルカード								
教育 目 標 と 学 生 の 学 習 成 果	<p>教育目標： 体育実技を通して、体力や技能の向上を図り、仲間と体を動かす楽しさを味わうことでコミュニケーション能力を身につける。また、生涯にわたってスポーツを行う生活習慣を身につける。</p> <p>学生の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的学習成果：1 基礎技能の向上及び試合ができる技能・能力が身に付く。 2 日常生活に必要な体力を養う。 ・汎用的学習成果：スポーツ活動に積極的に参加し、実践する態度が身につく。コミュニケーション能力や自己管理能力が身につく。 							
	教 育 方 法	授 業 の 進 め 方	(講義・演習・実験・実習・ 実技)					
	予 習 ・ 復 習	予習：球技種目のルールの把握を行う。 復習：シャトルカードにて授業の振り返りを行う。						
	テ キ ス ト	特に設けない。						
学 習 評 価 の 方 法	<p>専門的学習成果 バドミントン 15 点 卓球 15 点 硬式テニス 15 点 バスケットボール (またはバレーボール) 15 点 技能、ルール理解の評価を行う。</p> <p>汎用的学習成果 課題レポートの提出とその内容 10 点 スポーツ活動に参加する態度 20 点 グループ活動での参加態度 10 点 学習評価より、遅刻・早退 1 回につき 2 点減点、体操着を忘れた場合は 3 点減点、見学の場合は授業内容についてのレポートを提出する。 また、受講態度に問題があった場合は、社会人としての倫理観が十分でないとして評価から減点する。</p>							
注 意 事 項	<p>遅刻について：準備運動終了後入室した場合、怪我などの心配があるので、指導者の指示に従って授業に参加すること。</p> <p>見学者について：授業内容を見学用紙に記入すること。</p> <p>トイレ等で退室する場合、入室時に帰ってきたことを伝えること。</p>							

授 業 回 数 別 教 育 内 容			
1 回	<p>オリエンテーション 授業の進め方、安全に対する留意点、学習評価の方法、施設、用具の使い方について説明する。</p> <p>基礎運動 ストレッチ、ランニング、腹筋、背筋などの実技を行う。</p> <p>学習評価 授業の進め方及び学習評価の方法を理解する。毎回の授業において基礎運動を行うことにより体力が身に付くことを理解する。</p>		
2 3 回	<p>ソフトバレーボール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎技能の習得：アンダーパス オーバーパスの技能習得をする。 ・ルールの説明：2ゲーム先取で行う。1ゲーム 15点、1対1の場合は3ゲーム目を行う。ただし3ゲーム目は5点で勝敗を決める。 ・試合：チームごと対戦相手を決め交流を図る。 <p>学習評価 基礎技能の向上及びルールを理解することにより試合を円滑に進めることが出来る。対戦相手と交流を図ることでコミュニケーション能力が身に付く。</p>		
4 ・ 5 ・ 6 回	<p>硬式テニス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎技能の習得：ストローク、サーブ、レシーブの技能習得をする。 ・2人組、4人組で打ち合いを行う。 <p>学習成果 基礎技能の向上及び試合が出来る能力が身に付く。</p>		
7 回	<p>バドミントン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎技能の習得：ストローク、ハイクリヤー、スマッシュ、ドロップ、サーブの技能習得をする。 <p>ルールの説明：実践を交えながらルールの理解を行う。</p> <p>学習成果 基礎技能の向上及び試合ができる技能・能力が身に付く。</p> <p>予習事項：シングルのルールを調べてノートに記す。</p>		
8 ・ 9 回	<p>バドミントン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試合（シングルス）：リーグ戦を行う（グループごと）。 <p>学習成果 試合戦術が向上する 積極的に実践する態度が身に付く。</p>		
10 回	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> <p>バドミントン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試合（シングルス） リーグ戦を行う（グループごと） </td> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> <p>卓球</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎技能の習得 サーブ ストロークの技能習得をする。 ・ルール説明：実践を交えながらルールの理解を行う <p>予習事項：シングルのルールを調べてノートに記す</p> </td> </tr> </table> <p>・2種目のローテーションで授業を進める</p> <p>学習成果 バドミントン：試合戦術が向上する。他グループと交流することでコミュニケーション能力が身に付く。 卓球：基礎技能の向上及び試合ができる技能・能力が身に付く。</p>	<p>バドミントン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試合（シングルス） リーグ戦を行う（グループごと） 	<p>卓球</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎技能の習得 サーブ ストロークの技能習得をする。 ・ルール説明：実践を交えながらルールの理解を行う <p>予習事項：シングルのルールを調べてノートに記す</p>
<p>バドミントン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試合（シングルス） リーグ戦を行う（グループごと） 	<p>卓球</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎技能の習得 サーブ ストロークの技能習得をする。 ・ルール説明：実践を交えながらルールの理解を行う <p>予習事項：シングルのルールを調べてノートに記す</p>		

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
11 回	<p>バドミントン ・実技評価 戦術、基礎技能の向上などを評価する。 ・2 種目のローテーションで授業を進める</p> <p>卓球 ・試合（シングルス）：リーグ戦を行う。</p> <p>学習成果 バドミントン：練習してきた成果を発揮できる能力が身に付く（自己実現） 卓球：試合に積極的に参加し、実践する態度を身に付ける。他学生との交流を図り、体を動かす楽しさを味わうことやコミュニケーション能力が身に付く。</p>
12 回	<p>バドミントン ・試合（ダブルス）リーグ戦を行う。</p> <p>卓球 ・実技評価 サーブと 10 回以上のラリーの実技評価をする。</p> <p>・2 種目のローテーションで授業を進める。</p> <p>学習成果 バドミントン：戦術を考えることで、協力し合う態度が身に付く。 卓球：練習してきた成果が発揮できる能力が身に付く（自己実現）</p>
13 ・ 14 回	<p>バスケットボール ・基礎技能の習得：チェストパス ランニングパス、ドリブルシュートの技能習得をする。 ・ルールの説明：実践を交えながらルールを理解する。 ・試合：グループ編成を行い、交流戦を行う。</p> <p>学習成果 基礎技能の向上及び試合ができる技能・能力が身に付く。戦術を考えることで、協力し合う態度、価値観、意見などの自己表現力が身に付く。 予習事項：ルールを調べノートに記す。</p>
	<p>バレーボール ・基礎技能の習得：サーブ、レシーブ、オーバーパス アンダーパスを習得する。 ・ルールの説明：実践を交えながらルールの理解をする。 ・試合：グループ編成を行い、交流戦を行う。</p> <p>学習成果 基礎技能の向上および試合ができる技能・能力が身に付く。戦術を考えることで、協力し合う態度、価値観、意見などの自己表現力が身に付く。</p>
	<p>実技評価 ・バレーボール：レシーブの実技評価を行う。 ・バスケットボール：ドリブルシュートの実技評価を行う。 どちらかを選択し、実技評価を受ける。</p> <p>学習成果 練習してきた成果を発揮できる能力が身に付く（自己実現）。</p>
15 回	<p>バスケットボール：グループ編成を行い、交流戦を行う。</p> <p>学習成果 勝つ喜び、負ける悔しさなどを共感する態度やコミュニケーション能力が身に付く。</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	体育理論	授業回数	8	単位数	1	担当教員	藤井 真理
質問受付の方法 : B 棟 306 室 水曜 16:20~17:00 e-mail : fujima@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体力の保持・増進に係る科学的な運動処方及び生涯体育の必要性に対する理解 2. 現代社会における心身の健康を取り巻く諸問題に対する理解 3. 健康生活の構築を図るための有効なアプローチに対する理解 <p>学生の学習成果 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的学習成果として、上記 3 項目の教育目標を達成できるようにする。 ・汎用的学習成果として、積極的に体力の保持・増進を図るための「価値・意見」を形成すると共に、「論理的思考力」を身につける。 						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義)・演習・実験・実習・実技</p> <p>上述の教育目標及び学習成果を達成するために、シラバスに示すテーマ以外にも、健康を脅かす喫緊の課題があれば、その内容を盛り込んで講義を展開する。また、講義内容にかかわらず、以下の項目を重視して授業を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 取り扱う全テーマについて自らの問題として関心を持って捉える姿勢を育む。 2. 毎回、講義を通して感じたことや考えたこと等をシャトルカードに記すことを求め、記述された内容を講義に反映させる。 					
	予習・復習	<p>予習 : 毎時間、次回講義における主要な内容について予習を課す。</p> <p>復習 : 毎時間、講義内容における重要な項目について復習を課す。</p>					
学習評価の方法	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストは使用せず、講義内容に即したプリントを使用して講義を進める。 * 補助教材として、VTR や DVD を適宜使用する。 						
学習評価の方法	<p>下記 3 点の学習成果について、「専門的学習成果」として、「1」・「2」は「筆記試験 (80 点 / 1 回実施)」および「課題 (14 点 / 7 回提出 (各 2 点))」、「3」は「レポート (6 点 / 1 回提出)」によって評価する。「汎用的学習成果」については、「遅刻・早退」1 回につき「3 点」を減ずる (公共交通機関の乱れによる遅刻は減点しない / ただし欠席届に証明書 (遅延等) が添付されている場合に限る)。また、「態度・信念」の点検として、受講中の私語や非協力的態度等の問題行動について複数回の注意の後も改善がみられない場合、各授業における当該事態 1 回につき「3 点」を減ずる。さらに、「価値・意見」の点検として、シャトルカードに各回の講義内容のテーマについてコメントを記すことを課し、十分に記されていない場合は「3 点」を減ずる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体力の保持・増進に係る科学的な運動処方及び生涯体育の必要性に対する理解 2. 現代社会における心身の健康を取り巻く諸問題に対する理解 3. 健康生活の構築を図るための有効なアプローチに対する理解 						
注意事項	<p>参考図書等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緒方正名編『健康科学概論』朝倉書店、1992 年。 ・田口貞善・山地啓司編『運動・健康とからだの秘密』近代科学者、1998 年。 						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>■オリエンテーション 教育目標と学生の学習成果、教育方法、学習評価の方法について説明する。</p> <p>■講義内容 [現代社会における心身を取り巻く諸問題] 講義テーマに沿って現代に生きる我々が抱える心身を取りまく諸問題について解説する。 *学習成果：心身の問題や課題について自らのこととして捉える意識を獲得する。 【予習】運動の種類と具体的運動種目の予習① 【復習】現代人の心身の問題や課題の復習</p>
2 回	<p>■講義内容 [運動の生理] 筋収縮様式と運動・スポーツの種類(有酸素・無酸素運動)との関連性について解説する。 *学習成果：運動・スポーツによる身体への具体的な効力について理解する。 【予習】「あがり」が引き起こす心身の変化について予習② 【復習】有酸素運動の効用と運動実践の必要性について復習 【提出】予習①</p>
3 回	<p>■講義内容 [運動の心理] タイミング事態・行動の特質、「あがり」の生理的メカニズムと対策について解説する。 *学習成果：運動を支える心理や具体的に講じることのできる対策について理解する。 【予習】ストレスによって引き起こされる病気の種類について予習③ 【復習】「あがり」のメカニズムと具体的な対策について復習 【提出】予習②</p>
4 回	<p>■講義内容 [ストレス] ストレス発生のメカニズムと生理的变化、引き起こされるストレス病について解説する。 *学習成果：ストレスのメカニズムと回避・解消法の知識について理解する。 【予習】アルコールが脳に及ぼす影響について予習④ 【復習】ストレスのメカニズムと回避・解消法の実際について復習 【提出】予習③</p>
5 回	<p>■講義内容 [薬物・飲酒] 薬物とアルコールについて、依存性や依存のメカニズム、危険性について解説する。 *学習成果：薬物依存・アルコール依存の危険性と実生活に生かす意識について理解する。 【予習】脳梗塞の原因について予習⑤ 【復習】薬物依存・アルコール依存の危険性について復習 【提出】予習④</p>
6 回	<p>■講義内容 [脳の再生と発達] 脳の再生と発達について、「VTR/秘められた復元力～発達と再生～」視聴により解説する。 *学習成果：日常において脳梗塞等を引き起こす要因及び再生への働きかけを理解する。 【予習】「HIV」と「AIDS」について予習⑥ 【復習】生活習慣の見直しについて復習 【提出】予習⑤</p>
7 回	<p>■講義内容 [後天性免疫不全症候群 (AIDS)] AIDS 発症のメカニズムと感染ルート、主な感染経路、感染防止策について解説する。 *学習成果：AIDS が決して他人事でない現実と日常での防止の必要性について理解する。 【予習】妊娠・出産における母親の心理的变化について予習⑦ 【復習】AIDS 発症のメカニズムと社会的課題について復習 【提出】予習⑥</p>
8 回	<p>■講義内容 [妊娠・出産] 生命誕生について、「DVD/驚異の小宇宙(1)人体～生命の誕生～」の視聴により解説する。 *学習成果：妊娠・出産に伴う心身の変化を通して「生命の尊厳」について理解する。 【提出】予習⑦ 【レポート】DVDの視聴から得られた知見</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画													
科目名	基礎音楽	授業回数	15	単位数	1	担当教員	大羽敬子						
質問受付の方法 授業時間の前後													
教育目標と学生の学習成果	<p>〈教育目標〉</p> <p>音楽表現に必要な音楽基礎知識を習得し、保育・教育現場で実践できる表現技能を身につけ自ら音楽表現の楽しさを味わうことを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 楽譜を読むために必要な音楽基礎知識を習得する。 2. 習得した読譜力を、歌唱・ピアノ演奏における表現の向上に結びつける。 3. 実践的な応用力を身につけ、歌唱表現を楽しむことができる。 <p>〈学生の学習成果〉</p> <p>専門的学習成果 教育目標に掲げた 3 項目について習得し、歌唱やピアノ演奏に生かせるようになる。</p> <p>汎用的学習成果 知識を応用し実践するために、日々の自主練習の積み重ねが不可欠となる。各自の技能に応じた目標を設定し、達成に向けて努力する姿勢を身につけることができる。</p>												
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストや配布プリントを用いて講義を行う。 ・講義内容に沿って演習を行う。 ・知識の理解度を確認するために小テストを実施する。 <p>予習・復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業前にテキスト該当ページを読んでおくことが望ましい。 ・授業後に演習内容の復習を求める。 <p>テキスト</p> <p>テキストA 「この一冊でわかる ピアノ実技と楽典 増補版」 音楽之友社 テキストB 「こどものうた 200」 チャイルド本社</p>											
学習評価の方法	<p>専門的学習成果、汎用的学習成果について、以下の配分で判断し、学習評価を行う。</p> <table border="0"> <tr> <td>① 授業への取り組み (作品提出を含む)</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>② 小テスト (①～⑩)</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>③ 学期末筆記試験</td> <td>60%</td> </tr> </table> <p>なお、小テスト (①～⑩) については、範囲を前回授業内容とし、授業内で実施する。 作品提出については、第 13 回～第 15 回授業内で作った伴奏楽譜を提出するものとする。</p>							① 授業への取り組み (作品提出を含む)	20%	② 小テスト (①～⑩)	20%	③ 学期末筆記試験	60%
① 授業への取り組み (作品提出を含む)	20%												
② 小テスト (①～⑩)	20%												
③ 学期末筆記試験	60%												
注意事項	<p>参考図書：各自の持っているピアノ教本 「バイエル ピアノ教則本」 「ブルグミュラー 25 の練習曲」など</p> <p>注意事項：授業の特性として、欠席した場合は、次回授業内容が分かり難くなるので注意する。</p>												

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><オリエンテーション> 授業の進め方、スケジュール、学習評価の方法について説明する。 音楽歴、読譜力についてのアンケート調査をする。</p> <p><音楽の学び方> テキストA P6～48、テキストB</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 保育士・幼稚園教諭に必要な音楽基礎の学び方、心構えについて認識する。 ・学習成果 読譜力を身につけることの必要性を認識できる。 知識理解にとどまらず、実際に歌唱や楽器演奏で表現できるようになることが重要であることを認識できる。 ・復習課題 テキストを再度熟読し、音楽の学び方を確認する。
2 回	<p><楽譜について> テキストA P50～51、テキストB</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 楽譜の意味、五線、小節、音部記号と譜表、楽譜と鍵盤の位置について理解する。 音の高低を意識する練習をする。 ・学習成果 楽譜とは何かを認識できる。 楽譜と鍵盤の位置を確認することができる。 音の高低を意識できるようになる。 ・復習課題 実際に鍵盤楽器で音を聴いて確認する。 音の高低を声に出して練習する。
3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト① <p><音名と階名> テキストA P52～55、テキストB</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 音名、半音と全音、変化記号、異名同音、臨時記号とナチュラルについて理解する。 階名について理解し、簡単な楽譜の階名唱ができるようにする。 ・学習成果 音の高さに関する知識を身につけることができる。 ・復習課題 階名唱を繰り返し練習し、慣れる。
4 回	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト② <p><音符と休符> テキストA P56、テキストB</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 音符・休符の種類と名称、長さについて理解する。 わらべうたなどの楽譜を用いてリズム読み(リズム打ち)の練習をする ・学習成果 音符・休符の長さに関する知識を身につけることができる。 正確なリズム読み(リズム打ち)ができるようになる。 ・復習課題 リズム読み(リズム打ち)を繰り返し練習し、慣れる。
5 回	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト③ <p><リズムと拍子> テキストA P57～58、テキストB</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 拍子記号、拍子と強さ、弱起、シンコペーション、連符について理解する。 指揮について理解する。 ・学習成果 拍子を理解して演奏の基礎を認識できる。 ・復習課題 授業で扱った曲を繰り返し練習していろいろな拍子に慣れる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト④ <p><記号と標語> テキストA P68～71、テキストB</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 記号と標語について、強弱に関するもの・速度に関するもの・奏法に関するもの・曲想に関するものを理解する。 反復記号について理解する。 ・学習成果 記号と標語について楽譜を見て確認し、指示通りに演奏できるようになる。 ・復習課題 ピアノ楽譜などで復習して、知識を定着させる。
7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト⑤ <p><音階と調> テキストA P59～67, テキストB</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 長音階と短音階について名称と構成音について理解する。 調子記号、五度圏、近親調について理解する。 ・学習成果 いろいろな調の楽譜に対応できるようになる。 ・復習課題 音階について、実際に鍵盤楽器を用いて音を確かめる。
8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト⑥ <p><読譜 (1) > テキストA P50～71、テキストB、「バイエルピアノ教則本」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習内容 実際に幼児の歌やピアノ楽譜を用いて、第1回～第7回までの内容を確認しながら楽譜を読む練習をする。 ・学習成果 簡単な初見演奏ができるようになることにつながる。 ・復習課題 授業で扱った楽譜について、繰り返し練習する。
9 回	<p><読譜 (2) > テキストA P50～71、テキストB、「バイエルピアノ教則本」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習内容 実際に幼児の歌やピアノ楽譜を用いて、第1回～第7回までの内容を確認しながら楽譜を読む練習をする。 ・学習成果 簡単な初見演奏ができるようになることにつながる。 ・復習課題 授業で扱った楽譜について、繰り返し練習する。
10 回	<p><音程 (1) > テキストA P72～87、テキストB</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 音程について理解する 長短系の音程について理解し、実際に歌って響きを確認する。 ・学習成果 2度、3度、6度、7度の音程について理解し、正確に歌う意識を持てるようになる。 ・復習課題 演習問題を再度確認する。
11 回	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト⑦ <p><音程 (2) > テキストA P72～87、テキストB</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 音程について理解する 完全系の音程について理解し、実際に歌って響きを確認する。 ・学習成果 1度、4度、5度、8度の音程について理解し、正確に歌う意識を持てるようになる。 ・復習課題 演習問題を再度確認する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト⑧ <p><和音> テキストA P88～98、テキストB</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 和音、主要三和音、メジャーコード、マイナーコード、セブンスコードについて理解する。 ・学習成果 コードネームによる簡易伴奏がつけられるようになる。 ・復習課題 演習問題を再度確認する。
13 回	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト⑨ <p><コードネームと伴奏付け (1) > テキストA P88～102、テキストB</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 コードの種類と構成音を理解し、簡単な童謡のピアノ伴奏を考える。 ・課題提出 授業内で作成した楽譜を提出する。 ・学習成果 各自の演奏技能に応じたピアノ伴奏を考え、楽譜に書くことができるようになる。 ・復習課題 各自で考えたピアノ伴奏を練習し、さらに伴奏パターンを工夫する。
14 回	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト⑩ <p><コードネームと伴奏付け (2) > テキストA P88～102、テキストB</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 伴奏パターンを工夫して、各自の演奏技能に応じたピアノ伴奏を考える。 ・課題提出 授業内で作成した楽譜を提出する。 ・学習成果 幼児の歌の伴奏がつけられるようになる。 ・復習課題 コードネームを見ながらピアノ伴奏を練習する。
15 回	<p><移調と転調> テキストA P67、テキストB</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 移調と転調について理解する。 幼児の声域について知り、簡単な楽譜の移調ができるようにする。 ・課題提出 授業内で作成した楽譜を提出する。 ・学習成果 歌いやすい高さの調への移調ができるようになる。 ・復習課題 第1回～第15回授業内容を総復習する。

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	ボランティア活動 (A) ボランティア活動 (B)	授業回数	15	単位数	1 1	担当教員	学科教員
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) :							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>ボランティア活動が「よりよい社会造りの必要性に鑑みて、自由意志で、その実現のために自己の能力を無償で提供する活動」であることを前提として、学生が地域社会に貢献する活動としてボランティア活動に積極的に取り組み、ボランティアとは何かをつかむことを目標とする。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>ボランティア活動を通して、汎用的学習成果として、以下の3点を獲得させる。</p> <p>①物事をしっかりやり遂げる態度を身につける。 ②社会的活動についての意見を持つ。 ③他者理解を得るための自己表現力を身につける。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>学生が独自に日々の学習スケジュールの中で両立させることのできる地域に貢献するボランティア活動を見つけ、活動の内容、目的、時間など詳細な事前計画を立案する。その際、担当教員との協議を要する。</p> <p>一週間に最低2時間以上のボランティア活動を実践する。</p> <p> Semester 15回の活動を最低条件とし、$15 \times 2 = 30$ 時間を最低の必要時間とする。</p> <p>予習・復習</p> <p>担当教員との協議を予習事項とする。また復習事項として、自己が実践したボランティア活動の定義及び評価を事後報告書にまとめる。</p> <p>テキスト</p> <p>使用しない。</p>					
学習評価の方法	<p>上記学習成果の獲得度合いを量的に評価する。</p> <p>方法は、事後報告書による。</p>						
注意事項	<p>参考図書等 :</p>						

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	クラブ活動 (A) クラブ活動 (B)	授業回数	15	単位数	1 1	担当教員	学科教員
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) :							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>全人的な発達の機会であるクラブ活動に学生が積極的に取り組むことにより、協調性、社会性及び自己管理能力など安定した人間性を身につけさせることを目標とする。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>クラブ活動を通して、汎用的学習成果として、以下の3点を獲得させる。</p> <p>①物事をしっかりやり遂げる態度を身につける。</p> <p>③他者理解を得るための自己表現力を身につける。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>本学学友会クラブにおいて学生が独自に日々の学習スケジュールの中で両立させることのできるクラブ活動を自主的にみつけ、活動の内容、目的、時間など詳細な事前計画を立案する。(担当教員と協議を要する)</p> <p>一週間に最低1.5時間以上のクラブ活動を実践する。</p> <p> Semester 15回の活動を最低条件とし、$15 \times 1.5 = 22.5$時間を最低の必要時間とする。</p> <p>自己の活動内容及び評価を事後報告書にまとめる。</p> <p>活動中は担当教員とコミュニケーションを密にする。</p>					
教育方法	授業の進め方	<p>担当教員との協議を予習事項とする。</p>					
	予習・復習	<p>使用しない。</p>					
学習評価の方法	<p>上記学習成果の獲得度合いを量的に評価する。</p> <p>方法は、事後報告書による。</p>						
注意事項	<p>参考図書等 :</p>						

平成 30 年度 教 育 計 画							
科目名	教養演習	授業回数	15	単位数	2	担当教員	張秉煥・学科教員
質問受付の方法：(M511)							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：</p> <p>近い将来、社会人・保育者となる学生に求められる基礎的知識の獲得及び汎用的能力の育成を目指し、具体的には以下の4点を目標とする。</p> <p>① 高等教育（本学の教育）について理解する。</p> <p>② 大学生として必要な学習方法、学習姿勢を修得する。</p> <p>③ 望ましい学生生活の在り方を理解する。</p> <p>④ 有用な社会人・保育者として求められる「社会・対人関係力」「論理的思考力・表現力」を習得する。</p> <p>学生の学習成果：</p> <p>基礎的・汎用的学習成果として、教育目標に掲げる4点に関する知識・態度、能力を修得する。</p>						
	教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科の全専任教員が担当する。 ・授業は、教員による講義とそれに基づく演習を組み合わせるが、特に演習時間を多く設けている。 ・毎回の授業後に、学習成果等を記述したシャトルカードを提出させる。 ・授業の終盤においては、全ての授業内容に関する学習成果をまとめた小論文を作成する。 				
予習・復習		<ul style="list-style-type: none"> ・各回授業別教員の指示による。 					
テキスト		<ul style="list-style-type: none"> ・使用しない。適宜資料を配付する。 					
学習評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標に掲げる4点の学習成果について、出席回数及び提出課題により量的に評価する。出席しているが課題・シャトルカードを提出していない場合は4点減点する。 ・全授業を通して、社会人・保育者として身に付けるべき態度（社会人としてのマナー・学習態度など）及び信念（保育者になろうとする信念・継続的に努力する姿勢など）の評価を行い、担当教員の指導に従わず改善が見られない場合、評価点より減ずる。 						
注意事項							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション：シラバスに記載された内容を理解する。</p> <p>学習成果：有用な社会人・保育者となるために、どのような大学生活をおくるべきかを認識することができる。</p> <p>予習：シラバスを通読する。</p> <p>復習：授業内容を振り返り、どのような大学生活を送るべきかを考える。</p>
2 回	<p>演習内容：①教員の講義により、建学の精神「教育三綱領」、幼児教育学科の教育目標、本学科の保育者養成の教育目標、学生の学習成果、学位授与、教育課程編成・実施について理解する。②講義による学習成果等について記述する（提出課題）。</p> <p>学習成果：建学の精神、本学科の目標、教育課程編成について理解することができる。</p> <p>予習：「学生のしおり」の該当箇所を通読する。</p> <p>復習：授業内容を振り返りながら、「学生のしおり」を読み返す。【高等教育に関する認識の深化】</p>
3 回	<p>演習内容：①教員の講義により、「大学の授業は？」「授業タイプ別のノートの取り方」「ノートの取り方対策」の3点について理解する。（その1）②講義による学習成果等について記述する（提出課題）。</p> <p>学習成果：大学と高校の授業の違いを認識し、ノートの取り方について習得できる。</p> <p>予習：配付資料を通読する。</p> <p>復習：授業内容を振り返り、各授業はどのようなノートの取り方が、ふさわしいかについて考え、実践する。【学習方法、学習姿勢の育成】</p>
4 回	<p>演習内容：①教員の講義により、「大学の授業は？」「授業タイプ別のノートの取り方」「ノートの取り方対策」の3点について理解する。（その2）②講義による学習成果等について記述する（提出課題）。</p> <p>学習成果：大学と高校の授業の違いを認識し、ノートの取り方について習得できる。</p> <p>予習：配付資料を通読する。</p> <p>復習：授業内容を振り返り、各授業のノートの取り方について考え、実践する。【学習方法、学習姿勢の育成】</p>
5 回	<p>演習内容：①教員の講義により、「望ましい学生生活の在り方」を理解する。その1回目として「食生活と健康」をテーマとする。②講義による学習成果等について記述する（提出課題）。</p> <p>学習成果：食生活と健康についての知識を得て、自分の生活に反映させる点を見出すことができる。</p> <p>予習：配付資料を通読する。</p> <p>復習：授業内容を振り返り、自分の食生活と健康に改善点などを反映させる。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
6 回	<p>演習内容：①教員の講義により、「望ましい学生生活の在り方」を理解する。その2回目として「心の健康」をテーマとする。②講義による学習成果等について記述する（提出課題）。</p> <p>学習成果：心を健康な状態に保つことについて知識を得て、自分の生活に生かせる点を見出すことができる。</p> <p>予習：配付資料を通読する。</p> <p>復習：授業内容を振り返り、自分の生活に生かす。</p>
7 回	<p>演習内容：①教員の講義により、「望ましい学生生活の在り方」を理解する。その3回目として「人間関係」をテーマとする。②講義による学習成果等について記述する（提出課題）。</p> <p>学習成果：人間関係について理解でき、自分の生活に生かせる点を見出すことができる。</p> <p>予習：配付資料を通読する。</p> <p>復習：授業内容を振り返り、自分の生活に生かす。</p>
8 回	<p>演習内容：①教員の講義により、「望ましい学生生活の在り方」を理解する。その4回目として「学生の社会モラル」をテーマとする。②講義による学習成果等について記述する（提出課題）。</p> <p>学習成果：学生としての社会でのモラルを理解し、自分の生活に生かせる点を見出すことができる。</p> <p>予習：配付資料を通読する。</p> <p>復習：授業内容を振り返り、自分の生活に生かす。</p>
9 回	<p>演習内容：①教員の講義により、日常の敬語・マナーの実態及び今後注意すべき点について理解する。②講義による学習成果等について記述する（提出課題）。</p> <p>学習成果：正しい敬語・マナーについて理解し、自分の生活に生かせる点を見出すことができる。</p> <p>予習：配付資料を通読する。</p> <p>復習：授業内容を振り返り、日常生活において実践する。</p>
10 回	<p>演習内容：①教員の講義により、敬語・マナーに関する知識と作法を理解する。②講義による学習成果等について記述する（提出課題）。</p> <p>学習成果：正しい敬語・マナーについて理解し、自分の生活に生かせる点を見出すことができる。</p> <p>予習：配付資料を通読する。</p> <p>復習：授業内容を振り返り、日常生活において実践する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
11 回	<p>演習内容：①前回の授業内容を振り返りつつ、敬語・マナーの実践場面を想定したロールプレイをクラス毎で行う。これにより、適切な敬語・マナーについての知識と作法を定着させる。②ロールプレイによる学習成果等について記述する（提出課題）。</p> <p>学習成果：自分の敬語の使い方・マナーについて、反省点・改善点を認識できる。</p> <p>予習：前回の授業内容を振り返る。</p> <p>復習：授業内容を振り返り、日常生活で実践する。</p>
12 回	<p>演習内容：①救命救急法講習の受講により、心肺蘇生法・AED等の知識と技能を修得するとともに他者を思いやる心を養う。②講習による学習成果等について記述する（提出課題）。</p> <p>学習成果：救命救急を行うことができ、他者への思いやりの心をはぐくむことができる。</p> <p>予習：配付資料を通読する。</p> <p>復習：授業内容を振り返る。</p>
13 回	<p>演習内容：①教員の講義により、小論文の書き方について理解する。各自が作成する小論文の要旨・構成等について検討し、下書きをする。②講義と演習による学習成果等について記述する（提出課題）。</p> <p>学習成果：小論文の書き方、特に分の論旨・構成について理解し、学んだことを生かした下書きができる。</p> <p>予習：配付資料を通読する。</p> <p>復習：授業内容を振り返り、下書きを見直す。</p>
14 回	<p>演習内容：①各自が作成した小論文の要旨・構成等について検討し、下書きをする。②演習による学習成果等について記述する（提出課題）。</p> <p>学習成果：作成した小論文の論旨・構成等について検討し、改善することができる。</p> <p>予習：配付資料を通読する。</p> <p>復習：授業内容を振り返り、下書きを見直す。</p>
15 回	<p>演習内容：①第14回の授業を振り返りつつ、小論文を完成させる（提出課題）。②演習による学習成果等について記述する（提出課題）。</p> <p>学習成果：特に論旨と構成に留意し、学んだことを生かした小論文を完成させる。</p> <p>予習：第14回の授業内容を振り返り、小論文作成の準備をする。</p> <p>復習：完成させた小論文を振り返る。</p>

平成30年度教育計画							
科目名	教育心理学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	井頭 久子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等)		igashira@owc.ac.jp OH: 金曜日 9:10~17:00					
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標： 対象者をよく理解し、効果的な教育的対応及び保育実践のできる保育者の育成を目指し、以下の点に関する基礎的知識や考え方の理解及び定着を図る。</p> <p>1 子どもの生活や遊びを通じた学習の過程等を始めとする、保育上必要かつ有効な教育心理学の基本的事項</p> <p>2 子どもの心身の発達及び発達に即した教育的対応並びに保育実践</p> <p>3 保護者への育児支援まで含めた保育における発達援助</p> <p>学生の学習成果： 専門的学習成果として、教育目標に掲げる3項目に関する基礎的知識や能力を獲得する。また、汎用的学習効果として保育者としての使命感や倫理観を身につけるとともに、他者とのコミュニケーションを円滑に行えるような人間関係力を養う。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育心理学の知識として不可欠なものについては講義形式で行う。 ・ 専門的な知識の獲得及び能力向上への準備性を高めるため、必要に応じてバズ・セッション(テーマについての自由討議)等を行う。 ・ 授業の理解度確認の小テスト及びビデオ視聴後の課題レポートを複数回実施する。その際又は独立してアンケートを実施し、授業への質問や要望を求め、参考になるものは授業で取り上げる。 					
学習評価の方法	授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・ 毎授業回後に復習を求める。その際、提出課題とする場合がある。 					
	予習復習	<p>教育心理学—保育者をめざす人へ— 石井正子・松尾直博編著 樹村房</p>					
学習評価の方法	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 以下の4つの学習成果について、獲得度合を量的に評価する。 ① 学習過程等、保育上必要かつ有効な教育心理学の基本的事項を理解する。 ② 発達及び発達に即した教育的対応並びに保育実践について理解する。 ③ 保護者への育児支援まで含めた発達援助の能力を養う。 ④ 保育に必要な教育心理学の用語を使用する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習評価は、討議への参加態度、課題レポート(30点)及び期末試験(70点)を加算し実施する。 ・ 汎用的学習評価については、学習態度(私語)遅刻などを考慮する。 					
注意事項	参考図書等	よくわかる教育心理学 中澤潤編 ミネルヴァ書房 2011					

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><オリエンテーション> 授業の進め方、スケジュール、成績評価の方法、シラバスの説明</p> <p>内容 第1章 保育と教育心理学 1、保育者の役割と教育心理学 2、乳幼児期の学習と教育</p> <p>復習：シラバスの確認・テキスト(pp. 2-9)</p>
2 回	<p>内容 第1章 保育と教育心理学 1、様々な児童観と教育観 2、幼稚園や保育所における保育</p> <p>予習：テキスト(pp. 10-22) 復習：テキスト(pp. 10-22)</p>
3 回	<p>内容 第2章 発達と教育 1、発達を規定するもの 2、発達段階と発達課題</p> <p>予習：テキスト(pp. 23-35) 復習：テキスト(pp. 23-35)</p>
4 回	<p>内容 第2章 発達と教育 1、思考の発達と教育 2、ことばの発達と教育</p> <p>予習：テキスト(pp. 36-48) 復習：テキスト(pp. 36-48)</p>
5 回	<p>内容 第3章 学習のしくみ 1、乳幼児と学習 2、さまざまな学習</p> <p>予習：テキスト(pp. 49-60) 復習：テキスト(pp. 49-60)</p>
6 回	<p>内容 第3章 学習のしくみ 1、記憶 2、学習が成立する環境 3、保育に必要な教育心理学の用語（レポート）</p> <p>予習：テキスト(pp. 61-70) 復習：テキスト(pp. 61-70)</p>
7 回	<p>内容 第4章 やる気を育てる 1、やる気とは 2、いろいろなやる気—やる気の捉え方</p> <p>予習：テキスト(pp. 71-79) 復習：テキスト(pp. 71-79)</p>
8 回	<p>内容 第4章 やる気を育てる 1、内からのやる気の発達 2、内からのやる気をうばってしまう世界 3、内からのやる気を育てる</p> <p>予習：テキスト(pp. 80-94) 復習：テキスト(pp. 80-94)</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	<p>内容 第5章 個人差の理解</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、個人差と個性 2、知能とはなにか 3、乳幼児の発達に関するテスト（遠城寺式幼児分析的発達検査法） <p>※保育相談実践室で演習を行う。</p> <p>予習：テキスト(pp. 95-102) 復習：テキスト(pp. 95-102)</p>
10 回	<p>内容 第5章 個人差の理解</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、性格とは何か 2、子どものあり方の理解と適応 3、保育に必要な教育心理学の用語（レポート） <p>予習：テキスト(pp. 103-114) 復習：テキスト(pp. 103-114)</p>
11 回	<p>内容 第6章 人間関係と社会化</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、人間関係の中で育つもの—人間関係の芽生え— 2、人間関係の広がりと環境 3、遊びと人間関係 4、道徳性と向社会的行動の発達 <p>予習：テキスト(pp. 115-138) 復習：テキスト(pp. 115-138)</p>
12 回	<p>内容 第7章 特別な支援を要する子どもたち</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、特別な支援を要する子どもたち 2、障害の理解と受容 3、個別式知能検査（WISCIV知能検査） <p>※保育相談実践室で演習を行う。</p> <p>予習：テキスト(pp. 139-149) 復習：テキスト(pp. 139-149)</p>
13 回	<p>内容 第7章 特別な支援を要する子どもたち</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、さまざまなこころの問題 2、保育の中での支援 <p>特別な支援を要する子どもたちに関連したビデオの視聴</p> <p>予習：テキスト(pp. 150-160) 復習：テキスト(pp. 150-160)</p>
14 回	<p>内容 第8章 親の理解と子育て支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、現代社会と子育て支援 2、現代の親子関係 <p>予習：テキスト(pp. 161-171) 復習：テキスト(pp. 161-171)</p>
15 回	<p>内容 第8章 親の理解と子育て支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、保育者に求められる役割 2、保育者のストレスとストレスマネジメント <p><総復習> 内容 全授業内容の復習</p>

平成30年度教育計画							
科目名	発達心理学 I	授業回数	15	単位数	2	担当教員	大賀恵子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : e-mail:ohga @owc. ac. jp、 OH:金曜 5 限							
教育目標と学生の学習成果	教育目標 心身の発達領域別に見た子どもの発達・成長過程の理解を深めることを目標とする。具体的には、受講学生は以下の諸点を学び、そして習得することである。 ①心理学の観点から保育に関する基本的事項を学ぶ。 ②心身の発達領域別に乳幼児期の発達を理解するための基礎知識を習得する。 ③生涯発達を理解しながら、保育の重要性を学ぶ。 ④子どもの発達・成長に重要な遊びに関する様々な研究知見を習得する。 ⑤自主的に学ぶ姿勢を身につける 学生の学習成果 専門的学習成果：教育目標に掲げる①②③④の項目に関する基礎的知識を習得する。汎用的学習成果：教育目標に掲げる⑤の項目に関して、自主的に学ぶ姿勢を身につける。						
	教育方法	授業の進め方 (講義・演習・実験・実習・実技) ・主として教科書とノートに基づく講義形式によって行う。 ・授業内容に応じて、補足プリントを配布する。 ・授業内容の理解度確認のために、授業中に論述課題を実施する。	予・復習 予習：毎授業前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 復習：毎授業後に復習を求め、そのポイントをまとめる。	テキスト 成田 朋子・大野木 裕明・小平 英志編著 『保育実践を支える保育の心理学 I』福村出版、2011年。			
学習評価の方法	専門的学習成果 評価配分は90点であり、期末試験(80点)と論述課題(10点)で測る。また、90点は以下に示した3つの専門的学習成果について、おおよそ「①：②：③=30点：30点：30点」の比重をおく。 ①心理学の観点から保育に関する基本的事項を学ぶ。 ②心身の発達領域別に子どもの発達を理解するための基礎知識を習得する。 ③生涯発達を理解しながら、保育の重要性を学ぶ。 汎用的学習成果 評価配分は10点であり、課題とその内容で測る。なお、受講態度などに問題があった受講生に対して、注意指導で改善が見られない場合、保育を学ぶ者としての倫理観が十分でないとして、ケースに応じて減点する。 以上の通り、専門的学習成果の評価配分は90点、汎用的学習成果の評価配分は10点、合計100点満点で最終評価を行う。						
注意事項	参考図書 新井邦二郎編著『図でわかる発達心理学』福村出版、1997年。						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><オリエンテーション> 授業内容の概略・進め方・成績評価の方法を説明する。</p> <p><保育と心理学①> ・授業内容：心と体の健康は、相互に密接な関連があるものであることを踏まえ、幼児の発達と心理学とのかかわりについて概説する。 ・学習成果：人間理解の1つの方法である「心理学」をおおまかに理解する。 ・予習事項：テキスト1章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。</p>
2 回	<p><保育と心理学②> ・授業内容：前回授業を振り返りながら、保育に活かされる心理学の基本的研究知見を示す。 ・学習成果：心理学の基本的な研究知見が保育にどのように活かされるのかを理解する。 ・予習事項：テキスト2,3章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。</p>
3 回	<p><練習課題①> ・2回目の授業内容に関する課題を仕上げる。</p> <p><心身の発達領域別に見た乳幼児期の発達①-人間の発達とその要因-> ・授業内容：発達に影響する遺伝や環境の要因、それらの相互作用についての諸説を示す。 ・学習成果：人間の発達に影響する要因を理解し、しなやかな心と体の発達に「健康」「環境」「人間関係」「言葉」「表現」が必要であることを確認する。 ・予習事項：テキスト4章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。</p>
4 回	<p><練習課題②> ・3回目の授業内容に関する課題を仕上げる。</p> <p><心身の発達領域別に見た乳幼児期の発達②-情動と自我・自己の発達-> ・授業内容：乳幼児期の情動の発達に関して、ルイス（Lewis, M.）の理論などを紹介する。また、乳幼児期の自我・自己の発達過程を説明する。 ・学習成果：乳幼児期の情動と自我・自己の発達過程を理解する。 ・予習事項：テキスト5章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。</p>
5 回	<p><練習課題③> ・4回目の授業内容に関する課題を仕上げる。</p> <p><心身の発達領域別に見た乳幼児期の発達③-身体機能と運動機能の発達-> ・授業内容：乳幼児期の身体機能と運動機能の発達過程について、身体の発達曲線、粗大および微細運動の発達過程を紹介する ・学習成果：乳幼児期における身体および運動面の発達過程や特徴を理解する。 ・予習事項：テキスト6章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
6 回	<p><練習課題④></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 <p><心身の発達領域別に見た乳幼児期の発達④-知覚と認知の発達-></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容：乳幼児期の知覚に関して、乳幼児を対象とした知覚についての研究知見を紹介する。また、乳幼児期の認知に関して、ピアジェ (Piaget, J.) の理論を紹介し、乳幼児期の認知発達を説明する。 ・ 学習成果：乳幼児期の視覚、聴覚、味覚など各知覚の特徴を理解する。また、乳幼児の認知の特徴を理解する。 ・ 予習事項：テキスト 7 章を熟読する。 ・ 復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
7 回	<p><練習課題⑤></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 <p><心身の発達領域別に見た乳幼児期の発達⑤-言語の発達-></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容：まず、言語の機能 (役割) について概説した後、乳幼児期における言語能力の発達過程を説明する。 ・ 学習成果：乳幼児期の言語能力の発達過程を理解する。 ・ 予習事項：テキスト 8 章を熟読する。 ・ 復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
8 回	<p><練習課題⑥></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 <p><心身の発達領域別に見た乳幼児期の発達⑥-人とのかかわり-></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容：乳幼児期における他者とのかかわりについて、ボウルビィ (Bowlby, J.) の理論などを紹介する。 ・ 学習成果：乳幼児と養育者の相互作用とその意義を理解する。 ・ 予習事項：テキスト 9 章を熟読する。 ・ 復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
9 回	<p><練習課題⑦></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 <p><心身の発達領域別に見た乳幼児期の発達⑦-人とのかかわり-></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容：前回に引き続き、乳幼児期における他者とのかかわりについて、ボウルビィの理論、愛着について内容を確認する。 ・ 学習成果：乳幼児と養育者の相互作用とその意義を理解する。 ・ 予習事項：テキスト 10 章を熟読する。 ・ 復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
10 ・ 11 回	<p><練習課題⑧></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 <p><生涯発達と保育の重要性①></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容：生涯発達に関して、「保育所保育指針」に示されている乳幼児期の発達的特徴を紹介する。その際、4～9 回目の授業内容も振り返り、乳幼児期の発達的特徴の全体像を示す。 ・ 学習成果：乳幼児期の発達的特徴の全体像を理解する。 ・ 予習事項：テキスト 11 章を熟読する。 ・ 復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
12 回	<p><練習課題⑨></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10, 11 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 <p><生涯発達と保育の重要性③></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容：生涯発達に関して、エリクソン (Erikson, E. H.) の理論を紹介し、児童期以降の発達的特徴を説明する。 ・ 学習成果：児童期および青年期以降の発達的特徴を理解する。 ・ 予習事項：テキスト 12、13 章を熟読する。 ・ 復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
13 回	<p><練習課題⑩></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 12 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 <p><生涯発達と保育の重要性④></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容：乳幼児の発達と生涯発達の重要性に関する理解を促進する。発達の“つまずき”に関して、その種類、発見と評価、支援のあり方を説明する。 ・ 学習成果：発達の“つまずき”の種類、発見と評価、支援のあり方を理解する。 ・ 予習事項：テキスト 14 章を熟読する。 ・ 復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく。
14 回	<p><子どもと遊び①></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容：遊びに関して、その概念、種類、機能、特徴を説明し、遊びが及ぼす子どもの発達に対する影響と意義を示す。 ・ 学習成果：子どもの発達に対する遊びの意義を認識する。 ・ 予習事項：子どもの頃の経験を振り返り、健康で安全な生活をつくりだす力を養うための効果的な遊びを考えてくる。 ・ 復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく。
15 回	<p><まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容：心理学の観点から子どもの発達を理解するために習得した基礎知識、子どもが体験を積み重ね相互に関係をもちながら成長する過程を理解し、全講義の内容をまとめる。 ・ 学習成果：心身の発達領域別に見た子どもの発達・成長過程の理解を深め、保育の重要性を確認する。 ・ 予習事項：特になし

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	発達心理学Ⅱ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	井頭 久子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : igashira@owc.ac.jp、 OH:土曜日 2 限目							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>子どもがよき大人へと発達するよう援助できる保育者の育成を目指し、発達心理学Ⅱでは発達心理学Ⅲに続いて発達について学び、以下の諸点に関する基礎的知識の定着を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 児童期～老年期までの発達期の特徴 2 自分や周囲の人々の各発達段階における位置づけや保育上の役割 3 生涯発達から見た乳幼児期の発達援助の在り方 <p>学生の学習成果 :</p> <p>専門的学習成果として、教育目標に掲げる 3 項目に関する基礎的知識を習得し、用語を使用できるようにする。</p> <p>また、汎用的学習効果として、保育者としてふさわしくない言動をとらないように努力する力をつける。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主として講義形式による。 ・ 講義内容を吸収しやすくするため、事前に必要に応じてバズ・セッションを行う。 ・ 授業の理解度確認の小テスト及びビデオ視聴後の課題レポートを複数回実施する。その際又は独立してアンケートを実施し、授業への質問や要望を求め、参考になるものは授業で取り上げる。 					
	予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・ 毎授業回後に復習を求める。その際、提出課題とする場合がある。 					
テキスト	<p>無藤 隆・岡本祐子・大坪治彦編「よく分かる発達心理学」ミネルヴァ書房 やわらかアカデミズム<わかる>シリーズ ※発達心理学Ⅲ(1年後期)及び発達心理学Ⅱ(2年前期)を通して使用</p>						
学習評価の方法	<p>以下の 5 つの学習成果について、獲得度合を量的に評価する。その際、①の理解が前提となり、⑤とも密接に結びつく②、③、④の理解及び用語の習得が中心となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 生涯発達の観点から発達を理解する。 ② 児童期から老年期までの発達期の特徴を理解し、基礎的用語を使用できる。 ③ 生涯発達の観点から、乳幼児期の発達援助の重要性を理解する。 ④ 子どもの家庭や地域を視野に置き、保育者と子どもとの連鎖的關係を理解する。 ⑤ 保育所保育指針の発達項目を理解する。 <p>配点は、小テスト20点、課題レポート10点とする。</p>						
注意事項	<p>参考図書：石井正子、松尾直博 編著「教育心理学 保育者をめざす人へ」樹村房</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><オリエンテーション> 授業の進め方、スケジュール、成績評価の方法 <発達心理学の観点と区分><児童期>① 講義内容 発達期概観、幼児期と児童期の違い 学習成果 発達期概観、幼児期と児童期の違いについて発達心理学の概観を知る。</p>
2 回	<p><児童期>② 講義内容 学校への適応 学習成果 児童期における学力・遊び・学校への適応について理解する。 予習内容 テキスト(pp. 82-101) 復習内容 テキスト(pp. 82-101)</p>
3 回	<p><児童期>③ 講義内容 児童期に関連したビデオ視聴 学習成果 児童期の主な特徴について認識する。 予習内容 1～2回の講義内容の復習</p>
4 回	<p><青年期>① 講義内容 性のめざめ 学習成果 青年期における身体の変化や男女の特徴を理解する。 予習内容 テキスト(pp. 104-111) 復習内容 テキスト(pp. 104-111)</p>
5 回	<p><青年期>② 講義内容 自己同一性 学習成果 自分について将来の姿を描くことができるようにする。 予習内容 テキスト(pp. 112-117) 復習内容 テキスト(pp. 112-117)</p>
6 回	<p><青年期>③ 講義内容 青年期の悩み 学習成果 自分についての悩みや青年期の特徴を認識する。 予習内容 テキスト(pp. 118-125) 復習内容 テキスト(pp. 118-125)</p>
7 回	<p><青年期>④ 講義内容 青年期に関連したビデオの視聴 学習成果 青年期の特徴と自分の課題を認識する。 予習内容 4～6回の講義内容の復習</p>
8 回	<p><成人初期・中期>① 講義内容 結婚、子育て 学習成果 結婚、子育てについて成人初期の課題を認識する。 予習内容 テキスト(pp. 126-131) 復習内容 テキスト(pp. 126-131)</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	<p><成人初期・中期>②</p> <p>講義内容 仕事、結婚生活</p> <p>学習成果 仕事、結婚生活の両立について理解する。</p> <p>予習内容 テキスト(pp. 132-141)</p> <p>復習内容 テキスト(pp. 132-141)</p>
10 回	<p><成人後期・老年期>①</p> <p>講義内容 中年の危機・退職後</p> <p>学習成果 中年の危機・退職後の人間関係の変化について認識する。</p> <p>予習内容 テキスト(pp. 142-149)</p> <p>復習内容 テキスト(pp. 142-149)</p>
11 回	<p><成人後期・老年期>②</p> <p>講義内容 心身の健康、死生観</p> <p>学習成果 心身の健康、死生観や人生を回顧することについて認識する。</p> <p>予習内容 テキスト(pp. 150-161)</p> <p>復習内容 テキスト(pp. 150-161)</p>
12 回	<p><実習準備のための復習></p> <p>講義内容 乳幼児期の心理、軽度発達障害</p> <p>学習成果 乳幼児期の心理、軽度発達障害や不登校・虐待について理解する。</p> <p>予習内容 特になし</p> <p>復習内容 乳幼児期の心理、軽度発達障害</p>
13 回	<p><成人期・老年期></p> <p>講義内容 成人期及び老年期に関連したビデオ視聴</p> <p>学習成果 成人期及び老年期における課題と今後に関することについて振り返る。</p> <p>予習内容 8～11回の講義内容の復習</p> <p>復習内容 8～11回の講義内容の復習</p>
14 回	<p><乳幼児期における発達援助の在り方>②</p> <p>講義内容 生涯発達を踏まえた乳幼児期の発達援助の重要性及び在り方</p> <p>学習成果 発達を考える際に重要な観点を認識する。</p> <p>予習内容 テキスト(pp. 127-131、148-149、166-167)</p> <p>復習内容 テキスト(pp. 127-131、148-149、166-167)</p>
15 回	<p><総復習></p> <p>講義内容 全教育内容の復習</p> <p>学習成果 生涯発達の観点から、乳幼児期の発達援助の重要性を理解する。</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	発達心理学Ⅲ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	井頭 久子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : igashira@owc.ac.jp OH:金曜日 5 限							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：</p> <p>子どもがよき大人へと発達するよう援助できる保育者の育成を目指し、発達心理学Ⅲでは乳幼児期及び児童期に重点を置き、以下の諸点に関する基礎的知識の定着を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 発達について学ぶ意義 2 生涯発達の理解 3 胎児期から児童期の発達期の特徴 4 保育者と子どもとの連鎖的關係 5 保育所保育指針の発達項目 <p>学生の学習成果：</p> <p>専門的学習成果として、教育目標に掲げる 5 項目に関する基礎的知識を習得し、用語を使用できるようにする。</p> <p>汎用的学習成果</p> <p>保育者としての使命感や倫理観を身につけるとともに、他者とのコミュニケーションを円滑に行えるような人間關係力を養う。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主として講義形式による。 ・ 講義内容を吸収しやすくするため、事前に必要に応じてバズ・セッションを行う。 ・ 授業の理解度確認の小テスト及びビデオ視聴後の課題レポートを複数回実施する。その際又は独立してアンケートを実施し、授業への質問や要望を求め、参考になるものは授業で取り上げる。 <p>予習・復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・ 毎授業後に復習を求める。 <p>テキスト</p> <p>無藤 隆・岡本祐子・大坪治彦編「よく分かる発達心理学」ミネルヴァ書房 やわらかアカデミズム<わかる>シリーズ ※発達心理学Ⅲ(1年後期)及び発達心理学Ⅱ(2年前期)を通して使用</p>					
学習評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 以下の 5 つの学習成果について、獲得度合を量的に評価する。その際、①、②の理解が前提となり、⑤とも密接に結びつく③、④の理解及び用語の習得が中心となる。 ① 発達について学ぶ意義を理解する。 ② 生涯発達の観点から発達を理解する。 ③ 胎児期～児童期までの発達期の特徴を理解し、基礎的用語を使用できる。 ④ 保育者と子どもとの連鎖的關係を理解する。 ⑤ 保育所保育指針の発達項目を理解する。 <p>配点は、小テスト20点、課題レポート10点、期末テスト70点とする。</p>						
注意事項	参考図書：石井正子、松尾直博 編著「教育心理学 保育者をめざす人へ」樹村房						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><オリエンテーション> 授業の進め方、スケジュール、成績評価の方法</p> <p><発達心理学の観点と区分> 講義内容 発達と発達段階 学習成果 発達心理学の観点と今後の講義の概要をつかむことができる。 予習内容 テキスト(pp. 192-193)、「教育心理学」(pp. 30-36)</p>
2 回	<p><胎児期・新生児期>① 講義内容 胎児の聴覚、新生児の気質 学習成果 胎児期、新生児期の特徴について理解する。 予習内容 テキスト(pp. 2-11) 復習内容 テキスト(pp. 2-11)</p>
3 回	<p><胎児期・新生児期>② 講義内容 新生児の認識する世界 学習成果 新生児の体重・視力・認識について理解する。 予習内容 テキスト(pp. 12-21) 復習内容 テキスト(pp. 12-21)</p>
4 回	<p><乳児期>① 講義内容 乳児と親(養育者)の社会的相互交渉 学習成果 乳児期における人見知り・親子の愛情について理解する。 予習内容 テキスト(pp. 21-31) 復習内容 テキスト(pp. 21-31)</p>
5 回	<p><乳児期>② 講義内容 言葉、歩行の発達 学習成果 乳児期における言葉・歩行・親から学ぶことについて理解する。 予習内容 テキスト(pp. 32-41) 復習内容 テキスト(pp. 32-41)</p>
6 回	<p><新生児期及び乳児期> 講義内容 新生児期・乳児期に関連したビデオの視聴 学習成果 新生児期・乳児期における課題を認識する。 予習内容 2～5回の講義内容の復習 復習内容 2～5回の講義内容の復習</p>
7 回	<p><幼児期前期>① 講義内容 自我の芽生えと反抗期 学習成果 予習内容 テキスト(pp. 42-51) 復習内容 テキスト(pp. 42-51)</p>
8 回	<p><幼児期前期>② 講義内容 注目獲得行動、移行対象 学習成果 予習内容 テキスト(pp. 52-61) 復習内容 テキスト(pp. 52-61)</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	<p><幼児期後期>①</p> <p>講義内容 論理的思考へ</p> <p>学習成果 数を数える・子どもの絵についての認識を深める。</p> <p>予習内容 テキスト(pp. 62-69)</p> <p>復習内容 テキスト(pp. 62-69)</p>
10 回	<p><幼児期後期>②</p> <p>講義内容 ごっこ遊び・絵本との出会い ※模擬保育室で演習</p> <p>学習成果 演習を通じて幼児期後期の特徴をつかむ。</p> <p>予習内容 テキスト(pp. 70-75)</p> <p>復習内容 テキスト(pp. 70-75)</p>
11 回	<p><幼児期後期>③</p> <p>講義内容 自己理解</p> <p>学習成果 保育所・幼稚園で学ぶということについて理解する。</p> <p>予習内容 テキスト(pp. 76-81)</p> <p>復習内容 テキスト(pp. 76-81)</p>
12 回	<p><幼児期></p> <p>講義内容 幼児期に関連したビデオの視聴</p> <p>学習成果 幼児期の特徴を幼児の行動と共に理解する。</p> <p>予習内容 7～11回の講義内容の復習</p>
13 回	<p><児童期>①</p> <p>講義内容 学力、学校への適応</p> <p>学習成果 計算・読み書きについてと入学時の学校適応について理解する。</p> <p>予習内容 テキスト(pp. 82-91)</p> <p>復習内容 テキスト(pp. 82-91)</p>
14 回	<p><児童期>②</p> <p>講義内容 有能感、劣等感</p> <p>学習成果 学び方・劣等感・科学的なものの見方について理解する。</p> <p>予習内容 テキスト(pp. 92-101)</p> <p>復習内容 テキスト(pp. 92-101)</p>
15 回	<p><総復習></p> <p>講義内容 全教育内容の復習</p> <p>学習成果 生涯発達の観点から発達を理解する。 胎児期～児童期までの発達期の特徴を理解し、基礎的用語を使用できる。</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	臨床心理学 (A)	授業回数	15	単位数	1	担当教員	鈴木 久子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) e-mail:hsuzuki@owc.ac.jp OH:月曜日 3 限 M409 室							
教育目標と学生の学習成果	<u>教育目標</u> 保育・教育者にとって関心の高い発達障害を中心に, その理解と援助法をについて, 基本的なあり方を理解する。すなわち, 以下の諸点に関する基礎的知識を習得することである。 ① 発達障害の種類とそれぞれの特徴を理解する。 ② 発達障害の援助に関する基本的知識を習得する。 ③ カウンセリングの技法の基礎的知識を理解する。 ④ 自主的に学ぶ姿勢を身につける。						
	<u>学生の学習成果</u> 専門的学習成果: 教育目標に掲げる①, ②, ③の項目に関する基礎的知識を習得する。 汎用的学習成果: 教育目標に掲げる④の項目に関する姿勢を身につける。						
教育方法	授業の進め方	<u>(講義・演習・実験・実習・実技)</u> ・テキストに基づいて進め, 必要に応じてグループ討議を行う。 ・授業内容の理解度確認のために, 授業中に小テストを実施する。 ・必要に応じて心理テストを行い, 自己理解・幼児理解の一助とする。 ・毎回, 授業後には振り返りタイムを設定する。					
	予・復習	予習事項: 毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 復習事項: 毎授業回後に復習を求め, そのポイントを示す。					
	テキスト	・田中千穂子・栗原なるみ・市川奈緒子編『発達障害の心理臨床』有斐閣アルマ, 2005年。 ※授業用に冊子ノートを準備すること。					
学習評価の方法	<u>専門的学習成果</u> 評価配分は 80 点であり, 期末試験 (70 点) と小テスト (10 点) で測る。また, 以下に示した 3 つの専門的学習成果について, 専門的学習成果の評価配分 80 点にはおおよそ「①: ②: ③=30: 30: 20」の比重を置く。 ① 発達障害の種類とそれぞれの特徴を理解する。 ② 発達障害の援助に関する基本的知識を習得する。 ③ カウンセリング技法の基礎的知識を理解する。						
	<u>汎用的学習成果</u> 評価配分は 20 点である。授業ノートの提出状況やその予習・復習の内容, 授業中の態度や演習の取り組み状況で評価する。受講中の私語や非協力的態度等の問題行動について, 複数回の注意後も改善がみられない場合, 各授業における当該事態 1 回につき「5 点」を減ずる。但し, 授業への貢献度や自己開発への意欲などを勘案し, 加点の機会をも設ける						
注意事項	<u><参考図書></u> 下山晴彦他『臨床心理学 16 巻 1 号』金剛出版, 2016 年。 坂野雄二編『臨床心理学キーワード』有斐双書, 2003 年。 日本教育カウンセラー協会『ピアヘルパーハンドブック』図書文化, 2001 年。						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><オリエンテーション> 授業内容の概略・進め方・成績評価・受講ルール。SGE。</p> <p><臨床心理学とは何か①> ・授業内容：臨床心理学とは、どのような学問か臨床心理学の領域や歴史を概観する。障害という概念について概説する。 ・学習成果：臨床心理学の定義を理解する。 ・予習事項：臨床心理学者一人について概略を調べてくる。</p>
2 回	<p><子どもの心理療法・心理検査> ・授業内容：子どもの心理療法や心理検査について紹介する。 ・学習成果：子どもの心理療法や検査があることを知りその一部を体験する。 ・予習事項：知っている心理療法か心理検査を一つ調べてくる。</p>
3 回	<p><発達障害の歴史の変遷①> ・授業内容：発達障害という概念の歴史について、概念成立からその後の展開を概観する。 ・学習成果：発達障害について、その医学的概念と教育福祉的概念の違いを理解する。 ・予習事項：テキストの該当内容を熟読する（p 3 0～4 1）。</p>
4 回	<p><発達障害の歴史の変遷②> ・授業内容：日本における発達障害という概念の現状を概観する。また、発達障害という概念の展望について概説する。 ・学習成果：発達障害という概念の理解をより深める。 ・予習事項：テキストの該当内容を熟読する（p 4 1～5 1）。</p>
5 回	<p><発達障害の類型と特徴①> ・授業内容：知的障害について、その歴史、概念（定義）、頻度、特徴について概説する。 ・学習成果：知的障害について理解する。 ・予習事項：テキストの該当内容を熟読する（p 5 7～6 4）。</p>
6 回	<p><発達障害の類型と特徴②-広汎性発達障害(PDD)から自閉症スペクトラム障害(ASD)へ-> ・授業内容：広汎性発達障害の概念と類型を概説しながら、特に自閉症の基本的特徴を説明する。 ・学習成果：広汎性発達障害の概略を理解した上で、自閉症の基本的特徴を理解する。 ・予習事項：テキストの該当内容を熟読する（p 6 4～7 8）。</p>
7 回	<p><発達障害の類型と特徴③-広汎性発達障害(PDD)から自閉症スペクトラム障害(ASD)へ-> ・授業内容：広汎性発達障害と自閉症スペクトラム障害の関係について概説し、自閉症スペクトラム障害の概念や基本的特徴を説明する。 ・学習成果：広汎性発達障害と自閉症スペクトラム障害の関係について理解した上で、自閉症スペクトラム障害の基本的特徴を理解する。 ・予習事項：スペクトラムという用語の意味を調べてくる。</p>
8 回	<p><発達障害の類型と特徴④> ・授業内容：学習障害(限局性学習症)の歴史、概念（定義）、頻度、特徴などを概説する。 ・学習成果：学習障害（限局性学習症）について理解する。 ・予習事項：テキストの該当内容を熟読する（p 7 8～8 4）。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	<p><発達障害の類型と特徴④></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：注意欠如/多動性障害(ADHD)の歴史，概念(定義)，頻度，特徴などを概説する。 ・学習成果：注意欠如/多動性障害について理解する。 ・予習事項：テキストの該当内容を熟読する(p 85～88)
10 回	<p><第1回小テスト></p> <p>テスト範囲：第2回～第9回までの8回分の内容について小テストを実施する。</p> <p><発達障害への支援①></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：発達障害に対する臨床心理学的援助法のあり方を紹介し，保育者としての支援のあり方を説明する。ピアサポート。 ・学習成果：発達障害に対する保育者としての支援のあり方を理解する。 ・予習事項：テキストの該当内容を熟読する(第3章)。
11 回	<p><発達障害への支援②></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：発達障害への支援について，障害のある子どもの家族への援助のあり方を概説する。ピアサポート ・学習成果：発達障害のある子どもの家族への援助のあり方を理解する。 ・予習事項：テキストの該当内容を熟読する(第6章)。
12 回	<p><発達障害への支援③></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：発達障害への支援について，障害のある子どもの家族への援助のあり方を概説する。ピアサポート ・学習成果：発達障害のある子どもの家族への援助のあり方を理解する。 ・予習事項：配布テキストの該当内容を熟読する。
13 回	<p><発達障害の事例①></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：療育現場における自閉症の事例を紹介する。誕生から発覚，そしてサポート，就学までの経過を概観する。ピアサポート ・学習成果：療育現場における自閉症の実際を理解する。 ・予習事項：テキストの該当内容を熟読する(p 152～165)。
14 回	<p><発達障害の事例②></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：療育現場における軽度発達障害の事例を紹介する。誕生から発覚，そしてサポート，就学までの経過を概観する。ピアサポート ・学習成果：療育現場における軽度発達障害の実際を理解する。 ・予習事項：テキストの該当内容を熟読する(p 165～182)。
15 回	<p><まとめ></p> <p>全15回の授業内容を振り返りと質疑応答を行う。ピアサポートの総まとめを行う。また，期末試験についての説明をする。</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	社会心理学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	大賀 恵子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : e-mail: ohga@owc.ne.jp OH: 金曜 5 限							
教育目標と学生の学習成果	教育目標 社会的行動に関する基礎的な研究知見を学びながら、人の社会的行動について理解する。具体的には、受講学生は以下の諸点に関する基礎的な研究知見および能力を習得することである。 ①社会の中における個人の心理に関する基礎的な研究知見を習得する。 ②対人認知および対人行動に関する基礎的な研究知見を習得する。 ③集団の中の人間の行動に関する基礎的な研究知見を習得する。 ④自立した社会人としての責務を果たすために必要な論理的思考力や批判的思考力を習得する。 学生の学習成果 専門的学習成果として、教育目標に掲げる①、②、③の項目に関する研究知見を習得する。また汎用的学習成果として、教育目標に掲げる④の項目に関する能力を身につける。						
	教育方法	授業の進め方 (講義)・演習・実験・実習・実技 ・主としてレジュメに基づく講義形式によって行う。 ・集団心理をより理解するために、グループワークを実施する。 ・授業内容の理解度確認のために、授業中に論述課題を実施する。	予・復習 予習：各回の授業で記された予習を求める。 復習：基本的には板書内容・授業で使用した資料・プリントの見直しや整理、また、各回の授業で復習内容のポイントを示す。	テキスト 市販のテキストは使用しない。適宜資料・プリントを配布する。			
学習評価の方法	専門的学習成果 評価配分は 80 点である。評価配分 80 点の中で、以下に示した、それぞれの専門的学習成果の評価比重は授業回数を勘案して、おおよそ「①：②：③＝20 点：20 点：40 点」である。 ①社会の中における個人の心理に関する基礎的な研究知見を習得する。 ②対人認知および対人行動に関する基礎的な研究知見を習得する。 ③集団の中の人間の行動に関する基礎的な研究知見を習得する。 汎用的学習成果 評価配分 20 点は課題で測る。その中で授業内容に応じた課題を 10 点。具体的には、自立した社会人としての責務を果たすために必要な論理的思考力や批判的思考力を習得する。また、理解度確認の評価配分 10 点は授業中に行う論述課題で測る。課題は前回の授業に応じた内容とし、授業終了時に提出する。実施した授業時間以外の提出は認めない。 以上により、合計 100 点満点で最終評価を行う。						
注意事項	参考図書等 ・池上知子・遠藤由美共著『グラフィック社会心理学第2版』サイエンス社、2009年。 ・堀洋道監修『新編社会心理学改訂版』福村出版、2009年。						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><オリエンテーション> 本授業の内容・進め方・成績評価の方法に関する説明する。 <はじめに></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：現代社会の諸問題に関して、受講学生に関心のあるテーマや事例を取り上げ、そこに内在する集団心理について議論する。 ・学習成果：社会問題に内在する集団心理的な問題を認識する。 ・予習事項：現代社会において、関心のある社会問題を考えてくる。
2 回	<p><社会の中における個人の心理②></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：自己・自我という概念（定義）を説明し、“自分”という存在の捉え方を示す。 ・学習成果：自己理解を深め、自己理解に関わる社会（他者）の存在の意義を知る。 ・予習事項：自己紹介をしてもらうので、自分についていろいろ考えてくる。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
3 回	<p><練習課題①></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 <p><社会の中における個人の心理②></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：様々な側面から自己評価を行うための課題を実施する。また、自己評価の規定要因について概説する。 ・学習成果：適応的な自己評価のあり方を知る。 ・予習事項：最近の自分を振り返り、自己評価のための課題に取り組む。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
4 回	<p><練習課題②></p> <ul style="list-style-type: none"> ・3回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 <p><対人認知・対人行動①></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：対人認知のメカニズムに関して、対人認知の歪みに関わる要因を身近な題材を提示して説明する。 ・学習成果：対人認知の歪みに関わる要因を知り、正確な他者理解への心掛けを認識する。 ・予習事項：授業で指示する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
5 回	<p><練習課題③></p> <ul style="list-style-type: none"> ・4回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 <p><対人認知・対人行動②></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：対人魅力を規定する要因を概説した上で、恋愛の心理について説明する。 ・学習成果：対人魅力の規定要因を知り、他者に対する心理的メカニズムを理解する。 ・予習事項：魅力ある人物にはどのような特徴があるかを考えておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
6 回	<p><練習課題④></p> <ul style="list-style-type: none"> ・5回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 <p><対人認知・対人行動③></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：原因帰属についての理論を紹介し、行動を引き起こす要因を推論する際のメカニズムを説明する。 ・学習成果：行動を引き起こす要因を推論する際のメカニズムを理解する。 ・予習事項：遅刻をした言い訳など、言い訳をする場面設定を考えておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
7 回	<p><集団の中の人間①></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：人間関係の様相について、幾つかの対人関係場面を提示して人間関係の基本的特徴について概説する。 ・学習成果：人が関係性の中で生きている意義を認識する。 ・予習事項：自分の友人関係の特徴を振り返ってくる。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
8 回	<p><練習課題⑤></p> <ul style="list-style-type: none"> ・6,7回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 <p><集団の中の人間②></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：集団のダイナミクスに関して、集団に内在する様々な特徴（例、集団規範、同調）を説明する。 ・学習成果：集団のダイナミクスについて理解し、円滑な集団活動を行うためのあり方を考える。 ・予習事項：授業で指示する ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
9 回	<p><練習課題⑥></p> <ul style="list-style-type: none"> ・8回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 <p><集団の中の人間③></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：集団のダイナミクスに関して、自己の行為に及ぼす他者の影響について説明する。 ・学習成果：自己の行為に及ぼす他者の影響について理解する。 ・予習事項：何か作業する時、そばに誰かいるとどんな経験をしたか思い出しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
10 回	<p><練習課題⑦></p> <ul style="list-style-type: none"> ・9回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 <p><集団の中の人間④></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：集団意思決定におけるリスクについて学び、集団活動におけるリスク軽減策について議論する。 ・学習成果：集団意思決定の際に生じるリスクを知り、集団活動におけるリスク軽減策を理解する。 ・予習事項：何かを個人で決める時と集団で決める時、どんな違いがあるのか考えておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
11 ・ 12 回	<p><練習課題⑧></p> <ul style="list-style-type: none"> ・10回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 <p><集団の中の人間⑤></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：①グループワークを実施し、リーダーシップについての理論を紹介する。3回のワークにそれぞれリーダーを決めて、課題を完成することによってメンバーの意識変化や、学びをまとめる。 ②グループごとに発表し、リーダー・グループの違いによる結果の相違を確認する。11,12回で実施した内容による総括をする。 ・学習成果：リーダーや指導者としての効果的なあり方を理解する。 ・予習事項：自分が尊敬できる人物を1人挙げ、その選んだ理由を考えてくる。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。

授 業 回 数 別 教 育 内 容

13 回	<p><練習課題⑨></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 11, 12 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 <p><集団の中の人間⑥></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容：自分の自己表現の特徴を知るためのワークを実施する。 ・ 学習成果：自分の自己表現の特徴を知り、課題を発見する。 ・ 予習事項：授業で指示する。 ・ 復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
14 回	<p><練習課題⑩></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 13 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 <p><集団の中の人間⑦></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容：様々な自己表現の方法を示した上で、アサーティブな自己表現について説明する。 ・ 学習成果：様々な自己表現の方法を知り、自分も他者も大切にできる自己表現のあり方や方法を理解する。 ・ 予習事項：配布資料を熟読してくる（授業で指示する）。 ・ 復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
15 回	<p><集団の中の人間⑧></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容：アサーティブな自己表現のためのワークを実施する。 ・ 学習成果：ワークを体験して、自己表現の際の自己課題を発見する。 ・ 予習事項：授業 13、14 回目を復習しておく。 <p><まとめ></p> <p>全 15 回の授業内容を振り返りと質疑応答を行う。また、期末試験についての説明を行う。</p>

平成30年度教育計画							
科目名	教師論	授業回数	15	単位数	2	担当教員	都田 修兵
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : stsuda@owc.ac.jp、OH: 金曜日 2 限目							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標</p> <p>本科目は、幼稚園教諭免許取得のための「教育の基礎的理解に関する科目」の一つである。本科目では、教職の意義、教員の役割や資質能力、職務内容などについて、教育思想や理念、教育制度や関連法令などをもとに身につけながら、教職への意欲や適性、自身の進路選択などのための「教職」そのものの在り方などについて理解する。</p> <p>学生の学習成果</p> <p>専門的学習成果：教育目標にある知識や能力を獲得する。</p> <p>汎用的学習成果：保育者にふさわしくない言動をしないように努力する。</p>						
	授業の進め方	<p>(<u>講義</u>・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主として講義形式による。 ・受講者の理解を促進させるため、講義中に小テストを課す。 					
教育方法	予習・復習	<p>予習事項</p> <p>毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。</p> <p>復習事項</p> <p>毎授業回後に復習を求める。その際、レポートとする場合がある</p> <p>※復習でわからないことがあった学生には、OH などを利用しながら、学習成果を高める援助を行う。</p>					
	テキスト	<p>児童育成協会監修・矢藤誠慈郎ほか編集『第2版 保育者論』（基本保育シリーズ7）、中央法規、2017（初版2015）。</p> <p>※「保育者論」のテキスト</p>					
学習評価の方法	<p>以下の4つの学習成果によって評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 保育者の資格や身分などを定める法制度を理解する。 ② 保育者の役割について認識する。 ③ 保育者を取り巻く現代的状況を理解する。 ④ 保育者に必要な実践的思考力及びコミュニケーション能力を高める。 <p>学習評価は、小テスト（10点）、授業内課題（20点）及び期末試験（70点）により実施する。</p> <p>※受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、ケースに応じて減点（1～5点を目安とする）する。</p>						
注意事項	<p>参考図書等</p> <p>高橋貴志『これからの保育者論——日々の実践に宿る専門性』萌文書林、2017。</p> <p>小笠原道雄ほか編『教育的思考の作法1 教職概論』福村出版、2008。</p> <p><u>小笠原道雄ほか編『教育的思考の作法2 教育学概論』福村出版、2008。</u></p> <p>小笠原道雄ほか編『教育的思考の作法3 進化する子ども学』福村出版、2009。</p> <p>児童育成協会監修・天野珠路ほか編集『第2版 保育原理』（基本保育シリーズ1）、中央法規、2017（初版2015）。</p> <p>※「保育原理I」のテキスト</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><オリエンテーション、保育者の役割></p> <p>○本時の目標 本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、保育者の役割や責任、専門性について関連法規や事例をもとに批判的に考えたりしながら理解する。</p> <p>○本時の活動 ・オリエンテーション 授業の進め方、スケジュール、学習評価の方法について説明する。 ・テキスト第1講 (pp. 1-12) をもとに考える。</p> <p>○本時の学習成果 保育者の役割や専門性について、関連法規や事例から理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育者の役割や専門性について整理する。 <u>配布プリント（ケース）の内容について考え、授業内課題に向けて準備する。</u></p>
2 回	<p><保育者の倫理></p> <p>○本時の目標 具体的なケースをもとに、学生内でディスカッションすることを通して、保育者（教職）の倫理について考え、理解を深める。</p> <p>○本時の活動 ・<u>授業内課題</u>：いくつかのケースから「教職（保育者）」の倫理について考える。 ・テキスト第2講 (pp. 13-24) も確認する。</p> <p>○本時の学習成果 保育者の専門的倫理の内容について、概念や必要性、法律などをもとに理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：保育者の専門的倫理について「全国保育士会倫理綱領」などをもとに整理してみる。</p>
3 回	<p><保育者の資格と責務></p> <p>○本時の目標 保育者が「保育」という仕事が法的・制度的にどのようなものとして位置づけられているのか関連法令などをもとに理解し、保育者の資格や責務についての理解を深める。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第3講 (pp. 25-38) をもとに考える。</p> <p>○本時の学習成果 保育者の法的・制度的位置づけ、保育者の資格や責務を理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育者の位置づけや資格、責務について確認する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
4 回	<p><養護と教育></p> <p>○本時の目標 『保育所保育指針』や幼稚園での「教育」について学習することによって、「保育」が「養護」と「教育」が一体的に実践されるものであることを理解し、そこで働く「保育者」の特徴などについて理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第4講 (pp. 39-50) をもとに考える。</p> <p>○本時の学習成果 保育所(園)において実践される「保育」は、「養護」と「教育」が一体的に実践されるものであることを理解し、保育者の特徴などについて考える。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：「保育」が「養護」と「教育」の一体的なものであることをテキストやノートを見ながら整理する。 <u>配布プリント(ケース)の内容について考え、授業内課題に向けて準備する。</u></p>
5 回	<p><保育者の資質と能力></p> <p>○本時の目標 保育者に求められる資質や能力について、具体的ケースなどをもとに、保育の対象やチームワーク、協働性などの要素などの視点から学ぶことを通して理解する。</p> <p>○本時の活動 ・<u>授業内課題</u>：具体的ケース(とくには「いじめ」や「不登校」)について考える。 ・テキスト第5講 (pp. 51-62) も確認する。</p> <p>○本時の学習成果 保育者に求められる資質や能力について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育者に求められる資質や能力について整理してみる。</p>
6 回	<p><専門的な知識・技術・判断></p> <p>○本時の目標 保育者にとっての専門的知識・技術・判断とはどのようなものであるかを「省察的实践家」論などを学ぶことを通して考え、理解を深める。</p> <p>○本時の活動 ・「省察的实践家」について解説する。 ・テキスト第6講 (pp. 63-74) も確認する。</p> <p>○本時の学習成果 保育者にとっての専門的知識・技術・判断について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育者にとっての専門的知識・技術・判断について確認する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
7 回	<p><保育の省察></p> <p>○本時の目標 前回の「省察的実践家」論を思い出しながら、保育者は常に「成長し続ける存在」であり、そのためには自らの保育実践に「省察」が必要であることを確認し、制度的な視点などから保育者の「省察」についての理解を深める。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第7講（pp. 75-88）をもとに考える。</p> <p>○本時の学習成果 「省察」そのものについて理解しているとともに、それが保育者にとってどのような意味をもつのかを理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、「省察」と保育者の関係について整理する。</p>
8 回	<p><保育の全体的な計画にかかわる保育者の専門性></p> <p>○本時の目標 保育の全体的な計画の意義と目的を確認し、PDCA サイクル（計画・実行・改善・評価）という保育のプロセスにおいて、保育者に求められる専門性を学び、理解を深める。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第8講（pp. 89-100）をもとに考える。</p> <p>○本時の学習成果 保育の全体的な計画の意義と目的、保育者に求められる専門性について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育の全体的な計画の意義と目的を整理し、保育者に求められる専門性についてさらに考えてみる。</p>
9 回	<p><保育者の専門性と自己評価></p> <p>○本時の目標 保育者にとって重要となるものが「自己評価」であることを確認し、「評価」そのものについての学びを通して、保育者の専門性及び保育の質向上に資する評価について理解を深める。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第9講（pp. 101-112）をもとに考える。</p> <p>○本時の学習成果 保育者の専門性及び保育の質向上に資する評価について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育者の専門性及び保育の質向上に資する評価について整理する。 <専門的な知識・技術・判断><保育の省察><保育の全体的な計画にかかわる保育者の専門性><保育の全体的な計画にかかわる保育者の専門性>と今回の内容を整理し、小テストに向けて準備する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
10 回	<p><園での協働></p> <p>○本時の目標 保育者は保育園や幼稚園などの「組織」の一員として働いているため、保育そのものはチームプレイであり、職員の協働性や協力体制、連携の必要性についての理解を深める。</p> <p>○本時の活動 ・小テスト：<専門的な知識・技術・判断><保育の省察><保育の全体的な計画にかかわる保育者の専門性><保育の全体的な計画にかかわる保育者の専門性><保育者の専門性と自己評価>の内容に関するテスト。 ・テキスト第10講（pp. 113-126）をもとに考える。</p> <p>○本時の学習成果 保育そのものがチームプレイであり、職員の協働性や協力体制、連携の必要があることを理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育者にとっての「協働」について考えてみる。</p>
11 回	<p><専門機関との連携></p> <p>○本時の目標 保育現場における医療・保健機関や療育機関と連絡を取りあい、情報を伝えあうことの必要性についての理解を深める。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第11講（pp. 127-138）をもとに考える。</p> <p>○本時の学習成果 保育現場にとって医療・保健機関や療育機関との連携の必要性について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、医療・保健機関や療育機関との連携について自分なりにまとめる。</p>
12 回	<p><保護者および地域社会との協働></p> <p>○本時の目標 保育現場における保護者および地域社会との協働がどのようなものであるかについて、具体的レベルで理解し、学校（園）が一つの「チーム」として組織的に様々な問題に対応していくことの重要性についての理解を深める。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第12講（pp. 139-150）をもとに考える。</p> <p>○本時の学習成果 保育現場における保護者および地域社会との協働について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育現場における協働について整理する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 回	<p><家庭的保育者等との連携></p> <p>○本時の目標 家庭のニーズ対応できる保育制度の選択肢の1つとして期待されている「家庭的保育」の概要や連携について理解することを通して、現代における保育現場の現状について学ぶ。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第13講 (pp. 151-162) をもとに考える。</p> <p>○本時の学習成果 「家庭的保育」の概要や連携について理解することを通して、現代における保育現場の現状について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、現代における保育現場の現状について整理する。</p>
14 回	<p><保育者の専門性の発達></p> <p>○本時の目標 『保育所保育指針』に示されている専門性などをふまえながら。保育者の専門性の発達の道筋について考え、代表的な保育者の発達段階モデルと発達を促す要因についての理解を深める。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第14講 (pp. 163-174) をもとに考える。</p> <p>○本時の学習成果 代表的な保育者の発達段階モデルと発達を促す要因について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育者の発達段階モデルと発達を促す要因について整理する。</p>
15 回	<p><保育者のキャリア形成、総括></p> <p>○本時の目標 保育者のキャリア形成について、これまで学習してきた「保育者の専門性」などから考え、今日求められている教員（保育者）についての理解を深める。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第15講 (pp. 176-186) をもとに考える。 ・期末試験に向けた授業内容の振り返りを行う。</p> <p>○本時の学習成果 保育者のキャリア形成について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容を整理するとともに、これまでの授業内容の整理を行いながら、期末試験に備える。</p>

平成30年度教育計画							
科目名	教育原理	授業回数	15	単位数	2	担当教員	都田 修兵
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : stsuda@owc.ac.jp、OH: 土曜日 2 限目							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標</p> <p>本科目は、幼稚園教諭二種免許状取得のための「教職に関する科目」の一つである。 本科目では、教育の基本的概念や教育の理念、歴史や思想についての歴史的展開を理解するとともに、日本をはじめとした教育や学校がどのような変遷を経てきたのかを理解することを目標とする。</p> <p>学生の学習成果</p> <p>専門的学習成果：教育目標に掲げる内容を習得する。 汎用的学習成果：価値観の多様性を理解し、自分なりの意見を持つ姿勢を獲得する。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主として講義形式による。 ・受講者の理解を促進させるため、講義中に小テストを課す。 ・授業時間外に取り組む課題を課す。 	<p>予習事項</p> <p>毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。</p> <p>復習事項</p> <p>毎授業回後に復習を求める。</p> <p>※復習でわからないことがあった学生には、OH などを利用しながら、学習成果を高める援助を行う。</p>	<p>テキスト</p> <p>池田隆英・楠本恭之他編『なぜからはじめる教育原理』建帛社、2015。</p>			
学習評価の方法	<p>以下の4つの学習成果について、その獲得度合を等分に評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教育の意義・目的、基礎的概念を理解する。 ② 教育の思想及び歴史の基礎を理解する。 ③ 現代日本の教育制度の基礎を理解する。 ④ 現代教育の諸問題について知り、科学的に思考する方法及び態度を修得する。 <p>学習評価は、小テスト (20 点)、課題 (10 点) 及び期末試験 (70 点) により実施する。 ※受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、ケースに応じて減点 (1～5 点を目安とする) する。</p>						
注意事項	<p>参考図書等：</p> <p>堀尾輝久『教育入門』岩波新書、1989。 大田堯『教育とは何か』岩波新書、1990。 苫野一徳『はじめての哲学的思考』ちくまプリマー新書、2017。 ※その他、授業内で「読書案内」を配布するので参照されたい。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容

1 回	<p><オリエンテーション、教育学（哲学）的思考></p> <p>○本時の目標 本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、人間や教育について思考する際に求められる思考様式の4つ「分けずに考える」「相対的に考える」「当たり前を外して考える」「因果性にとらわれずに考える」を理解する。</p> <p>○本時の活動 ・オリエンテーション 授業の進め方、スケジュール、学習評価の方法の確認をする。 ・テキスト第1章（pp.1-8）で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 本科目の概要について理解しており、思考様式4つについて自分なりに説明できる。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 復習事項：思考様式4つについて、テキストやノートを見ながら確認する。</p>
2 回	<p><教育の基本概念①></p> <p>○本時の目標 「教育」を成立させる要因としての「人間」そのものについて、ポルトマンの「生理的早産」説によって、人間の「可塑性」と「依存性」という特徴を理解する。さらに、「依存性」から導かれる「養護」の必要性、「可塑性」から導かれる社会や文化との相互関係について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第2章（pp.9-18）で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 ポルトマンの「生理的早産」と、人間の「可塑性」及び「依存性」という特徴を説明できるとともに、それらが人間の社会や文化と相互関係にあることを理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：「生理的早産」説と「可塑性」及び「依存性」、それらの相互関係について自分なりにまとめてみる。</p>
3 回	<p><教育の基本概念②></p> <p>○本時の目標 人間が発達していくためには「遺伝」と「環境」の相互作用が必要であることを理解し、人間発達についての基本的な考え方である「発達段階」概念について学ぶ。その際、子供と教員（教師）や家庭、学校がどのように関連しているかも含めて確認する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第3章第1節・第2節（pp.19-21）で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 人間が発達するうえで「遺伝」と「環境」が相互的に重要な役割を有していることを理解しているとともに、その人間の周囲にある「環境」である教員や家庭、学校がどのように関連しているかについて確認している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：「遺伝」と「環境」が人間の発達にどのような関係があり、人間をの周囲の「環境」（教員や家庭、学校）がどのように関連しているか、テキストやノートをもとに整理してみる。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

4 回	<p><教育の基本的概念③></p> <p>○本時の目標 子どもが環境に適応していくこと、「社会化」の概念について理解する。さらに、その際、同調と生成の両面があることを確認する。そして、教育対象としての子供を理解するために必要な、臨床的な理解のあり方を確認する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第3章第3節・第4節 (pp. 22-26) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 「社会化」の概念について、家庭や学校などという「社会」などを具体的にイメージしながら理解している。そのうえで、教育対象としての子供を理解するための臨床的な理解のあり方を確認している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：「社会化」や臨床的な理解について、テキストやノート見ながら自分なりに説明してみる。</p>
5 回	<p><教育の歴史と思想①></p> <p>○本時の目標 教育の思想や歴史を学ぶ意義について理解したうえで、およそ17世紀以前の西洋を中心とした教育の思想の歴史を概観することを通して、多様な教育の理念のあり方があることを学ぶ。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第4章第1節・第2節・第3節 (pp. 27-30) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 教育の思想や歴史を代表的な教育思想家によりながら学ぶことを通して、子供や学校、家庭に関する教育の思想を理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 教育思想家についてインターネットなどで調べてみる。 ・復習事項：取り上げた教育思想家とその教育思想についてテキストやノートを見ながら、自分なりにまとめてみる。</p>
6 回	<p><教育の歴史と思想②></p> <p>○本時の目標 前回に引き続き、西洋を中心とした教育思想の歴史を概観することを通して、ルソー、ペスタロッチ、オーエン、フレーベル、ヘルバルト、デューイらの思想と、その社会背景及び現代教育への影響について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第4章第4節・第5節・第6節 (pp. 31-38) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 教育の思想や歴史を代表的な教育思想家によりながら学ぶことを通して、近代教育の展開が今日の子供や学校、家庭に関する教育にどのように影響しているか理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 教育思想家についてインターネットなどで調べてみる。 ・復習事項：取り上げた教育思想家とその教育思想についてテキストやノートを見ながら、現代の教育との関係も意識しつつ、自分なりにまとめてみる。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

7 回	<p><教育の歴史と思想③></p> <p>○本時の目標 学校が意図的な教育の場であることを確認し、その始まりを理解する。そして、学校が制度化される過程を、近代において学校が普及した3つの背景、思想的背景、国家的背景、産業的背景、さらに家庭をも視野に入れつつ理解する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト(第1回)：<教育の歴史と思想①②>の内容に関するテスト。 ・テキスト第5章第1節(pp. 39-42)で解説する。 <p>○本時の学習成果 学校がどのような背景のもと制度化されるようになってきたのかについて、3つの背景及び家庭の状況によって理解している。</p> <p>○予習及び復習事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：小テストの範囲のテキストやノートなどを確認しておく。 テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：学校の制度化の過程について、テキストやノートで整理し、自分なりに説明してみる。
8 回	<p><教育の歴史と思想④></p> <p>○本時の目標 前回授業を振り返りながら、日本の学校の始まりを確認する。次に、明治以降の教育制度の変遷を公教育の原則である「義務制」「無償制」「中立性」の諸点及び法令を中心に理解する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第5章第2節(pp.42-46)で解説する。 <p>○本時の学習成果 日本において、学校がどのような背景のもと制度化されるようになってきたのかについて、公教育の原則である「義務制」「無償制」「中立性」の諸点及び法令を中心に理解している。</p> <p>○予習及び復習事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：公教育の原則や法令をもとに、日本における学校教育制度の変遷について、テキストやノートを見ながらまとめてみる。
9 回	<p><教育の制度①></p> <p>○本時の目標 まず、「日本国憲法—教育基本法—学校教育法」という現代日本の教育制度の基本構造を学校の種類によりながら、それぞれの目的を概観する。次に、各学校における教育課程の基準となる「幼稚園教育要領」や「学習指導要領」の法的性格を確認し、その変遷を理解する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第6章(pp. 47-56)で解説する。 <p>○本時の学習成果 現代日本における教育制度及び教育課程制度について、その目的や歴史の変遷を説明できる。</p> <p>○予習及び復習事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：日本の教育制度や教育課程制度についてテキストやノートを見ながらまとめ、「幼稚園教育要領」などの法的性格とその変遷について整理する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容

10 回	<p><教育の制度②></p> <p>○本時の目標 前回授業における教育課程制度の説明を振り返りながら、各学校における教育活動の目的、内容、方法、評価について理解する。その際、小学校就学以後の教育と、それ以前の教育・保育の共通点と相違点を理解する。</p> <p>○本時の活動 ・レポート：「学校問題に関する意見」についての説明をする。 ・テキスト第7章・第8章（pp. 57-78）で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 各学校における教育活動の目的、内容、方法、評価についてそれぞれの共通点や相違点をあげながら説明できる。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：各学校における教育活動の目的、内容、方法、評価についてテキストやノートを見ながら再度確認する。</p>
11 回	<p><教育の制度③></p> <p>○本時の目標 子どもの発達の多様性を確認した上で、現代日本における特別支援教育について、歴史や背景、現代的課題によって学ぶ。さらに、学校における教育実践のあり方について、その原理と課題を家庭や社会とも比較しながら確認する。</p> <p>○本時の活動 ・小テスト（第2回）：<教育の制度①②>の内容に関するテスト。 ・テキスト第9章（pp. 79-88）で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 特別支援教育について、家庭や社会との比較のなかで、歴史や経緯、現代的課題などについて説明できる。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、特別支援教育についての理解をさらに深める。</p>
12 回	<p><教育の制度④></p> <p>○本時の目標 教員の資格取得に関する制度と保育士資格について理解する。さらに、教員の職務と服務、採用と研修、免許更新制について、根拠法令を確認しながら、教員の難しさとやりがいを考える。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第10章（pp. 89-98）で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 教員の資格取得に関する制度と保育士資格や教員の職務と服務、採用と研修、免許更新制について、根拠法令をもとに理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：制度や法令などをテキストやノートを見ながら、自分なりにまとめてみる。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

13 回	<p><教育の制度⑤></p> <p>○本時の目標 教育行政・経営、多文化教育、生涯教育について、「教育委員会」「PDCA サイクル」「学校評価」、「教育を受ける権利」「市場原理」「グローバル化」、「高等教育制度」「生涯学習社会」「キャリア教育」などにより概観し、理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第11章・第12章・第13章 (pp. 99-127) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 教育行政・経営、多文化教育、生涯教育について、授業内で解説したキーワードをもとに、考えることができる。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、教育行政・経営、多文化教育、生涯教育についての理解を深める。</p>
14 回	<p><まとめ①></p> <p>○本時の目標 学校教育においてさまざまな問題があることを確認し、その上で、なぜ学校では問題が起きるのか、その理由を社会における学校の位置づけから考えてみる。さらに、児童・生徒の生活上の指導の原理を確認し、教員としての基本姿勢を学ぶ。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第14章 (pp. 127-136) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 学校教育においてさまざまな問題について自分なりに考え、児童・生徒の生活上の指導の原理を確認し、教員としての基本姿勢を理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：学校教育の問題について自分が教員という立場からテキストやノートを見ながら考えてみる。</p>
15 回	<p><まとめ②></p> <p>○本時の目標 本科目における学びを振り返りながら、人間と社会の関係、なかでも教育の意義と課題について学ぶ。その際、自らの人生を振り返り、常に反省と改善が求められることを確認する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第15章 (pp. 137-144) で解説する。 ・期末試験に向けた授業内容の振り返りを行う。</p> <p>○本時の学習成果 人間と社会の関係、なかでも教育の意義と課題について学び、自身の反省と改善の重要性について知る。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容を整理するとともに、これまでの授業内容の整理を行いながら、期末試験に備える。</p>

平成30年度教育計画							
科目名	教育制度論	授業回数	15	単位数	2	担当教員	都田 修兵
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : stsuda@owc.ac.jp, OH : 土曜日 2 限目							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標</p> <p>本科目は、幼稚園教諭二種免許状取得のための「教職に関する科目」の一つである。 本科目では、現代の学校教育制度に関する基礎的な知識や課題を理解するとともに、学校教育と地域との連携や学校安全に関する基礎的な知識も習得することを目標とする。</p> <p>学生の学習成果</p> <p>専門的学習成果：本科目における教育目標に関する知識を獲得するとともに、教育・保育制度に関する用語を理解して使用できるようになる。 汎用的学習成果：保育者にふさわしくない言動について考え、そうしないように努力していく姿勢を培う。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技) ・主として講義形成による。 ・受講生の理解を促すために、講義中に小テストを課す。</p> <p>予習・復習</p> <p>予習事項： 毎授業回前に、「授業回別教育内容」に記している予習を求める。 復習事項： 毎授業後にその授業の復習を求める。 ※復習でわからないことがあった学生には、OH などを利用しながら、学習成果を高める援助を行う。</p> <p>テキスト</p> <p>坂野慎二ほか編著『学校教育制度論概説 第2版』玉川大学出版部、2017。</p>					
学習評価の方法	<p>以下の4つの学習成果により評価する。</p> <p>① 教育・保育に関する法令についての理解。 ② 法令の実施過程としての学校制度や学校についての理解。 ③ 教育・保育制度の歴史と現状、課題についての理解。 ④ 教育・保育制度に関するタームを理解したうえでの使用。</p> <p>学習成果は、授業内におけるディスカッションへの参加(10点)、小テスト(20点)及び期末試験(70点)により行う。 ※受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、ケースに応じて減点(1~5点を目安とする)する。</p>						
注意事項	<p>参考図書： 森上史朗監修『最新保育資料集2018』ミネルヴァ書房、2018。 坂田仰ほか『新訂第2版 図解・表解教育法規』教育開発研究所、2014。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容

1 回	<p><オリエンテーション、教育制度と教育改革></p> <p>○本時の目標 本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、学校教育を取り囲む状況を確認しつつ、教育制度の基本的原理や教育改革の動向について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・オリエンテーション 授業の進め方、スケジュール、学習評価の方法を説明する。 ・テキスト第1章 (pp. 12-26) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 本科目の概要について理解し、学校教育の基本的原理や現代の教育改革の動向について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、学校教育の基本的原理や教育改革の動向を整理する。</p>
2 回	<p><学校教育制度の基本原則①></p> <p>○本時の目標 学校体系の基本構造を確認し、とくに就学前教育制度（幼稚園、保育園、認定子ども園）について関連法規とともに理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第2章第1節・第2節 (pp. 28-40) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 就学前教育制度について理解しているとともに、その教育制度の全体のなかでの位置づけや意義を関連法規とともに理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：就学前教育制度をテキストやノートを見ながら整理し、理解する。</p>
3 回	<p><学校教育制度の基本原則②></p> <p>○本時の目標 教育制度、とくには初等教育制度について理解し、就学前教育制度との関係について関連法規と結びつけながら理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第2章第2節・第3節 (pp. 34-48) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 初等教育制度について、就学前教育制度との関連のなかで、その位置づけや意義を関連法規とともに理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：初等教育制度をテキストやノートを見ながら整理し、理解する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
4 回	<p><学校教育制度の基本原理③></p> <p>○本時の目標 教育制度、とくには中等教育制度（前期・後期中等教育制度）と特別支援教育制度について関連法規と結びつけながら理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第3章（pp. 50-66）で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 中等教育制度（前期・後期中等教育制度）と特別支援教育制度について、これまで学習してきた他の教育制度との関連のなかで、その位置づけや意義を関連法規とともに理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、これまで習った教育制度と関連法規をそれぞれ整理する。 小テストに向けて、該当個所のテキストやノートを見る。</p>
5 回	<p><高等教育と生涯学習></p> <p>○本時の目標 教育制度、とくには高等教育及び生涯学習の制度について概説し、学生として求められていること、そして、高等教育の後の生涯にわたる学習の目的と意義を理解する。</p> <p>○本時の活動 ・小テスト（第1回）：<学校教育制度の基本原理①②③>の内容に関するテスト。 ・テキスト第4章（pp. 68-81）で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 高等教育及び生涯学習に関する教育制度について理解しているとともに、学生としての学びとその後の学びについての制度的位置づけを理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、高等教育や生涯学習に関する教育制度について整理する。</p>
6 回	<p><学校教育制度の成立と発展①></p> <p>○本時の目標 日本の近代教育制度がどのように整備されてきたのか、とくには1945年の戦争終結までを社会的状況なども踏まえながら理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第12章第1節・第2節（pp. 204-213）で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 日本の近代教育制度がどのように整備されてきたのかについて理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：日本の近代教育制度がどのように整備されてきたかについて、テキストやノートを見ながら整理する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
7 回	<p><学校教育制度の成立と発展②></p> <p>○本時の目標 日本の近代教育制度がどのように整備されてきたのか、とくには 1945 年以降までを社会的状況も踏まえながら理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第 1 2 章第 3 節 (pp. 214-218) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 現在の日本の教育制度が形づくられるまでの経緯について理解しているとともに、現在の教育制度と関連づけて理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：日本の近代教育制度がどのように整備されてきたかについて、テキストやノートを見ながら整理する。 小テストに向けて、該当個所のテキストやノートを見る。</p>
8 回	<p><学校教育制度の展開></p> <p>○本時の目標 1945 年の戦争終結の後の日本における社会変化のなかで、日本の教育制度がどのように展開してきたのかを理解し、現代の日本の教育制度及び関連法規の原理や理念について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・小テスト (第 2 回)：<学校教育制度の成立と発展①②>の内容に関するテスト。 ・テキスト第 1 3 章 (pp. 220-236) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 日本における学校教育制度の展開において、高度経済成長などの社会状況あるいは変化の影響があることを理解し、現代の日本の教育制度及び関連法規の原理や理念について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：これまでの日本の教育制度や関連法規と現代の教育制度や関連法規の違いについて整理する。</p>
9 回	<p><教育行政の実態></p> <p>○本時の目標 教育行政の基本原則を整理したうえで、中央教育行政及び地方教育行政の組織と役割について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第 5 章・第 6 章 (pp. 84-116) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 日本における教育行政の基本原則について理解し、中央教育行政及び地方教育行政の実態や役割を理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：中央教育行政や地方教育行政の実態や役割についてテキストやノートを見ながら整理する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
10 回	<p><学校の組織と運営></p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の目標 教育（保育）を行っていく際に、学校という組織が有している意義及びその組織の運営について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第7章（pp. 118-130）で解説する。 ○本時の学習成果 一人の教員（保育士）として一つの組織に属すること、そしてその組織の運営において、自らが果たすべき役割について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：学校という組織が有している意義やその組織の運営について考え、教員（保育士）としての自分の位置づけを確認する。
11 回	<p><学校の質保証と学校参画></p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の目標 学校教育（保育）が行われる以上、そこには教育の質保証が重要となること、そして、その質保証は学校のみでされるものではなく、学校関係者の教育への参画によってこそ、学校の自主性や自律性が具体化され、そこでの教育が活性化されるものであることを理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第8章（pp. 132-146）で解説する。 ○本時の学習成果 学校における教育の質保証の重要性に気づき、それを具体化するために学校関係者の参画という視点が重要となることを理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：学校における教育の質保証と学校関係者の参画ということについてテキストやノートを見ながら整理する。
12 回	<p><選抜システムとしての学校制度></p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の目標 学校教育制度や関連法規は一方で、子どもたちの教育権や学習権を保証したりしているが、他方で、「選抜」というシステムも有し、現在どのような状況にあるのかについて理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第9章（pp. 147-164）で解説する。 ○本時の学習成果 学校教育制度が「選抜」というシステムを有し、現在の状況について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、学校教育制度の「選抜」というシステムについて整理する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 回	<p><学校教育の新たな課題①></p> <p>○本時の目標 今日の日本の学校教育が抱える課題について、とくには教育政策の国際化という視点から理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第10章 (pp. 167-182) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 今日の日本の学校教育が抱えている課題を理解するとともに、それが国際化という一つの社会状況によるものであることを理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 身近な「国際化」について考えてみる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、今日の日本の学校教育が抱えている課題を、「国際化」というキーワードで整理する。</p>
14 回	<p><学校教育の新たな課題②></p> <p>○本時の目標 今日の日本の学校教育が抱える課題（事故や自然災害など）について、学校における安心・安全という視点から理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第11章 (pp. 184-201) で解説する。 ・<u>ディスカッション</u>：学校教育が抱える課題についてのディスカッション。</p> <p>○本時の学習成果 今日の学校における安心・安全と現在の日本の学校教育の抱える課題との関係について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 学校にとっての「安心・安全」が何かを考えてみる。 ・復習事項：今日の学校における安心・安全と現在の日本の学校教育の抱える課題との関係から整理する。</p>
15 回	<p><学校教育の現在と未来、総括></p> <p>○本時の目標 これまでの授業で取り上げたことを反映させながら、これからの教育制度あるいは教育行政や教育政策に何が必要となるのかを考えてみる。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第14章 (pp. 238-253) で解説する。 ・期末試験に向けた授業内容の振り返りを行う。</p> <p>○本時の学習成果 これからの教育（保育）を担う者として、学校教育の現在の状況を理解し、これからの学校教育についての展望を自分なりもつことができている。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容を整理するとともに、これまでの授業内容の整理を行いながら、期末試験に備える。</p>

平成30年度教育計画							
科目名	保育相談の基礎	授業回数	15	単位数	2	担当教員	井頭 久子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : igashira@owc.ac.jp OH 金 9:10~17:00							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標： 家庭における養育機能の低下や子どもを取り巻く環境の変化に伴い、保育者が子育て支援をする役割を期待されることが増えている。この講義では、保育者として保育相談をする上で必要となる基礎的知識を身につけ、養育者を対象としたカウンセリング的関わりを理解することを目的とする。</p> <p>学生の学習成果： ・専門的学習成果：保育相談に関する基礎的知識を習得し、カウンセリング的な関わり方を理解できるようにする。 ・汎用的学習効果：保育者としての使命感や倫理観を身につけるとともに、他者とのコミュニケーションを円滑に行えるような人間関係力を養う。</p>						
	授業の進め方	<p>(講義)・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> 主として講義形式によって行うが、受講者の理解を促進し、学習効果を確認するために、講義中に小テストまたは、授業時間外に小レポートを課す。 カウンセリング的関わりの理解のために、グループワーク等の演習形式を用いる。 					
	予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> 毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 毎授業回後に復習を求める。その際、提出課題とする場合がある。 					
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> 「生活事例からはじめる 保育相談支援」 吉田真理 青鞞社 2016 						
成績評価の方法	<p>以下の4つの学習成果についてその獲得度合を量的に評価する。その際、授業回数などを勘案し、おおよそ「①：②：③：④」=2：1：1：1の比重をかける。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①保育相談をする上で必要な基礎的知識を身につける。 ②保育相談をする際に必要となるカウンセリング的関わりを理解する。 ③乳幼児に対するアセスメントとその利用について理解する。 ④社会人として他者と関わる際に求められるコミュニケーション能力を高める。 <p>なお、評価の実施は、授業で行う課題（小レポート、小テスト30%）及び学期末に行う定期試験（70%）の結果を総合して行う。保育者としての使命感や倫理観については、受講態度や遅刻などを配慮する。</p>						
注意事項	<p>参考図書等 小林郁子 小林久利 共著：「保育所の子育て相談」～相談の基本・事例とアドバイス～ 萌文書林 佐川寛子・成瀬美恵子：「保育者のためのカウンセリングマインド入門」チャイルド本社、2007年。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><オリエンテーション> 学習成果 保育相談の基礎の教育目標が理解できる。 1. 本講義の目的と進め方 2. 保育相談とは</p>
2 回	<p><保育相談の意義> 学習成果 保護者に対する保育相談支援の意義 1. 子ども・家族に対する保育相談支援の意義 (予習事項) 少子化問題について調べる。 (復習事項) 子育て不安への対応について理解する。</p>
3 回	<p><保育の特性と保育士の専門性> 学習成果 子どもの生活の場としての特性が理解できる。 1. 地域社会とのつながりの変化 (予習事項) 子どもの生活の場としての特性を調べる。 (復習事項) 保育士の専門性について理解する。</p>
4 回	<p><子どもの最善の利益と福祉の重視> 学習成果 子どもの最善の利益と福祉の重視が理解できる。 1. 児童福祉法と児童憲章 (予習事項) 児童福祉法と児童憲章の特徴について調べる。 (復習事項) 子どもの成長の喜びの共有が理解する。</p>
5 回	<p><保護者の養育力の向上に資する支援> 学習成果 知識や気づきの提供による保護者の養育力の向上が理解できる。 1. 保護者の養育力の向上 (構造化) (予習事項) 保護者会や研修会のあり方について調べる。 (復習事項) 保護者の養育力の向上に資する支援について理解する。</p>
6 回	<p><信頼関係を基本とした受容的かかわり・自己決定など> 学習成果 カウンセリングの基本的な理論が理解できる。 1 信頼関係を築く受容的かかわり (予習事項) 受容的かかわり・自己決定について調べる。 (復習事項) 自己決定・秘密保持についても理解する。</p>
7 回	<p><地域資源の活用と関係機関との連携・協力> 学習成果 地域資源の活用と関係機関との連携・協力について理解できる。 1. 地域資源の活用 (予習事項) 児童館について調べる。 (復習事項) 関係機関との連携・協力について理解する。</p>
8 回	<p><保育に関わる保護者への指導> 学習成果 保護者への指導について理解する。 1. 保護者の自己決定と利益の尊重 (予習事項) 守秘義務について調べる。 (復習事項) 個々の苦情について理解する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	<p><保育相談支援の内容> 学習成果 特別なニーズを持つ子どもと保護者への支援を理解する。 1. グループワーク (予習事項) 事例の対応方法を考える。 (復習事項) 虐待の早期発見について理解する。</p>
10 回	<p><保護者支援の方法と技術> 学習成果 保育相談の具体的な事例の対応が理解できる。 1. 事例に応じた対応の検討 (予習事項) 事例の対応方法を考える。 (復習事項) 事例の対応方法を理解する。</p>
11 回	<p><保育相談支援の計画と記録> 学習成果 計画・記録・評価がより深く理解できる。 1. 事例に応じた対応の検討とカンファレンス (予習事項) 事例の対応方法を考える。 (復習事項) 事例の対応方法を理解する。</p>
12 回	<p><支援の評価とカンファレンス> 学習成果 支援の評価や事例の対応が理解できる。 1. 事例に応じた対応の検討 (予習事項) 事例の対応方法を考える。 (復習事項) 事例の対応方法を理解する。</p>
13 回	<p><保育所における保育相談の実際> 学習成果 養育者自身の問題に対する事例の対応が理解できる。 1. 事例に応じた対応の検討 (予習事項) 事例の対応方法を考える。 (復習事項) 事例の対応方法を理解する。</p>
14 回	<p><虐待の種類と保護者支援> 学習成果 実際の心理支援の技法を理解できる。 1. 母親の育児不安と育児ストレス (予習事項) 虐待の4類型を調べる。 (復習事項) 母親の心理的支援の方法を理解する。</p>
15 回	<p><児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援> 学習成果 保育相談の基礎を理解し実践する力を身に着ける 1. 本講義の総復習をする。 (予習事項) 児童養護施設について調べる。 (復習事項) 期末試験に向けて本講義の総復習をする。</p>

平成30年度教育計画							
科目名	事前・事後指導	授業回数	15	単位数	1	担当教員	都田 修兵
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : stasuda@owc.ac.jp、OH: 土曜日 2 限目							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標</p> <p>本科目は、幼稚園教育実習準備としての事前指導及び同実習終了後のまとめとしての事後指導として、以下の目標のもとに実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 幼稚園教育実習の意義と制度を知る。 2 幼児や保育を観察する方法を知り、適切な記録を作成する。 3 指導計画の根拠や意義を知り、適切な指導案を作成する。 4 実習実施の手続きを知り、適切な文書を作成する。 5 評価の意義を知り、実習後の振り返りを通して自己課題を設定する。 <p>学生の学習成果</p> <p>専門的学習成果：教育目標に掲げる能力を獲得する。</p> <p>汎用的学習成果：保育者にふさわしくない言動を知り、そうしないように努力する力を獲得する。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義と演習を併用する。 ・学習成果をあげるために授業時間内外で取り組む課題を課す。 	<p>予習・復習</p> <p>予習事項：『幼稚園教育要領』などの幼稚園実習に関わる内容を確認しておく。</p> <p>復習事項：毎授業後に、授業内容の確認を求める。</p>	<p>テキスト</p> <p>内閣府、文部科学省、厚生労働省『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 (原本)』チャイルド本社、2017。</p>			
学習評価の方法	<p>以下の6つの学習成果についてその獲得度合を評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 幼稚園教育実習に関する法制度及び意義を知る。 ② 保育の観察方法を知り、適切な記録を作成する。 ③ 指導計画の根拠や意義を知り、適切な指導案を作成する。 ④ 実習実施の手続きを知り、適切な文書を作成する。 ⑤ 評価の意義を知り、実習後の振り返りを通して自己課題を設定する。 ⑥ 保育者にふさわしくない言動を知り、そうしないように努力する。 <p>学習評価は、授業中の課題2つ(20点)、レポート2本(40点)、文書の作成と提出(40点)により実施する。欠席、あるいは受講態度に問題があった者は、学習成果⑥について減点する。具体的には、遅刻で5点を減ずる。また、受講態度については、複数回の注意を受けた後、改善が見られない場合は減点の対象(1～5点を目安とする)とする。</p>						
注意事項	<p>本科目は「幼稚園教育実習」の履修を前提とする科目である。その履修条件については、『学生のしおり』の「幼稚園教育実習履修に関する規則」に従う。教育実習を辞退した学生は、事後指導が実施できないため、本科目の評価点を「0」とする。</p> <p>なお、本科目は、1年後期及び2年前期にかけて開講される。</p> <p>参考図書等：池田、楠本他編著『保育所・幼稚園実習 保育者になるための5ステップ』ミネルヴァ書房、2011。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><オリエンテーション> ・講義内容 授業の進め方、スケジュール、学習評価の方法</p> <p><幼稚園教育実習の実施>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 幼稚園教育実習の意義及び法制度を説明する。 ・学習成果 本科目の位置づけを知り、幼稚園教育実習の意義を理解する。
2 回	<p><教育実習の実施>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 幼稚園の種別や特色などを説明する。 ・学習成果 幼稚園に種別や特色があることを理解し、実習希望幼稚園を選定できる。 ・課題 実習希望幼稚園を決め、文書を完成させて提出する。
3 回	<p><教育実習の実施>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 幼稚園教育関係法令を確認し、幼稚園教育の全体構造を説明する。 ・学習成果 幼稚園教育の仕組みを説明できる。
4 回	<p><保育における観察と記録>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 保育における観察のポイントを、事例を示しながら解説する。 ・学習成果 保育における観察のポイントを知り、観察に生かそうとする。
5 回	<p><保育における観察と記録>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習内容 ビデオ視聴「幼稚園における保育」 ・学習成果 ポイントを押さえた観察をしようとする。 ・課題 記録の作成
6 回	<p><保育における観察と記録>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習内容 学外実習報告会に参加して、2年生の報告を聴き、質問する。 ・学習成果 実習経験を聴き、実習への意欲を高める。 ・課題 意見用紙の提出
7 回	<p><幼稚園における指導計画>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 「教育課程総論」の学習内容を振り返りながら、教育課程の全体像を説明する。 また、内諾を得た幼稚園に送る承諾依頼書の役割と内容を説明する。 ・学習成果 幼稚園教育課程と指導計画について、おおまかに説明できる。 ・課題 承諾依頼書および承諾書への記入
8 回	<p><幼稚園における指導計画>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 「保育原理」の学習内容を振り返りながら、「保育における環境設定」の重要性とポイントを解説する。そして、レポートの作成方法を説明する。 ・学習成果 保育における環境設定のポイント、レポートの作成方法を知る。 ・時間外の課題 レポートの作成

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	<p><幼稚園における指導計画>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 環境設定に関するレポートを振り返り、ポイントを押さえる。さらに、「保育 原理」の学習内容を振り返りながら、指導案を作成するポイントを説明する。 ・学習成果 指導案のポイントをおおまかに説明でき、作成に生かそうとする。 ・課題 部分指導案の作成 <p>※本時以降は2年前期に実施</p>
10 回	<p><幼稚園における指導計画>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習内容 「保育実践ファイル」の相互評価に向けて評価の方法を伝える。その後、小グループを作り、ファイルを相互に評価する。 ・学習成果 「保育実践ファイル」を改善する意欲を持つ。 ・予習 「保育実践ファイル」の作成 ・課題 評価記録の作成
11 回	<p><保育における観察と記録>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 本科目第4, 5回授業の学習内容を振り返りながら、教育実習日誌の意義と記録のポイントを確認する。さらに、実習幼稚園に送付する個人票等の文書の作成について説明する。 ・学習成果 教育実習日誌の作成方法を覚える。 ・課題 個人票等の作成・提出
12 回	<p><保育における観察と記録>⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 前回までの学習内容を振り返りながら、観察と記録の方法の具体について説明する。その際、事例を示しながら記録を作成させる。 ・学習成果 ポイントを押さえた記録を作成しようとする。 ・課題 記録の作成
13 回	<p><教育実習の実施>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 事前オリエンテーションの意義および内容について解説する。また、訪問時の注意点を確認する。 ・学習成果 事前オリエンテーションでやるべきことを覚え、正しく振舞おうとする。 ・課題 オリエンテーションに向けての文書作成
14 回	<p><教育実習の実施>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 実習レポートの内容および作成方法を説明する。 ・演習内容 小グループで、保育所実習の振り返りを行い、幼稚園教育実習に向けての自己課題を探究する。 ・学習成果 教育実習に向けての自己課題を確認する。 ・課題 自己課題の作成 ・時間外の課題 レポートの作成
15 回	<p><教育実習の実施>⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 教育実習を振り返るための自己評価シートへの記入方法を解説する。 ・学習成果 保育専門職就職に向けての自己課題を確認する。 ・課題 自己評価シートへの記入

平成30年度教育計画							
科目名	教職実践演習	授業回数	15	単位数	2	担当教員	井頭久子、浦上博文 都田修兵、鈴木久子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) 金曜 16:20~17:00 井頭 igashira@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標： 教員として求められる4つの事項、①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項をテーマとする。 これまでの授業や教育実習を通じた学びを振り返り、「幼稚園教諭」になる上で自身の課題を自覚し、不足している知識・技能を補い、定着を図ることによって、教職生活を円滑にスタートできる力を身につけることを目標とする。</p> <p>学生の学習成果： 専門的学習成果として、教育目標に掲げる4つの事項について知識や能力を獲得し、姿勢や意見を形成することが挙げられる。 また、汎用的学習成果として、保育者としての使命感や社会の一員として求められる倫理観や価値観を獲得し他者との豊かな人間関係力を養う。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方 (講義・演習・実験・実習・実技) 教員として求められる4つの事項について、グループ討議・模擬実践・事例研究などを通して総合的に学ぶ。また、幼稚園の教育現場との連携を図り、幼稚園教諭による講演・ディスカッションを実施する。4名の教員がオムニバス形式で担当するが内容に応じてチーム・ティーチングの方式で行う。また、入学時からの履修カルテに基づき必要に応じて補完的指導を行う。</p> <p>予習・復習 ・毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・毎授業回後に復習を求める。その際、レポートとする場合がある。</p> <p>テキスト ・「幼稚園教育要領解説」(文部科学省 平成20年10月)</p>					
学習評価の方法	<p>以下の4つの学習成果についてその獲得度合を量的に評価する。 ①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持つ。 ②社会性や対人関係能力を形成する。 ③幼児理解の姿勢を持ち学級経営の力量の基礎を形成する。 ④保育内容の指導力の基礎を獲得する。</p> <p>学習評価は、各授業でのグループ討議・ロールプレイングの取組内容・レポート・小論文などの結果を踏まえ、教員として最低限必要な資質能力が身についているかを担当教員全員が総合的に評価、確認し、学習評価を行う。評価は、討議記録、模擬実践(発表会)、レポート、指導案、感想文など(60%)、小論文(40%)により実施する。受講態度に問題があった者、保育者としての倫理観が十分でない場合は汎用的学習成果を考慮する。幼稚園教育実習の成績評価は幼稚園教育実習の成績評価が基準点を上回らなければ評価を得ることはできない。</p>						
注意事項	<p>参考図書等： 参考資料は適宜授業内容にあわせて紹介・配布する。 その他：知識技能の獲得状況を踏まえての科目であることから、履修には幼稚園教育実習を受講し終わっていることが必要となる。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><オリエンテーション> (井頭)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目の目標と計画 ・授業の内容と進め方、単位認定に関する説明・スケジュール・担当者の紹介 ・活動 講義・グループ討議「これまでの学修の振り返り・幼稚園教諭になるための自己課題について」履修カルテの作成 ・シラバスの解説 ・幼稚園教諭への質問 ・課題 討議記録の作成
2 回	<p><幼児理解・学級経営・対人間関係力> (井頭)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義・ロールプレイング・グループ討議「教員間の協力・家庭との連携・保護者面談について」 ・活動 ロールプレイング及びグループ討議「保護者面談について」 ・履修個人票の作成 ・小学校の生活科の目標と内容について
3 回	<p><使命感・責任感・教育的愛情> (井頭)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義 幼稚園教諭の役割・職務内容（年間行事）について
4 回	<p><使命感・責任感・教育的愛情・対人関係能力> (都田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動 幼稚園教育実習経験の共有 ・課題 講義記録及び意見文の作成 ・活動 グループ討議「講演についてのまとめと自己の課題」 ・課題 幼稚園教諭としての自己課題の探究
5 回	<p><使命感・責任感・愛情> (都田・浦上・鈴木・井頭)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動 幼稚園教諭による講演「幼稚園教諭に必要な指導力、学級経営、指導案について」 ・課題 幼稚園教諭とのディスカッション「幼児に対する教育的愛情、組織の一員としての自覚、保護者や地域関係者との連携について」 ・課題 ディスカッション記録の作成講義記録及び意見文の作成グループ討議 ・課題 討議記録の作成
6 回	<p><社会性や対人間関係能力> (浦上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義・講演のまとめ活動 グループ討議・発表「現場幼稚園教諭講演・ディスカッション授業のまとめ・幼稚園教諭としての自覚の形成」
7 回	<p><教育課程と学級経営> (都田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ討議「子どもたちと信頼関係を築く幼児理解・学級経営について」 ・課題 幼稚園教育実習における子どもたちと信頼関係を築く方法と幼児理解・学級運営について

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	<p><保育内容指導力> (鈴木・都田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の合同発表会のVTR視聴 ・財の実践計画作成
9 回	<p><保育内容指導力> (鈴木・都田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動 演習活動・グループ討議「指導計画に基づく学級活動模擬実践媒体の作成(前半)」 ・作成した指導案を発表し、修正箇所について討論 ・課題 学習指導案を作成する
10 回	<p><保育内容指導力> (鈴木・都田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動 演習活動・グループ討議「指導計画に基づく学級活動模擬実践媒体の作成(後半)」 ・作成した指導案を発表し、修正箇所について討論 ・課題 指導案を修正する
11 回	<p><保育内容指導力> (鈴木・都田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動 演習活動・グループ討議「指導計画に基づく学級活動模擬実践媒体の作成(前半)」 ・模擬保育における注意点 ・教材・教具の作成 ・課題 模擬授業の準備
12 回	<p><保育内容指導力・発表会リハーサル> (鈴木・都田・浦上・井頭)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動 演習活動・グループ討議「指導計画に基づく学級活動模擬実践媒体の作成(後半)」 ・模擬保育における注意点 ・課題 模擬授業の準備・課題 発表記録の作成・小論文の課題について課題を提示する。「幼稚園教諭としての資質・能力の確認、自己課題探求のまとめ」 ・小論文も課題提示
13 ・ 14 回	<p><保育内容指導力> (浦上・井頭・都田・鈴木)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動 合同発表会「模擬実践の講評、自己・相互評価」 ・課題 発表記録の作成
15 回	<p><確認とまとめ> (浦上・井頭)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義・まとめ「幼稚園教諭としての資質・能力の確認、自己課題探求のまとめ」を小論文に書く。 ・活動 合同発表会の振り返り ・模擬授業の振り返りとまとめ <p><総復習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びの振り返り

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	社会福祉	授業回数	15	単位数	2	担当教員	松尾 冀
質問受付の方法 : 授業終了後受け付ける							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 2 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。 3 社会福祉の法制度や実施体系等について理解する。 4 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。 5 現代社会における社会福祉の動向と課題及び展望について理解する。 <p>学生の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的学習成果 : 教育目標に掲げる 5 項目の社会福祉の基礎的知識を修得する。 ・汎用的学習成果 : 社会を広い見地で見据え、福祉専門職 (保育士) にふさわしい支援技術と態度を獲得する。 						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的にはテキストを中心に授業を進めていく ・新聞やテレビ等の社会福祉欄に関心を持つよう、媒介物を実際に解説することによって学生の意識を高める。 ・授業時間外に取り組むレポート (新聞の切り抜きとコメント) を課す。 	<p>予習・復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習 : 次週の単元を示し、「授業回数別教育内容」に沿った予習を求め、課題意識を持って授業に臨ませる。 ・復習 : 主として、小テストにて重要な福祉用語の理解を深める。 	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤木正典・平松正臣編著『社会福祉論』建帛社 			
学習評価の方法	<p>以下の 5 つの学習成果について期末テストで評価する他、提出物も重視する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 ・社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。 ・社会福祉の法制度や実施体系等について理解する。 ・社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。 ・現代社会における社会福祉の動向と課題及び展望について理解する。 <p>学習評価は①小テスト 16 点 (授業態度、私語雑音・居眠り・遅刻などを加味する) ②課題 16 点 (新聞の切り抜きとコメントの提出を求め評価する) ③期末テスト 68 点 ①+②+③=合計 100 点</p>						
注意事項	<p>参考図書等 :</p> <p>他の授業で使用の、福祉関係法令の解説書類は、本授業でも有用である。</p> <p>*授業の始めと終わりの挨拶励行、私語を慎む、遅刻をしない等のマナーを大切にする。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>1. 現代と社会福祉（オリエンテーションの後に）</p> <p><講義> 21 世紀の福祉の目標－21 世紀の福祉ビジョンは高齢化が活力に結びつく明るい社会を構築するという基本理念のもとに社会全体のシステムを少子、高齢社会にふさわしいものにつくり替えていくことの必要性を理解させる。</p> <p><復習> 21 世紀の福祉の課題として以下の用語や概念の理解を深める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中から、人権尊重の福祉社会実現の流れを見つける。 <p><予習> 第 2 章を読んでおく。</p>
2 回	<p>2. 社会福祉の基礎理解</p> <p><講義> 憲法 25 条をもとに、生存権の保障に至る歴史や、広義の社会福祉と狭義の社会福祉の概念を解説する。</p> <p><学習成果> 福祉の源は人間愛と連帯感であることを知り、各自が各自の優しさを育む。</p> <p><予習> 第 3 章を読んでおく。</p> <p><課題> 福祉に関する新聞記事を切り抜き、コメントを加え、提出させる。</p>
3 回	<p>3. 社会福祉の歴史</p> <p><講義> 我が国における社会福祉の歴史について解説し、欧米の福祉よりも古い歴史を知らせながら、近代の欧米の福祉から学んだ成果の定着過程を理解させる。</p> <p><学習成果> 福祉という言葉は新しいが、福祉の精神は古くから息づいていたことを知り、現代社会での課題に目を向けることの大切さを学ぶ。</p> <p><復習> 歴史的な福祉事業家の業績を整理し、郷里の偉人を調べてみる。</p> <p><予習> 第 4 章を読んでおく。</p>
4 回	<p>4. 社会福祉の法律と制度</p> <p><講義> 福祉 6 法が制定された歴史的背景について解説し、それぞれの法律の意義を理解させる。また、法で定められたそれぞれの行政機関の役割を理解させる。</p> <p><学習成果> 福祉 6 法が制定された順番こそが時代の緊急課題であったことを理解する。</p> <p><復習> 小テストで、福祉 6 法の名称とそれぞれの法に関する行政機関名を覚える。</p> <p><予習> 第 5 章を読んでおく。</p>
5 回	<p>5. 貧困と社会福祉</p> <p><講義> 貧困問題が福祉の中核であり、最近の生活保護制度の動向を説明し、制度の適正な実施の仕組みと課題を考えさせる。</p> <p><学習成果> 貧困の連鎖を絶つことの難しさを知りながら、保育士としての支援には、家庭の実情に目を向けながら子どもの支援に当たることの大切さを学ぶ。</p> <p><復習> 国家による公的扶助の代表が生活保護であるが、その動向と課題を考えて見る。</p> <p><予習></p>
6 回	<p>6. 児童と家庭の福祉①</p> <p><講義> 児童福祉法制定の背景を戦後の歴史として学び、日本国憲法の生存権や基本的人権が子どもの福祉を支えていることを理解させる。そして、現代の児童福祉問題を社会病理としたとき、保育士の果たす役割の大切さを自覚させる。</p> <p><学習成果> 子育て支援や保育業務の法的根拠が児童福祉法にあることを知る。</p> <p><復習> 子どもの最善の利益とは何か、各自の考えをまとめてくる。</p> <p><課題> 児童虐待や子どもの貧困など児童福祉をテーマの新聞の切り抜きを提出する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
7 回	<p>6. 児童と家庭の福祉②</p> <p><講義> 児童福祉を実施する機関の体制を説明し、そこで働く人々の役割を理解させる。</p> <p><学習成果> 児童福祉現場の状況を知ることは、就職活動に貴重な情報である。</p> <p><復習> 2年生での実習に備え、身近にある児童福祉施設の情報を集めておく。</p> <p><予習> 児童問題に常に関心を持っておく。</p>
8 回	<p>7. 高齢者福祉</p> <p><講義> 高齢（化）社会の進行状況と少子化との関連性を説明し、長期的展望で見ると日本が大変な状況であることを理解させる。やがては自分の問題となる高齢者の生活実態について説明し、健康や家族関係や経済面についての対策を考えさせる。</p> <p><学習成果> 老人福祉法のお世話になる割合を少しでも減らす努力は今からやらねばならないと気づく。社会の発展に貢献してきた老人を敬愛する精神を育て、実践する力をつける。</p> <p><復習> 介護問題の現状と課題を身近な事例から考えてみる。</p> <p><予習> 50年後の自分の理想像を描き、今やるべきことを考える。</p>
9 回	<p>8. 障害者福祉①</p> <p><講義> 三障害の定義と概念を説明し、具体的な障害像をイメージさせ、障害の種類ごとに撮られている福祉対策の現状と課題を理解させる。</p> <p>主に身体障害者福祉法による福祉制度について説明する。</p> <p><学習成果> 保育現場における障害児保育の課題や支援のあり方を考える力がつく。</p> <p><復習> 幼児の知的障害や身体障害にどんな福祉支援があるか書き出してみる。</p>
10 回	<p>8. 障害者福祉②</p> <p><講義> 知的障害の定義や程度を説明し、知的福祉制度の現状と課題を考えさせる。</p> <p>障害の三分類以外の、発達障害についても説明を加える。</p> <p><学習成果> 知的障害児や発達障害児とのつきあい方を学び応用力を養う。</p> <p>以外にも、集団生活に困難を来す子どもが多く、彼らとのとのつきあい方を学ぶ。</p> <p><予習> 子どもの発達に及ぼす大人（保育者）の関わり方の重要性について考えてみる。</p>
11 回	<p>9. ひとり親家庭の福祉・女性福祉</p> <p><講義> ひとり親家庭の現状を理解させ、円満な家庭の大切さを知らしめる。</p> <p>母子及び寡婦世帯への福祉施策について解説する。</p> <p>DV などによる要保護女性の福祉と、婦人相談所の現代的使命を解説する。</p> <p><学習成果> ひとり親になる原因は離婚が圧倒的に多く、ひとり親にならないような結婚の大切さを自覚する。ひとり親家庭の保育児童への留意点を学び愛着形成に資する。</p> <p><復習> DV 被害者の連れている児童は、被虐待児であることの根拠を学ぶ。</p> <p>ひとり親となる原因を少なくするために自分自身ができることは何かを考える。</p>
12 回	<p>10. 社会福祉援助技術</p> <p><講義> 社会福祉援助技術の種類とそれらの発展した歴史を説明し、社会福祉援助に関して援助者の役割と専門的技術の大切さを解説する。</p> <p><学習成果> 保育士として保護者支援に当たるとき、これらの援助技術が役立つ。</p> <p><予習復習> 今までのノートを読み直してみる。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 回	<p>11. 地域福祉</p> <p><講義> 地域における篤志家の慈善事業が源流であった地域福祉がどのような歩みで公的サービスとして日本に定着したかを解説する</p> <p><学習成果> 地域福祉は行政を支える住民の活動があって初めて実を結ぶことを知る。</p> <p><復習> 身近な地域にどんな住民参加型の福祉活動があるかを調べてみる。</p>
14 回	<p>12. 医療福祉</p> <p><講義> 医療福祉の概念説明をしながら、医療福祉の歴史を振り返り、現代社会にとってこの医療ケースワークの重要性を解説する。</p> <p><学習成果> 医療内容が高度化してくれば、それに平行して医療技術以外の医療サービスが必要になり、両者のバランスで患者と家族が安心して医療を受けられることを知る。</p>
15 回	<p><総復習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全 15 回の授業内容の要点を再度説明し、各章や單元ごとに質疑応答。 ・ 法制度、理念等授業中に指摘したポイント及びテストの出題傾向について説明。 ・ 提出物の漏れがないように再度チェックさせる。

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	相談援助	授業回数	15	単位数	1	担当教員	大賀恵子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : e-mail:ohga @owc. ac. jp、 OH: 金曜 5 限							
教育目標と学生の学習成果	教育目標 前期科目「保育相談の基礎」で学んだ内容の応用として、保育相談を実践する際のあり方をより具体的・実践的に理解する。具体的には、受講学生は以下の諸点に関する基礎的知識や能力を習得することである。 ①相談援助の概要について理解する。 ②相談援助の対象と展開過程（進め方）について理解する。 ③相談援助を実践するための基本的技術について理解する。 ④自立した保育者としての責務を果たすために必要な思考力、特に、論理的思考力や批判的思考力を身につける。						
	学生の学習成果 専門的学習成果：教育目標に掲げる①、②、③の項目に関する基礎的知識を習得する。 汎用的学習成果：教育目標に掲げる④の項目に関する能力を身につける。						
教育方法	授業の進め方	(講義・ 演習 ・実験・実習・実技) ・主にレジュメに基づいた講義形式で進める。 ・個人およびグループワークの演習を積極的に行っていくため、受講生は十分な目的意識を持って受講することを求める。					
	予習・復習	予習：毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 復習：毎授業回後に復習を求め、そのポイントを示す。					
	テキスト	・高玉和子（著）・和田上貴昭（著）『相談援助（保育者養成シリーズ）』一藝社、2012年。					
学習評価の方法	専門的学習成果 評価配分は 80 点であり、期末試験で測る。また 80 点は、以下に示した 3 つの専門的学習成果について、おおよそ同等の比重をかける。 ①相談援助の概要について理解する。 ②相談援助の対象と展開過程（進め方）を理解する。 ③相談援助を実践するための基本的技術について理解する。						
	汎用的学習成果 評価配分は 20 点であり、授業中に行う課題で測る。具体的には、自立した保育者としての責務を果たすために必要な論理的思考力や批判的思考力を習得するために、授業内容に応じた論述問題の課題を課す。						
注意事項	参考図書 ・小林育子・小舘静江・日高 洋子共著『保育者のための相談援助』萌文書林、2011 年。 ・吉田真理著『相談援助』青鞥社、2011 年。 ・岩間伸之『対人援助職のための相談面接技術 逐語で学ぶ 21 の技法』中央法規出版、2008 年。						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><オリエンテーション> 授業内容の概略・進め方・成績評価の方法を説明する。</p> <p><保育相談としての相談援助></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：「保育相談の基礎」で学んだ内容を振り返りながら、保育相談としての相談援助を学ぶための事前事項を示す。 ・学習成果：保育者のための相談援助を学ぶために最低限必要な心構えを自覚する。 ・予習事項：「保育相談の基礎」で学んだ内容を振り返っておく。
2 回	<p><相談援助の概要①></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：相談援助という仕事に関して、他職種の領域と比べながら、福祉・教育領域における相談援助の位置づけを説明する。 ・学習成果：福祉・教育領域における相談援助という仕事の位置づけを理解する。 ・予習事項：配布資料を熟読してくる。
3 回	<p><相談援助の概要②></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：相談援助に関して、その概念（定義）、機能、意義について概説する。 ・学習成果：福祉・教育領域における相談援助の概要を理解する。 ・予習事項：配布資料を熟読してくる。
4 ・ 5 回	<p><相談援助の概要③></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：ソーシャルワークに関して、その概念、種類、機能について概説し、ソーシャルワークの観点から相談援助の位置づけを示す。 ・学習成果：ソーシャルワークとしての相談援助について理解する。 ・予習事項：ソーシャルワークについて調べてくる。
6 回	<p><相談援助の方法と技術①></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：相談援助の対象に関して、対象を理解するための捉え方やアセスメントについて説明する。 ・学習成果：相談援助の対象を理解するための捉え方やアセスメントを理解する。 ・予習事項：配布資料を熟読してくる。
7 回	<p><相談援助の方法と技術②></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：相談援助の展開過程（進め方）に関して、その展開過程における各時期の特徴を概説する。 ・学習成果：相談援助の進め方をおおまかに理解する。 ・予習事項：配布資料を熟読してくる。
8 回	<p><相談援助の方法と技術③></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：相談援助におけるアセスメントのための具体的なツールを紹介した上で、アセスメントツールを使った課題を実施する。 ・学習成果：アセスメントのための具体的なツールを使用できる。 ・予習事項：授業で指示する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	<p><相談援助の方法と技術④></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：相談援助を実践する上での傾聴技術を学ぶために、行動レベルの傾聴技術（例、うなずき、相づち等）を紹介する。 ・学習成果：行動レベルの傾聴技術を知り、またその意義を理解する。 ・予習事項：“まずい” 聴き方や話し方は何かを考えてくる。
10 回	<p><相談援助の方法と技術⑤></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：相談援助を実践する上での傾聴技術を学ぶために、言語レベルの傾聴技術（例、質問、感情の反映等）を紹介する。それによって、その技術の意義を理解する。 ・学習成果：言語レベルの傾聴技術を知り、またその意義を理解する。 ・予習事項：“うまい” 聴き方や話し方は何かを考えてくる。
11 回	<p><相談援助の方法と技術⑥></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：授業8回目で学んだ傾聴技術を実践から検証するために、ロールプレイを実施する。 ・学習成果：ロールプレイでの体験から、自己課題を発見する。 ・予習事項：授業8回目で学んだ授業内容を振り返っておく。
12 ・ 13 回	<p><相談援助の方法と技術⑦></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：授業9回目で学んだ傾聴技術を実践から検証するために、ロールプレイを実施する。 ・学習成果：ロールプレイでの体験から、自己課題を発見する。 ・予習事項：授業9回目で学んだ授業内容を振り返っておく。
14 回	<p><相談援助の実際></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：架空事例「幼稚園から保育所に入園を希望するお母さんからの相談」を題材にして、これまでの授業で学んだ内容から相談援助の実際を理解する。 ・学習成果：相談援助の実際について理解する。 ・予習事項：これまでの授業で学んだ内容を振り返っておく。
15 回	<p><相談援助の実際></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：架空事例「言葉の発達を心配しているお母さんからの相談」を題材にして、これまでの授業で学んだ内容から相談援助の実際を理解する。 ・学習成果：相談援助の実際について理解する。 ・予習事項：これまでの授業で学んだ内容を振り返っておく。 <p><まとめ></p> <p>全15回の授業内容を振り返りと質疑応答を行う。また、期末試験についての説明を行う。</p>

平成30年度教育計画							
科目名	保育相談支援	授業回数	15	単位数	1	担当教員	井頭 久子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : igashira@owc.ac. OH 金曜日 9:10~17:00							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育相談支援の意義と原則について理解する。 2. 保護者支援の基本を理解する。 3. 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。 4. 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。 <p>学生の学習成果：</p> <p>専門的学習成果 保育現場の特性や保育士養成課程で学ぶ保育の内容を活用しながら、ソーシャルワーク的な関わりができるようにする。職業生活や社会生活でも必要なチームワーク、コミュニケーション能力として自己表現力、問題解決力、他者理解力を獲得する。</p> <p>汎用的学習成果 社会人・保育者としての責任を果たすために必要な倫理観、自己管理能力を獲得する。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育相談支援に必要な知識の習得は、講義形式で行う。内容によっては、演習を取り入れる。 ・実践的な対応技能の習得は、ロールプレイやグループワーク等の演習形式で行う。 ・必要に応じてカウンセリングの実施や演習レポートを書かせ、保育相談支援に関する習熟度を高める。※保育相談実践室で演習を行う。 	<p>予習・復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・毎授業回後に復習を求める。その際、提出課題とする場合がある。 	<p>テキスト</p> <p>演習 保育相談支援 小林育子著 2010 萌文書林</p>			
学習評価の方法	<p>以下の4点についてその獲得度を量的に評価する。その際、授業回数などを勘案し「①：②：③：④」=1：1：1：4の比重をかける。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①保育相談支援の意義と原則について理解する。 ②保護者支援の基本について理解する。 ③保育相談支援の実際を学び、内容や方法について理解する。 ④保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。 <p>なお、評価の実施は、授業で行う課題（演習点・演習レポート点、などの得点70%）及び学期末に行う定期試験（30%）の結果を総合して行う。演習ノートを提出させ実践的な対応技能の評価を行う。</p> <p>・汎用的学習成果は、社会人・保育者としての倫理観として授業態度（私語）遅刻などを考慮する。</p>						
注意事項	<p>参考図書等</p> <p>柏女霊峰・橋本真紀著：2011, 「保育相談支援」 ミネルヴァ書房</p> <p>吉田真理著：2011, 「保育相談支援」 青鞥社</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	「オリエンテーション」保育相談支援の意義と原則 1. 本講義の目的と進め方 2. 保育相談支援の意義と原則 (復習事項) シラバスの確認
2 回	「保育所の特性を生かした保育相談支援」 1. 保育学生と保育相談支援 2. 保育の特性と保育士の専門性を生かした支援 (予習事項) 保育相談支援の意義と原則について調べる。 (復習事項) 保育相談支援の意義と原則について理解する。
3 回	「保育相談支援の原則 (1)」 1. 子どもの最善の利益と福祉の重視 2. 保護者の養育力の向上 (予習事項) 子どもの最善の利益と福祉について調べる。 (復習事項) 子どもの最善の利益と福祉について理解する。
4 回	「保育相談支援の原則 (2)」 1. 守秘義務 2. 受容的なかかわり (予習事項) 保護者の話を聞くことについて調べる。 (復習事項) 守秘義務と受容的なかかわりについて理解する。
5 回	「保育相談支援の進め方」 1. より効果的な保育相談をするために (予習事項) 保護者の知識や気づきについて調べる。 (復習事項) 保護者の生活・行動特性を理解する。
6 回	「保育相談支援の実践」 1. 主訴・過去の経過・これまでの対応・アセスメント・関連機関との連携 2. 面接の技術 (予習事項) 基本的な信頼関係とは何かについて調べる。傾聴について調べる。 (復習事項) 受容的なかかわり、自己決定、アセスメントについて理解する。
7 回	「保育相談支援の事例と実際 (1)」 1. 保育に関する保護者に関する指導 事例 (アレルギーの問題) (予習事項) 傾聴について調べる。 (復習事項) 保育相談支援の技術と留意点について理解する。
8 回	「保育相談支援の事例と実際 (2)」 1. 保育に関する保護者に関する指導 (予習事項) 保護者への指導や指導について調べる。事例 (排泄のしつけ) (復習事項) 保育に関する保護者に関する指導について理解する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	<p>「保育相談支援の事例と実際（3）」</p> <p>1. 保護者支援の内容 (予習事項) 保育や養護を通じた支援について調べる。事例（発達に課題のある子ども） (復習事項) 特別なニーズをもつ子どもと保護者への支援について理解する。</p>
10 回	<p>「保育相談支援の事例と実際（4）」</p> <p>1. 保護者支援の方法と技術 (予習事項) ニーズ把握とは何かについて調べる。事例(子育て不安を持つ母親) (復習事項) 保護者支援の方法と技術について理解する。</p>
11 回	<p>「保育相談支援の事例と実際（5）」</p> <p>1. 保護者支援の計画、記録、カンファレンス (予習事項) 保護者支援の計画について調べる。事例（乱暴な子） (復習事項) 保護者支援の計画、記録、カンファレンスについて理解する。</p>
12 回	<p>「保育相談支援の事例と実際（6）」</p> <p>1. 保育所における保育相談支援の実際 (予習事項) 保育所利用者の相談事例について考える。事例（給食を食べない子） (復習事項) 連絡や通信による相談支援の事例について理解する。</p>
13 回	<p>「保育相談支援の事例と実際（7）」</p> <p>1. 保育所における特別な対応を要する家庭への支援 (予習事項) 児童虐待について調べる。事例（育児ノイローゼ） (復習事項) 虐待の種類と保護者支援について理解する。</p>
14 回	<p>「保育相談支援の技術を磨くために」</p> <p>1. 記録と評価・研修 (予習事項) 記録と評価・研修 (復習事項) ケース会議に提出する記録の書き方について理解する。</p>
15 回	<p>「児童福祉施設における保育相談支援」</p> <p>1. 保育所以外の障害児・障害者施設、母子生活支援施設等における保育相談支援 2. 本講義の総復習をする。</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	児童家庭福祉	授業回数	15	単位数	2	担当教員	松尾 冀
質問受付の方法 授業終了後受け付ける							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2 児童家庭福祉と保育・幼児教育との関連性及び児童の人権について理解する。 3 児童家庭福祉の法制度や実施体系等について理解する。 4 児童家庭福祉の現状と課題について、特に児童虐待防止への理解を深める。 5 児童家庭福祉で学んだ成果を、専門職としてだけでなく親として活かせる応用力を養う。 <p>学生の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門的学習成果：教育目標に掲げる 5 項目の児童家庭福祉の基礎的知識を修得する。 ・ 汎用的学習成果：「子どもの最善の利益」を尊重する精神と行動力を身につけると同時に、保育者にふさわしい支援技術と態度を身につける。 						
	教育方法	授業の進め方	<p>(講義)・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的にはテキストを中心に授業を進めていく ・ 児童虐待等の社会問題にも関心を深めていくように、新聞記事等をテーマに適時意見交換等の参加型授業を行う。 ・ 授業時間外に取り組むレポート(新聞の切抜きとコメント)を課す。 				
		予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予習：次週の単元を示し、「授業回数別教育内容」に沿った予習を求め、課題意識を持って授業に臨ませる。 ・ 復習：主として、小テストにて重要な用語の理解を深める。 				
	テキスト	松井敬三・小倉毅 編著「児童家庭福祉(第3版)」大学教育出版					
学習評価の方法	<p>以下の 5 つの学習成果について期末テストで評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 ・ 児童家庭福祉と保育・幼児教育との関連性及び児童の人権について理解する。 ・ 児童家庭福祉の法制度や実施体系等について理解する。 ・ 児童家庭福祉の現状と課題について、特に児童虐待防止への理解を深める。 ・ 現代社会における児童家庭福祉の動向と展望について理解する。 <p>*親や子どものお手本となるべき、教育者として身につけるべきマナーを大切にする。</p> <p>学習評価は①小テスト 16 点(授業態度、私語雑音・居眠り・遅刻などを加味する) ②課題 16 点(スクラップシートのレイアウトとコメント内容) ③期末試験 68 点、①+②+③=合計 100 点</p>						
注意事項	<p>参考図書等： 他の授業で使用の、福祉関係法令の解説書類は、本授業でも有用である。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><オリエンテーション> 自己紹介、本講義の目的と進め方、スケジュール、学習評価方法について説明する。</p> <p><児童家庭福祉の意義とその歴史の変遷></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容：児童家庭福祉の基本理念である子どもの最善の利益を尊重する歴史を説明し、保育士の担う役割の大切さを伝える。 ・学習成果：「子どもの最善の利益」という視点を常に自覚した判断力を身に付ける。 ・時間内課題：シャトルカードに受講の心構えと自分が理想とする将来の保育士像を。
2 回	<p><現代社会における児童家庭福祉の諸問題を考えよう>（第1章）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容：現代社会が抱える児童家庭問題として、少子化による将来への不安や子どもの貧困や子どもの虐待問題があり、児童の権利と親の権利及び親が幸せであって初めて子どもの幸せがあることを理解させる。 ・学習成果：子どもの福祉を親や家族の福祉と一体で考えることの大切さを認識する。 ・課外学習：子どもの福祉に関する新聞記事を切り抜き、コメントを加え提出する。
3 回	<p><児童福祉諸制度の歴史と背景を理解しよう>（第2章）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容：欧米における児童の福祉や権利擁護の歴史と、日本における児童観の移り変わりについて解説する。 ・学習成果：日本における諸制度から、日本は子どもを大切にす国であった歴史を知る。 ・予習事項：各自の郷里で活躍した「児童福祉関係者」を調べておく。
4 回	<p><児童家庭福祉の理念と仕組み、貢献した人々について>（第3章）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容：日本の児童福祉向上に貢献した先人の業績を説明し、現代の我々がそれを引き継ぎどのように発展させたいかを考えさせる。 ・学習成果：児童福祉の基本が子どもへの愛情に他ならないことに気付く。 ・復習事項：日本の児童福祉の先人の業績を、分野ごとに整理して覚えておく。 ・予習事項：テキスト第4章1節2節を読んでおく。
5 回	<p><児童家庭福祉の法体系と福祉行政機関のいろいろ>（第4章①）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容：児童福祉に関係する様々な法例の制定と改正の背景について解説し、福祉行政機関の権限と役割を説明する。 ・学習成果：児童福祉法の理念を理解し、保育現場で理念に沿った実践力を身に付ける。 ・復習事項：児童福祉の行政機関や実施機関具体的役割を整理し理解を深める。
6 回	<p><児童福祉施設入所の手順と施設生活の概要>（第4章②）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容：児童福祉施設の種類と役割を解説し、入所利用の手順を説明する。 また、児童福祉施設での生活実態から施設の課題とあり方を考えさせる。 ・学習成果：施設の役割を理解し、施設職員のあり方について自覚を高めることができる。 ・復習事項：社会的養護の意義をすることで、家庭養護の大切さを再認識する。 ・予習事項：児童虐待のニュースに関心を注ぎ、なぜ虐待が多発するか考えてみる。
7 回	<p><児童虐待の現状と子育て支援体制について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容：11月は児童虐待防止月間である。児童虐待の予防と早期対応及びアフタケアのあり方など、保育現場での留意点について解説する。 ・学習効果：保育現場で虐待を発見した場合、保育士としての的確に対応する力が育つ。 ・復習事項：児童虐待の新聞記事を切り抜き、コメントを添えて提出する。
8 回	<p><保育対策及び少子化対策の現状と課題>（第5章①）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容：現代の家庭養育及び少子化の現状を解説し、保育指針に示された保育所の役割と現代的意義について考えさせる。 ・学習成果：少子化対策と保育機能を充実させることが深く関わることの理解を深める。 ・復習事項：少子化の原因について、自分の人生設計と関係づけて考察してみる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	<p><障害児福祉及び児童自立支援対策の現状と課題> (第5章②)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容：子どもの発達と障害の原因及び保育現場での対応のあり方を考え、心身障害児施策の変遷とサービス提供上の留意点について解説する。 ・学習成果：障害の内容によって適切な対応のあり方が異なることを学ぶ。 ・復習事項：障害児が社会的自立するには、どのような幼児体験が大切かを考える。
10 回	<p><母子保健対策・母子寡婦対策の現状と課題> (第5章③)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容：子どもの福祉は出産してからではなく、胎児の時から始まっている。妊婦健診・乳幼児健診などの早期からの支援態勢の大切さを伝える。 ・学習成果：母子世帯の現況と背景及びひとり親家庭への自立支援策を学ぶ。 ・復習事項：結婚離婚の子どもへの影響を考え、自分の結婚生活プランを立てる。 ・予習事項：児童福祉の関係機関にはどんなものがあるか調べてみる。
11 回	<p><児童家庭福祉諸機関における専門職の役割と連携のあり方> (第6章)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容：児童福祉関係機関における専門職種と資格及びその役割について説明し、同職者連携と異職種間連携のあり方を保育士として具体的に考えさせる。 ・学習成果：現場で困難に直面したとき、一人で悩まず連携し解決に当たる智恵を養う。 ・復習事項：保育士が子どもの問題で連携する機関にはどんなものがあるか整理してみる。
12 回	<p><児童相談所の役割及び職員の資格と職務> (第7章①)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容：児童福祉法における児童相談所の位置づけを法令に基づき説明し、そこで働く職員の職種・資格・責務について解説する。 ・学習成果：児童福祉の中核機関としての児童相談所の活用方法が理解できる。 ・予習事項：児童福祉施設現状と最低基準の大切さについて実習を振り返る。
13 回	<p><児童虐待防止に向けて保育者の果たす役割> (第7章②)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容：児童虐待で施設入所となる子どもたちの安心と安全を保障するために、保育士等の職員はどうあるべきかを具体例を交えて解説する。 ・学習成果：保育現場での被虐待児への治療的かわりの大切さを自覚する。 ・復習事項：子育てに悩む保護者の相談に寄り添う保育士としての留意点を整理してみる。
14 回	<p><21世紀の児童家庭福祉・子育て支援のあり方> (第7章③)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容：次世代育成支援施策と、保育士には単に子どもにだけでなく、保護者に対しても、良き相談相手としての役割が期待されていることを理解させる。 ・学習成果：保育士としての責任の重大性を自覚する。
15 回	<p><まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容：期末考査に向けて、今までにノートした内容を追いながら、重要事項を再度確認させる。 ・学習成果：児童福祉の理念における児童の最善の利益とは、児童の発達保障こそが「子どもとして成長する権利に他ならない」と理解する。 ・予習事項：ノートの読み直し。 ・復習事項：保育者・幼児教育者としての資質向上を目指して、立派な保育者になると同時に、良い家庭を築き、いい親になるよう努力を続けること。この授業で学んだテキストやノートは、今後のお仕事で役立ててもらいたい。しかし、法制度等は刻々と変化するので、社会の動向に関心を持ち続けることが必要です。

平成30年度教育計画							
科目名	保育者論	授業回数	15	単位数	2	担当教員	都田 修兵
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : stsuda@yahoo.co.jp、OH:土曜日2限目							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標</p> <p>本科目は、保育士資格取得における「保育の本質・目的に関する科目」の一つである。本科目では、保育士の役割や倫理や制度的位置づけ、専門性、協働、専門職的成長に関する基本的原理や理念、知識を修得することを目標とする。</p> <p>学生の学習成果</p> <p>専門的学習成果：教育目標に掲げる保育の基礎的知識を修得するとともに、保育に関連するタームを理解して使用できるようにする。</p> <p>汎用的学習成果：保育者にふさわしい自律性を涵養する。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主として講義形式による。 ・受講者の理解を促進させるため、講義中に小テストを課す。 ・授業時間外に取り組むレポートを課す。 <p>予習事項</p> <p>毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。</p> <p>復習事項</p> <p>毎授業回後に復習を求める。その際、レポートとする場合がある。</p> <p>※復習でわからないことがあった学生には、OHなどを利用しながら、学習成果を高める援助を行う。</p> <p>テキスト</p> <p>児童育成協会監修・矢藤誠慈郎ほか編集『第2版 保育者論』(基本保育シリーズ7)、中央法規、2017(初版2015)。</p>					
学習評価の方法	<p>以下の5つの学習成果によって評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 保育の意義について理解する。 ② 保育士の制度的な位置づけを理解する。 ③ 保育士の専門性と倫理について考察し、理解する。 ④ 保育者の協働と専門職としての成長について理解する。 ⑤ 保育に関連するタームを理解して使用する。 <p>学習評価は、小テスト(20点)、期末試験(80点)により実施する。</p> <p>※受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、ケースに応じて減点(1~5点を目安とする)する。</p>						
注意事項	<p>参考図書等</p> <p>池田修『教師になるということ』ひまわり社、2007。</p> <p>汐見稔幸編『子どもにかかわる仕事』岩波ジュニア新書、2011。</p> <p>民秋言編著『改訂 保育者論〔第3版〕』建帛社、2015(初版2000)。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><オリエンテーション、保育者の役割></p> <p>○本時の目標 本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、保育者の役割や専門性について関連法規や事例をもとに考え、それらについて理解する。</p> <p>○本時の活動 ・オリエンテーション 授業の進め方、スケジュール、学習評価の方法について説明する。 ・テキスト第1講 (pp. 1-12) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 保育者の役割や専門性について、関連法規や事例から理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育者の役割や専門性について整理する。</p>
2 回	<p><保育者の倫理></p> <p>○本時の目標 保育者の専門的倫理の概念や必要性、法律との違いについて確認しつつ、「全国保育士会倫理綱領」などをもとに、保育者に必要な専門的倫理の内容を理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第2講 (pp. 13-24) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 保育者の専門的倫理の内容について、概念や必要性、法律などをもとに理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：保育者の専門的倫理について「全国保育士会倫理綱領」などをもとに整理してみる。</p>
3 回	<p><保育者の資格と責務></p> <p>○本時の目標 保育者が「保育」という仕事が法的・制度的にどのようなものとして位置づけられているのか関連法令などをもとに確認し、保育者の資格や責務について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第3講 (pp. 25-38) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 保育者の法的・制度的位置づけ、保育者の資格や責務を理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育者の位置づけや資格、責務について確認する。 <保育者の倫理>と今回の内容をテキストやノートを見ながら整理し、小テストに向けて準備する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
4 回	<p><養護と教育></p> <p>○本時の目標 『保育所保育指針』や幼稚園での「教育」について学習することによって、「保育」が「養護」と「教育」が一体的に実践されるものであることを理解する。</p> <p>○本時の活動 ・小テスト(第1回): <保育者の倫理><保育者の資格と責務>に関する内容のテスト。 ・テキスト第4講(pp. 39-50)で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 保育所(園)において実践される「保育」は、「養護」と「教育」が一体的に実践されるものであることを理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項: テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項: 「保育」が「養護」と「教育」の一体的なものであることをテキストやノートを見ながら整理する。</p>
5 回	<p><保育者の資質と能力></p> <p>○本時の目標 保育者に求められる資質や能力について、保育の対象やチームワーク、協働性などの要素について学ぶことを通して理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第5講(pp. 51-62)で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 保育者に求められる資質や能力について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項: テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項: テキストやノートを見ながら、保育者に求められる資質や能力について整理してみる。</p>
6 回	<p><専門的な知識・技術・判断></p> <p>○本時の目標 保育者にとっての専門的な知識・技術・判断とはどのようなものであるかを確認し、これらについて考え、理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第6講(pp. 63-74)で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 保育者にとっての専門的な知識・技術・判断について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項: テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項: テキストやノートを見ながら、保育者にとっての専門的な知識・技術・判断について確認する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
7 回	<p><保育の省察></p> <p>○本時の目標 保育者は常に「成長し続ける存在」であり、そのためには自らの保育実践に「省察」が必要であることを確認し、制度的な視点などから保育者の「省察」について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第7講（pp. 75-88）で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 「省察」そのものについて理解しているとともに、それが保育者にとってどのような意味をもつのかを理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、「省察」と保育者の関係について整理する。</p>
8 回	<p><保育の全体的な計画にかかわる保育者の専門性></p> <p>○本時の目標 保育の全体的な計画の意義と目的を確認し、PDCA サイクル（計画・実行・改善・評価）という保育のプロセスにおいて、保育者に求められる専門性を学ぶ。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第8講（pp. 89-100）で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 保育の全体的な計画の意義と目的、保育者に求められる専門性について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育の全体的な計画の意義と目的を整理し、保育者に求められる専門性についてさらに考えてみる。</p>
9 回	<p><保育者の専門性と自己評価></p> <p>○本時の目標 保育者にとって重要となるものが「自己評価」であることを確認し、「評価」そのものについての学びを通して、保育者の専門性及び保育の質向上に資する評価について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第9講（pp. 101-112）で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 保育者の専門性及び保育の質向上に資する評価について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育者の専門性及び保育の質向上に資する評価について整理する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
10 回	<p><園での協働></p> <p>○本時の目標 保育者は保育園や幼稚園などの「組織」の一員として働いているため、保育そのものはチームプレイであり、職員の協働性や協力体制、連携の必要性について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第10講 (pp. 113-126) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 保育そのものがチームプレイであり、職員の協働性や協力体制、連携の必要があることを理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育者にとっての「協働」について考えてみる。</p>
11 回	<p><専門機関との連携></p> <p>○本時の目標 保育現場における医療・保健機関や療育機関と連絡を取りあい、情報を伝えあうことの必要性について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・<u>小テスト (第2回)</u>：<保育の省察><保育の全体的な計画にかかわる保育者の専門性><保育者の専門性と自己評価>の内容に関するテスト。 ・テキスト第11講 (pp. 127-138) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 保育現場にとって医療・保健機関や療育機関との連携の必要性について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、医療・保健機関や療育機関との連携について自分なりにまとめる。</p>
12 回	<p><保護者および地域社会との協働></p> <p>○本時の目標 保育現場における保護者および地域社会との協働がどのようなものであるかについて、具体的レベルで理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第12講 (pp. 139-150) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 保育現場における保護者および地域社会との協働について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育現場における協働について整理する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 回	<p><家庭的保育者等との連携></p> <p>○本時の目標 家庭のニーズ対応できる保育制度の選択肢の1つとして期待されている「家庭的保育」の概要や連携について理解することを通して、現代における保育現場の現状について学ぶ。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第13講 (pp. 151-162) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 「家庭的保育」の概要や連携について理解することを通して、現代における保育現場の現状について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、現代における保育現場の現状について整理する。</p>
14 回	<p><保育者の専門性の発達></p> <p>○本時の目標 『保育所保育指針』に示されている専門性などをふまえながら。保育者の専門性の発達の道筋について考え、代表的な保育者の発達段階モデルと発達を促す要因について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第14講 (pp. 163-174) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 代表的な保育者の発達段階モデルと発達を促す要因について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育者の発達段階モデルと発達を促す要因について整理する。</p>
15 回	<p><保育者のキャリア形成、総括></p> <p>○本時の目標 保育者のキャリア形成について、これまで学習してきた「保育者の専門性」などから考えてみる。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第15講 (pp. 176-186) で解説する。 ・期末試験に向けた授業内容の振り返りを行う。</p> <p>○本時の学習成果 保育者のキャリア形成について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容を整理するとともに、これまでの授業内容の整理を行いながら、期末試験に備える。</p>

平成30年度教育計画							
科目名	保育原理 I	授業回数	15	単位数	2	担当教員	都田 修兵
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : stsuda@owc.ac.jp、OH:土曜日2限目							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標</p> <p>本科目では、「保育者論」での学びを基礎として、実践的指導力のある保育者を育成するため、「保育」の意義や保育の思想と制度、『保育所保育指針』をはじめとした保育内容、保育方法、保育課程（主として指導計画）、保育に関する現状や課題についての基礎的知識の定着及び能力の形成を形成する。</p> <p>学生の学習成果</p> <p>専門的学習成果：教育目標に掲げる保育の基礎的知識を修得するとともに、保育に関連するタームを理解して使用できるようにする。</p> <p>汎用的学習成果：保育者にふさわしくない言動を知り、そうしないように努力する力を涵養する。</p>						
	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主として講義形式による。 ・受講者の理解を促進させるため、講義中に小テストを課す。 					
教育方法	予習・復習	<p>予習事項： 毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。</p> <p>復習事項： 毎授業回後に復習を求める。その際、レポートとする場合がある。 ※復習でわからないことがあった学生には、OHなどを利用しながら、学習成果を高める援助を行う。</p>					
	テキスト	<p>児童育成協会監修・天野珠路ほか編集『第2版 保育原理』（基本保育シリーズ1）、中央法規、2017（初版2015）。</p>					
学習評価の方法	<p>以下の7つの学習成果についてその獲得度合を量的に評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 保育の意義を理解する。 ② 保育の思想と制度の歴史を理解する。 ③ 保育所保育指針の内容を理解する。 ④ 保育の方法、とくに環境の諸要素を理解する。 ⑤ 保育課程の根拠を知り、適切な指導計画を作成する基礎的な力を身につける。 ⑥ 保育に関する現状と課題について理解する。 <p>⑥ 保育に関連するタームを理解して使用する。</p> <p>学習評価は、小テスト（10点）、漢字テスト（10点）、課題（10点）及び期末試験（70点）により実施する。</p> <p>※受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、ケースに応じて減点（1～5点を目安とする）する。</p>						
注意事項	<p>参考図書等</p> <p>池田隆英ほか編著『改訂 なぜからはじめる保育原理』建帛社、2016（初版2011）。</p> <p>神蔵幸子ほか編『生活事例からはじめる保育原理』青踏社、2015。</p> <p>児童育成協会監修・矢藤誠慈郎ほか編集『第2版 保育者論』（基本保育シリーズ7）、中央法規、2017（初版2015）。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容

1 回	<p><オリエンテーション、保育の理念と概念></p> <p>○本時の目標 本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、そもそも「保育」とは何か、その意義や役割についての学びを通して、保育の基盤を成す理念や概念について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・オリエンテーション 講義内容 授業の進め方、スケジュール、学習評価の方法 ・テキスト第1講 (pp. 1-12) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 「保育」そのものについて、そしてその意義や役割についてを学ぶことを通して、保育の基盤を成す理念や概念を理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育の基盤を成す理念や概念を整理する。</p>
2 回	<p><保育の社会的役割と責任></p> <p>○本時の目標 保育所等に求められる社会的責任について、法律や制度に着目しつつ学び、保育が果たす社会的な意義や役割について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第2講 (pp. 13-24) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 保育が果たす社会的な意義や役割について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育が果たす社会的な意義や役割について整理する。</p>
3 回	<p><保育の制度的位置づけ></p> <p>○本時の目標 保育を成立される法律や保育制度について学ぶとともに、子育て支援に関する法律や制度についても学ぶことを通して、保育の制度的位置づけについて理解する。</p> <p>○本時の活動 ・漢字テスト：保育に関係する漢字についてのテスト。 ・テキスト第3講 (pp. 25-36) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 保育や子育て支援に関する法律や制度を学び、保育の制度的位置づけについて理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：保育に関係する言葉が漢字で書けるように練習する。 テキストやノートを見ながら、保育の制度的位置づけについて理解する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
4 回	<p>< 保育所保育指針に基づく保育 ></p> <p>○本時の目標 日本における保育の指針である『保育所保育指針』について、その内容や制度的位置づけについて理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第4講 (pp. 37-54) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 『保育所保育指針』について、その内容や制度的位置づけについて理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、『保育所保育指針』について、その内容や制度的位置づけについて整理する。</p>
5 回	<p>< 3歳未満児の保育 ></p> <p>○本時の目標 3歳未満児の発達過程や保育の基本を学び、『保育所保育指針』に示されている乳児保育及び1歳児以上3歳未満児の保育の内容を理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第5講 (pp. 55-66) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 乳児保育及び1歳児以上3歳未満児の保育の内容を理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノート、『保育所保育指針』を見ながら、乳児保育及び1歳児以上3歳未満児の保育の内容について整理する。</p>
6 回	<p>< 3歳以上児の保育 ></p> <p>○本時の目標 3歳以上児の発達過程や保育の基本を学び、『保育所保育指針』や『幼稚園教育要領』などに示されている3歳以上児の保育の内容を理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第6講 (pp. 67-78) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 3歳以上児の保育の内容を理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートなどを見ながら、3歳以上児の保育の内容を整理する。 < 3歳未満児の保育 >と今回の内容をテキストやノートを見ながら整理し、小テストに向けて準備する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

7 回	<p><子育て支援と家庭の連携></p> <p>○本時の目標 近年の保育をめぐる現状をおさえながら、子ども・子育て支援制度の拡大などを理解し、家庭や地域の専門機関などどのように連携を図るのかについて学ぶ。</p> <p>○本時の活動 ・<u>小テスト</u>：<3歳未満児の保育><3歳以上児の保育>の内容に関するテスト。 ・テキスト第7講（pp. 79-90）で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 子ども・子育て支援制度の拡大などを理解し、家庭や地域の専門機関などどのように連携を図るのかについて理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、家庭や地域の専門機関などどのように連携を図るのかについて整理する。</p>
8 回	<p><保育の目標と方法></p> <p>○本時の目標 『保育所保育指針』を手がかりとして、小学校以降の「学び」と乳幼児期の「遊び」の関係などの検討を通して、乳幼児期にとっての「遊び」の意味や保育の目標と方法について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第8講（pp. 91-102）で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 乳幼児期にとっての「遊び」の意味や保育の目標と方法について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、乳幼児期にとっての「遊び」の意味や保育の目標と方法について整理する。</p>
9 回	<p><保育の計画・実践及び評価></p> <p>○本時の目標 保育に関する計画の仕組みについて学ぶことを通して、保育の道すじを捉えながら子どもの成長を見つけていくことの重要性を理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第9講（pp. 103-114）で解説する。 ・<u>課題</u>：保育指導案の作成。</p> <p>○本時の学習成果 保育に関する計画の仕組みを理解し、保育の道すじを捉えながら子どもの成長を見つけていくことの重要性について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育に関する計画の仕組みや保育の道すじを捉えながら子どもの成長を見つけていくことの重要性について整理する。</p>

10 回	<p><諸外国の保育の思想と歴史①></p> <p>○本時の目標 諸外国の保育の思想と歴史（ルソー、ペスタロッチー、フレーベルなど）を学び、現代の保育の基本理念に関する理解を深める。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第10講（pp. 115-126）で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 諸外国の保育の思想と歴史（ルソー、ペスタロッチー、フレーベルなど）を学び、現代の保育の基本理念に関する理解を深めている。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 テキストに出てくる人物について調べてくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の授業内容を整理する。</p>
11 回	<p><諸外国の保育の思想と歴史②></p> <p>○本時の目標 諸外国の保育の思想と歴史（エレン・ケイ、デューイ、モンテッソーリなど）を学び、現代の保育の基本理念に関する理解を深める。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第11講（pp. 127-138）で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 諸外国の保育の思想と歴史（エレン・ケイ、デューイ、モンテッソーリなど）を学び、現代の保育の基本理念に関する理解を深めている。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 テキストに出てくる人物について調べてくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の授業内容を整理する。</p>
12 回	<p><日本の保育の思想と歴史①></p> <p>○本時の目標 日本の教育あるいは保育の思想と歴史、子育ての思想、施設保育の始まりについて学び、現代の日本の保育に関して理解を深める。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第12講（pp. 139-150）で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 日本の教育あるいは保育の思想と歴史、子育ての思想、施設保育の始まりについて学び、現代の日本の保育に関して理解を深めている。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、日本の教育あるいは保育の思想と歴史、子育ての思想、施設保育の始まりについて整理し、現代の日本の保育と関連づけて考えてみる。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

<p>13 回</p>	<p><日本の保育の思想と歴史②> ○本時の目標 倉橋惣二や及川平治らの思想、戦前戦後の日本の保育を学び、現代の日本の保育に関して理解を深める。 ○本時の活動 ・テキスト第13講 (pp. 151-162) で解説する。 ○本時の学習成果 倉橋惣二や及川平治らの思想、戦前戦後の日本の保育を学び、現代の日本の保育に関して理解を深めている。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 テキストに出てくる人物について調べてくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、倉橋惣二や及川平治らの思想、戦前戦後の日本の保育について整理し、現代の日本の保育と関連づけて考えてみる。</p>
<p>14 回</p>	<p><諸外国の保育の現状と課題> ○本時の目標 諸外国の保育の現状と課題に目を向けながら、「保育」の原理原則について共通に大切にされていることなどを考え、よりよい「保育」の実現に向けて考える。 ○本時の活動 ・テキスト第14講 (pp. 163-174) で解説する。 ○本時の学習成果 「保育」の原理原則について共通に大切にされていることなどを考え、よりよい「保育」の実現に向けて考えている。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、よりよい「保育」の実現について考えてみる。</p>
<p>15 回</p>	<p><日本の保育の現状と課題、総括> ○本時の目標 日本の保育における今日的課題を整理し、よりよい保育制度の改革は、いかにすれば可能となるのかについて考えてみる。 ○本時の活動 ・テキスト第15講 (pp. 175-186) で解説する。 ・期末試験に向けた授業内容の振り返りを行う。 ○本時の学習成果 日本の保育における今日的課題を整理し、よりよい保育制度の改革は、いかにすれば可能となるのかについて考えている。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容を整理するとともに、これまでの授業内容の整理を行いながら、期末試験に備える。</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	保育原理Ⅱ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	都田 修兵
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : stsuda@owc.ac.jp、OH:土曜日 2 限目							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標</p> <p>保育原理Ⅰの講義内容を土台として、主に保育所保育における実践力をつけるため、以下の目標を掲げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育課程に関する歴史及び現代の課題を知る。 2 子どもの理解に基づく指導計画の意義を理解し、作成のポイントを知る。 3 年齢や環境に応じた短期指導計画の作成・評価・改善を行う力を身に付ける。 <p>学生の学習成果</p> <p>専門的学習成果：教育目標に掲げる3項目の知識や遂行する能力の獲得を目指す。</p> <p>汎用的学習成果：保育者にふさわしくない言動を知り、そうしないように努力する力を涵養する。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義)・演習・実験・実習・実技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識の伝授は講義形式による。 ・受講者の指導案作成能力を高めるため、授業時間内外で指導案を作成させる。 	<p>予習事項：</p> <p>授業外に取り組む課題として、指導案の作成を求める。</p> <p>復習事項：</p> <p>毎授業回後に復習を求める。その際、レポートとする場合がある。</p> <p>※復習でわからないことがあった学生には、OHなどを利用しながら、学習成果を高める援助を行う。</p>	<p>テキスト</p> <p>使用しない。</p>			
学習評価の方法	<p>以下の3つの学習成果についてその獲得度合を量的に評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 保育課程に関する歴史及び現代の課題を知る。 ② 子どもの理解に基づく指導計画の意義を理解し、作成のポイントを知る。 ③ 年齢や環境に応じた短期指導計画の作成・評価・改善を行う。 <p>学習評価は、指導案(50点)及び期末試験(50点)により実施する。</p> <p>※受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、ケースに応じて減点(1~5点を目安とする)する。</p>						
注意事項	<p>参考図書等</p> <p>開仁志編著『保育指導案大百科事典』一藝社、2012。</p> <p>片山紀子編著『保育実習・教育実習の設定保育——これではじめての実習も大丈夫』朱鷺書房、2007。</p> <p>師岡章編著『保育指導法——幼児のための保育・教育の方法』同文書院、2007。</p> <p>長島和代編『これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語』わかば社、2013。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容

1 回	<p><オリエンテーション、保育の思想と歴史①></p> <p>○本時の目標 本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、思想家（主として、ペスタロッチーとフレーベル）の思想について学ぶことを通して、「保育」そのものへの理解を深める。</p> <p>○本時の活動 ・オリエンテーション 講義内容、授業の進め方、スケジュール、学習評価の方法 ・ペスタロッチーやフレーベルの思想に触れる。</p> <p>○本時の学習成果 思想家（主として、ペスタロッチーとフレーベル）の思想について学びながら、自らの「保育」への理解を深めている。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：特になし。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、授業内で紹介した思想家の思想について整理する。</p>
2 回	<p><保育の思想と歴史②></p> <p>○本時の目標 前回に引き続き、思想家（主として、ペスタロッチーとフレーベル）の思想について学ぶことを通して、「保育」そのものへの理解を深める。</p> <p>○本時の活動 ・ペスタロッチーやフレーベルの思想に触れる。</p> <p>○本時の学習成果 思想家（主として、ペスタロッチーとフレーベル）の思想について学びながら、自らの「保育」への理解を深めている。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：ノートなどを確認してくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、授業内で紹介した思想家の思想について整理する。</p>
3 回	<p><『保育所保育指針』と保育計画、子ども理解①></p> <p>○本時の目標 現場における保育計画について学ぶとともに、実際の保育において「子ども理解」がなぜ重要となるのか、人間理解の4位相（生体、行為、意識、状況）なども踏まえながら学ぶ理解する。</p> <p>○本時の活動 ・『保育所保育指針』の全体像の把握と保育計画について学ぶ。 ・「子ども理解」について学ぶ。</p> <p>○本時の学習成果 保育計画について理解し、「子ども理解」について学んでいる。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：『保育所保育指針』を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、『保育所保育指針』の全体像と保育計画、「子ども理解」について整理する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
4 回	<p><保育指導案の理解、指導計画の立て方、保育指導案作成①></p> <p>○本時の目標 保育指導案に関して学び、実際の指導計画の立て方について理解する。さらに、指導案の構成要素（子どもの姿、ねらい、環境構成、子どもの活動と保育士の援助配慮）とそのポイントを確認し、実際に保育指導案を作成する。</p> <p>○本時の活動 実際の保育指導案で考えながら、保育指導案や指導計画の立て方について学ぶ。</p> <p>○本時の学習成果 保育指導案に関して学び、実際の指導計画の立て方について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：前回の内容をノートなどで確認してくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育指導案や指導計画の立て方について整理する。 ・課 題：<u>保育指導案作成①（2枚）</u>
5 回	<p><屋内（室内）遊びの指導①、保育指導案作成②></p> <p>○本時の目標 屋内遊びの指導について学ぶとともに、実際に保育指導案を作成する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋内遊びの指導について学ぶ。 ・保育指導案を作成する。 <p>○本時の学習成果 屋内遊びについて理解し、保育指導案の作成をしている。</p> <p>○予習及び復習事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：「保育原理Ⅰ」の内容などを確認してくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育指導案のポイントをおさえる。 ・課 題：<u>保育指導案作成②（2枚）</u>
6 回	<p><屋内（室内）遊びの指導②、保育指導案作成③></p> <p>○本時の目標 屋内遊びの指導についてさらに学びを深めるとともに、実際に保育指導案を作成する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋内遊びの指導について学ぶ。 ・保育指導案を作成する。 <p>○本時の学習成果 屋内遊びについて理解し、保育指導案の作成をしている。</p> <p>○予習及び復習事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：前回の内容を確認してくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、今回の内容を整理する。 ・課 題：<u>保育指導案作成③（2枚）</u>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

7 回	<p><屋外（室外）遊びの指導①、保育指導案作成④></p> <p>○本時の目標 屋外遊びの指導について学び、実際に保育指導案を作成する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋外遊びの指導について学ぶ。 ・保育指導案を作成する。 <p>○本時の学習成果 屋内遊びについて理解し、保育指導案の作成をしている。</p> <p>○予習及び復習事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：前回の内容を確認してくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、今回の内容を整理する。 ・課 題：<u>保育指導案作成④（2枚）</u>
8 回	<p><屋外（室外）遊びの指導②、保育指導案作成⑤></p> <p>○本時の目標 屋外遊びの指導についてさらに学びを深めるとともに、実際に保育指導案を作成する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋外遊びの指導について学ぶ。 ・保育指導案を作成する。 <p>○本時の学習成果 屋内遊びについて理解し、保育指導案の作成をしている。</p> <p>○予習及び復習事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：前回の内容を確認してくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、今回の内容を整理する。 ・課 題：<u>保育指導案作成⑤（2枚）</u>
9 回	<p><生活場面の指導①、保育指導案作成⑥></p> <p>○本時の目標 生活場面の指導について学び、実際に保育指導案を作成する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活場面の指導について学ぶ。 ・保育指導案を作成する。 <p>○本時の学習成果 生活場面の指導について理解し、保育指導案の作成をしている。</p> <p>○予習及び復習事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：前回の内容を確認してくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、今回の内容を整理する。 ・課 題：<u>保育指導案作成⑥（2枚）</u>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
10 回	<p><生活場面の指導②、保育指導案作成⑦></p> <p>○本時の目標 生活場面の指導についてさらに学びを深めるとともに、実際に保育指導案を作成する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活場面の指導について学ぶ。 ・保育指導案を作成する。 <p>○本時の学習成果 生活場面の指導について理解し、保育指導案の作成をしている。</p> <p>○予習及び復習事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：前回の内容を確認してくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、今回の内容を整理する。 ・課 題：<u>保育指導案作成⑦（2枚）</u>
11 回	<p><絵本の読み聞かせ指導①、保育指導案作成⑧></p> <p>○本時の目標 絵本の読み聞かせ指導について学び、実際に保育指導案を作成する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせ指導について学ぶ。 ・保育指導案を作成する。 <p>○本時の学習成果 絵本の読み聞かせ指導について理解し、保育指導案の作成をしている。</p> <p>○予習及び復習事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：前回の内容を確認してくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、今回の内容を整理する。 ・課 題：<u>保育指導案作成⑧（2枚）</u>
12 回	<p><絵本の読み聞かせ指導②、保育指導案作成⑨></p> <p>○本時の目標 絵本の読み聞かせ指導についてさらに学びを深めるとともに、実際に保育指導案を作成する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせ指導について学ぶ。 ・保育指導案を作成する。 <p>○本時の学習成果 絵本の読み聞かせ指導について理解し、保育指導案の作成をしている。</p> <p>○予習及び復習事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：前回の内容を確認してくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、今回の内容を整理する。 ・課 題：<u>保育指導案作成⑨（2枚）</u>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 回	<p><保育指導案と評価①、保育指導案作成⑩></p> <p>○本時の目標 保育を行う際には必ず「評価」が必要となってくる。「評価」について学びながら、保育現場での評価がどのようなものであるか理解する。さらに実際に保育指導案を作成する。</p> <p>○本時の活動 ・保育現場における「評価」について学ぶ。 ・保育指導案を作成する。</p> <p>○本時の学習成果 保育現場での評価がどのようなものであるか理解し、保育指導案の作成をしている。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：前回の内容を確認してくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、今回の内容を整理する。 ・課 題：<u>保育指導案作成⑩（2枚）</u></p>
14 回	<p><保育指導案と評価②、保育指導案作成⑪></p> <p>○本時の目標 「評価」についてさらに学びながら、保育現場での評価がどのようなものであるか理解する。さらに実際に保育指導案を作成する。</p> <p>○本時の活動 ・保育現場における「評価」について学ぶ。 ・保育指導案を作成する。</p> <p>○本時の学習成果 保育現場での評価がどのようなものであるか理解し、保育指導案の作成をしている。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：前回の内容を確認してくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、今回の内容を整理する。 ・課 題：<u>保育指導案作成⑪（2枚）</u></p>
15 回	<p><総括></p> <p>○本時の目標 これまでの授業内容を整理するとともに、「保育」そのものについて「保育者」という視点から再考する。</p> <p>○本時の活動 ・期末試験に向けた授業内容の振り返りを行う。</p> <p>○本時の学習成果 「保育」そのものについて「保育者」という視点から考えている。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：前回の内容を確認してくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容を整理するとともに、これまでの授業内容の整理を行いながら、期末試験に備える。</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	乳児保育	授業回数	15	単位数	2	担当教員	山本 婦佐江
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : B 3 0 7 研究室 fusae@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>保育所や乳児院で、乳児保育を担当する保育士として必要な理論や知識・技術の基本を、具体的な事例を通して理解させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「保育所保育指針」に基づき、乳児保育の基本を理解する。 2. 乳児各期の発達課題に即した援助のありようを考える。 3. 家庭や地域との連携、協働という文脈において考える。 4. 乳児の保育環境についてどう捉え、どう整えたらよいかを考える。 <p>学生の学習成果 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門的学習成果 : 将来乳幼児保育に関わるものとして、上記に掲げた乳児期の基礎的な知識と技術を獲得する。 ・ 汎用的学習成果 : 人格形成の基礎が培われる乳幼児のモデルとなるべき保育者を目指し、人となりを養成する。 						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的にはテキストやプリントを中心に進めていくが、適宜学習の理解を深めるために参考資料を配付する。 ・ ワークシートにより講義内容ごとにまとめ、大切なポイントを確認し、受講生の見解を問う。また、ビデオ視聴後は、レポートなどの形式により内容把握や感想を問う。 	<p>予習・復習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 上記の内容により、必要に応じて課題を投げかけ、感想や意見等を予習・復習として求める。 2. 所定の様式により提出をさせ、チェックする。 	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 加藤 敏子編著 富永 由佳 : 2011 「乳児保育 一人ひとりを大切に」 萌文書林 ・ プリント 「0 歳児の発達と保育者の配慮・援助のポイント」 「1 歳児・2 歳児の発達と保育者の援助のポイント」 			
学習評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上記 3 つの学習成果についてその獲得度合を量的に評価する。 2. 期末テストの成績 80% (試験の持ち込みはすべて不可) 3. 随時、課題・レポート提出 20% (提出期限厳守) 課題・レポートの内容が不適切で未熟な場合、減点とする。 4. 積極的な授業への参加、真摯な授業態度を重視する。 授業始めと終わりの挨拶励行、私語をしない、遅刻をしない等 受講態度に問題があった場合は、ケースに応じて減点する。 学習評価は、上記を総合して行う。 						
注意事項	<p>参考図書等 :</p> <p>志村 聡子編著 : 2009 「はじめて学ぶ乳児保育」 同文書院 田中真介監修 乳児保育研究会編書 : 2009 「発達がわかれば子どもが見える」 ぎょうせい</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><オリエンテーション> 本講義の目的と授業の進め方、シラバスについて理解する。</p> <p><乳児保育の現状と意義> ・学習のポイント：乳児保育の歴史を振り返り、子どもの育つ保育環境の変化や乳児保育の必要性さらに乳児保育の意義について学ぶ。また、保育者の役割について認識する。</p> <p>・復習：乳児保育の現状と意義についてポイントを確認しておく。 ・予習：①あかちゃんってどんなイメージか考えてくる。</p>
2 回	<p><あかちゃんの能力について> ・学習のポイント：DVD「あかちゃん このすばらしき生命」を視聴し、基本的な知識やイメージだけでなく、実際にはどんな能力があるのか認識する。</p> <p>・課題：視聴後、「あかちゃんの能力」について①②③を踏まえてレポートを書く。 ①視聴前のイメージ ②視聴後、感じたこと気づいたこと、 ③今後どう生かしていきたいか</p> <p>・復習：ワークシート①「乳児保育の現状と意義」のまとめをする。 ・予習：乳児保育テキスト 第3章 1 発達の特性・2 (1) 誕生～6か月未満を読む。</p>
3 回	<p><誕生～6か月未満の発達と保育> ・学習のポイント：資料「誕生～6か月未満までの発達の特性と保育者の援助のポイント」をもとに、1か月ごとの乳児の基本的な成長の変化や保育者の配慮・援助のポイントを理解する。 「0歳児の発達と保育者の配慮・援助のポイント」 資料(2)～(7) 乳児保育テキスト 第3章 1 発達の特性・2 (1) 誕生～6か月未満</p> <p>・予習、復習：ワークシート②「誕生～6か月未満」に 月齢・発達の特性・保育者の援助を書き提出。</p>
4 回	<p><誕生～6か月未満の発達と保育> ・学習のポイント：「泣く子の見分け方」について 資料をもとに、泣くことの原因や気をつけることなど様々な事例を分析し、対応の仕方を理解する。 ビデオ：「乳児保育の実際 前半」を視聴し 誕生～6か月未満の子どもの発達の様子を映像によってさらに理解を深める。</p> <p>・演習：グループで、「誕生～6か月未満」の発達の特性・保育者の援助について話し合い、表にまとめる。(1回目)</p> <p>・復習：「誕生～6か月未満」の発達の特性・保育者の援助の確認。 ・予習：乳児保育テキスト(2)「6か月～1歳3か月未満」を読む。</p>
5 回	<p><6か月～1歳3か月未満の発達と保育> ・学習のポイント：「6か月～1歳3か月未満までの発達の特性と保育者の援助のポイント」の資料をもとに、1か月ごとの乳児の基本的な成長の変化や保育者の配慮・援助のポイントを理解する。 「0歳児の発達と保育者の配慮・援助のポイント」 資料(8)～(14)</p> <p>・課題：ワークシート③「6か月～1歳3か月未満」に 月齢・発達の特性・保育者の援助を書き提出。</p> <p>・復習：「誕生～6か月未満」の発達の特性と援助の再確認をする。 ・予習：「はいはいの仕方」考えてみる。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
6 回	<p>< 6 か月～1歳3か月未満の発達と保育 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：「はいはいの発達」の資料をもとに はいはいの意味や発達過程を理解し、乳児の接し方の力をつける。 ビデオ：「乳児保育の実際 後半」を視聴し 6 か月～1歳3か月未満の子どもの発達の様子を映像によってさらに理解を深める。 乳児保育テキスト第3章2（3）1歳3か月～2歳未満を読む。 ・演習：グループで、「6か月～1歳3か月未満」の発達の特性・保育者の援助について話し合い、表にまとめる。（2回目） ・予習：食事の配慮と援助の仕方又は、紙おむつと布おむつの特徴について考えてくる。
7 回	<p>< 乳児期の食事・睡眠・排泄 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：「スプーンと箸について」の資料によって 基本的なスプーンや箸の持ち方を身につけ、さらに発達過程の経過についても理解を深める。また、食事のための環境づくりについて、食器の選び方や配膳方法を知り、理解する。 乳児保育テキスト第4章 1（1）食事（2）睡眠（3）排泄を読み確認する。 ・演習：ワークシート④に「スプーンや箸の持ち方、食器の選び方について」記入し提出。 乳児の手遊び・ふれあい遊び ・復習：「6か月から1歳3か月未満」の発達の特性・保育者の援助の確認。 ・予習：乳児保育テキスト「1歳3か月～2歳未満」を読む。
8 回	<p>< 1歳3か月～2歳未満の発達と保育 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：「1歳3か月～2歳未満までの発達の特性と保育者の援助のポイント」の資料をもとに、1歳3か月～2歳未満児の基本的な発達の特性と保育者の配慮・援助のポイントを理解する。 「1歳児の発達と保育者の配慮・援助のポイント」 資料（15） ・演習：ワークシート⑤「1歳～2歳未満」に 前半と後半に分けて発達の特性・保育者の援助を書き提出。 ：グループで「1歳～2歳未満」前半・後半に分けて、発達の特性・保育者の援助について話し合い、表にまとめる。（3回目） ・復習：手遊び・ふれあい遊びを発表する。 ・予習：子どものトラブルにはどんな事例があるか考えてくる。
9 回	<p>< 1歳3か月～2歳未満の発達と保育 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：ビデオ「遊びの中にみる1歳児」を視聴し 1歳児の子どもの発達の様子を、映像によってさらに理解を深める。 ・演習：グループで話し合い、「トラブルへの対応」について 事例をもとに分析し、発表する中で、基本的なトラブルへの対応の仕方を身につける。（4回目）「ひっかき・かみつきの対応」の資料 ・復習：「1歳3か月～2歳未満」の発達の特性・保育者の援助の確認。 ・予習：乳児保育テキスト「2歳～3歳未満」を読む。
10 回	<p>< 2歳～3歳未満の発達と保育 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：「2歳～3歳未満までの発達の特性と保育者の援助のポイント」の資料をもとに、2歳～3歳未満児の基本的な発達の特性と保育者の配慮・援助のポイントを理解する。 「2歳児の発達と保育者の配慮・援助のポイント」 資料（16） ・演習：ワークシート⑥「2歳～3歳未満」前半と後半に分けて発達の特性・保育者の援助を書き提出。 グループで「2歳～3歳未満」について話し合い、表にまとめる。（5回目） ・復習：「トラブルの対応について」確認（被害者・加害者・保護者・園として）。 ・予習：乳児保育テキストをもとに「指導計画にはどんなものがあるか」確認する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
11 回	<p><保育の計画と記録 ・ 着脱衣・清潔></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：乳児保育を行う上での計画の必要性，また、保育計画作成において保育者が行う援助や配慮の大切なポイントを学び、書き方のポイントを身につける。 ・演習：ワークシート⑦“エラー探し”をする。 ・復習：乳児保育テキスト「第4章 1（4）着脱衣（5）清潔を」読み確認する。
12 回	<p><場面事例から学ぶ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：ビデオ「やさしさの育つとき」を視聴し、様々な場面からの子どもへのかかわり方を学び、さらにグループで話し合いをし、相手の意見や気づきを共有する。 ・演習：ビデオ視聴後、ワークシート⑧ 場面ごとの事例をもとに子どもへのかかわり方や気づいたことをまとめる。 グループで話し合い報告する。（覚えた手遊びを入れて）（6回目） ・復習：各年齢の発達のとまとめの表に「0・1・2歳児保育の配慮事項」が書かれているか確認する。 ・予習：0、1、2歳児はどんな玩具があるか、考えてくる。
13 回	<p><乳児の玩具 ・ 遊び></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：乳児の玩具やあそびの種類を知り、その遊びの行為によって育つものは何かを理解する。さらに、乳児の遊びの意味について理解を深める。 ・課題：ワークシート⑨「あそび・遊び方・育つもの」を項目ごとにまとめる。 考えてきた玩具について発表し合い、どんな働き（育つもの）は何か考える。 ・演習：乳児の手遊び・ふれあい遊び ・宿題：実習園で0、1、2歳児クラスの玩具をみて書きとめる。（記入用紙）
14 回	<p><健康、安全管理 ・ 保育の環境></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：子どもの健やかな発達のためには、環境が重要であることで知り起こりやすい事故や対処方法、また事故防止対策などについて理解する。 そして様々な事例を分析し、共通点や基本的な対応の仕方を身につける。 乳児保育テキスト「第4章 3健康、安全管理」を読み確認する。 ・課題：ワークシート⑩「起こりやすい事故への対処方法」を表にまとめる。 ・予習：乳児保育テキストを見て、今までに学んだ乳児保育の現状と背景、保育のニーズ保育者の役割について確認する。
15 回	<p><乳児保育の今後の課題 ・ まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：近年、保育ニーズが複雑化しており、地域・他機関との連携・子育て支援などが必要とされている。その中で保育所の役割は大きく、保育者はより高い専門技術や資質が要求されているという意識をもつこと。 ～乳児保育で大切なこと～、また保育士の立ち位置について再確認する。 ・演習：実習園では子どもの発達についてはどうだったか？ どんな玩具があったか、環境や子ども同士のかかわりはどうだったか話し合う。

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	社会的養護	授業回数	15	単位数	2	担当教員	新田 満穂
質問受付： e-mail : jmpgh616@ybb.ne.jp							
教育目標	<p>[教育目標]、社会的養護、児童福祉の実践の場において、実践的指導力のある保育士を養成するため、理念、原理、現場の仕事の深みを身につける。以下の諸点に関し定着をはかり、より高い人間的資質や専門的資質について習得する。</p> <p>[教育課程の編成]</p> <p>1・現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する 2・社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する 3・社会的養護の制度や実施体系等について理解する 4・社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する 5・社会的養護の現状と課題について理解する</p> <p>[実施の方針及び学生の学習成果]</p> <p>教育目標に掲げる5項目の基礎知識を理解し、汎用的学習成果として、6・保育士にふさわしい言動を学び講義や演習の中で実践できる 7・自己表現、他者理解等人権について理解する。8、世の中の動き（マスコミュニケーション）にも関心を持たせる</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>[講義・演習・実験・実習・]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主に講義による ・ 発表の場の提供 <p>予習・復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎授業回前に予習を求める ・ 毎授業回後に復習を求める。レポートを提出させる場合がある <p>テキスト</p> <p>児童の福祉を考える 社会的養護 著者代表 吉田 真理 (株) 萌文書林</p>					
授業評価の方法	<p>上記の教育目標、学習成果について、1～8のその習得度合を量的に評価する。</p> <p>具体的に学習評価は①定期試験によるものと、 ②レポート〈小テスト〉により行う。 特に②については汎用的学習態度に重きを置くものである。教育課程1～5の各終了段階に応じて合わせて保育士の資質を意識化させるため問うものである</p> <p>試験〈1回〉80% レポート〈5回〉20%</p>						
注意事項	<p>参考図書等</p> <p>保育士のための演習ワークブック：青踏社・演習、社会的養護内容：萌文書林 新聞 TV等での日頃の情報もつかみながら授業に臨むこと 忘れ物をしないこと 遅刻、欠席のないようにすること</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	1・現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について学ぶ (1) 社会的養護の理念と概念 (2) 社会的養護の歴史の変遷 予習事項—2回講義内容
2 回	2・児童の権利擁護と社会的養護について学ぶ (1) 社会的養護と子どもの権利—児童養護の理念と援助者 (2) 施設保育士の心得—児童福祉施設の援助者の資質 (3) 施設養護の現代的課題—倫理の確立と権利擁護 予習事項—3回講義内容
3 回	3・児童家庭福祉の一分野としての社会的養護について学ぶ (1) 子どもが生活する場から—社会や家庭の役割 (2) 家庭の機能とは—家庭の役割 (3) 社会的養護を実施する場—児童養護の体系 予習事項—4回講義内容
4 回	4・社会的養護の原理Ⅰ 養育 日常生活支援について学ぶ (1) 施設養護における養育—範囲と内容 (2) 生活の規模—施設規模が養育方法に与える影響 予習事項—5回講義内容
5 回	5・社会的養護の原理Ⅱ 保護 自己実現に向けた支援について学ぶ (1) 家庭からの保護—親子関係の調整 (2) 外界からの保護—学校、地域からの関係調整 予習事項—6回講義内容
6 回	6・社会的養護の原理Ⅲ 子どもであることへの回復—治療的支援—について学ぶ (1) 虐待された子どもの理解と対応 (2) 心理療法担当職員との連携—施設内のチームワーク 予習事項—7回講義内容
7 回	7・社会的養護の原理Ⅳ 生活文化と生活力の習得—自立支援—について学ぶ (1) 施設で生活文化を伝える意味—日常生活の援助 (2) 生活力の習得—生活の自立に向けた援助 (3) 生活の中における専門性の発揮—相談援助の活用 予習事項—8回講義内容
8 回	8・社会的養護の原理Ⅴ 生命倫理の醸成—生と性の倫理—について学ぶ (1) 入所児童の生活環境と生命倫理観—援助者の生命倫理— (2) 専門職としての生命倫理—保育士を志す者への課題—予習事項—9回講義内容
9 回	9・社会的養護の制度と実施体系について学ぶ (1) 社会的養護の制度と法体系 (2) 社会的養護の専門職・実施者 (3) 社会的養護の仕組みと実施体系 予習事項—10回講義内容
10 回	10・施設養護の実際—基本原理とソーシャルワーク1—について学ぶ (1) 乳児院と児童養護施設 (2) 児童養護施設等入所児童の家庭状況 (3) 施設入所の経過と入所後の生活や親子関係 (4) 施設入所に至るプロセスと社会的養護の原理 予習事項—11回講義内容

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
11 回	11・施設養護の実際—基本原理とソーシャルワーク 2—について学ぶ (1) 障害児の入所施設 (2) 障害児施設入所児童の家庭状況 (3) 障害児の入所施設における養護 予習事項—12 回講義内容
12 回	12・施設養護の実際—基本原理とソーシャルワーク 3—について学ぶ (1) 社会に適応しづらい子どもの入所施設 (2) 児童自立支援施設等入所児童の家庭状況 (3) 社会に適応しづらい子どもの入所施設における養護予習事項—13 回講義内容
13 回	13・家庭的養護と施設養護について学ぶ (1) 里親の定義と種類 (2) 里親に委託される子どもの家庭状況 (3) 里親養護の特徴と社会的養護 (4) 里親の認定・登録・研修と里親の現状 (5) 里親ならではの悩み 予習事項—14 回講義内容
14 回	14・社会的養護の現状と課題について学ぶ (1) 施設等の運営管理—児童福祉施設のシステム (2) 倫理の確立 (3) 被措置児童等の虐待防止 予習事項—1 5 回講義内容
15 回	15・社会的養護の現状と課題を考える (1) 社会的養護と地域福祉 (2) これからの児童福祉施設援助者 (3) 振り返りとまとめ 予習事項—振り返り

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	障害児保育	授業回数	15	単位数	2	担当教員	鈴木 久子
質問受付の方法（在室時随時）M棟 409 室		e-mail:hsuzuki@owc.ac.jp					
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害児保育を支える理念や歴史の変遷を学び、障害児及びその保育について理解する。 2. 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ。 3. 障害のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子とのかかわりのなかで育ちあう保育実践について理解を深める。 4. 障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。 5. 障害のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。 <p>学生の学習成果：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門的学習成果 幼児一人一人の特性に応じ障害や発達の課題に即した個別指導を行う能力を獲得する。 2. 汎用的学習成果 保育者としての使命感や倫理観を身につけるとともに、他者とのコミュニケーションを円滑に行えるような人間関係力を構築する。 						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害児保育に必要な知識の習得は、講義形式で行う。 ・実践的な対応技能の習得は、演習形式で行う。 ・自ら学ぶ姿勢を身につけるため、予習や復習を奨励し、グループワークを行う。 <p>予習・復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・毎授業回後に復習を求める。その際、提出課題とする場合がある。 <p>テキスト</p> <p>藤永保 監修「障害児保育」萌文書林 2015 年</p>					
学習評価の方法	<p>以下の5つの学習成果についておよそ等分にその獲得度合を評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 障害児及びその保育について理解する。 ② 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について理解する。 ③ 障害のある子どもの保育計画を作成し、個別支援及び他の子との関わりの中で育ちあう保育実践について理解を深める。 ④ 保護者への支援や関係機関との連携について理解する。 ⑤ 社会人として他者と関わる際に求められるコミュニケーション能力を高める。 <p>評価は、課題、小テスト（30 点）、及び期末試験（70 点）により実施する。受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、ケースに応じて減点する。</p>						
注意事項	<p>参考図書等</p> <p>森 哲弥 障害児教育&遊びシリーズ ⑦障害児の遊びと手仕事 黎明書房、2001 年</p> <p>七木田 敦編著 「キーワードで学ぶ障害児保育入門」 保育出版社 2008 年</p> <p>佐々木正美 監修 「発達障害のある子が楽しめるあんしん遊び」 すばる舎</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><オリエンテーション></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 授業の進め方、学習予定、学習評価の方法について説明する。 <p><障害児保育とは></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 障害の捉え方と障害児保育の歴史について概説する。障害のある子どもない子どもともに発達していく保育のあり方を探っていくことを伝える。 ・学習成果 障害児保育は、特別な支援を必要とする乳幼児のための保育であること、子どもの「困り感」を理解し、支援していくことであることを知る。 ・予習事項 テキスト第3章 肢体不自由児、視覚・聴覚障害児の理解と支援を読む。復習として、第1章2章を読む。
2 回	<p><障害の理解と保育における発達の支援（1）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 肢体不自由児、視覚・聴覚障害児の理解と支援。それぞれの障害について、予習した内容を発表する。事例を通して、支援の方法を理解し、共に育っていくことの大切さを知る。 ・学習成果 それぞれの障害について正しい知識を持つ。 ・予習事項 テキスト第4章 知的障害児の理解と支援を読む。
3 回	<p><障害の理解と保育における発達の支援（2）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 知的障害児の理解と支援。知的発達に遅れのある子どもについて、考え方や特徴について予習した内容を発表する。事例を通して、支援の方法を理解し、共に育っていくことの大切さを知る。 ・学習成果 知的障害について正しい知識を持つ。 ・予習事項 テキスト第5章 発達障害児の理解と支援を読む。
4 回	<p><障害の理解と保育における発達の支援（3）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 発達障害児の理解と支援。発達障害について、概要を説明する。自閉症について予習した内容を発表する。事例を通して、支援の方法を理解し、共に育っていくことの大切さを知る。 ・学習成果 自閉症について正しい知識を持つ。 ・予習事項 テキスト第6章 注意欠陥・多動性障害を読む。
5 回	<p><障害の理解と保育における発達の支援（4）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 注意欠如・多動性障害、限局性学習障害について、予習した内容を発表する。事例を通して、支援の方法を理解し、共に育っていくことの大切さを知る。 ・学習成果 注意欠如・多動性障害について正しい知識を持つ。 ・予習事項 テキスト第7章 子ども一人一人の発達をうながす生活と遊びの環境を読む。
6 回	<p><障害児保育の実際（1）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 障害を持っている子どもの発達を支え、うながす「生活」と「遊び」の環境の大切さを説明する。そのことをふまえ、集団での遊びをグループごとに考えることができるようにする。 ・学習成果 グループごとに、障害児に配慮した集団遊びの実施計画を立てることができる。 ・予習事項 テキスト第7章 子ども一人ひとりの発達を促す生活と遊びの環境を読む。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
7 回	<p><障害児保育の実際（2）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 グループごとに実施計画に基づいて元ロールプレーをし、振り返りをする。 ・学習成果 障害児に配慮した指示の出し方や支援ができたかどうかを自覚する。 ・予習事項 テキスト第8章 子ども同士のかかわりと育ち合いを読む。
8 回	<p><障害児保育の実際（3）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 子ども同士のかかわりと育ち合いはどのような道筋でできていくのか、障害を持った子どもの事例を通して理解していく。 ・学習成果 保育者同士の話し合いや助け合いが、一人一人の子どもの成長や発達の見守りに通じることを理解する。 ・予習事項 テキスト第9章 職員間の協働を読む。
9 回	<p><障害児保育の実際（4）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 子ども同士のかかわりと育ち合いはどのような道筋でできていくのか、障害を持った子どもの事例を通して学ぶ。 ・学習成果 他の子どもの行動に関心を持ち始めた時、どのように支援していけばよいかを理解する。 ・予習事項 テキスト第10章 保護者や家族に対する理解と支援の方法を読む。
10 回	<p><家庭及び関係機関との連携（1）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 保護者が、子どもの障害を受容していく過程を知ることにより、障害を受け入れていくことの困難さに共感する。さらに、保護者と保育者の立場でロールプレーをし、保護者対応の留意点にも気づく。 ・学習成果 少しでも安定した親子関係を築くためには、保育者の保護者支援が必要であることを理解する。 ・予習事項 テキスト第11章 地域の専門機関等との連携や子ども一人一人の支援計画の作成を読む。
11 回	<p><家庭及び関係機関との連携（2）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 地域の専門機関について、どのようなところがあるのかを知る。また、専門機関と連携していくために必要な個別支援計画の作成について知る。 ・学習成果 専門機関との連携には縦の連携・横の連携があることを知り、必要に応じた個別支援計画の作成が必要であることを理解する。 ・予習事項 テキスト第12章 小学校などとの連携を読む。
12 回	<p><家庭及び関係機関との連携（3）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 障害を持っている子どもが小学校へ入学するにあたって、保育園・幼稚園との生活の違いを考えることにより、保護者の心配に寄り添うことができるようにする。また、適切な教育が受けられる学校の種類や就学相談の制度について知る。 ・学習成果 小学校就学にあたってスムーズに入学できるように保育者に求められることはどんなことがあるかが分かる。 ・予習事項 テキスト第13章 保健・医療における現状と課題 14章 福祉教育における現状と課題を読む。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 回	<p><障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題（1）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 保健・医療機関の役割と現状、福祉の分野と教育の分野での支援がどのように行われているかについて知る。 ・学習成果 障害者自立支援法や発達障害者支援法などの新しい法律のもとで、イメージの変化や支援の対象となる人のひろがりが見られていること知る。 ・予習事項 テキスト第15章 支援のひろがりをつなぐ課題を読む。
14 回	<p><障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題（2）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 支援のつながりの具体的な事例に添って、保育者、教育者、保護者など様々な立場にたって取り組んでいる現状を知る。 障害児を主人公にしたビデオの視聴。 ・学習成果 支援の取り組みは、時間はかかるが、実を結ぶものになるよう、保育者としてできることを自分なりにまとめる。 ・予習事項 テキスト第2章 障害児保育の基本を読む。
15 回	<p><障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題（3）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 障害児保育を考える上で理解しておかなければならない理念としてのノーマライゼーションについて知る。 ・学習成果 ノーマライゼーションやインクルージョンについて、小グループで考えを話し合い発表することを通して、難しいことではあるが理念の実現を目指していきたいという気持ちを育てる。 <p><総復習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全15回の内容を復習し、質疑応答。

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	社会的養護内容	授業回数	15	単位数	1	担当教員	新田 満穂
質問受付： e-mail : jmpgh616@ybb. ne. jp							
教育 目 標	<p>〔教育目標〕 社会的養護の基本的原理、方法的原理を中心に捉えつつ、児童福祉の実践の場において、実践的指導力のある保育士を養成するため以下の諸点に関し定着をはかり、より高い人間的資質や専門的資質及び技能的側面について習得する</p> <p>〔教育課程の編成〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について具体的に学ぶ 施設養護及び他の社会的養護の実践について学ぶ 個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援などの内容について具体的に学ぶ 社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術について理解する 社会的養護を通じて、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解、認識を深める <p>〔学生の学習成果〕</p> <p>教育目標に掲げる5項目の基礎知識を理解する。汎用的学習成果として、6・保育士にふさわしい言動・態度を知り講義や演習の中で実践できる 7・自己表現、他者理解など人権について理解する</p>						
	教 育 方 法	授業の 進め方	<p>〔講義・演習・実験・実習・〕</p> <p>主に講義と演習による</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業のはじめにチャトルカード記入の質問や感想等に応える。 テキストあるいは配付資料に沿って、(シラバス内容の講義) 教員が単元内容に関する解説を行う。 学習内容を定着させるため講義のあと演習問題・課題に取り組む(学習結果内容の発表など)。演習課題はグループまたは全体で進める。ハンドマイクを使用する。 <ul style="list-style-type: none"> ワークシート、課題レポートの提出。 				
予習・ 復習		<ul style="list-style-type: none"> 毎授業回前に予習を求める 毎授業回後に復習を求める。レポートを提出 					
テキ スト		<p>児童の福祉を考えるー演習ー</p> <p>社会的養護内容 著者代表 吉田 真理 (株) 萌文書林</p>					
授 業 評 価 の 方 法	<p>上記教育目標・成果の7つの項目について、その習得度合を量的に評価する。</p> <p>その際、具体的学習評価は①定期試験によるものと</p> <ol style="list-style-type: none"> 演習課題(20課題)で評価する。特に児童の権利擁護や汎用的学習態度に学習全般通じ重きを置く <p>試験80% ・演習課題20%</p>						
注 意 事 項	<p>新聞 TV等での日頃の情報を掴みながら授業に臨むこと</p> <p>時間にルーズにならぬこと</p> <p>欠席する場合は必ず欠席届を提出する</p> <p>忘れ物をしない</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	社会的養護における児童の権利擁護と保育士の倫理及び責務 児童の権利擁護について学ぶ 内容・オリエンテーション ① 子どもの最善の利益 予習事項テキスト p p 2 回目講義
2 回	社会的養護における児童の権利擁護と保育士の倫理及び責務 児童の権利擁護について学ぶ ②生存と発達の保障 予習事項テキスト p p 3 回目講義内容
3 回	社会的養護における児童の権利擁護と保育士の倫理及び責務 児童の権利擁護について学ぶ ③子どもの権利を守る仕組み 予習事項テキスト p p 4 回目講義内容
4 回	社会的養護における児童の権利擁護と保育士の倫理及び責務 保育士等の倫理及び責務 について学ぶ 内容 ④支援者としての資質と倫理・バーンアウトと共依存 予習事項テキスト p p 5 回目講義
5 回	施設養護の特性及び実際について学ぶ 内容 児童養護の体系と児童福祉施設の概要・日常生活支援と諸施設の暮らし ⑤児童養護施設・乳児院・母子生活支援施設 予習事項テキスト p p 6 回目講義
6 回	施設養護の特性及び実際について学ぶ 内容 医療型障害児入所施設の暮らし ⑥重症心身障害児施設・肢体不自由児施設 予習事項テキスト p p 7 回目講義
7 回	施設養護の特性及び実際について学ぶ 内容 治療的支援と児童自立支援施設、 ⑦情緒障害児施設お暮らし 予習事項テキスト p p 8 回目講義
8 回	施設養護の特性及び実際について学ぶ ⑧里親制度の特性及び実際 ⑨福祉型障害児入所施設の暮らし 予習事項テキスト p p 9 回目講義内容
9 回	保育士の専門性にかかわる知識・技術とその傾向の中で 心の傷を癒し、心を育むための援助を学ぶ ⑩保育士の業務・虐待された子どもへの支援・虐待への対応 予習事項テキスト p p 10 回目講義内容
10 回	保育士の専門性にかかわる知識・技術とその傾向の中で 親子関係の調整 について学ぶ 内容 ⑪子どもと家族への支援・児童相談所との連携・虐待した家族への支援 予習事項テキスト p p 11 回目講義
11 回	保育士の専門性にかかわる知識・技術とその傾向の中で ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用について学ぶ ⑫ソーシャルワーク技術の活用・入所から退所にいたる支援と基本的日常生活支援 予習事項テキスト p p 12 回目講義内容

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
12 回	<p>保育士の専門性にかかわる知識・技術とその傾向について学ぶ ソーシャルワークなど ⑬子どもの支援における記録など</p> <p>予習事項テキスト p p 13 回目講義内容</p>
13 回	<p>社会的養護の今後の課題と展望の中で 施設の小規模化と地域連携について学ぶ ⑭施設の小規模化・地域とのかかわり</p> <p>予習事項テキスト p p 14 回目講義内容</p>
14 回	<p>社会的養護の今後の課題と展望として 地域住民と施設について学ぶ ⑮地域と施設の関係</p> <p>予習事項テキスト p p 全ページ</p>
15 回	<p>振り返りとまとめ 施設での暮らしの実際（感情転移等）について一補足など</p> <p>予習事項なし</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画

科目名	保育実践演習	授業回数	15	単位数	2	担当教員	大賀恵子・山本 婦佐江
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : e-mail:ohga @owc. ac. jp、 OH:金曜 5 限							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標</p> <p>必修科目及び選択必修科目、保育実習を通しての学び等を踏まえ、保育士として必要な知識技能を取得したことを確認する。特に保育実習の現場で発見した問題について分析考察を行い、講義、グループ討議、ロールプレイなどの方法によって掘り下げ、問題解決の手法を学ぶことを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。 ・保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。 ・問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。 ・必修科目(保育実践演習を除く、以下同じ)及び選択必修科目の履修状況を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育士として必要な知識・技能を修得したことを確認する。 <p>学生の学習成果</p> <p>専門的学習成果：教育目標に挙げる 4 項目を習得する。 汎用的学習成果：以下のように挙げられる。①保育者としての態度・信念の形成に自助努力する。②保育者として適正な価値・判断の基準を形成し、明確に意見表明ができる力を育成する。③論理的思考力を培う。④人間関係力を涵養する。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技) 以下の方法・内容によって授業を進める。</p> <p>a. これまでの学習の振り返りについての講義グループ討論を行う。第 2～4 回。 b. 社会性、対人関係能力、児童理解等に関わるポスター制作・発表を行う。第 5～7 回。 c. 保育士の意義や役割、職務内容、児童に対する責任等についての講義・ロールプレイを行う。第 11～14 回。 d. 保育内容等の指導力についての講義・グループ討論を行う。第 9～10 回 e. 資質能力の確認、まとめを行う。第 1・8・15 回</p> <p>予習・復習 毎回の課題への取り組みは時間内に出来ないので予習・復習とする。</p> <p>ステキ なし。必要に応じてプリントを配付する。</p>					
学習評価の方法	<p>評価を以下の 4 つの学習成果についてその度合いを 10, 20, 30, 20 点で計 80 点、汎用的学習成果計 20 点を合わせて 100 点満点で評価する。ただし、授業態度によっては減点する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育に関する科目横断的な学習能力を習得する (主に第 2～7 回)。 2. 保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う (9～12 回)。 3. 問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める (13, 14 回)。 4. 必修科目(保育実践演習を除く、以下同じ)及び選択必修科目の履修状況を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育士として必要な知識・技能を修得したことを確認する (1, 8, 15 回)。 <p>なお、汎用的学習成果については①保育者としての態度・信念は実習報告会の服装・態度も考慮する。②保育者として適正な価値・判断の基準と明確な意見表明は行事説明原稿を評価する。③論理的思考力は第 1・8・15 回の文章表現から評価する。④人間関係力については討論・ロールプレイ等のグループ活動への関わりから評価する。</p>						
注意事項	<p>参考図書：『保育所保育指針』</p> <p>※評価として発表、課題を重視する。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><保育実践演習オリエンテーション> 以下について理解する。</p> <p>1. 目標と授業の進め方について 2. 学習評価の方法について 3. 討論のグループ分け</p> <p><履修状況の確認> 以下について理解し、実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修状況把握と課題確認に關しての方法の説明 ・履修状況記述と課題の記入（履修簿持参） <p>◆予習：シラバス通読と保育実習の日記を見ておく。</p>
2 回	<p><これまでの学習の振り返り①> 以下について理解し、身に付ける。 教育目標 1・3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：実習での学びと実習報告会の意義と流れ ・活動：実習での経験を踏まえてグループ討論・発表 <p>◆復習：実習の学びを振り返り自身の強み、弱みを確認する。</p> <p>予習：保育所実習・施設実習日記で内容を予習する。</p>
3 回	<p><これまでの学習の振り返り②> 以下について理解し、実践する。 教育目標 1・3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：発達過程に關する理論と實際 ・活動：保育所実習で経験を踏まえてグループ討論・発表／実習報告会のグループ分け発表 <p>◆復習：発達過程に關する理論の復習、保育所実習のまとめを確認する。</p> <p>予習：障がいの種類、施設実習の経験をまとめておく。</p>
4 回	<p><これまでの学習の振り返り③> 以下について理解し、身に付ける。 教育目標 1・2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：障害の種類と保育現場の対応 ・活動：施設実習で経験を踏まえてグループ討論・発表／実習報告会の報告内容まとめ <p>◆復習：施設実習の報告内容をまとめる。</p> <p>予習：保育士のマナー、発表の姿勢を確認しておく。</p>
5 回	<p><社会性、対人関係能力、児童理解等①> 以下について理解し、身に付ける。 教育目標 1・2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：保育士のマナーと発表の姿勢について確認、役割分担とその内容 ・活動：実習報告ポスター作成 <p>◆復習：ポスター完成</p> <p>予習：リハーサル原稿の内容を考える。</p>
6 回	<p>学外実習報告会リハーサル</p> <p>時間内に発表できるように原稿を準備しておくこと。／ポスターを持参すること。</p> <p>◆復習：報告会の振り返りをしておく。</p> <p>予習：実習報告会での運営や発表についてまとめておく。</p>
7 回	<p><社会性、対人関係能力、児童理解等②> 以下について理解し、身に付ける。 教育目標 1・2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動：実習報告会の運営・発表と視聴およびその記録。／7回、8回は継続して行う。 <p>◆復習：発表の仕方の振り返りをする。</p> <p>予習：傾聴態度、記録の仕方について確認する。</p>
8 回	<p><社会性、対人関係能力、児童理解等③> 以下について理解し、身に付ける。 教育目標 1・2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動：実習報告会の運営・発表と視聴およびその記録の實踐 <p>◆復習：発表時に受けた質疑とその応答、視聴時に行った質疑とその応答のまとめをする。</p> <p>予習：実践報告会の評価と課題についてまとめておく。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	<p><資質能力の確認①> 以下について理解し、身に付ける。教育目標 1・3・4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：1. 実習報告会の学習成果について / 2. 実習施設からの評価と課題について ・活動：実習報告会における学習成果の記述 実習施設からの評価と自己課題の克服の方策についての記述 ◆復習：活動途中の場合は完了して提出 <p><保育士の意義や役割、職務内容、児童に対する責任等①> 以下について理解し、身に付ける。教育目標 2・3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：保育指針 第5章 健康及び安全 / DVD またはビデオ鑑賞・ワークシート記入 ・活動：1. 講義内容のまとめ 2. 保育における季節行事①（お誕生会・勤労感謝の日・お芋ほり）について 対象年齢別（3・4・5歳）文案作成 ◆予習：行事説明①の発表練習
10 回	<p><保育士の意義や役割、職務内容、児童に対する責任等②> 以下について理解し、身に付ける。教育目標 2・3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：保育指針 第6章 地域との交流 / DVD またはビデオ鑑賞・ワークシート記入 ・活動：1. 講義内容のまとめ 2. 保育の行事説明①のロールプレイ①（対象年齢別 3・4・5歳） ◆復習：他者の発表についての学びをまとめておく。 予習：行事説明②（防災の日・七夕・お年寄りとの交流）の文案作成と発表練習
11 回	<p><保育士の意義や役割、職務内容、児童に対する責任等③> 以下について理解し、身に付ける。教育目標 2・3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：保育指針 第7章 職員の資質向上 / DVD またはビデオ鑑賞・ワークシート記入 ・活動：1. 講義内容のまとめ/2. 保育の行事説明②のロールプレイ②（対象年齢別 3・4・5歳） ◆復習：他者の発表についての学びをまとめておく。 予習：行事説明③（正月と春の七草・春分の日・こどもの日）の文案作成と発表練習
12 回	<p><保育士の意義や役割、職務内容、児童に対する責任等④> 以下について理解し、身に付ける。教育目標 2・3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：法令遵守について ・活動：1. 講義内容のまとめ/2. 保育の行事説明のロールプレイ③（対象年齢別 3・4・5歳） ◆復習：他者の発表についての学びをまとめておく 予習：保育課程を確認し、実習の体験で発見したことをまとめておく。
13 回	<p><保育内容等の指導力について①> 以下について理解し、身に付ける。教育目標 1・3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：保育課程と指導計画について ・活動：1. 実習の体験から保育現場で発見した自己の課題/グループで解決法を討議・発表 ◆復習：実習で作成した指導案の手直し 予習：実習でいただいたクラス便りの見直し
14 回	<p><保育内容等の指導力について②> 以下について理解し、身に付ける。教育目標 1・3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：「クラス便り」の留意点とアドバイス ・活動：「クラス便り」の記述練習と自己点検 ◆予習：ワークシートの記述(第15回の予習)
15 回	<p><資質能力の確認②> 以下について理解し、身に付ける。教育目標 4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動：保育士として必要な知識・技能を修得できたか、グループ討論 <p>14回の授業において、問題解決の手法を学ぶことが出来たかどうかを振り返る。</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	保育実習指導 I	授業回数	15	単位数	2	担当教員	大賀恵子・山本婦佐江・濱田佐保子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : e-mail:ohga @owc. ac. jp、 OH:金曜 5 限							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標</p> <p>保育実習に臨むにあたって、保育実習の理論と実践に関わる基礎的な技術及び考え方を身につけることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 <p>学生の学習成果</p> <p>専門的学習成果として、教育目標に挙げる 5 項目を習得する。</p> <p>また、汎用的学習成果は以下のように挙げられる。①保育者としての態度・信念の形成に自助努力する。②保育者として適正な価値・判断の基準を形成し、明確に意見表明ができる力を育成する。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①実習の意義目的等を手引きに沿って講義する。 ②実際の実習の手続きを進める。 ③実習に関する具体的な方法を身に付けるため適宜課題を出す。 ④事後指導として、実習を総括し、課題を明確にするためのまとめを行う。 <p>予習・復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に対する予習・復習は毎回義務付けられる。 ・授業を受けての「自己課題と対策」などに関しては、シャトルカードに記述し、次回の振り返りと学びの確認に活用する。 <p>テキスト</p> <p>岡山県保育士養成協議会『保育所実習の手引』</p>					
学習評価の方法	<p>保育所実習 I、施設実習のそれぞれについての実習指導を 50 : 50 の比重で評価し合計 100 点満点とする。各実習で以下の 5 つの学習成果 (授業課題、調査表やレポート課題の提出状況) について同じ比重で評価する。提出状況や授業態度については別に示す規定に基づいて減点する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①実習の意義・概要を学ぶ。 ②実習の内容と課題の明確化ができる。 ③実際に際しての留意事項を確認する。 ④実習の計画と記録について学ぶ。 ⑤事後指導における実習の総括と課題の明確化。 <p>なお、汎用的学習成果①保育者としての態度・信念は減点内容にて評価する。②保育者として適正な価値・判断の基準と明確な意見表明はレポート等の提出物にて評価される。</p>						
注意事項	<p>※「保育実習指導 I」は、1 年次後期から 2 年次前期にかけて実施される。</p> <p>※『保育実習の手引き』配布後は必ず持って来ることとする。</p> <p>※授業に必要な資料、書類を毎回確認し、準備すること。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>保育所実習オリエンテーション（以下について理解する。）</p> <p>1. 履修規定について 2. 評価について</p> <p>3. 実習までのスケジュール 4. 開講にあたっての意識調査</p> <p>◆作業：「実習希望先調査表」の配付・説明・課題化</p>
2 回	<p>施設実習オリエンテーション（以下について理解し、身につける。）</p> <p>1. 履修規定について</p> <p>2. 評価について</p> <p>3. 施設実習事前・事後指導テキスト『施設実習の手引』第Ⅰ章『実習の意義と目標』</p> <p>4. 実習可能施設一覧表</p> <p>◆作業：引き続き「実習希望先調査表」の調査・作成</p>
3 回	<p>保育所実習（以下について理解し、身につける。）</p> <p>1. 事前準備の話</p> <p>2. ボランティアと実習との相違</p> <p>3. 実習希望先（案）掲示・確認・調整</p> <p>4. 手作り玩具（2年生の作品）の作品紹介</p> <p>◆課題：「開講にあたっての意識調査」</p>
4 回	<p>保育所実習（以下について理解し、身につける。）</p> <p>1. 実習の意義と目的</p> <p>2. 実習の段階等</p> <p>3. 保育実習にあたっての不安に答える Q&A</p> <p>4. 実習報告会参加についての説明</p> <p>◆課題：実習報告会の質問事項を考える（質問事項は当日プリントに書く）</p>
5 回	<p>保育所実習・施設実習（以下について理解し、身につける。）</p> <p>1. 実習報告会参加</p> <p>2. 報告会に参加しての学びをまとめる</p> <p>◆課題：実習報告会プリントの作成・提出</p>
6 回	<p>保育所実習（以下について理解し、身につける。）</p> <p>実習事務訓練</p> <p>1. 日誌の書き方説明と記入練習</p> <p>2. 内諾書（岡山県外実習生）配布と手続きの説明</p> <p>◆課題：内諾依頼（岡山県外実習生）冬休み中の課題となる。</p>
7 回	<p>施設実習（以下について理解し、身につける。）</p> <p>施設実習における実習生の心得</p> <p>1. 『施設実習の手引』第Ⅱ章「実習準備」・第Ⅲ章「実習生の心得」</p> <p>2. 日誌の書き方と記入練習</p> <p>◆作業：内諾書（岡山県外実習生）配布と手続きの説明、課題化</p>
8 回	<p>保育所実習（以下について理解し、身につける。）</p> <p>1. 事前訪問（事前オリエンテーション）の手順と注意</p> <p>2. ボランティアに関する諸注意</p> <p>◆春休み課題： レポート「ボランティア園の概要・保育所の日・日誌1日分」 手作り玩具の製作（保育実習指導Ⅱの第一回目の授業で提出）</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	<p>施設実習（以下について理解する。）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 提出された実習事前レポートについての補足と解説 2. 「実習中の基本的態度と注意事項」 3. 事前オリエンテーションの事前指導 <p>◆課題：事前オリエンテーションのために実習施設に電話連絡と内諾を得る。</p>
10 回	<p>施設実習（以下について理解し、身につける。）</p> <p>施設実習送付書類の配付と説明 および各種準備の確認</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 書式説明 2. 記入の諸注意 3. 参考例による確認 <ul style="list-style-type: none"> ・「事前オリエンテーションについて」配布 ・「実習生について（個人票）」 ・「評価票」「出勤簿」配布・説明・記述・回収 ・「実習先交通図」配布・説明 <p>◆課題：実習先までの地図作成と交通機関を調査する。</p>
11 回	<p>施設実習（以下について理解する。）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習中勤務時間外の注意事項 2. 日誌の書き方と注意事項 <ul style="list-style-type: none"> ・施設実習連絡・注意事項(1) <p>◆課題：一日分の日誌を書く。</p>
12 回	<p>施設実習（以下について理解する。）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日誌の書き方と注意事項 2. 『実習の手引き』実習生の心得 <ul style="list-style-type: none"> ・施設実習連絡・注意事項(2) <p>◆課題：施設実習日誌の「施設オリエンテーション」の欄に施設の概要を書く。</p>
13 回	<p>施設実習（以下について理解し、身につける。）</p> <p>実習記録の書き方『施設実習の手引』第IV章</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習日誌の記録 2. 日誌欄について 3. 実習生としての姿勢と責任 4. 人間関係とマナー <ul style="list-style-type: none"> ・質疑応答 ・教員による実習先巡回について <p>◆課題：実習先における事前指導を日誌に記入する。</p>
14 回	<p>施設実習（以下について理解し、身につける。）</p> <p>施設実習に向けて『実習後のまとめ』</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 諸注意の確認 2. 課題の設定 <p>実習終了後の諸注意（施設）『施設実習の手引き』第V章</p> <p>◆課題：実習後レポートについての説明</p>
15 回	<p>事後指導（施設実習・保育所実習）（以下について理解し、身につける。）</p> <p>実習後の事後記録記述</p> <p>◆課題：施設実習事後レポート</p> <p>◆課題：実習評価の公開と自己課題の確認</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	保育実習指導Ⅱ	授業回数	15	単位数	1	担当教員	大賀恵子・山本婦佐江・濱田佐保子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : e-mail:ohga @owc. ac. jp、 OH: 金曜 5 限							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 保育実習に臨むにあたって、保育実習の理論と実践に関わる基礎的な技術及び考え方を身につけることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 <p>学生の学習成果</p> <p>専門的学習成果：教育目標に挙げる 5 項目を習得する。</p> <p>汎用的学習成果：以下のように挙げられる。①保育者としての態度・信念の形成に自助努力する。②保育者として適正な価値・判断の基準を形成し、明確に意見表明ができる力を育成する。③論理的思考力を培う。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習Ⅱの意義や内容・準備について、春休みに各学生が保育現場を観察してきた体験を基準として「保育所実習の手引」に沿った講義を軸として進める。第 1～4 回 ・指導計画については、各項目の記述法が身につくよう演習に重点を置き、添削を行い、見直し、復習しつつ進める。第 5～9 回 ・保育士の専門性と職業倫理については、厚生労働省企画の DVD を用い、保育指針と対応させて学ぶ。それに並行して子どもの理解力の発達段階をロールプレイングによって相互点検する。第 10～12 回 ・事後指導は、自己の記録を見直し充実させ、自己評価を行い、グループ討議を経て課題解決への方針を立てる。第 13～15 回 					
	予習・復習	講義や演習の内容に合わせ、予習や復習または実習に関する課題等を指示する。					
	テキスト	岡山県保育士養成協議会『保育所実習の手引』(平成 26 年)、フレーベル館『保育所保育指針』					
学習評価の方法	<p>以下の 5 つの学習成果について均等に評価し、合計 100 点満点とする。ただし、授業態度・課題提出等については別に示す規定に基づいて減点する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 保育実習の意義・目的の理解と保育の総合的な学び。提出物 ② 保育実践力 (③ 計画と観察、記録、自己評価を踏まえた保育の改善に関する学び ④ 保育士の専門性と職業倫理の理解 ⑤ 実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする学び <p>なお、汎用的学習成果について、①は減点内容にて評価する。②と③は小論文の評価に含まれる。</p>						
注意事項	<p>※「保育実習指導Ⅱ」は、2 年次前期に開講される。</p> <p>※13 回目までの内容を実習前に実施する必要がある。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><保育所実習指導Ⅱオリエンテーション> 教育目標 1</p> <p>1. 保育実習Ⅱの意義と目標 2. 評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：「保育所実習の手引 第Ⅰ章」① について理解する。 ・演習：ビデオ「初めての保育実習」を通じて実習のイメージを形成する。 <p>◆課題：「実習生について（個人票）」下書きの説明と記入</p>
2 回	<p><実習の内容について> 教育目標 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：「保育所実習の手引 第Ⅰ章」② について理解する。 ・演習：上記についてワークシートを用いてまとめる。 <p>◆課題：「実習園への巡回用地図」作成・提出 送付書類「評価票」「出勤簿」の必要事項記述</p>
3 回	<p><実習の形態と記録について> 教育目標 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：「保育所実習の手引 第Ⅲ章」 について理解する。 ・演習：春休み観察実習の日誌からを見返し、各項目の点検及び文体等の留意点を解説に沿って自己点検する。 ・模擬保育：絵本の読み聞かせの指導を受けて要領を理解する（模擬保育室にて） <p>◆課題： 検便・レントゲン検診結果証明書・賠償保険についての依頼書記入</p>
4 回	<p><保育の理解について> 教育目標 1・2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：「保育所実習の手引 第Ⅱ章」 について理解する。 ・演習： 上記についてワークシートを用いてまとめる。 ・模擬保育：絵本の読み聞かせの指導を受けて要領を理解する（模擬保育室にて） <p>◆課題： 実習園でのオリエンテーション 実習服装準備(エプロン等)</p>
5 回	<p><保育計画について> 教育目標 1・2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：「保育所実習の手引 第Ⅳ章①」 について理解する。 ・演習：月案・週案・日案についての解説に沿って整理とまとめを行う。 <p>◆課題：部分指導事例の通読</p>
6 回	<p><指導案作成について> 教育目標 2・3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：「保育所実習の手引 第Ⅳ章②」 について理解する。 ・演習： 指導案の「テーマ」「年齢」「子どもの姿」「ねらい」を解説に沿って記述する。 ・演習：「食事（1歳）」指導案を作成する。 <p>◆課題： 演習課題の完成と提出</p>
7 回	<p><指導案作成について> 教育目標 2・3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義： 指導案の「環境構成」「予想される子どもの活動」「保育士の配慮・援助」を解説に沿って記述する。 ・演習： 前回提出指導案の返却。添削と解説を受けて要領を理解する。 ・演習：「スタンプ遊び（2歳）」の指導案を作成する。 <p>◆課題： 演習課題の完成と提出</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	<p><指導案作成について> 教育目標 2・3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習：前回提出指導案の返却。添削と解説を受けて要領を理解する。 ・演習：「年齢に応じた遊び（実習予定年齢）」の指導案を作成する。 <p>◆課題：演習内容の完成</p>
9 回	<p><指導案作成について> 教育目標 2・3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習：前回提出指導案の返却。解説を受けて要領を理解する。 ・演習：「指導案の中の8つのエラー探し」をする。 <p>◆課題：「学内オリエンテーション」「実習園でのオリエンテーション」記述・提出</p>
10 回	<p><実習の準備と留意事項> 教育目標 2・3・4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：「保育所実習の手引 第V章」について理解する。 ・演習：実習の自己課題をまとめる。 <p>◆課題：実習の目標を確認し「実習の自己課題」を記述・提出</p>
11 回	<p><保育所保育指針復習①></p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習：保育所保育指針 第1章総則の視点からワークシートを用いてまとめる。 <p><実習のまとめと評価について> 教育目標 1・4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：「保育所実習の手引 第VI章」「保育所実習評価の着眼点」について理解する。 <p>◆課題：保育実習巡指導の依頼</p>
12 回	<p><保育所保育指針復習②></p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習：保育所保育指針 第2章からワークシートを用いてまとめる。 <p><実習書類と諸注意> 教育目標 1・4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：「保育所実習の手引 V実習のまとめ」について理解する。 <p>◆課題：日誌バインダーの見直し、必要な場合は清書する。</p>
13 回	<p><保育実習の直前確認> 教育目標 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：園への依頼内容、実習中の連絡・報告等に関する確認 について理解する。
14 回	<p><保育実習の総括①> 教育目標 5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習：実習園が行う評価票と同じ視点で自己評価を行い、課題をまとめる。 <p>◆復習：実習の意義と目的を確認し、自己評価に基づき保育に対する課題や認識を明確にする。</p> <p>課題：実習園へのお礼状送付</p>
15 回	<p><保育実習の総括②> 教育目標 5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習：前回まとめた自己課題に対し、学生時代にどのようにして解決すべきかグループで討議し、方針と決意・覚悟を文章にまとめる。 <p>◆振り返り：保育士の専門性と職業倫理について理解し、保育実践力の向上に役立つ自己の課題を明確にする。</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画													
科目名	子どもの保健 I (A)	授業回数	15	単位数	2	担当教員	野々上 敬子						
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : 授業終了後受け付けます													
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>乳幼児期は、発育発達の著しい時期であると同時に、子どもは未だ自らの生活を自分の力で営むことはできない。すなわち、大人が子どもの健全な発育発達を促す環境を保障していかななくてはならない。そのため、本授業では、保育者が子どもの発達の特徴及び子どもの保健の重要性を理解するとともに、それを支援するための知識と技能を習得することを目指す。</p> <p>子どもを取り巻く環境に配慮し、子どもが健康で安全に過ごせるよう心身の健康状態、発育・発達状態を知り適切な対応を学び、健康の保持・増進と保健活動を理解する。そして、子育ての養育者と保育の現場に必要な知識と実践を修得する。</p> <p>まずは、子どもの正常な発育・発達状態と年齢的特性を学び、子どもの特徴を理解する。子どもの健康管理についての諸問題に関心を持ち、よりよき健康支援のために、主体的に考え、解決しようとする意欲と態度を身につける。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>専門的学習成果として、教育目標に掲げる事項の知識を習得し、理解する力を獲得する。また、汎用的学習成果として、保育者に不適切な言動を知り、努力する力を涵養する。</p>												
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的には、テキストに補足し視聴覚機器を活用し授業を進める 2. 授業内容の理解を深めるために小レポートを作成する 3. 主体的学習を身につけるために予習と復習を奨励する <p>予習・復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回授業後は、復習しておくこと ・ 毎回の授業前までには、教育内容の範囲についてテキストを読んでおくこと ・ 次回授業計画の範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと ・ 新聞の保健情報をよく読んでおくこと <p>ステ トキ</p> <p>「子どもの保健」 巷野悟郎 編 / (故) 今村榮一 遠藤郁夫 他 著 診断と治療社</p>											
学習評価の方法	<p>以下の6つの学習成果についての理解を評価する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども保健の意義と現状を理解し今後の課題を修得する 2. 子どもの発育・発達と発育の評価を学び、小児の特徴を理解する 3. 子どもの生理・運動・精神機能を学び、発達と保健を理解する 4. 子どもの食事について学び、支援が行える力を養う 5. 子どもの生活環境について学び、基礎的な知識を確実に習得する 6. 子どもの精神保健について学び、支援が行える力を養う <p>評価方法と配点 :</p> <table> <tr> <td>定期試験</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>小レポート</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td>15%</td> </tr> </table>							定期試験	70%	小レポート	15%	授業態度	15%
定期試験	70%												
小レポート	15%												
授業態度	15%												
注意事項	<p>参考図書等 :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「図表で学ぶ 子どもの保健 I」加藤忠明・岩田 力 編/加藤則子 他 著 建帛社 2. 「子どもの保健 I」佐藤益子 編/大野雅樹、永田陽子、中根淳子著、ななみ書房 3. 「子どもの保健と支援」平山宗宏 編/安藤朗子 他 著 日本小児医事出版社 												

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	・ ガイダンス【授業内容、方法、授業態度、認定方法等】 ・ 子どもの健康と保健の意義 ① 子どもの保健の目標・子どもの保健の実践
2 回	・ 子どもの健康と保健の意義 ② 母子保健・地域における保健
3 回	・ 子どもの発育・発達と保健① 身体発育と保健・身体発育の経過・身体発育に影響する因子
4 回	・ 子どもの発育・発達と保健② 身体の計測(体重・身長・座高・頭位・胸囲)・身体発育の表現と評価
5 回	・ 生理機能の発達と保健 体温・呼吸・脈拍と血圧・感覚・排泄・睡眠・自律神経の働き
6 回	・ 運動機能の発達と保健 運動機能の発達・新生児期の運動・乳児期の運動機能・幼児期の運動機能・体力
7 回	・ 精神機能の発達と保健 言葉・情緒・社会性・精神発達の評価・精神発達に及ぼす影響・豊かな心の発達
8 回	・ 子どもの食事① 子どもの栄養の特徴・栄養生理・食物の摂取・栄養の摂取
9 回	・ 子どもの食事② 授乳・離乳の支援ガイド・母乳栄養・人工栄養・混合栄養
10 回	・ 子どもの食事③ 災害時における乳児栄養・離乳・幼児期の栄養・学齢・少年期の栄養
11 回	・ 子どもの生活環境① 保健情報・生活と健康・発達と生活習慣・食事・排泄
12 回	・ 子どもの生活環境② 睡眠・入浴・衛生・衣服と布団など・室内環境
13 回	・ 子どもの生活環境③ 抱く・おんぶ・育児用品・遊び・外出・旅行・運動・通過儀礼
14 回	・ 子どもの精神保健 精神保健・発達への視点・子どもの心と身体・子ども虐待
15 回	・ 子どもの保健 I (A) のまとめ

平成 30 年 度 教 育 計 画													
科目名	子どもの保健 I (B)	授業回数	15	単位数	2	担当教員	野々上 敬子						
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : 授業終了後受け付けます													
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>子どもの健康管理についての諸問題に関心を持ち、よりよき健康支援のために、主体的に考え、解決しようとする意欲と態度を身につける。子どもの生活環境、病気と異常、事故と応急処置などについて、基礎的な知識を確実に習得する。そして、習得した知識に基づいて、さらに新しい保健情報を収集し、分析・考察することを通して、実践的な指導力を身につける。</p> <p>具体的には、子どもの保健 I (A) に引き続き、子どもの主な病気と特徴、事故と応急処置及び事故防止対策について理解する。子どもの健康状態を把握する為に、日常的な健康観察が大切であり、子どもの主な病気と特徴と子どもが集団で生活する場での感染症の予防についての知識を修得する。子どもの健康は、家庭や地域との密接な関係があることを認識し、子どもの健全な心身の発達を図るとともに、家庭や地域の子育て支援と連携を通じた保健活動の重要性と各種行政サービスの効果的活用について理解する。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>専門的学習成果として、教育目標に掲げる事項の知識を習得し、理解する力を獲得する。また、汎用的学習成果として、保育者に不適切な言動を知り、努力する力を涵養する。</p>												
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的には、テキストに補足して視聴覚機器を活用し授業を進める。 2. 授業内容の理解を深めるために小レポートを作成する 3. 主体的学習を身につけるために予習と復習を奨励する 	<p>予習・復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回授業後は、復習しておくこと ・ 毎回の授業前までには、教育内容の範囲についてテキストを読んでおくこと ・ 次回授業計画の範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと ・ 新聞の保健情報をよく読んでおくこと 	<p>ステキ</p> <p>「子どもの保健」 巷野悟郎 編 / (故) 今村榮一 遠藤郁夫 他 著 診断と治療社</p>									
学習評価の方法	<p>以下の 6 つの学習成果についてその理解を評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主な疾病や感染症を理解し、知識と適切な対応を修得する 2. 保育所等の環境整備、衛生・安全・危機管理、災害への備えを理解する 3. けがや事故への対応、けがの応急処置を修得する 4. 新生児について学び、基礎的な知識を確実に習得する 5. 子どもの健康と安全を守っていくために各施設職員の連携、専門機関・地域との連携を理解し、子どもの健康と安全の体制を修得する 6. 母子保健や母子保健行政について理解する <p>評価方法と配点 :</p> <table> <tr> <td>定期試験</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>小レポート</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td>15%</td> </tr> </table>							定期試験	70%	小レポート	15%	授業態度	15%
定期試験	70%												
小レポート	15%												
授業態度	15%												
注意事項	<p>参考図書等 :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「図表で学ぶ 子どもの保健 I」加藤忠明・岩田力 編 / 加藤則子 他 著 建帛社 2. 「子どもの保健 I」佐藤益子 編 / 大野雅樹、永田陽子、中根淳子著、ななみ書房 3. 「子どもの保健と支援」平山宗宏 編 / 安藤朗子 他 著 日本小児医事出版社 												

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	・ガイダンス【子どもの保健Ⅰ(B)の授業内容、方法、認定方法等】 ・子どもの保健Ⅰ(A)の復習
2 回	・環境 自然環境・居住環境
3 回	・保育の多様化 就学前児童・放課後児童クラブ・保育における保健上の留意点・家庭との連携・保育所における薬・感染症の取り扱い・保育環境と衛生, 安全管理
4 回	・新生児 新生児の特徴・異常・低出生体重児・新生児の養護・
5 回	・健康と病気, 異常 健康の概念・病気と異常への対応・子どもの病気の特徴・症状と看護・むし歯の予防 免疫とアレルギー
6 回	・事故と応急処置① 子どもと事故・事故の発生と種類・事故防止
7 回	・事故と応急処置② 応急手当・異物事故・救命処置
8 回	・感染症と予防接種 感染症・予防接種
9 回	・乳幼児期の病気① 感染症・食中毒・発育と栄養の障害・アレルギーの病気・
10 回	・乳幼児期の病気② 消化器の病気・呼吸器の病気・循環器の病気・血液の病気・泌尿器と生殖器の病気
11 回	・乳幼児期の病気③ 代謝の病気・内分泌の病気・皮膚の病気・へその病気・運動器の病気
12 回	・乳幼児期の病気④ 眼・耳・鼻の病気・心、精神、神経系の病気、悪性腫瘍・その他の病気
13 回	・母子保健の現状 出生・死亡
14 回	・母子保健行政 母子保健行政の歴史・母子保健行政の組織と現状・母子保健対策の現状・母子保健の 基盤整備・
15 回	・子どもの保健Ⅰ(B)のまとめ

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	子どもの保健Ⅱ	授業回数	15	単位数	1	担当教員	野々上敬子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : 授業終了後受け付けます							
教育目標	<p>教育目標 :</p> <p>子どもの保健Ⅰで習得した知識を基礎とし、保育所、乳児院、幼稚園その他、児童福祉施設等での保育実践における実践的応用的能力を養い、知識と技術の習得を図る。</p> <p>①子どもの健康及び安全に係る保健活動の意義、計画及び評価について学ぶ。</p> <p>②子どもの生活の支援ができる保育・養護の知識と技術を習得する。</p> <p>③子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考える。</p> <p>④子どもの疾病とその予防及び適切な対処について具体的に学ぶ。</p> <p>⑤緊急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に学ぶ。</p> <p>⑥現代社会における心の健康問題や地域保健活動等の重要性を学ぶ。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>専門的学習成果として、教育目標に掲げる子どもの保健Ⅱの知識と技術を修得、実践出来る。</p> <p>汎用的学習成果として、①保育者にふさわしい言動と信念、②人間関係力を涵養する。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの保健Ⅰの基礎知識を確認しながら、保育の場で実践できるよう実技に重点をおいた内容にする。 学内演習がスムーズに行えるよう、授業時間外に取り組むレポートを課す。 授業の理解度の確認のため、講義中に質問、実習記録を課す。 <p>復習・予習</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 授業後に演習の記録を求める。その際、レポートとする場合がある。 <p>テキスト</p> <p>高内正子編著「子どもの保健実習ガイド」建帛社 その他資料適宜配布</p>					
学習評価の方法	<p>教育目標の到達度</p> <p>①子どもの健康及び安全に係る保健活動の意義、計画立案、評価方法が理解できる。</p> <p>②子どもの成長・発達・個性に応じた保育・養護の支援ができる。</p> <p>③子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動が理解できる。</p> <p>④子どもの健康状態を把握し、疾病とその予防及び適切な対応ができる。</p> <p>⑤緊急時の対応や事故防止、安全管理ができる。</p> <p>⑥現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解できる。</p> <p>*学習評価は、演習記録、課題の提出、シャトルカードの内容等、知識・技術の習得度把握により、単位認定する。</p> <p>*受講態度に問題があった者は、保育者として倫理観が十分でないと判断してケースに応じて減点する。</p>						
注意事項	<p>参考図書等 :</p> <p>上山和子他、「子どもの保健実習ノート」、ふくろう出版社</p> <p>天野敦子他、「子どもの保健 (理論と実践)」、日本小児医事出版社</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><オリエンテーション></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方、スケジュール、評価方法、諸注意等 <p>第1章<保育に必要な子どもの保健演習> (P 2-8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 保健演習の意義と基本、子どもの健康と健康観察 ・課題：ワークシートの課題
2 回	<p>第2章<子どもの保健と保育者の保健> (P. 10-16)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 保育者の自己管理とその必要性、保育者の手洗い <p><子どもの保健と母子保健>テキスト第3章 (P. 13-30)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容：子どもの保健と母子保健の意義、子どもの保健と母子保健の現状 ・課題：母子問題について事例を基に考える
3 回	<p>第4章<乳幼児の養護> (P. 32-44)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 乳児の抱き方・背負い方、乳幼児の衣服の着脱、乳幼児の排泄の世話 調乳・授乳・哺乳瓶の消毒方法 ・演習 手洗い、乳児の抱き方、乳児の衣服の着脱、おむつ交換 ・演習後 感想、ワークシートの課題提出 ・予習：乳幼児の身体計測の意義と方法
4 回	<p>第5章<乳幼児の身体計測> (P 46-56)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 身体計測の意義、身体計測時の注意、身体計測の実際 ・演習 身体計測 (身長、体重、胸囲、頭囲) ・演習後 各測定値の記録と評価、ワークシートの課題提出 ・予習：乳幼児の生理機能の特徴、ワークシートの課題
5 回	<p>第6章<乳幼児の生理機能の測定> (P 58-66)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 生理機能の測定の特徴と工夫、乳幼児の体温、呼吸、脈拍測定 ・演習内容 各自体温、脈拍、呼吸測定 ・演習後 計測値の記録と評価、ワークシートの課題提出 ・予習：乳幼児の精神機能の発達、ワークシートの課題
6 回	<p>第7章<乳幼児の精神機能の発達評価>(P 68-77)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 精神機能の発達、感覚の発達(視力、聴力検査) ・ワークシートの課題提出 ・予習:乳幼児の運動機能の発達
7 回	<p>第8章<乳幼児の運動機能の発達評価>(P 80-88)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 乳幼児の運動発達、運動発達と評価 ・DVD 視聴 ・ワークシート課題1, 2提出 ・予習:歯の健康と歯磨きの仕方

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	<p>第9章＜乳幼児の歯の健康＞(P90～100)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 歯の健康とは、乳幼児の虫歯の現状、歯のケアの実際) ・演習内容 歯みがきの仕方、仕上げの方法 ・演習後 気づき・感想、ワークシート1, 2, 3 課題提出 ・予習：乳児の沐浴について
9 回	<p>第10章＜乳幼児の身体の清潔＞(P102～111)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 乳幼児の手足顔などの清潔、乳児の沐浴、座浴、マッサージ、赤ちゃん体操 ・演習内容 乳児の沐浴 各自1回乳児の沐浴、マッサージ、赤ちゃん体操する。 ・演習後 気づき・感想ワークシート課題1 提出 ・予習： 小児の感染症について
10 回	<p>＜第11章乳幼児の異常症状と手当＞(P114～128)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 発熱・咳・嘔吐・腹痛・下痢・けいれん・発疹・アレルギーとその手当、薬の使い方、罨法、感染症に対する予防・報告等 ・課題 ワークシート課題1, 2, 3, 4 ・予習：乳幼児の事故
11 回	<p>第12章＜乳幼児の事故と応急手当＞(P130～145)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 乳幼児と事故、応急手当(すり傷、切り傷、刺し傷、かみ傷、止血方法、打撲、捻挫・脱臼、骨折、熱傷、鼻出血、熱中症、誤飲、その他) ・復習：応急手当の方法
12 回	<p>＜乳幼児の事故と応急手当＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習内容 応急手当の方法、三角巾・包帯の使い方、捻挫・脱臼・骨折の固定方法 ・演習方法 2人一組になってけがの状況を想定し、「応急手当」の練習をする。 ・演習後の評価 提出 ・予習：心肺蘇生について
13 回	<p>第13章＜心肺蘇生法＞(P148～156)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 心肺蘇生法について、CPR および AED ・演習内容 事故発生から CPR 救急車の呼び方 ・演習方法 各グループで役割を決めて行う ・予習：保育における環境衛生の重要性、集団保育と保健対策
14 回	<p>第14章＜保育における環境衛生＞(P158～168)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 保育室の環境、保育室の衛生、その他の施設・設備の衛生、プールの衛生 ・演習内容 吐物の処理の仕方、消毒液の作り方 ・課題：環境衛生について、演習からの気づき <p>第15章＜集団保育と保健＞(P170～178)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 集団保育と保健対策・安全、保健年間計画と保健行事、地域保健活動 ・提出：保健日より作成
15 回	<p>知識、技術の習熟度を把握</p> <p>＜まとめ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 全教育内容の復習

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	家庭支援論	授業回数	15	単位数	2	担当教員	大賀 恵子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : e-mail: ohga@owc.ne.jp OH:金曜 5 限							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭の意義とその機能について理解する。 2. 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。 3. 子育て家庭の支援体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。 <p>学生の学習成果 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの置かれている状況及び家庭、地域社会における生活の実態を把握するとともに、子どもを温かく受容し、適切な保護、世話を払い、子どもが安定感と信頼感を持って活動できるようにする能力を獲得する。 <p>汎用的学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての責任を果たすために必要な倫理観や価値観、自己管理能力を獲得する。 						
	教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>4つの教育目標を達成するために、以下のような要領で授業を行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義形式で行う。理解を深めるために、必要に応じて演習も行う。 ・毎回小レポートを書かせ、家庭支援論に関する習熟度を高める。 ・自ら学ぶ姿勢を身につけるために、予習・復習を奨励する。 				
予習・復習		<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・毎授業回後に復習を求める。その際、提出課題とする場合がある。 					
テキスト		小田 豊・日浦直美・中橋美穂 編著 「家庭支援論」 北大路書房 (2014)					
学習評価の方法	<p>以下の4つの学習成果について、その獲得度合い量的に評価する。その際、授業回数を勘案し、おおよそ「① : ② : ③ : ④」 = 1 : 2 : 1 : 2 の比重をかける。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 家庭の意義とその機能について理解する。 ② 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。 ③ 子育て家庭の支援体制について理解する。 ④ 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。 <p>評価は、課題・授業中に実施し提出する課題 (20 点)、及び期末試験 (80 点) により実施する。受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、ケースに応じて減点する</p>						
注意事項	<p>参考図書等</p> <p>土谷 みち子 著「家庭支援論」 青鞥社(2011)</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><オリエンテーション></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 授業の進め方、学習予定、学習評価の方法について説明する。 <p><家庭支援論とは></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 時代の移り変わりの中で、家族というものも多様に変化してきた経緯を理解したうえで、保育士の業務として保護者支援が必要不可欠のこととなり、社会的に認められてきたことを知らせる。 子どもに現れる様々な問題を解決するためには、子どものみでなく、家庭そのものも援助する必要があることを説明する。 ・学習成果 家庭支援論の課題は、家族の子育てに対する社会的支援について学ぶことであるという認識を持つ。 ・予習事項 テキスト第1章 家庭とは何かを読む。
2 回	<p><家庭とは何か？></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 家庭・家族の概念とその歴史を説明する。都市化、核家族化、少子化、などの影響による現在の家庭の実態を把握できるようにする。 ・学習成果 家庭とは何かを考えることにより、子育ての場として家庭をとらえ、どのように機能していくべきか考えることができるようになる。 ・予習事項 テキスト第2章 家族と子育てを読む。
3 回	<p><家族と子育て></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 家族と子育てに関する近年の動向や実態について、統計資料を使いながら把握することができるようにする。 ・学習成果 子育てのために家族を支援する必要性を理解する。 ・予習事項 テキスト第3章1節 現代家庭の子育てと支援の必要性<子育てにおける不安負担感とストレス>を読む
4 回	<p><現代家庭の子育てと支援の必要性 (1) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 子育てにおける不安、負担感、ストレスの要因について、統計資料を使いながら理解することができるようにする。 ・学習成果 “子育ての社会化” が求められていることを理解する。 ・予習事項 テキスト第3章2節 現代家庭の子育てと支援の必要性<児童虐待の実態とその対応>を読む。
5 回	<p><現代家庭の子育てと支援の必要性 (2) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 児童虐待の発生要因を、図を示すことによって、理解することができるようにする。虐待の実態と種類についても統計資料により示す。 ・学習成果 保育者は、虐待の対応と予防に関わることが期待されている現状を理解する。 ・予習事項 テキスト第3章3節 現代家庭の子育てと支援の必要性<特別な配慮を必要とする子どもをもつ親への支援> 4節<ひとり親家庭への支援>を読む。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
6 回	<p><現代家庭の子育てと支援の必要性 (3) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 特別な配慮を必要とする子どもをもつ親へのサービス体制の実態、ひとり親家庭へのサービスの実態を統計資料により把握することができるようにする。 ・学習成果 ひとり親家庭の心理的葛藤、父子世帯における潜在的ニーズなどについて説明できるようになる。 ・予習事項 テキスト第4章1節 子育て支援の方法<子育て支援の施策>を読む
7 回	<p><子育て支援の方法 (1) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 子育てに対するさまざまな問題に対し、国がどのような施策で対応してきたか概要を説明する。 ・学習成果 “保育” という仕事は社会の構築と深くかかわったところで機能していることを認識する。 ・予習事項 テキスト第4章2節 子育て支援の方法<子育て支援と保育者の役割>を読む
8 回	<p><子育て支援の方法 (2) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 倉敷市の子育てマップや広報誌などをもとに、どの機関がどのような子育て支援を実施しているか概説する。 ・学習成果 保育所・幼稚園・認定こども園、地域子育て支援拠点事業における子育て支援の役割と課題について確認する。 ・予習事項 テキスト第5章 家庭支援の展望と課題を読む
9 回	<p><家庭支援の展望と課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 男女共同参加社会の現状について統計資料等を使って説明する。男女共同参加社会と子育てについて小グループで話し合うことにより一人の大人の意見と同様に、保育の専門職としての意見を持てるようにする。 ・学習成果 男女共同参加社会について、人の生活がより豊かなものになることを目指していることを確認する。 ・予習事項 テキスト実践編 第6章を読む。
10 回	<p><保護者の心を聴くために></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 事例をもとに、ロールプレーしたり、解説したりしていく中で、保護者とのかわりをどのように受け止めて考えて行けばよいのか考察できるようにする。 ・学習成果 保護者との関係性は、日々の「傾聴」の姿勢から作り上げられるものであることを再確認する。 ・予習事項 テキスト実践編 第7章を読む。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
11 回	<p><さまざまな家族とのかかわり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 事例をもとに、ロールプレーしたり、解説したりしていく中で、保護者との連携には、連絡・報告・相談・確認が大切な要素になっていることをできるようにする。 ・学習成果 保護者との連携には、連絡・報告・相談・確認が大切な要素になっていることを確認する。 ・予習事項 テキスト実践編 第8章1節を読む。
12 回	<p><保育所・幼稚園・地域子育てセンターでの取り組み(1)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 地域の子育て家庭への支援の事例を取り上げ、保育所における子育て支援の役割について解説する。 ・学習成果 子育て支援においては、親自身が主人公であるという視点も必要なことに気づく ・予習事項 テキスト実践編 第8章2節を読む。
13 回	<p><保育所・幼稚園・地域子育てセンターでの取り組み(2)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 親の主体性の育ちを支援した事例を取り上げ、具体的な支援方法や配慮点を解説する。 ・学習成果 保育者や幼稚園が企画して提供する事ばかりが子育て支援ではないことを知る。 ・予習事項 テキスト実践編 第8章3節を読む。
14 回	<p><保育所・幼稚園・地域子育てセンターでの取り組み(3)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 子育て支援に、ボランティアが参加する活動の事例を取り上げ、解説する。 ・学習成果 ボランティアに委ねる領域を見極めることの大切さに気づく。 ・予習事項 テキスト「家庭支援」の視点から見たポイントを読む。
15 回	<p><保育所・幼稚園・地域子育てセンターでの取り組み(4)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 子育て・子育て支援関連施策の動向について振り返り、保育所保育指針や幼稚園教育要領と家庭支援における保育者の役割を復習し確認する。 ・学習成果 家庭支援の対象としての保護者は、子どもの最善の利益を保障するという共通の目的のもとに「協働者」であることを心にとめる。 <p><総復習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 これまでの内容を復習し、質問を受ける。

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	子どもの食と栄養	授業回数	15	単位数	2	担当教員	高槻 悦子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : C棟研究室において授業時間外に受け付ける							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>保育士を目指す者として、小児栄養の基本的理論を理解した上で、保育の実際との関連において実践的な理解をすることを目標とする。</p> <p>また、保育士には園児の保護者だけでなく、地域の子育て支援も期待されていることから、子供の心身の健康のための望ましい食環境とはどのようなものかを的確に捉えて食教育の実践ができる保育者をめざす。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>専門的学習成果として、教育目標に掲げた理論の理解や実践力を身につける。</p> <p>汎用的学習成果として、専門的学習成果の獲得とともに自らの食生活を振り返り、保育者としてふさわしい食生活を実践できるようになること。それにより、子どもに対する食育についても推進できる。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>講義テーマにそった課題を提出する。</p> <p>後半には実際の保育の場を想定した指導案や教材を作成し、その教材を使った栄養・食教育を実演し、お互いに評価する時間を持つ。</p>	<p>予習・復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎授業回前には、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・復習として、毎授業回後のノート整理し、課題は指定日までに必ず提出すること 	<p>テキスト</p> <p>新藤 由紀子 他著「発育期の子どもの食生活と栄養」学建書院</p>			
学習評価の方法	<p>専門的学習成果として①～③について、その獲得度合いを量的に評価する。</p> <p>①栄養素の働き、体内での代謝等栄養の基礎的知識をつける。</p> <p>②子どもの発育・発達に応じた食生活について理解する。</p> <p>③保育における食育の推進の実際や実践方法を理解する。</p> <p>汎用的学習成果は、①～③について、演習・課題レポートにより評価する</p> <p>①自らの食生活を振り返る。</p> <p>②保育者としてふさわしい食生活が実践できる。</p> <p>③子どもに対する食育を推進できる。</p> <p>評価点 (100) = 期末試験の得点 (70) + 演習・課題レポート (30)</p> <p>60 点以上を合格とする。</p> <p>受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、ケースに応じて減点する。</p>						
注意事項	<p>参考図書等</p> <p>幼稚園教育要領 保育所保育指針<原本> チャイルド本社</p> <p>保育所保育指針 解説書 厚生労働省編 フレーベル館</p> <p>足立 巳幸監修 「子どもの栄養と食育がわかる事典」成美堂出版</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション</p> <p>講義内容 授業の進め方、スケジュール、学習評価の方法について説明する。</p> <p><子どもの健康と食生活の意義①>—子どもの心身の健康と食生活</p> <p>子どもが将来適切な食生活を送るための「食を営む力」は胎生期から思春期までの間にその子どもを取り巻くおとなの食生活や行動、会話などによって確立していく。保育士として、食事の時間は心を育む重要な機会であることを学ぶ</p>
2 回	<p><子どもの健康と食生活の意義②>—子どもの食生活の現状と課題</p> <p>子育て家庭の現状から、子どもの食に影響を及ぼす要因を示す。それにより保育士に求められる食の健全育成のための課題を見つけ、自らも食べることや健康に関心を持つことができるようになる。</p> <p>(予習事項) 教科書P2～7を読んでおく</p> <p>(復習事項) プリントの整理</p>
3 回	<p><栄養に関する基礎知識①>—栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能</p> <p>何のために食べるのかを考える。生きていくために必要な食品中の成分(栄養素)とそれを体内に取り入れて利用する営みを栄養という。5大栄養素の働きを理解し、食品に含まれる栄養素の種類によって食品を食品群別に分けることができるようになる。</p> <p>(予習事項) 教科書P8～20を読んでおく</p> <p>(課題) 自分の食べた夕食を6つの基礎食品群に分けてみよう</p>
4 回	<p><栄養に関する基礎知識②>—食品に関する基礎知識、食事摂取基準と献立作成・調理の基本</p> <p>食事摂取基準を実際の食生活で展開できるように作成された「食事バランスガイド」を使って、「何をどのくらい、どのように食べたらよいか」を知り、自分の食生活を見直すことができる。</p> <p>(予習事項) 教科書P20～37を読んでおく</p> <p>(課題) 自分が食べた1日分の食事を食事バランスガイドでチェックしてみよう</p>
5 回	<p><子どもの発育・発達と食生活①>—授乳期の食生活と母乳分泌・乳汁期の食生活</p> <p>乳汁期は人の一生の中で、最も発育が盛んな時期で、この発育のために栄養素がたくさん必要になる。母乳栄養・人工栄養の特徴を知り、母子の健康維持、健やかな親子関係を築くための支援ができるようになる。調乳のしかたがわかる。</p> <p>(予習事項) 教科書P38～55を読んでおく</p> <p>(復習事項) プリントの整理(母乳栄養と人工栄養の利点、調乳の手順)</p>
6 回	<p><子どもの発育・発達と食生活②>—離乳期の食生活 離乳食の役割 離乳の計画と進め方</p> <p>乳汁栄養から幼児食に移行する過程(離乳期)は、乳汁(液状のもの)だけを「吸う」ことで栄養を取ってきた乳児が、形ある食べものを「食べる」という機能や食事の基本を学習する大切な時期である。離乳期の乳児の精神的・身体的発達の特徴をとらえ、離乳を計画的に進めることを適切に支援できるようになる。</p> <p>(予習事項) 教科書P56～75を読んでおく</p> <p>(復習事項) プリントの整理(離乳食の進め方・手づかみ食べ)</p>
7 回	<p><子どもの発育・発達と食生活③>—幼児期の食生活 間食の意義 お弁当</p> <p>食生活の基本は幼児期に築かれる。幼児期に身につけるべき食生活の基本と必要な栄養素の摂取の仕方を理解することができる。その方法としての幼児の間食やお弁当について考えることができる。</p> <p>(予習事項) 教科書P76～86を読んでおく</p> <p>(課題) 幼児が喜ぶお弁当を考えてみよう</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	<p><子どもの発育・発達と食生活④>—学童期の食生活・食生活上の問題点 学校給食 学童期の食生活が食習慣になりやすいと言われる。学童期の食生活で注意すべき点を理解し、児童に望ましい食習慣形成のための支援ができるようになる。 (予習事項) 教科書P87～94 を読んでおく (復習事項) プリントの整理</p>
9 回	<p><食育の基本と内容①>—食育基本法・保育所保育指針・保育所における食育に関する指針 「食育とは」何かを法令や国の施策の面から理解し、実際に保育所で食育を推進するために行われている食育やその推進のしかたを学ぶ。 (予習事項) 教科書P100～103 を読んでおく (復習事項) プリントの整理</p>
10 回	<p><食育の基本と内容②>—食育における養護と教育の一体性、食育の内容と計画・評価 保育所等で行われている食育やその推進のしかた・考え方を理解し、保育計画の中に食育の計画を組み入れて立てることができる。 (予習事項) 教科書P100～106 を読んでおく (復習事項) プリントの整理</p>
11 回	<p><食育の基本と内容③>—食生活指導及び保護者への支援 現状と今後の課題 子どもの食育は各施設内でのみ行われるのではなく、社会全体が総合的に推進すべきものである。家庭や地域の方とともに一緒に食育を推進していくために、自らの専門性を生かし、社会資源を活用しながら、他職種と連携して保護者や子どもへの食育を実践することを理解する。 (予習事項) 教科書P106～110 を読んでおく (復習事項) プリントの整理</p>
12 回	<p><食育の基本と内容④>—保育者による栄養・食育の実践 保育所の給食時間を想定し、「今日の給食」について媒体を作成し、食育を実践できるようになる。 (課題) クイズ 「わたしはだれでしょう」 媒体作成</p>
13 回	<p><食育の基本と内容⑤>—保育者による栄養・食育の実践 作成した媒体を使って、食育の実践発表を行い、自己及び他者の評価ができる。 (課題) クイズ 「わたしはだれでしょう」 媒体作成・発表</p>
14 回	<p><児童福祉施設における食事と栄養>—児童福祉施設の特徴と給食 児童福祉施設は児童福祉法を根拠法令とした児童(保護者を含む)を心身ともに健やかに育成することを目的とした施設である。そのために子どもの食事・食生活を支援している。各施設における食事提供の考え方を理解し、給食を実施するにあたっての支援の仕方を学ぶ。 (予習事項) 教科書P118～132 を読んでおく (復習事項) プリントの整理</p>
15 回	<p><特別な配慮を要する子どもの食と栄養> 疾病及び体調不良の子ども・食物アレルギーのある子ども・障害のあるこどもの食に対する問題点は様々で、個に応じた対応が必要である。その対応時のポイントを学ぶ。 (予習事項) 教科書P134～144 を読んでおく (復習事項) プリントの整理 「子どもの食と栄養」のまとめ</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	保育内容総論	授業回数	15	単位数	1	担当教員	福野 裕美
質問受付の方法 e-mail: yfukuno@owc.ac.jp OH: 木曜日 12:20~13:00 その他在室時は何時でも可 (M棟 410)							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標: 本講は、幼稚園・保育所における保育の基本と内容について総合的に理解するとともに、実習体験をもとに保育者に大切な考え方やものの見方について省察することを目的とする。具体的には、以下の事柄に関して理解を深め、今後求められる保育内容の在り方について考えていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の全体的な構造 2. 保育内容の歴史的変遷 3. 保育内容と子ども理解とのかかわり 4. 養護と教育の一体的展開 5. 保育の多様な展開 <p>学生の学習成果: 専門的学習成果: 上記の項目に関する基礎的知識を習得すること。 汎用的学習成果: ①保育士として相応しい価値を知り、自分なりの意見を確立することができること、②論理的思考力を身に付けること。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方 (講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レジュメに基づく講義形式を中心に進める。受講生の興味関心に応じてグループディスカッション等の活動を行うこともある。 ・講義内容の理解を促進するために、授業中に小テストを課す。 ・講義内容の理解を深めるために、授業後にシャトルカードの記入を求める。その返答を次回の講義の際に行うことにより、双方向的な講義づくりをする。 	<p>予習事項: 各回の授業で学習する内容についてテキストを読み、疑問点を明確にする。 復習事項: テキストおよび授業で配付されたレジュメを読む。各回の復習キーワードを中心に、授業で出てきた用語の意味を説明できるようにする。その他の復習課題については各回の授業で提示する。</p>	<p>テキスト</p> <p>太田悦生編『新・保育内容総論 [第2版]』みらい、2010年。</p>			
学習評価の方法	<p>以下の学習成果に関して、同等の比重で評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の全体的な構造について理解している。 2. 保育内容の歴史的変遷について理解している。 3. 保育内容と子ども理解とのかかわりについて理解している。 4. 養護と教育の一体的展開について理解している。 5. 保育の多様な展開について理解している。 <p>学習評価は、学期末に行う試験 (80%)、小テスト (10%)、課題 (10%) によって実施する。</p>						
注意事項	<p>参考図書等:</p> <ul style="list-style-type: none"> 『保育所保育指針』 『幼稚園教育要領』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>講義内容 オリエンテーションとして、本講の目的、授業の進め方と評価方法について説明する。授業中の課題を通して、保育内容について学ぶ意味を考える。</p> <p>学習成果 保育内容の意味と、保育内容を学ぶ意味を認識する。</p> <p>復習：授業で配付されたレジュメを参照し、本日の授業の要点をまとめる。</p>
2 回	<p>講義内容 保育所、幼稚園、認定こども園の概要を説明し、保育内容の全体像を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所と幼稚園の共通点と相違点（法規的説明を含む） ・保育内容を捉える視点 ・保育内容の5領域 <p>学習成果 保育所、幼稚園、認定こども園について、それぞれの制度的な特徴を説明できる。</p> <p>予習：テキスト 11～33 頁</p> <p>復習：【キーワード】 保育所、幼稚園、認定こども園</p>
3 回	<p>講義内容 保育所保育指針と幼稚園教育要領が示す保育内容が、どのような項目、構造で組み立てられているかを説明する。</p> <p>第2章 保育内容の構造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育内容とは ・「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」が示す保育内容 <p>学習成果 保育所保育指針と幼稚園教育要領の共通点、相違点を説明できる。</p> <p>予習：テキスト 34～51 頁</p> <p>復習：【キーワード】 保育所保育指針、幼稚園教育要領、5領域</p>
4 回	<p>講義内容 低年齢児の保育の理念や目的、方法、内容について事例をもとに説明する。</p> <p>第3章 3歳未満の子どもの保育内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3歳未満の子どもの生活と保育 ・家庭との連携・関連機関との連携 ・健康・安全・事故防止 <p>学習成果 低年齢児の保育では、安全で家庭的な環境のもと、一人ひとりに応じた保育を行う必要があることを認識する。</p> <p>予習：テキスト 52～70 頁</p> <p>復習：【キーワード】 生命の保持、情緒の安定</p>
5 回	<p>講義内容 3歳以上の子どもにふさわしい生活、それらに対応した保育内容について事例をもとに説明する。</p> <p>第4章 3歳児以上の子どもの保育内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3歳、4歳、5歳、6歳児に相応しい園生活と保育内容 <p>学習成果 3歳以上の子どもの発達の様子と、各年齢の子どもにふさわしい園生活と保育内容について認識する。</p> <p>予習：テキスト 71～91 頁</p> <p>復習：【キーワード】 交友集団、活動集団</p>
6 回	<p>講義内容 保育課程、保育の計画および指導計画の意義を確認し、指導計画の種類、作成上の留意事項について説明する。</p> <p>第5章 保育計画と指導計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程・保育課程 ・指導計画の位置づけ ・指導計画の作成と展開 <p>学習成果 保育における計画の意義を理解し、指導計画の作成と展開について説明できる。</p> <p>予習：テキスト 92～108 頁</p> <p>復習：【キーワード】 教育課程、保育課程、指導計画</p>
7 回	<p>講義内容 発達の基本的な考え方について説明し、子どもの発達や特性や発達を促す援助について考える。</p> <p>第6章 子どもの発達を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達のとらえ方 ・子どもの理解について ・保育所保育指針・幼稚園教育要領における発達観 <p>学習成果 乳幼児期の発達の特性について説明できる。</p> <p>予習：テキスト 109～126 頁</p> <p>復習：【キーワード】 発達課題、発達過程</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	<p>講義内容 保育所での保育に関する DVD を視聴し、子どもの主体性を育む指導・援助のあり方について学ぶ。 第7章 保育における指導・援助 ・環境を通して行う保育 ・保育方法の原理と指導・援助のあり方</p> <p>学習成果 子どもの主体性を育む指導・援助のあり方について、自分の意見を論理的に主張することができる。 予習：テキスト 127～140 頁</p>
9 ・ 10 回	<p>講義内容 保育所での保育に関する DVD を視聴し、子どもの遊びをみる視点と援助の基本について学ぶ。 第8章 遊びと保育内容 ・遊びは保育の基本 ・遊びにおける保育者の役割 ・遊びの指導・援助の実際</p> <p>学習成果 遊びを広げ発展させる援助のあり方について、自分の意見を論理的に主張することができる。 予習：テキスト 141～157 頁 復習：【キーワード】遊び、子ども中心主義</p>
11 回	<p>講義内容 集団生活における生活習慣の形成について説明する。 第9章 生活と保育内容 ・子どもの「生きる力」と生活習慣 ・生活習慣の形成と保育内容 ・生活習慣の形成と保育者による援助</p> <p>学習成果 子どもの生活習慣の形成という点から、保育のポイントを認識する。 予習：テキスト 158～169 頁 復習：【キーワード】生きる力、自律性、相互性、社会性</p>
12 回	<p>講義内容 保育における評価の意義や、さまざまな評価の種類や方法を説明する。 第10章 保育の評価 ・評価の意義 ・評価の種類と方法 ・保育実践の評価</p> <p>学習成果 評価の意義を理解した上で、さまざまな評価の種類と方法を自分で説明できる。 予習：テキスト 170～186 頁 復習：【キーワード】説明責任、診断的評価、形成的評価、総括的評価</p>
13 回	<p>講義内容 明治から現代までの保育内容の変遷を確認し、これからの保育内容に求められる方向性を考える。 第11章 保育内容の変遷について ・戦前の保育内容 ・戦後の保育内容</p> <p>学習成果 保育内容の変遷を理解し、これからの保育内容に求められる方向性について、自分の意見を述べるすることができる。 予習：テキスト 187～203 頁 復習：【キーワード】東京女子師範学校附属幼稚園、保育要領</p>
14 回	<p>講義内容 現代の子どもが抱える課題と、それに対する保育者の役割を考える。 第12章 保育者に求められる姿 ・子どもの育ちの変化と子どもを取り巻く環境の変化 ・集団保育の困難性 ・全体把握と個への援助の連関を確立させるということ</p> <p>学習成果 保育者の今日的課題について、自分の意見を述べるすることができる。 予習：テキスト 204～213 頁 復習：【キーワード】コミュニケーション能力の不足、小学校生活への不適応</p>
15 回	<p>講義内容 これまでの学習内容の総復習として、重要事項を確認する。</p> <p>学習成果 各回の授業で設定されたキーワードを説明できる。 予習：これまでの授業の中で理解が不十分な箇所をまとめ、質問できるようにしておく。 復習：授業で配付されたすべてのレジュメおよび資料を見直す。</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	教育課程総論	授業回数	15	単位数	2	担当教員	福野 裕美
質問受付の方法		e-mail:yfukuno@owc.ac.jp		OH：木曜日 12:20～13:00		在室時は何時でも可（M棟 410）	
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：</p> <p>幼稚園における教育課程は、小学校以上の学校教育における教育課程と異なり、遊びや生活を中心としており、その内容や編制について十分な理解と配慮が必要である。</p> <p>本講では、教育課程・保育課程に関する以下の項目についての基礎的知識を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程・保育課程の意味と意義 ・教育課程・保育課程、及び指導計画の編成 ・教育課程・保育課程、及び指導計画に関する評価 ・教育課程編成における今日的課題 <p>学生の学習成果：</p> <p>専門的学習成果：上記の項目についての基礎的知識を習得すること。</p> <p>汎用的学習成果：①保育士、幼稚園教諭として相応しい価値を知り、自分なりの意見を持つこと、②論理的に思考する力を身に付けること。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レジュメに基づく講義形式を中心に進める。グループ・ディスカッション等の活動を行う場合もある。 ・講義内容の理解を促進するために、授業中に小テストを課す。 ・講義内容の理解を深めるために、毎授業後にシャトルカードの記入を求める。その返答を次回の講義の際に行うことにより、双方向的な講義づくりをする。 <p>予習・復習</p> <p>予習事項：各回の授業で学習する内容についてテキストを読み、疑問点を明確にする。</p> <p>復習事項：テキストおよび授業で配付されたレジュメを読む。各回の復習キーワードを中心に、授業で出てきた用語の意味を説明できるようにする。その他の復習課題については各回の授業で提示する。</p> <p>テキスト</p> <p>小田豊・神長美津子編『教育課程総論』北大路書房、2009年。</p>					
学習評価の方法	<p>学習成果：以下の項目について、同等の比重をかけて評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程、保育課程の意味と意義について理解している。 ・教育課程、保育課程の編成及び指導計画作成のための基礎的知識と方法を習得している。 ・モデルとなる指導計画を参考にしながら、自分で指導計画を作成することができる。 ・教育課程、保育課程及び指導計画に関する評価の目的・方法を理解している。 ・教育課程編成における今日的課題を認識し、幼児期の教育のあり方について自分なりの考えを述べることができる。 <p>学習評価は、小テスト（20%）、課題（20%）、期末に行う試験（60%）によって実施する。</p>						
注意事項	<p>参考図書等：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 <p>授業において適宜紹介する。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>講義内容 オリエンテーションとして、本講の目的、授業ルールと授業の進め方、および評価方法について説明する。授業中の課題を通して教育課程の意味と、保育所・幼稚園教育の特徴を説明する。</p> <p>学習成果 教育課程、あそびを通しての総合的な指導という幼稚園教育の基本を認識する。</p> <p>復習：授業で配付されたレジメを参照し、本日の授業の要点をまとめる。</p>
2 回	<p>講義内容 実際の教育課程・保育課程を見て、どのようなことが書かれているかグループで話し合う。それをふまえ、幼児教育の基本と教育課程の基本的な考え方について学ぶ。</p> <p>第1章 幼児教育の基本と教育課程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の意義と役割 ・教育課程の編成の基本的な考え方 <p>学習成果 教育課程、保育課程、幼稚園教育要領、保育所保育指針という言葉の意味を認識する。</p> <p>予習：テキスト1～10頁</p> <p>復習：【キーワード】教育課程、保育課程</p>
3 回	<p>講義内容 明治時代の幼稚園の様子を描いた絵と、現代の幼稚園の写真を比較し、その違いをグループで話し合う。その後、現代の保育内容にいたった歴史的な変遷を解説し、幼児教育における教育課程のあり方について考える。</p> <p>第2章 保育内容の変遷と教育課程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育内容の歴史的系譜 ・現代の保育内容 ・意図的教育と保育内容の構造 <p>学習成果 現代に求められる教育課程は「子ども中心の教育課程」であることを認識する。</p> <p>予習：テキスト11～27頁</p> <p>復習：【キーワード】幼稚園教育要領、保育所保育指針</p>
4 回	<p>講義内容 幼稚園でのあそびを取り上げたDVDの視聴を通して、幼児の「あそびのなかの学び」について考える。</p> <p>第3章 あそびと学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児のあそび ・あそびのなかでの学び ・幼稚園と小学校の連携 <p>学習成果 幼児があそびを通して学ぶことを知り、そのために教育課程で考慮すべき点を認識する。</p> <p>予習：テキスト29～42頁</p> <p>復習：【キーワード】発達の最近接領域</p>
5 回	<p>講義内容 実際の指導計画の中から「5領域」を探す課題を通して、保育内容における「領域」の意味を学ぶ。</p> <p>第4章 保育内容と領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育要領と教育課程の編成 ・保育内容としての「領域」 ・あそびをとおしての総合的な指導 <p>学習成果 領域とは幼児の発達の諸側面のねらいと内容をまとめたものであり、小学校の教科とは異なることを認識する。</p> <p>予習：テキスト43～57頁</p> <p>復習：【キーワード】5領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）</p>
6 回	<p>講義内容 具体的な保育場面を取り上げた事例を通して、教育課程・保育課程の編成および指導計画作成の前提となる発達理解の重要性を学ぶ。</p> <p>第5章 発達の理解と教育課程の編成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の発達と保育 ・「発達の理解」とは ・より深い発達理解のために <p>学習成果 一人ひとりの子どもの発達を理解し、保育を計画し、援助していくプロセスを認識する。</p> <p>予習：テキスト59～72頁</p> <p>復習：【キーワード】一人一人の発達の特性に応じた指導</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
7 回	<p>講義内容 特色ある園づくりと保育の概要を示すための教育課程の編成について説明する。 第6章 特色ある幼稚園づくりと教育課程の編成 ・過熱化する幼稚園選び ・日常の保育と教育課程の関係 ・親にも伝わる教育課程を</p> <p>学習成果 特色ある園づくりに取り組む点から、教育課程を編成する意義を認識する。 予習：テキスト 73～86 頁 復習：【キーワード】 特色ある幼稚園</p>
8 回	<p>講義内容 身近な事例をもとに計画・実施・評価・改善の流れを確認し、教育課程の評価・改善に関する基本事項について説明する。 第7章 教育課程の評価・改善 ・教育課程の評価・改善の考え方 ・教育課程の評価・改善の方法と実際</p> <p>学習成果 教育課程の編成・実施・評価・改善の流れを認識する。 予習：テキスト 87～100 頁 復習：【キーワード】 自己評価、外部評価</p>
9 ・ 10 回	<p>講義内容 幼稚園における教育課程編成のプロセスを確認し、教育課程編成にあたっての基本的な考え方と留意事項を説明する。 第8章 幼稚園における教育課程編成の実際 ・教育課程編成にあたっての基本的な考え方と留意事項</p> <p>学習成果 教育課程編成の手順と、各プロセスで保育者が留意すべき事項を認識する。 予習：テキスト 101～117 頁 復習：【キーワード】 教育課程編成</p>
11 ・ 12 回	<p>講義内容 幼稚園との比較を通して保育所の特性を確認し、計画作成の留意点を説明する。 第9章 保育所における保育課程の実際 ・保育所における保育課程の意義 ・保育所での子どもの生活と保育課程 ・保育所保育指針との関連 ・保育課程の編成</p> <p>学習成果 養護と教育の一体的な実施という保育所保育の特性を認識する。さらに、保育場面の計画を自ら立てることができる。 予習：テキスト 119～135 頁 復習：【キーワード】 保護者に対する支援、食育</p>
13 回	<p>講義内容 米国の保育園に関する映画を視聴し、日米の違いを考察することを通して、日本の保育実践の特色について考える。 第10章 おもな国の就学前教育 ・諸外国における就学前教育 ・「発達」理論と文化</p> <p>学習成果 米国の就学前教育の基本的な事項を認識する。 予習：テキスト 137～151 頁 復習：【キーワード】 米国の就学前教育</p>
14 回	<p>講義内容 ジェンダーの問題など、現代の保育内容を考えるときに、とくに配慮すべき事項について説明する。 第11章 時代の変化と新たな保育内容 ・「環境をとおしての教育」を支える教育課程とは ・21世紀の保育に必要な視点</p> <p>学習成果 ジェンダーの意味を理解し、保育の場でのジェンダーの問題を説明できる。 予習：テキスト 153～169 頁 復習：【キーワード】 ジェンダー、認定こども園</p>
15 回	<p>講義内容 これまでの学習内容の総復習として、重要事項を確認する。</p> <p>学習成果 各回の授業で設定されたキーワードを説明できる。 予習：これまでの授業の中で理解が不十分な箇所をまとめ、質問できるようにしておく。 復習：授業で配付されたすべてのレジュメおよび資料を見直す。</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	健康 (保育内容)	授業回数	15	単位数	2	担当教員	藤井 真理
質問受付の方法 : B 棟 306 室 水曜 16:20~17:00 e-mail : fujima@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>下記 3 点を機軸に、社会的背景の変容に追従して引き起こされる乳幼児の健康問題を把握し、子どもたちが心身ともに健やかに成長するための留意点や課題、保護者への働きかけ等について学びを深めるとともに、健康分野に関する指導シミュレーションを通して保育現場で通用する実践的指導力を培う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児の生活環境の変容と現代社会における健康問題の把握 2. 乳幼児の発育・発達に即した生活上の留意点と課題の理解 3. 乳幼児の健康分野に関する有効なアプローチと実践的指導力の習得 <p>学生の学習成果 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的学習成果として、上記 3 項目の教育目標を達成できるようにする。 ・汎用的学習成果として、保育者としての「態度・信念」及び「価値・意見」を形成する。 						
	教育方法	<p>授業の進め方 (講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児の健康問題に関して、テレビや新聞、インターネット等で報道されている喫緊の課題があれば、積極的に取り上げて授業を展開する。 2. 授業の活性化を図り、質問法によって学生の積極的な応答を求める。 <p>予習・復習</p> <p>予習 : 次回講義における重要事項について予習を課す。 復習 : 講義内容における重要事項について復習を課す (ワークシート形式)。 * 講義において課題の遂行状況をチェックする。</p> <p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前橋明編著・2007 年・「健康 Health」・明研図書 * 補助教材として、VTR や DVD を適宜使用する。 					
学習評価の方法	<p>下記 3 点の学習成果について、「専門的学習成果」として、「1」・「2」は「筆記試験 60 点 / 1 回実施」及び「ワークシート 20 点 / 10 回提出・各 2 点」、「3」は「模擬指導実践 10 点 / 2 回実施・各 5 点」および「模擬指導課題 10 点 / 1 回提出」によって評価する。「汎用的学習成果」については、「遅刻・早退」1 回につき「3 点」を減ずる (公共交通機関の乱れによる遅刻は減点しない / ただし欠席届に証明書 (遅延等) が添付されている場合に限る)。また、「態度・信念」の点検として、受講中の私語や非協力的態度等の問題行動について複数回の注意の後も改善がみられない場合、各授業における当該事態 1 回につき「3 点」を減ずる。さらに、「価値・意見」の点検として、シャトルカードに各回の講義内容のテーマについてコメントを記すことを課し、十分に記されていない場合は「3 点」を減ずる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児の生活環境の変容と現代社会における健康問題の把握 2. 乳幼児の発育・発達に即した生活上の留意点と課題の理解 3. 乳幼児の健康分野に関する有効なアプローチと実践的指導力の習得 						
注意事項	<p>参考図書等 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・榎沢良彦・入江礼子編著・2006 年・「シードブック・保育内容健康」・健帛社 						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>■オリエンテーション シラバスに沿って、本講義の教育目標と学生の学習成果、教育方法（授業の進め方、予習・復習、テキスト）、学習評価の方法について説明する。</p> <p>■講義内容 [子どもの心身の健康をとりまく諸問題] 各回の講義テーマに沿って、現代の子どもとりまく諸問題や課題について解説する。 *学習成果：子どもをとりまく心身の問題や課題として挙げられる項目について把握する。</p> <p>【予習】「健康」の意味と意義について 【復習】子どもをとりまく諸問題や課題の復習</p>
2 回	<p>■講義内容 [健康とは] 健康の意味・意義を説き、身体適正 (Physical fitness) と全体適正 (Total fitness) に加え、日常生活で実践し得る行動体力と防衛体力への働きかけについて解説する。 *学習成果：「健康」の意味・意義と日常における具体的な働きかけについて理解する。</p> <p>【予習】今日の子どもの抱える問題について 【復習】ワークシート①：重点項目の復習</p>
3 回	<p>■講義内容 [子どもの心とからだの異変とその対策について・その1] 今日の子どもが抱える問題として、子どもの心とからだの異変について解説するとともに、その原因について解説し、将来顕著となりそうな問題点の背景について解説する。 *学習成果 子どもが抱える諸問題や具体的な改善策について理解する。</p> <p>【予習】 circadian rhythm について 【復習】ワークシート②：重点項目の復習 【提出】ワークシート①</p>
4 回	<p>■講義内容 [子どもの心とからだの異変とその対策について・その2] 子どものからだの異変とその対策について、特に生活リズムの乱れによる弊害について説くとともに、働きかけの具体的な方策について解説する。 *学習成果：生活リズムの重要性や働きかけの具体的な方策について理解する。</p> <p>【予習】食の変化について 【復習】ワークシート③：重点項目の復習 【提出】ワークシート②</p>
5 回	<p>■講義内容 [模擬指導実践・第1回目] 子どもが自ら健康的な生活を構築するために、意識の強化を図る必要がある。演習は、保育現場で子どもに睡眠の重要性を伝える場面を想定して行う。 *学習成果：子どもと保護者に「睡眠」に対する意識強化を行うための手法を習得する。</p> <p>【予習】保護者の問題行動について 【復習】模擬指導の振り返り：具体的な指導の復習 【提出】ワークシート③</p>
6 回	<p>■講義内容 [子どもをとりまく大人の問題と課題／現代社会と子どもの健康生活・その1] 子どもをとりまく保護者・保育者・指導者の問題等、大人の側の問題や課題について説くとともに、それらに伴う環境や生活、あそび・運動文化の変化について解説する。 *学習成果：子どもをとりまく大人の諸問題と子どもに与える影響について理解する。</p> <p>【予習】子どもの健康問題について 【復習】大人の問題と課題についての復習</p>
7 回	<p>■講義内容 [現代社会と子どもの健康生活・その2] 現代の子どもの食生活の変化について説くとともに、それによって引き起こされる健康問題について解説する。 *学習成果：子どもと食の問題を把握し、引き起こされる健康問題について理解する。</p> <p>【予習】基本的な生活習慣5項目について 【復習】ワークシート④／重点項目の復習</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	<p>■講義内容 [基本的生活習慣の発達と生活観察] 基本的生活習慣5項目（食事・睡眠・排泄・清潔・衣服の着脱）について説くとともに、それぞれに対する配慮と援助の方法、乳幼児の生活観察について解説する。 *学習成果：基本的生活習慣5項目の配慮と援助の方法について理解する。</p> <p>【予習】安全管理に関する指導方法について 【復習】ワークシート⑤/重点項目の復習 【提出】ワークシート④</p>
9 回	<p>■講義内容 [安全管理と安全教育] 事故防止と潜在危険・交通安全指導について説くとともに、実際の保育現場で子どもに指導する際の具体的な展開方法について実演を交えて解説する。 *学習成果：安全管理と安全教育の必要性と意識の強化について理解する。</p> <p>【予習】乳幼児の身長・体重の変化について 【復習】ワークシート⑥/重点項目の復習 【提出】ワークシート⑤</p>
10 回	<p>■講義内容 [乳幼児の身体の発育・発達] 乳幼児の身体の発育・発達について、発育曲線や身体発育の評価方法について解説する。 *学習成果：乳幼児の発育・発達および身体発育の評価について理解する。</p> <p>【予習】乳幼児の精神発達について 【復習】ワークシート⑦/重点項目の復習 【提出】ワークシート⑥</p>
11 回	<p>■講義内容 [乳幼児の心の発達・その1] 乳幼児の精神の発達について情緒・知的面から解説し、養育者が及ぼす影響について説く。 *学習成果：乳幼児の精神発達の理解と養育者の影響について理解する。</p> <p>【予習】「P160～P162」の通読 【復習】ワークシート⑧⑨/重点項目の復習 【提出】ワークシート⑦</p>
12 回	<p>■講義内容 [乳幼児期の心の発達・その2] 虐待の実態について、「VTR/Ichigo 白書」を視聴し、被虐待児のケアについて解説する。 *学習成果：虐待の実態および被虐待児に対する寄り添い方やケアについて理解する。</p> <p>【予習】ワークシートの回答内容の確認 【復習】虐待の実態と施設でのケアの復習 【提出】ワークシート⑧⑨</p>
13 回	<p>■講義内容 [総復習] ワークシートを中心に、これまでの講義内容における重点項目について総復習を行う。 *学習成果：ワークシートに記されている講義の重点項目と内容について把握する。</p> <p>【予習】模擬指導準備/保育教材の製作 【復習】ワークシートの整備と重点項目の復習</p>
14 回	<p>■講義内容 [模擬指導実践・第2回目] 保育現場において生活習慣や交通安全の重要性を伝える場面を想定して演習を行う。 *学習成果：子どもに「生活習慣」や「交通安全」に対する意識強化を行う手法を習得する。</p> <p>【予習】「第12章」の通読 【復習】模擬指導の振り返り/具体的な指導・展開の復習</p>
15 回	<p>■講義内容 [子どもの心と体の健康について・まとめ] 「DVD/子ども輝け命⑤」を視聴し、子どもの心身の健康と保育者の役割について解説する。 *学習成果：子どもの心身の健康の重要性と保育者や保護者の役割について理解する。</p> <p>【復習】重点項目の復習 【提出】ワークシート⑩/本講義内に提出</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	人間関係 (保育内容)	授業回数	15	単位数	2	担当教員	尾崎 聡
質問受付の方法：e-mail は osaki@owc.ac.jp、オフィスアワーは B308 土曜 0900～							
教育目標と学生の学習成果	<p>【教育目標】 『幼稚園教育要領』（文科省）および『保育所保育指針』（厚労省）の「人間関係」に準拠しながら、</p> <p>①子どもの“自立”・“他者とのかかわり”、大人に求められる“子どもとのかかわり”・“支援”について理解し、能力を有するようになることを目指す。</p> <p>②園の中だけでなく、広く社会を舞台として営まれる子ども同士のかかわり、大人と子どものかかわり、大人同士のかかわりについて理解し、支援能力を有するようになることを目指す。</p> <p>③保育者としての使命に目覚め、保育の任務遂行に必要となる「人間理解」・「子ども理解」・「愛」・「世界観」を身に付け、それらが社会性として態度に表われるようになることを目指す。</p> <p>【学生の学習成果】（教育目標と一致） 「専門的学習成果」（知識・技能）</p> <p>①『幼稚園教育要領』および『保育所保育指針』の「人間関係」に謳われていることに関して理解し、身につけている。</p> <p>②子どもの“自立”、“他者とのかかわり”、大人に求められる“子どもとのかかわり”、“支援”について理解し、身につけている。</p> <p>③園の中だけでなく、広く社会を舞台として営まれる子ども同士のかかわり、大人と子どものかかわり、大人同士のかかわりについて理解し、身につけている。</p> <p>「汎用的学習成果」（人間理解・子ども理解・愛・世界観・社会性・態度・調整する能力） 保育者としての使命に目覚める。保育の任務遂行に必要となる人間理解・子ども理解・愛・世界観を身に付ける。以上が社会性として態度に表われ、努力できる。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方 (講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>①教室でテキスト・プリントを用いて概念理解を行う。</p> <p>②教室でテキストを参照して事例研究を行う。</p> <p>③模擬保育室においてロールプレイの演習を行う。</p> <p>④教室でグループ討議や発表を行う。</p>	<p>予習・復習 1回の授業に対して予習・復習が義務付けられる。各回ごとにテーマを課しているが、それについて自分なりに思索したり調べたことをシャトルカードに記述すること。予習と復習のウェイトは変化しても構わないが、「前もって考え」「後から省察する」のが大事である。</p>	<p>テキスト 参考資料をプリントで配布する。</p>			

学習評価の方法	<p>【評価方法】 ①人間関係（保育内容）に関する学習成果を期末筆記試験によって確認する。 ②提出物および演習参加を評価する。 ③授業態度を考慮に入れる。</p> <p>【学習成果の達成度の評価比率】 「専門的学習成果」（知識・技能） ①『幼稚園教育要領』（文科省）および『保育所保育指針』（厚労省）の「人間関係」に謳われていることを理解している（期末筆記試験の50%）。 ②子どもの“自立”、“他者とのかかわり”、大人に求められる“子どもとのかかわり”、“支援”の内容について理解している（期末筆記試験の25%）。 ③幼稚園や保育所ばかりでなく、広く社会を舞台として営まれる子ども同士のかかわり、大人と子どものかかわり、大人同士のかかわりについて理解している（期末筆記試験の25%）。 「汎用的学習成果」（信念。人間関係力すなわち人とかかわり、調整する能力・態度） 保育者としての使命に目覚め、保育の任務遂行に必要な人間理解・子ども理解・愛・世界観を身に付け、それらが社会性として態度に表われ、努力できる（折にふれ評価）。</p> <p>【点数配分】 期末筆記試験（50%）、ノート提出・プリントなど提出物（25%）、演習参加（25%）、 ※毎回の演習はノートに書く、提出時に確認する。提出物の一元化をはかる 上記以外に授業態度を汎用的学習成果として評価する。</p>
注意事項	特になし
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1回	<p>■ ガイダンス：教育目標、教育方法、単位認定、半期の講義計画について予告する。 ■ 授業テーマ：領域「人間関係」とは何か。保育における領域「人間関係」の目標と意味。 ■ 演習内容：領域「人間関係」の目標と意味を各自整理する。一部の人発表。 保育の目標（保育全体）＝<u>子どもが現在を最も良く生き、望ましい未来をつくりだす力の基礎を培う</u> 保育の目標（「人間関係」）＝<u>人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感、人権を大切に する心を育てるとともに、自主、自立及び協調の態度を養い、道徳性の芽生えを培う</u> ※保育目標とは「育てたい子ども像」、保育目標の具体的内容は「年齢に応じた発達」のことになる。保育内容における「人間関係」は目の前の保育場面だけで完結するものではない。乳幼児期の人間関係はその後の少年期・思春期・青年期の生き方へ直結し、親として子育てをするようになった時にその意味が身にしみてわかる。一方、保育者を志す人は「育てられる人」から「育てる人」への転換期に立っている。「今までの歩みと今後の予想」を書き、ノートに貼る。 ■ 予習復習課題：授業内容からの気づき・学び・自己課題をノートに書き出す。次回授業でシャトルカードに手短かにまとめて書く。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

<p>2 回</p>	<p>■授業テーマ：『幼稚園教育要領』・『保育所保育指針』における領域「人間関係」のねらいについて。 ねらいは目標を達成するための具体的なものである。 人間関係のねらい＝①保育所生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう（養護） ②身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感を持つ（教育） ③社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける（教育）</p> <p>■演習内容：保育内容における領域「人間関係」の構造を理解する。日誌や指導案に使える「ねらい」用語に親しむ。上記を各自整理する。一部の人発表。 人間関係には「自立」と「かかわり」の2本柱がある。自立に関するビデオ『4歳児の入園前夜、自分で服を着替える（ボタンをはめる、ボタンをはずす、袖を返す、服をたたむ…名前と年齢を自己紹介する）』を見て、気づき、学び、自己課題をノートに書き出す。次回授業でシャトルカードにまとめる。 ※「できる・できない」の評価が発達理解ではない、「今はできないけど何故できないのか、今はしないけど何故やりたくないのか」という視点＝援助のヒント、「できるようになるし、できたら嬉しいね」</p> <p>■予習復習と課題：上記作業の補足調査（スマホなどで調べても良い）を行い、ノートに書く。次回授業でシャトルカードに手短かにまとめて書く。</p>
<p>3 回</p>	<p>■授業テーマ：遊びの発達と遊びの理解 ■演習内容：ロールプレイの準備をする。下記を各自整理する。一部の人発表。 2歳まで：ひとり遊び 3歳：ごっこ遊びの発生 4歳：遊びの中での言葉の発達と口喧嘩 5歳：遊びにおける決まりや約束の発見 ※遊びの理解：どのようにして遊びが始まったか、遊びへの興味関心がどれだけ持続しているか、遊びのどこをおもしろいと感じているのか、どの友達とかかわっているか、どのようにかかわっているか＝視点 ※おもちゃの取り合いと声がけの種類（1歳半～2歳児：代用法・否定法・強制法、 3歳～5歳児：寄り添い法・代弁法・頭ごなし法・詰問法） ※乳幼児のケンカの意味（＝自己回復・共生・解決・価値と規範）を知る。</p> <p>■予習復習と課題：プリントの事例を見て、気づき、学び、自己課題をノートに書き出す。次回授業でシャトルカードにまとめる。</p> <p>■保育指針の保育内容：「人間関係」①②⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫（詳細は以下のとおり。“遊び”はほとんどに関係する）</p> <p>① 安心できる保育士等との関係の下で、身近な大人や友達に関心を持ち、模倣して遊んだり、親しみを持って自ら関わろうとする。 ② 保育士等や友達との安定した関係の中で、共に過ごすことの喜びを味わう。 ⑤ 友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う。 ⑥ 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。 ⑦ 友達の良さに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう。 ⑧ 友達と一緒に活動する中で、共通の目的を見だし、協力して物事をやり遂げようとする気持ちを持つ。 ⑨ 良いことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動する。 ⑩ 身近な友達との関わりを深めるとともに、異年齢の友達など、様々な友達と関わり、思いやりや親しみを持つ。 ⑪ 友達と楽しく生活する中で決まりの大切さに気づき、守ろうとする。 ⑫ 共同の遊具や用具を大切に、みんなで使う。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
4 回	<p>■授業テーマ：遊びの発達と遊びの理解</p> <p>■演習内容：ロールプレイの準備をする。下記を各自整理する。一部の人発表。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイとは何か。ロールプレイの歴史。ロールプレイを教育に応用する意義。 ・子ども役と保育者役に分かれてロールプレイをすることの意義を予め知っておく。子ども役をすることによって、子どもの心と葛藤を追体験する。保育者役をすることによって、子どもの感じていること、考えていること、本当は何をしようとしているか、などを理解することの大切さに気づく。 ・遊びを観察する視点は①遊びがどのようにしてはじまるか、②遊びがどのように展開したか、③遊びへの興味関心が持続しているか、である。 <p>■予習復習と課題：授業の予想、授業をしての気づき、学び、自己課題をノートに書く。次回授業でシャトルカードにまとめる。</p> <p>■保育指針の保育内容：「人間関係」①②⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫（“遊び” はほとんどに関係する）</p>
5 回	<p>■授業テーマ：遊びの発達と遊びの理解</p> <p>■演習内容：模擬保育室でグループに分かれてロールプレイを体験する。題目「例①：1歳半～2歳児 絵本・おもちゃの取り合いでいさかきがおきる」「例②：3歳～5歳児 おもちゃの取り合いで激しい口喧嘩になる」など。</p> <p>■予習復習と課題：ロールプレイをしての気づき、学び、自己課題をプリントに書いてノートに貼る。次回授業でシャトルカードにまとめる。</p> <p>■保育指針の保育内容：「人間関係」①②⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫（“遊び” はほとんどに関係する）</p>
6 回	<p>■授業テーマ：遊びの発達と遊びの理解</p> <p>■演習内容：ロールプレイの事後検討。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前で行ったロールプレイについてグループ検討し、あとでグループごとに前に出て発表をする。 ・乳幼児のケンカの意味（＝自己回復・共生・解決・価値と規範）について考察する。 <p>■予習復習と課題：グループ検討、発表をしての学びや自己課題をノートに書き出す。次回授業でシャトルカードにまとめる。</p> <p>■保育指針の保育内容：「人間関係」①②⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫（“遊び” はほとんどに関係する）</p>
7 回	<p>■授業テーマ：遊びの意味と子ども理解</p> <p>■演習内容：下記を各自整理する。一部の人発表。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びの意味には子どもが「自己を発揮する」「自己を主張する」「お互いの主張を受け入れる」「気持ちを調整する」などがある。 ・子どもは様々な経験や思いを体験して道徳性や規範意識が芽生える。 ・乳幼児のケンカの意味（＝自己回復・共生・解決・価値と規範）について考察する。 <p>■予習復習と課題：グループ検討、発表をしての学びや自己課題をノートに書き出す。次回授業でシャトルカードにまとめる。</p> <p>■保育指針の保育内容：「人間関係」①②⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫（“遊び” はほとんどに関係する）</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

8 回	<p>■授業テーマ：子ども理解と記録 領域「人間関係」の「目標」「ねらい」「内容」①（実習日誌の視点から）。</p> <p>■演習内容：目標と「ねらい」における養護的要素と教育的要素を書き分ける。下記を各自整理する。一部の人発表。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の「目標」における養護：<u>十分に行き届いた環境のもとに、くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を満たし、生命の保持及び情緒の安定を図る</u> ・保育の「ねらい」における養護：<u>保育所生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう</u> ・保育の「ねらい」における教育：<u>②身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感を持つ。 ③社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける</u> <p>日誌を想定して遊びを選び、「ねらい」を作文してみる。ノートに貼る</p> <p>■予習・復習・課題：上記をノートに書き出す。気づいたことを次回授業でシャトルカードに手短かにまとめて書く。</p> <p>■保育指針の保育内容：「人間関係」①②⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫（“遊び”はほとんどに関係する）</p>
9 回	<p>■授業テーマ：子ども理解と計画 領域「人間関係」の「目標」「ねらい」「内容」②（指導案の視点から）。</p> <p>■演習内容：目標と「ねらい」における養護的要素と教育的要素を書き分ける。下記を各自整理する。一部の人発表。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の「目標」における養護：<u>十分に行き届いた環境のもとに、くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を満たし、生命の保持及び情緒の安定を図る</u> ・保育の「ねらい」における養護：<u>保育所生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう</u> ・保育の「ねらい」における教育：<u>②身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感を持つ。 ③社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける</u> <p>指導案を想定して遊びを選び、「ねらい」を作文してみる。ノートに貼る</p> <p>■予習・復習・課題：上記をノートに書き出す。気づいたことを次回授業でシャトルカードに手短かにまとめて書く。</p> <p>■保育指針の保育内容：「人間関係」①②⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫（“遊び”はほとんどに関係する）</p>
10 回	<p>■授業内容：指針における保育内容（人間関係）⑭<u>外国人など、自分とは異なる文化を持った人に親しみを持つ。</u></p> <p>■演習内容：ルソー、ペスタロッチ、オーエン、フレーベルなど西欧における保育の先達についてその児童文学や歴史・地理的背景も交えながら異文化研究をする。上記を各自整理する。一部の人発表。</p> <p>■予習・復習・課題：上記作業の補足調査（スマホなどで調べても良い）を行い、ノートに書く。次回授業でシャトルカードに手短かにまとめて書く。</p> <p>■参考資料：【保育所の誕生（オーエン）と人間関係 社会における子どもの存在】産業革命期のイギリスの工場町。両親は朝早くから夜遅くまで工場で働き、子供たちは放置されていた。ロバート・オーエンという工場長はこのような状況に心を痛め、託児施設の建設を思い立った。映像も参考にする。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
11 回	<p>■授業内容：指針における保育内容（人間関係）⑬高齢者を始め地域の人々など自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみを持つ。⑦友達の良いさに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう。</p> <p>■演習内容：①ノートに実習園の立地する地域の地理・歴史・社会・経済的環境を書き出す。都市的か村落的か、都市的なら工場町か商業町か門前町か城下町か、村落的なら漁村的か山村の村落的かなど。②社会見学に行けそうな場所を書き出す。自動車工場か造船所か、魚市場か青物市場か、お寺か神社かお城か、図書館か美術館かなど。上記を各自整理する。一部の人発表。</p> <p>■予習・復習・課題：上記作業の補足調査（スマホなどで調べても良い）を行い、ノートに書く。次回授業でシャトルカードに手短かにまとめて書く。</p>
12 回	<p>■授業内容：指針における保育内容（人間関係）⑬高齢者を始め地域の人々など自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみを持つ。⑭外国人など、自分とは異なる文化を持った人に親しみを持つ。</p> <p>⑨良いことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動する。</p> <p>■演習内容：上記を各自整理する。一部の人発表。</p> <p>■予習・復習・課題：上記作業の補足調査（スマホなどで調べても良い）を行い、ノートに書く。次回授業でシャトルカードに手短かにまとめて書く。</p> <p>【幼稚園の誕生（フレーベル）と人間関係 教育における子どもの存在】歴史的に見て、幼稚園の起源は保育所の起源と少し異なる。ドイツやスイスでは早くから自然と文化が豊かな理想的な環境に園の立地を求め、先端的な幼児教育の実験を目論んだ施設の建設が試みられていた。映像も参考にする</p>
13 回	<p>■授業内容：子どもの活動と人間関係。1～2歳児 ビューラーによる遊びの分類 精神的・身体的発達の場合としての遊びについて知る。</p> <p>①受容遊び（鑑賞）と道徳性の芽生え、②構成遊び（図画・工作など造形・表現）、③機能遊び（感覚と運動）、④想像・象徴遊び（ごっこ）</p> <p>■演習内容：上記を各自整理する。一部の人発表。</p> <p>■「指針」の保育内容「人間関係」：①保育士や大人を模倣（想像象徴遊び）⑤喜び・悲しみの共感（受容遊び）⑩決まりの大切さ ⑫ものを大切に</p> <p>■予習復習と課題：授業を受けての気づき、学び、自己課題をノートに書き出す。次回授業でシャトルカードに書く。</p>
14 回	<p>■授業内容：子どもの活動と人間関係。0歳～長期間 パーテンによる遊びの分類 社会的発達の場合としての遊びについて知る。</p> <p>①「ぼーっ」としている ②ひとり遊び ③傍観者 ④平行遊び ⑤連合遊び ⑥協同遊び</p> <p>■演習内容：上記を各自整理する。一部の人発表。</p> <p>■「指針」の保育内容「人間関係」：②共に過ごすことの喜び ⑤喜び・悲しみの共感（連合遊び・共同遊び）⑦一緒に活動する楽しさ ⑧協力してやりとげる ⑩思いやりや親しみ</p> <p>■予習復習と課題：授業を受けての気づき、学び、自己課題をノートに書き出す。次回授業でシャトルカードに書く。</p>
15 回	<p>■授業テーマ：保護者支援 「保護者の子ども理解」の支援</p> <p>■演習内容：下記を各自整理する。一部の人発表。</p> <p>連絡帳：毎日の成長を伝える。メッセージを交換する。子育ての悩みや苦勞を応援する。</p> <p>運動会・発表会：家庭での姿と集団での姿は異なる場合がある。</p> <p>■復習と課題：試験に向けて各自が不明点を見出し、試験までに担当者に質問する。</p>

平成30年度教育計画							
科目名	環境（保育内容）	授業回数	15	単位数	2	担当教員	鈴木 久子
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー等）：hsuzuki@owc.ac.jp OH：月曜日3限 M409室							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標</p> <p>保育所保育指針および幼稚園教育要領における「環境」の教育的ねらいは「周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。」である。そこで本科目では、このねらいを達成するための領域「環境」内容を、実際に五感を通して理解し、「環境」との豊かなかかわりを育むための保育・教育者の援助と配慮事項を子ども視点で考察することを目標とする。</p> <p>学生の学習成果</p> <p><専門的学習成果></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 身近な環境・自然・地域の様々な事象に関心をもち、好奇心や探求心を育む活動内容を五感を通して理解し、計画・実践する手法を理解する。 ② 物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする活動内容を、五感を通して理解し、計画・実践する手法を理解する。 ③ 栽培活動を通して生命の尊さに気づき、責任ある行動を育む保育活動の計画・実践に係る手法を理解する。 ④ 野外・園外活動等における安全管理に係る基本的な知識・方法を理解する。 <p><汎用的学習成果></p> <p>保育者は子どもにとっては人的環境として子どもの環境の一部であることを自覚し、自らがよりよい環境になるよう努める態度を養う。</p>						
	教育方法	授業の進め方	<p>（講義・演習・実験・実習・実技）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然遊び・科学遊び・生活遊び・室内ゲーム等の演習によって行う。 ・植物を栽培しその観察記録をノートにまとめる。 ・毎回授業後には振り返りタイムを設定する。 				
予習・復習		<p>予習事項：「授業回数別内容」に記された内容について参考図書などから収集し、授業に臨むこと。</p> <p>復習事項：保育現場で実際に計画・実践する場合を想定して授業内容をノートにまとめること。予習復習の取り組み状況は主にノート点検により確認する。</p> <p>*指導略案は毎回提出のこと。</p>					
テキスト		<p>使用しない。適宜資料を配布する。</p> <p>*授業用に冊子ノートを準備し、毎回、まとめと授業後の振り返り等を記入しておくこと。適宜、求められた日に点検を受ける。</p>					

学習評価の方法	<p><専門的学習成果> 期末テスト ① 保育所保育指針および幼稚園教育要領における「環境」の教育的ねらいと内容に関する理解について。 ② 自然環境活動、幼児への環境教育に関する基本的理解について。 ③ 安全管理に関する基本的理解について。</p> <p>授業中の小テスト 自然遊び・科学遊び・生活遊び・室内ゲームに関する基本的理解について授業中の小テストで測る。</p> <p><汎用的学習成果> 植物栽培の観察記録を含めた演習活動記録ノートの提出状況や内容、授業中の態度や演習の取り組み状況などから評価する。 受講中の私語や非協力的態度等の問題行動について、複数回の注意後も改善がみられない場合、各授業における当該事態1回につき「5点」を減ずる。但し、授業への貢献度や自己開発への意欲などを勘案し、1回につき1点の加点の機会をも設ける。</p> <p>評価配分：<専門的学習評価>期末テスト（60点）、小テスト（10点） <汎用的学習評価>ノート（10点）、観察記録（10点）、演習取り組み（10点） 合計100点満点で最終評価とする。</p>
注意事項	<p>【参考図書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『指導計画の作成と保育の展開』フレーベル館、2013年 ・内閣府文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領・保育所保育指針』チャイルド社、2015年 ・国立教育政策研究所教育課程研究センター、『環境教育指導資料【幼稚園・小学校編】』東洋館出版社、2015年 ・田宮緑『体験する 調べる 考える 領域「環境」』萌文書林、2011年 ・『「そだててあそぼう 3」サツマイモの絵本』農山漁村文化協会、2001年 ・田尻由美子・武藤隆編『子どもと環境—基本と実践事例—』同人書院、2011年 ・酒井幸子・守巧「保育内容環境」萌文書林、2016年。その他適宜資料を配布する。 ・無藤隆監・福元真由美編『事例で学ぶ保育内容 領域 環境』萌文書林、2013年

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><オリエンテーション>本科目のねらい，授業計画，学習評価方法について理解する。</p> <p><環境とは></p> <p>(学習成果) 領域「環境」のねらいや内容を知り，子どもを取り巻く環境について理解する。</p> <p>(復習事項) 子どもを取り巻く環境や保育者の役割について復習する。</p> <p>(予習事項) 子どもにとっての環境とは何か調べてくる。</p>
2 回	<p><自然を用いた遊び①></p> <p>(学習成果) 目かくしイモ虫になり探検する演習を通して，自然と触れ合い豊かな感性を育む活動の援助と配慮事項を理解し，指導案が作成できる。</p> <p>(復習事項) 授業以外に身近な自然を活かした活動例について調べることを復習する。</p> <p>(予習事項) 自分の周りの自然を見直して来る。*目隠し・服装</p>
3 回	<p><自然を用いた遊び② 畑の耕し></p> <p>(学習成果) 自然の中から似た図形を探し出す活動を通して，数量や図形を活用して好奇心や探求心を育む活動の援助と配慮事項を理解し，指導案が作成できる。</p> <p>(復習事項) 数量・色・図形を活用した活動例を生活環境の中から考えるのを復習とする。</p> <p>(予習事項) 子どもにとっての身近な自然について調べてくる。*畑を耕す服装</p>
4 回	<p><保育活動における安全管理></p> <p>(学習成果) 危険予知トレーニングの演習を行い，野外活動時における安全管理について理解する。</p> <p>(復習事項) 時期・場所別による危険予知トレーニングを行うことを復習とする。</p> <p>(予習事項) 子どもにとって環境を構成する要素とは何か調べてくる。</p>
5 回	<p><春のキャンパスマップ></p> <p>(学習成果) 季節により自然や人間の生活に変化があることに気づくことを目的とした活動の援助と配慮事項を理解し，指導案が作成できる。</p> <p>(復習事項) 学外実習先の保育園・幼稚園にて近隣を散歩することを想定したコース計画や安全配慮事項についてまとめることを復習とする。</p> <p>(予習事項) キャンパスに潜む危険を子どもの視点で考えてくる。*色鉛筆の準備</p>
6 回	<p><科学遊び①></p> <p>(学習成果) 風車を作成し，それを使った遊びの演習を通して，身近な物や遊具に興味をもって関わり，好奇心や探求心を育む科学的遊びの援助と配慮事項を理解する。</p> <p>(復習事項) 風車遊びや回転ロケット遊びの活動計画をまとめる。</p> <p>(予習事項) なぜ風車は回るのかを考えてくる。</p>
7 回	<p><科学遊び②></p> <p>(学習成果) 身近な洗剤の性質を用いたシャボン玉演習を通して，子どもの好奇心・探求心を育む活動の援助と配慮事項を理解し，指導案が作成できる。</p> <p>復習事項： 体験活動をもとに指導略案にまとめて提出する。</p> <p>予習事項： 子どもの視点で活動に潜む危険やねらいを達成するための工夫を考えてくる。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	<p><飼育と栽培></p> <p>(学習成果) サツマイモの植え付けを行い、観察記録を通して、身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり大切にしたりする心を育む活動の援助と配慮事項を理解する。</p> <p>(復習事項) 今後、成長過程を観察・記録することを復習とする。</p> <p>(予習事項) サツマイモの栽培方法について調べてくる。</p>
9 回	<p><乳幼児期における自然体験></p> <p>(学習成果) 年齢・発達に沿った自然（太陽・水・空気・風など）との関わり方・保育活動への活用方法について理解する。</p> <p>(復習事項) 自然との関わり方・保育活動への活用方法について復習する。</p> <p>(予習事項) 乳幼児期の発達に応じた自然の中での保育活動について考えてくる。</p>
10 回	<p><生活遊び①></p> <p>(学習成果) 身の回りにある廃材などの素材を利用した廃材のアート(羽子板)の演習を通して、身の回りの物に愛着をもつことを目的とした活動の援助と配慮事項を理解し、指導案が作成できる。</p> <p>(復習事項) 牛乳パックを使ってのアートは、羽子板以外に何ができるか考える。</p> <p>(予習事項) 身の回りの廃材で素材になる牛乳1ℓパックを1つ準備する。</p>
11 回	<p><生活遊び②></p> <p>(学習成果) 数字のサイコロやすごろくを作成して遊ぶ演習を通して、日常生活における数量や図形などに親しむことを目的とした活動の援助と配慮事項を理解する。</p> <p>(復習事項) 数量や図形などに親しむスタンプングアートの活動計画をまとめる。</p> <p>(予習事項) 身の回りの物を用いたスタンプ遊びについて調べてくる。</p>
12 回	<p><室内ゲーム①></p> <p>(学習成果) 動物当てゲームや動物園クイズを通して、さまざまな生き物の生態や生活に関係の深い施設について興味・関心をもつ活動の援助と配慮事項を理解する。</p> <p>(復習事項) どのようなねらいをもつ環境教育ゲームであったのか考え、活動計画をまとめることを復習する。</p> <p>(予習事項) 室内でできる動物に関する環境ゲームについて考えてくる。</p>
13 回	<p><室内ゲーム②></p> <p>(学習成果) 昔遊び(しりとりや数の童歌)の演習を通して、日本の伝統文化(お正月行事)や国旗にふれるとともに、日常生活における必要感に基づく数量感覚を養う活動の援助と配慮事項を理解し、指導案が作成できる。</p> <p>(復習事項) 地元の文化を活用した保育活動を考えまとめることを復習とする。</p> <p>(予習事項) 地域に残る童歌や遊びについて調べてくる。</p>
14 回	<p><科学遊び③></p> <p>(学習成果) 色水遊びや押し花の演習を通して、自然の身近な事象に関心をもち、取り入れた科学的遊びの援助と配慮事項を理解し、指導案が作成できる。</p> <p>(復習事項) 植物を用いた色水遊びや押し花の活動計画をまとめることを復習とする。</p> <p>(予習事項) どんな植物で色水遊びをしたらよく染まるのかを調べてくる。</p>
15 回	<p><幼児における環境教育></p> <p>(学習成果) これまでの演習を振り返り、子どもが自ら取り組む豊かな環境の設定と保育者としての役割や心構えについて、考察し理解を深める。</p> <p>(復習事項) 豊かな環境と保育者の役割について復習する。</p> <p>(予習事項) 演習内容と指針のねらいや内容との関連について調べてくる。</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	言葉 (保育内容)	授業回数	15	単位数	2	担当教員	浦上 博文
質問受付の方法：B 4 0 4 授業終了後、e-mail：urakami@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：本授業では、幼児の成長及び発達に関する精深な理解を基礎とした実践的指導力のある保育者を養成することを目指し、以下の4点を教育目標とする。</p> <p>①領域「言葉」の内容、言葉の役割、乳幼児の言葉の発達・その過程における特徴や諸問題に関する知識を修得する。</p> <p>②幼児に対する、適切な言葉の援助の仕方を修得する。</p> <p>③絵本の読み聞かせ・紙芝居・言葉遊びの仕方を修得する。</p> <p>④保育者としてふさわしい話し方を修得する。</p> <p>学生の学習成果：専門的学習成果として、教育目標に掲げる4点に関する知識及び技能を修得する。また、汎用的学習成果として、態度（社会人としてのマナー・学習態度など）及び信念（保育者になろうとする信念・継続的に努力する姿勢など）を涵養する。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標①・②について。テキストに沿って講義をする(レジュメ・補助プリント配付)。復習テストを実施する。言葉遊び・児童文化財を通しての援助については、実物・実演等によって説明する。 ・目標③について。絵本の読み聞かせ・紙芝居・言葉遊びの実習を行う(全員)。 ・目標④について。保育者としてふさわしい話し方の実習を行う(全員)。 <p>予習・復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・毎授業回後に、「授業回数別教育内容」に記された復習を求める(シャトルカード提出)。 <p>テキスト</p> <p>岡田明編『新訂子どもと言葉』萌文書林、2008年。</p>					
学習評価の方法	<p>以下の5点の学習成果についてその獲得度合を量的に評価し、配点を「①+②：③+④：⑤=60：25：15」とする。</p> <p>①領域「言葉」の内容、言葉の役割、乳幼児の言葉の発達・その過程における特徴や諸問題を理解する(期末試験)。②幼児に対する、適切な言葉の援助のしかたを理解する(期末試験)。③絵本の読み聞かせ・紙芝居・言葉遊びの仕方を身に付ける(実習)。④保育者としてふさわしい話し方を身に付ける(実習)。⑤態度・信念を身に付ける。</p> <p>態度・信念の評価は全授業を通してシャトルカードにより行う(1回分1点、記載不十分の場合減点)。担当教員の指導に従わず、社会人としてのマナー・学習態度、保育者になろうとする信念・継続的に努力する姿勢などが改善されない場合、評価点より減ずる(1件1点)。</p>						
注意事項	<p>参考図書等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡本夏木『子どもとことば』岩波新書、2003年。 ・川和孝『日本語の発声レッスン 改訂新版・一般編』新水社、2002年 						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>①シラバス・テキスト等を用いたオリエンテーションにより、本授業の概要を理解する。 ②「保育者としての言葉の在り方」、「人間生活における言葉の役割」に関する知識を理解する。③「話し方」の実習要領を理解する。</p> <p>予習：シラバスを通読する。</p> <p>復習：シラバス・テキスト・配付資料を読み返し、学習内容を確認する。</p>
2 回	<p>①幼稚園教育要領「言葉」（文部科学省、平成20年3月28日告示）、保育所保育指針「言葉」（厚生労働省、平成20年3月28日告示）の要点を理解する。</p> <p>予習：テキストの該当箇所（p2～9、p38～52・p149～152）を通読する。</p> <p>復習：幼稚園教育要領・保育所保育指針「言葉」を読み返し、内容を確認する。</p>
3 回	<p>①「乳幼児の言葉の発達とその過程における特徴」について（その1）誕生から1歳前後までの言葉の発達と特徴（クーイング・喃語・初語・一語文等）に関する知識を修得する。</p> <p>②「話し方」の実習（1）（授業のはじめに行う。以下同様）</p> <p>予習：テキストの該当箇所（p11～14）を通読する。</p> <p>復習：誕生から1歳前後までの言葉の発達と特徴を確認する。</p>
4 回	<p>①「乳幼児の言葉の発達とその過程における特徴」について（その2）1歳半から3歳ごろまでの言葉の発達と特徴（二語発話・幼児語・幼児音等）に関する知識を修得する。</p> <p>②「話し方」の実習（2）</p> <p>予習：テキストの該当箇所（p14～19）を通読する。</p> <p>復習：1歳半から3歳ごろまでの言葉の発達と特徴を確認する。</p>
5 回	<p>①「乳幼児の言葉の発達とその過程における特徴」について（その3）4歳以降の言葉の発達と特徴（多様な品詞の使用・文字への関心等）に関する知識を修得する。</p> <p>②「話し方」の実習（3）</p> <p>予習：テキストの該当箇所（p19～23）を通読する。</p> <p>復習：4歳以降の言葉の発達と特徴を確認する。</p>
6 回	<p>①「乳幼児の言葉の発達とその過程における特徴」に関する復習テスト テストにより知識の修得状況を認識する。</p> <p>②言語に関わる障害、障害のある幼児に対する対処の仕方・指導に関する知識を修得する。</p> <p>③「話し方」の実習（4）</p> <p>予習：復習テストに向けた学習をする。テキストの該当箇所（p28～36）を通読する。</p> <p>復習：復習テストの間違いを確認する。テキスト・配付資料を読み返し、内容を確認する。</p>
7 回	<p>①「言葉の発達を促す諸条件」について、人とのかかわり・子どもの生活・遊びなどの側面から解説する。</p> <p>②言葉遊びのグループ、担当する遊びを決定する。</p> <p>③「話し方」の実習（5）</p> <p>予習：テキストの該当箇所（p23～27 p53～60）を通読する。</p> <p>復習：言葉の発達を促す諸条件を確認する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	<p>① 幼児の言葉を育むために必要な「保育者の援助」（その1）「言葉かけ」の知識を生かして幼児に対する初歩的な言葉かけができるようになる。</p> <p>② 「話し方」の実習（6）</p> <p>予習：テキストの該当箇所（p68～103）を通読する。</p> <p>復習：言葉かけの仕方を確認する。</p>
9 回	<p>① 幼児の言葉を育むために必要な「保育者の援助」（その2）「絵本の読み聞かせ」に関する知識（発達段階に応じた選書・読み聞かせの方法等）を修得する。</p> <p>② 「話し方」の実習（7）</p> <p>予習：テキストの該当箇所（p107～111）を通読する。</p> <p>復習：絵本の読み聞かせに関する知識を確認する。</p>
10 回	<p>① 幼児の言葉を育むために必要な「保育者の援助」（その3）「紙芝居など」に関する知識（舞台の使用法・演技方等）を修得する。</p> <p>② 「話し方」の実習（8）</p> <p>予習：テキストの該当箇所（p111～122）を通読する。</p> <p>復習：紙芝居などに関する知識を確認する。</p>
11 回	<p>① 幼児の言葉を育むために必要な「保育者の援助」（その4）絵本の読み聞かせ・紙芝居の模擬実践によって、第9・10回の講義で学んだ技能を修得する。</p> <p>予習：各自が選んだ絵本あるいは紙芝居の練習をする。</p> <p>復習：絵本の読み聞かせ・紙芝居の模擬実践から得た成果と課題を確認する。</p>
12 回	<p>① 幼児の言葉を育むために必要な「保育者の援助」（その5）絵本の読み聞かせ・紙芝居の模擬実践によって、第9・10回の講義で学んだ技能を修得する。</p> <p>予習：各自が選んだ絵本あるいは紙芝居の練習をする。</p> <p>復習：絵本の読み聞かせ・紙芝居の模擬実践から得た成果と課題を確認する。</p>
13 回	<p>① 幼児の言葉を育むために必要な「保育者の援助」（その6）「言葉遊び」の実習に向けた準備（指導案作成など）によって、その知識・技能を修得する。</p> <p>予習：配付資料を通読する。</p> <p>復習：言葉遊びに関する知識・技能を確認する。</p>
14 回	<p>① 幼児の言葉を育むために必要な「保育者の援助」（その7）「言葉遊び」の模擬実践によって、その基礎的な実践力を修得する。</p> <p>予習：配付資料を通読する。</p> <p>復習：模擬実践から得た成果と課題を確認する。</p>
15 回	<p>② 授業を振り返り、幼児の言語を育むという点から保育者を目指す自己の課題を認識する。</p> <p>② シラバス・テキスト等を用いた期末試験に関する説明を聞き、要点を理解する</p> <p>予習：これまでの授業内容を振り返る。</p> <p>復習：期末試験に関する要点を確認する。</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画												
科目名	表現 I (A) (保育内容)	授業回数	15	単位数	1	担当教員	藤井 真理					
質問受付の方法 : B 棟 306 室 水曜 16:20~17:00 e-mail : fujima@owc.ac.jp												
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>下記 3 点を機軸に、身体表現活動における readiness に対して効果的に働きかけるための知識・技能を獲得し、子どもの自由で率直な表現世界を損なうことなく、豊かな感性や表現力、創造性を育むことのできる実践的指導力を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体表現活動における readiness に対する効果的な指導法の理解 2. 身体表現活動における『「表現—理解」関係の構造』の理解 3. 身体表現活動における基礎技能及びバリエーション動作の習得 <p>学生の学習成果 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的学習成果として、上記 3 項目の教育目標を達成できるようにする。 ・汎用的学習成果として、保育者としての「態度・信念」を獲得すると共に、他者との多様な活動を通して豊かな「人間関係力」を身につける。 											
	教育方法	授業の進め方	<p>(講義・<u>演習</u>・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の振り移しを通してリズム感や表現力のスキルアップを目指すと共に、ソロ・ユニゾン等の形態で発表し、パフォーマンスについて学生相互でモニターを行う。 ・CD やピアノ、打楽器等の多彩な音楽提示法を用いることにより、音刺激からもたらされるイメージを広げ、保育現場における指導力の向上を図る。 ・ビデオ撮影・視聴を通して「自己表現力 (情報伝達能力)」を客観的に認識するとともに、修正の手掛かりを探り、各々の学習過程におけるフィードバック効果をねらう。 					予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> ・予習 : 毎時間、提示した内容について十分な予習を行うこと。 ・復習 : 毎時間、学習した内容について十分な復習を行うこと。 			
テキスト		<ol style="list-style-type: none"> 1. 藤井真理著・2013 年・「手あそび・歌あそび HAND BOOK」・明研図書 2. 石上浩美編著・2015 年・「保育と表現」・嵯峨野書院 <p>* 補助教材として、DVD やプリントを適宜使用する。</p>										
学習評価の方法		<p>下記 3 点の学習成果について、「専門的学習成果」として、「1」は「模擬指導実践 30 点 / 2 回実施・各 15 点」、「2」は「レポート 20 点 / 5 回提出・各 4 点」および「振り返りシート 20 点 / 10 回提出・各 2 点」、「3」は「実技試験 30 点 / 2 回実施・各 15 点」によって評価する。「汎用的学習成果」については、「遅刻・早退」1 回につき「3 点」を減ずる (公共交通機関の乱れによる遅刻は減点しない / ただし欠席届に証明書 (遅延等) が添付されている場合に限る)。また、受講中の私語や非協力的態度等の問題行動について、複数回の注意後も改善がみられない場合、当該事態 1 回につき「3 点」を減ずる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体表現活動における readiness に対する効果的な指導法の理解 2. 身体表現活動における『「表現—理解」関係の構造』の理解 3. 身体表現活動における基礎技能及びバリエーション動作の習得 										
注意事項	<p>参考図書等 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前橋明著・1995 年・「身体表現」・大学教育出版 											

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>■オリエンテーション シラバスに沿って、本講義の教育目標と学生の学習成果、教育方法（授業の進め方、予習・復習、テキスト）、学習評価の方法について説明する。</p> <p>■講義内容 [保育と身体表現] ①保育現場における様々な「身体表現様式」について解説する。 ②各講義内容において展開される「身体表現」の具体的内容について解説する。 *学習成果：保育現場において行われる身体表現様式の項目について把握する。</p> <p>【予習】「手あそび・歌あそび HAND BOOK」の通読 【復習】シラバスの読み返しと記載内容について復習</p>
2 回	<p>■講義内容 [動きの探求 (Movement exploration) その1] ①幼児の身体表現『サンサン体操』の振り移しを行う。 ②手あそび・歌あそびの実演および具体的な展開方法について解説する。 *学習成果：幼児の身体表現の実際および手あそび・歌あそびの展開について解緊する。</p> <p>【予習】次回の手あそび・歌あそびの予習 【復習】『サンサン体操』の復習 【提出】レポート①：『現在(いま)の自分』について／身体表現能力に着目して</p>
3 回	<p>■講義内容 [動きの探求 (Movement exploration) その2] ①基本運動スキル (Fundamental movement skill) について解説する。 ②幼児の身体表現『どうぶつたいそう1・2・3』の振り移しを行う。 ③手あそび・歌あそびの実演および具体的な展開方法について解説する。 *学習成果：基本運動スキルについて学びを深める。</p> <p>【予習】次回の手あそび・歌あそびの予習 【復習】『どうぶつたいそう1・2・3』の復習 【提出】振り返りシート①：『サンサン体操』について</p>
4 回	<p>■講義内容 [動きの探求 (Movement exploration) その3] ①運動会等におけるユニゾン隊形の指導のポイントと留意点について解説する。 ②幼児の身体表現『アンパンマン体操』の振り移しを行う。 ③手あそび・歌あそびの実演および具体的な展開方法について解説する。 *学習成果：ユニゾンでの表現あそびのポイントについて学びを深める。</p> <p>【予習】手話歌として表現されている曲やダンスについて予習 【復習】『アンパンマン体操』の復習 【提出】振り返りシート②：『どうぶつたいそう1・2・3』について</p>
5 回	<p>■講義内容 [動きの探求 (Movement exploration) その4] ①実技試験その1 『サンサン体操』・『どうぶつたいそう1・2・3』・『アンパンマン体操』の試験を行う。 ②手話歌の指導と実際について解説する。 ③幼児の身体表現『ともだちになるために (手話歌)』の実演と展開方法の解説を行う。 *学習成果：手話歌表現の実際と指導・展開方法について学びを深める。</p> <p>【予習】次回の手あそび・歌あそびの予習 【復習】ともだちになるために (手話歌)』の復習 【提出】振り返りシート③：『アンパンマン体操』について</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
6 回	<p>■講義内容 [動きの探求 (Movement exploration) その5]</p> <p>①身体認知と空間認知 (Body awareness and Spatial awareness) について解説する。 ②幼児の身体表現『さんぼ (ダイナミック手話歌)』の振り移しを行う。 ③手あそび・歌あそびの実演および具体的な展開方法について解説する。 *学習成果：表現あそびにおける身体認知と空間認知について学びを深める。</p> <p>【予習】 次回の手あそび・歌あそびの予習 【復習】 『さんぼ (ダイナミック手話歌)』の復習 【提出】 レポート②：『実技試験その1』について</p>
7 回	<p>■講義内容 [動きの探求 (Movement exploration) その6]</p> <p>①バリエーション隊形について解説する。 ②幼児の身体表現『夢をかなえてドラエモン』の振り移しを行う。 ③手あそび・歌あそびの実演および具体的な展開方法について解説する。 *学習成果：作品制作におけるバリエーション隊形について学びを深める。</p> <p>【予習】 保育現場における手話歌表現の実際について予習 【復習】 『夢をかなえてドラエモン』の復習 【提出】 振り返りシート④：『さんぼ (ダイナミック手話歌)』について</p>
8 回	<p>■講義内容 [動きの探求 (Movement exploration) その7]</p> <p>①模擬指導実践その1 『ともだちになるために (手話歌)』の模擬指導実践を行う。 ②手話歌の豊かな表現実演・展開方法について解説する。 ③幼児の身体表現『ともだちはいいもんだ (手話歌)』の実演と展開方法の解説を行う。 *学習成果：手話歌の豊かな実演・展開方法について学びを深める。</p> <p>【予習】 次回の手あそび・歌あそびの予習 【復習】 『ともだちはいいもんだ (手話歌)』の復習 【提出】 振り返りシート⑤：『夢をかなえてドラえもん』について</p>
9 回	<p>■講義内容 [動きの探求 (Movement exploration) その8]</p> <p>①リトミックの理論と実際・その1 ピアノと打楽器を用いた『リトミック』の実際と展開方法について解説する。 ②リトミックの理論と実際・その2 『できるかな?あたまからつまさきまで』を用いたリトミックについて解説する。 *学習成果：リトミックの指導・展開方法について学びを深める。</p> <p>【予習】 次回の授業で使用するペープサートの製作 【復習】 リトミックの理論と指導・展開方法について復習 【提出】 レポート③：『模擬指導実践その1』について</p>
10 回	<p>■講義内容 [動きの探求 (Movement exploration) その9]</p> <p>①『ペープサート』の理論と実際・その1 表現あそびにおける『ペープサート』の実際と展開方法について解説する。 ②ペープサートの理論と実際・その1 表現あそびにおける『歌うペープサート』の実際と展開方法について解説する。 *学習成果：ペープサートを用いた指導・展開方法について学びを深める。</p> <p>【予習】 表現あそびで使用する保育教材について予習 【復習】 ペープサートの指導・展開方法について復習 【提出】 振り返りシート⑥：『リトミックの理論と実際』について</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
11 回	<p>■講義内容 [動きの探求 (Movement exploration) その10]</p> <p>①模擬指導実践その2 『ペープサートを使用した表現あそび』の模擬指導実践を行う。</p> <p>②紙皿シアターやエプロンシアター等の実際と展開方法について解説する。</p> <p>*学習成果：多彩な保育教材による表現あそびの展開方法について学びを深める。</p> <p>【予習】保育現場における『エビカニクス』の実際について予習 【復習】ペープサートによる表現あそびの展開について復習 【提出】振り返りシート⑦：『ペープサートの理論と実際』について</p>
12 回	<p>■講義内容 [動きの探求 (Movement exploration) その11]</p> <p>①『エビカニクス』の振り移し及び作品構成と即興 (Improvisation) について解説する。</p> <p>②幼児の身体表現『さよならぼくたちのようちえん／ほいくえん (手話歌)』の実演と展開方法について解説する。</p> <p>*学習成果：即興の有効性に留意した表現あそびの指導・展開について学びを深める。</p> <p>【予習】『エビカニクス』のリズムとテンポを生かす振り付けの創作 【復習】『エビカニクス』の復習 【提出】レポート④：『模擬指導実践その2』について</p>
13 回	<p>■講義内容 [動きの探求 (Movement exploration) その12]</p> <p>①パッチワーク方式を用いた『エビカニクス』の創作方法と隊形移動について解説する。</p> <p>②幼児の身体表現『まあるいいのち (手話歌)』の振り移しを行う。</p> <p>*学習成果：構成・隊形に留意した作品制作について学びを深める。</p> <p>【予習】保育現場における操作運動と手具の実際について予習 【復習】『まあるいいのち (手話歌)』の復習 【提出】振り返りシート⑧：『エビカニクス』について</p>
14 回	<p>■講義内容 [動きの探求 (Movement exploration) その13]</p> <p>①実技試験その2 『エビカニクス』のグループ発表を行う (ビデオ撮影)。</p> <p>②操作運動・手具の使い方の展開について解説する。</p> <p>③幼児の身体表現『となりのトトロ (パラバルーン)』の振り移しを行う。</p> <p>*学習成果：グループ発表の鑑賞を通して「豊かな表現力」について学びを深める。</p> <p>【予習】テキスト「保育と表現」の通読 【復習】テキスト「手あそび・歌あそび HAND BOOK」の復習 【提出】振り返りシート⑨：『パッチワーク方式』について</p>
15 回	<p>■講義内容 [総括]</p> <p>作品鑑賞 (VTR)・グループ発表に対する講評および評価ポイントについて解説・総括する。</p> <p>*学習成果：幼児の身体表現を豊かに展開する上で獲得すべきポイントを理解する。</p> <p>「目線」：目線がパフォーマンスを左右することを常に意識して表現する能力 「動作」：動作が雨だれ調子にならないように緩急を意識して表現する能力 「高低」：動作を際立たせるために高低に変化を持たせて表現・展開する能力 「構成」：幼児が無理なく変化できるような構成に留意して作品を構成する能力 「伝達」：観る側にどう伝達されるかを客観的視点で評価しながら表現する能力</p> <p>【提出】振り返りシート⑩：『実技試験その②』について レポート⑤：『現在(いま)の自分』について／身体表現能力に着目して</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	表現 I (B) (保育内容)	授業回数	15	単位数	1	担当教員	藤井 真理
質問受付の方法 : B 棟 306 室 水曜 16:20~17:00 e-mail : fujima@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>下記 3 点を機軸に、『模擬指導実践』を通して、子どもの身体表現活動における readiness に対して効果的に働きかけるための知識・技能を獲得するとともに、『オペレッタ制作活動』を通して、身体表現に対する子どもの潜在能力を educate するための実践的指導力を培う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体表現活動における readiness に対して効果的に働きかける指導法の習得 2. 身体表現活動における『『表現—理解』関係の構造』の理解 3. 身体表現活動における「オペレッタ (劇あそび)」の理論と実際 <p>学生の学習成果 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的学習成果として、上記 3 項目の教育目標を達成できるようにする。 ・汎用的学習成果として、保育者としての「態度・信念」を獲得すると共に、他者との多様な活動を通して豊かな「人間関係力」を身につける。 						
	教育方法	<p>(講義・<u>演習</u>・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的指導力の強化を図り、「手あそび・歌あそび」や「手話歌表現」等の模擬指導を実施し、学生相互でモニターを行う。 ・VTR 撮影・視聴を通して「自己表現力 (情報伝達能力)」を客観的に認識すると共に、修正の手掛かりを探り、各々の学習過程におけるフィードバック効果をねらう。 ・音刺激による動きの多様化を具体的に考察するために、生のピアノ演奏を用いる。 <p>予習・復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習 : 毎時間、提示した内容について十分な予習を行うこと。 ・復習 : 毎時間、学習した内容について十分な復習を行うこと。 <p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 藤井真理著・2013 年・「手あそび・歌あそび HAND BOOK」・明研図書 2. 石上浩美編著・2015 年・「保育と表現」・嵯峨野書院 <p>* 補助教材として、DVD やプリントを適宜使用する。</p>					
学習評価の方法	<p>下記 3 点の学習成果について、専門的学習成果として、「1」は「模擬指導実践 20 点 / 1 回実施」、「2」は「レポート 20 点 / 2 回提出・各 10 点」および「評価票 20 点 / 10 回提出・各 2 点」、「3」は「脚本制作 10 点 / 1 回提出」および「実技試験 30 点 / 2 回実施・各 15 点」によって評価する。「汎用的学習成果」については、「遅刻・早退」1 回につき「3 点」を減ずる (公共交通機関の乱れによる遅刻は減点しない / ただし欠席届に証明書 (遅延等) が添付されている場合に限る)。また、受講中の私語や非協力的態度等の問題行動について、複数回の注意後も改善がみられない場合、当該事態 1 回につき「3 点」を減ずる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体表現活動における readiness に対して効果的に働きかける指導法の習得 2. 身体表現活動における『『表現—理解』関係の構造』の理解 3. 身体表現活動における「オペレッタ (劇あそび)」の理論と実際 						
注意事項	<p>参考図書等 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前橋明著・1995 年・「身体表現」・大学教育出版 						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>■オリエンテーション シラバスに沿って、本講義の教育目標と学生の学習成果、教育方法（授業の進め方、予習・復習、テキスト）、学習評価の方法について説明する。</p> <p>■講義内容〔保育表現教材を用いたシミュレーションとオペレッタについて〕 第1回～第15回までの講義テーマに沿って、保育表現教材を用いたシミュレーションとオペレッタの制作・発表について説明する。 *学習成果：保育現場における表現あそびやオペレッタの実践状況について把握する。</p> <p>【予習】オペレッタ作品に関する紹介プレゼンテーションの練習 【復習】シラバスの読み返しと記載内容の復習</p>
2 回	<p>■講義内容〔オペレッタ制作活動と手あそび・歌あそび（素話）の模擬指導実践・その1〕 ①模擬指導実践を行うとともに、オペレッタ作品の紹介および脚本の読み直しを行う。 ②保育現場における手あそび・歌あそびの展開方法について解説する。 *学習成果：模擬指導実践を通して現場での保育表現の展開について理解する。</p> <p>【予習】オペレッタの脚本セレクト理由書の作成 【復習】模擬指導実践について評価できる点と改善点の復習</p>
3 回	<p>■講義内容〔オペレッタ制作活動と手あそび・歌あそび（素話）の模擬指導実践・その2〕 ①模擬指導実践を行うとともに、手あそび・歌あそびを通して伝えられることを解説する。 ②オペレッタのキャスト決め・台詞合わせを行うとともに、伴奏音楽について指導する。 *学習成果：模擬指導実践を通して現場における保育表現の展開について理解する。</p> <p>【予習】オペレッタの台詞練習・イメージ想起の予習 【復習】模擬指導実践について評価できる点と改善点の復習 【提出】評価票①：『模擬指導実践』について（良い点と改善点）</p>
4 回	<p>■講義内容〔オペレッタ制作活動と手あそび・歌あそび（素話）の模擬指導実践・その3〕 ①模擬指導実践を行うとともに、台詞合わせと感情移入を教える。 ②手あそびなどのリトミック（歌いつつ動く・動きつつ歌う）の重要性について解説する。 *学習成果：模擬指導実践を通して現場における保育表現の展開について理解する。</p> <p>【予習】オペレッタの登場人物の心理把握・身体的表現方法の探究について予習 【復習】模擬指導実践について評価できる点と改善点の復習 【提出】評価票②：『模擬指導実践』について（良い点と改善点）</p>
5 回	<p>■講義内容〔オペレッタ制作活動と手あそび・歌あそび（素話）の模擬指導実践・その4〕 ①模擬指導実践を行うとともに、模範のやり方と目線について解説する。 ②身体的表現系への移行について解説する。 *学習成果：模擬指導実践を通して保育現場での表現の展開について理解する。</p> <p>【予習】オペレッタの動きの厳選・空間構成の確認について予習 【復習】模擬指導実践について評価できる点と改善点の復習 【提出】評価票③：『模擬指導実践』について（良い点と改善点）</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
6 回	<p>■講義内容 [オペレッタ制作活動と手あそび・歌あそび(素話)の模擬指導実践・その5]</p> <p>①模擬指導実践を行うとともに、身体表現における「間」の重要性について解説する。 ②オペレッタにおける空間の使い方について解説する。</p> <p>*学習成果：模擬指導実践を通して現場での保育表現の展開について理解する。</p> <p>【予習】伴奏音楽のセレクト・音声表現に対するフィードバックについて予習 【復習】模擬指導実践について評価できる点と改善点の復習 【提出】評価票④：『模擬指導実践』について(良い点と改善点)</p>
7 回	<p>■講義内容 [オペレッタ制作活動と手あそび・歌あそび(素話)の模擬指導実践・その6]</p> <p>①模擬指導実践を行う。 ②リトミックにおけるピアノ伴奏、声のトーンと変化の意味について解説する。</p> <p>*学習成果：模擬指導実践を通して現場での保育表現の展開について理解する。</p> <p>【予習】オペレッタにおける挿入ダンスのイメージ想起と歌い込みの予習 【復習】模擬指導実践について評価できる点と改善点の復習 【提出】評価票⑤：『模擬指導実践』について(良い点と改善点)</p>
8 回	<p>■講義内容 [オペレッタ制作活動と手あそび・歌あそび(素話)の模擬指導実践・その7]</p> <p>①模擬指導実践を行う。 ②ダンス挿入と全体のバランス、身体全体で伝えることについて解説する。</p> <p>*学習成果：模擬指導実践を通して現場での保育表現の展開について理解する。</p> <p>【予習】オペレッタの台詞と動きのフィードバック、構成の確認について予習 【復習】模擬指導実践について評価できる点と改善点の復習 【提出】評価票⑥：『模擬指導実践』について(良い点と改善点)</p>
9 回	<p>■講義内容 [オペレッタ制作活動と手あそび・歌あそび(素話)の模擬指導実践・その8]</p> <p>①模擬指導実践を行うとともに、イントロダクションの重要性について解説する。 ②通し稽古を行う。</p> <p>*学習成果：模擬指導実践を通して現場での保育表現の展開について理解する。</p> <p>【予習】オペレッタの台詞練習・時間の使い方と間合いの確認について予習 【復習】模擬指導実践について評価できる点と改善点の復習 【提出】評価票⑦：『模擬指導実践』について(良い点と改善点)</p>
10 回	<p>■講義内容 [オペレッタ制作活動と手あそび・歌あそび(素話)の模擬指導実践・その9]</p> <p>①模擬指導実践を行うとともに、「お話を聞いてくれないのは何故？」について解説する。 ②通し稽古を行う。</p> <p>*学習成果：模擬指導実践を通して現場での保育表現の展開について理解する。</p> <p>【予習】オペレッタの動き・空間の使い方と間合いの確認について予習 【復習】模擬指導実践について評価できる点と改善点の復習 【提出】評価票⑧：『模擬指導実践』について(良い点と改善点)</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
11 回	<p>■講義内容 [オペレッタ制作活動と手あそび・歌あそび(素話)の模擬指導実践・その10] ①模擬指導実践を行うとともに、音・台詞・動きのタイミングと調整について解説する。 ②通し稽古を行う。 *学習成果: 模擬指導実践を通して現場での保育表現の展開について理解する。</p> <p>【予習】台詞・動き・音の確認・大道具の出し入れのタイミングについて予習 【復習】模擬指導実践について評価できる点と改善点を復習 【提出】評価票⑨:『オペレッタ』について(良い点と改善点) / 自らに関すること</p>
12 回	<p>■講義内容 [オペレッタ制作活動] ①実技試験その1 ゲネプロにより、大道具・小道具の出し入れのタイミングと流れの調整を行う ②フィードバック資料としてVTR撮影を行う。 *学習成果: 模擬指導実践を通して現場での保育表現の展開について理解する。</p> <p>【予習】オペレッタ発表に向けて作品について多角的且つ総合的な確認作業の予習 【復習】模擬指導実践について評価できる点と改善点の復習 【提出】評価票⑩:『オペレッタ』について(良い点と改善点) / 他者に関すること</p>
13 回	<p>■講義内容 [全クラス合同オペレッタ発表・前半] ①実技試験その2 作品発表および作品鑑賞・相互評価を行う。 ②フィードバック資料としてVTR撮影を行う。 *学習成果: オペレッタ発表を通して現場での保育表現の展開について理解する。</p> <p>【予習】他の作品を鑑賞する態度の涵養について予習 【復習】オペレッタ発表の評価できる点と改善点について復習</p>
14 回	<p>■講義内容 [全クラス合同オペレッタ発表・後半] ①実技試験その2 作品発表および作品鑑賞・相互評価を行う。 ②フィードバック資料としてVTR撮影を行う。 *学習成果: オペレッタ発表を通して現場での保育表現の展開について理解する。</p> <p>【予習】他の作品を鑑賞する態度の涵養について予習 【復習】オペレッタ発表の評価できる点と改善点について復習</p>
15 回	<p>■講義内容 [総括] 作品鑑賞(VTR)・グループ発表に対する講評および評価ポイントについて解説・総括する。 *学習成果: 豊かなオペレッタ表現を展開する上で獲得すべきポイントを理解する。 「声の大きさ」・「テンポ」・「リズム」・「間」・「抑揚」がオペレッタの基本である。 「表情」は目線・顔の向き・口元・身体全体・手指先により表現力が左右される。 「題材」は季節感・発育発達段階への留意が集中や興味関心の度合いを決定する。 「作品を通して伝えたいこと」の明確化は表現力を向上させるポイントになる。 「理解度(伝達情報量)の増大」は表現する側の達成感を獲得する核になる。</p> <p>【提出】レポート①:『模擬指導実践』を振り返って/模擬指導実践の翌週に提出 レポート②:『オペレッタ制作活動』を振り返って/最終回に提出</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	表現Ⅱ(A)(保育内容)	授業回数	15	単位数	1	担当教員	関野智子
質問受付：E棟 105 研究室 金曜日 12：20～12：50 e-mail：sekinotomoko@gmail.com							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：</p> <p>保育者として、幼児の造形表現活動の場で適切な指導と援助ができるための知識と基礎技術の習得を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児の発達段階に応じて多様な造形表現があることを理解する。 2. 造形素材・用具についての基礎知識と扱い方を知り、体験的にそれぞれの素材と技法の特徴、幼児が扱うときの諸注意を知る。 3. 幼児の造形活動に適切な環境を設定し、支援する視点を学ぶ。 <p>学生の学習成果：</p> <p>専門的学習成果として、教育目標に掲げる3項目を習得する。 また、汎用的学習成果として、①保育者としての態度・信念の形成に自助努力し②幼児を指導する適正な価値・判断の基準をもち、明確に意見表明ができる力を育成する。</p>						
	教育	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 課題の保育における位置づけ、留意事項等を教員が説明する。 ② 課題の演習を通じて、体験的に学ぶ。 ③ 準備と片付けまでを含めて授業内容とする。 ④ 課題を通して学んだことを文章・イラスト・写真等で記録する。 ⑤ 課題ごとに自己評価を行い反省と課題を記す。 ⑥ 予習・復習と宿題について教員が説明する。 					
方法	<p>予習・復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題に関する図書を調べたり、目的に沿って材料を調達したりする。 ・ 課題の達成速度は個人差があるので、十分に課題を理解し技術を獲得するための演習を必要に応じて時間外に行う。 ・ 必要に応じて記録写真を撮り、自己評価と記録を忘れないうちにまとめる。 						
スキ	『保育園・幼稚園の造形あそび』鮫島良一 馬場千晶／著，成美堂出版						
学習評価の方法	<p>以下の5つの学習成果についてその度合いを作品・記録等を含むスケッチブックによって満点を100点とし、おおむね4：2：2：1：1の比重で評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 幼児の発達段階に応じて多様な造形表現があることを理解した。 ② 造形素材・用具についての基礎知識と扱い方を知り、体験的にそれぞれの素材と技法の特徴、幼児が扱うときの諸注意を習得した。 ③ 幼児の造形活動に適切な環境を設定し、支援する能力視点を学んだ。 ④ 保育者としての態度・信念の形成に自助努力している。 ⑤ 幼児を指導する適正な価値・判断の基準をもち、明確に意見表明ができる。 						
注意事項	特になし						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>〈オリエンテーション〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児教育における造形表現の位置づけについて、授業の進め方および評価について、受講の注意等について、教員が説明する。 ・ 表現の授業では身近な素材を多く活用するので、受講にあたり集めておく素材の説明をしておく。 <p>〈子どもの造形表現を支える姿勢の確認〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際の生活の中で日常的に心がけるべきことを教員がプリントを配付して説明する。 ・ 毎回の持参物及び記録の作り方について教員が説明する。 ・ 日常での気付きに関する課題プリントの説明 <p>学習成果：授業を受ける意味を学ぶとともに、造形を指導する保育者として求められる日常的な心がけについて知る。</p> <p>予習と宿題：授業で学んだ日常的な姿勢を意識する。課題プリント。</p>
2 回	<p>〈前回の活動の振り返り：日常での気付きを言葉にする〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題プリントをグループ内で共有。発見を言葉にすることの意義について学ぶ。 ・ 「保育所指導指針」第3章の抜粋プリントから、言葉と表現について確認する。 <p>〈幼児のための材料の紹介と使い方 1. 基本の道具〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児がお道具箱に揃えている道具、表現活動で準備する道具、保育士が常備しておく道具について教科書と配布プリントを見ながら教員が解説する。 <p>学習成果：これまで経験のある描画材についてそれぞれの特徴や扱い、保管に関して学ぶ。</p> <p>〈幼児のための材料の紹介と使い方 2. 描画材 ①クレヨン〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クレヨンの特徴と、幼児が使用する際の注意点を実際に使いながら発見し、グループごとに発表する。 <p>学習成果：①クレヨンによる表現の可能性について探求することで、材料と探求する際の基本姿勢を身につける。②幼児の活動を想定しながら保育士が具体的に手立てを考えることの重要性に気付く。③発見を他者と共有することで学びが広がることを実感する。</p> <p>予習と宿題：保育士が常備しておく道具を揃え、次回から持参できるようにする。</p>
3 回	<p>〈前回の活動の振り返り：造形活動を行う上での大事なこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各自で持ち寄った道具をグループ内で確認する。 ・ 教科書10頁-11頁を読み、造形活動の基本事項を確認する。 <p>〈幼児の育ちと造形表現〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「保育所保育指針」の抜粋プリントと小学校～高等学校までの図画工作並びに美術の指導要領から、子どもの発達の特性とその過程を理解し、発達と生活の連続性の中で活動を行うことの重要性を知る。 ・ 教科書12頁-13頁を読み、子供の成長の流れを大きくつかむ。 ・ 「幼児の育ちと造形表現のまとめ」のビデオを観る。 ・ ビデオをみながらプリントに重要なことをまとめる。 <p>学習成果：幼児の体と心の発達を知り、子どもの造形表現を導く保育者の役割を知る。</p> <p>〈幼児のための材料の紹介と使い方 2. 描画材 ②ペンと丸シール〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 乳児期（0歳～2歳）でも手軽に扱える材料について知る。 ・ ペンと丸シールで自分のスケッチブックの表紙に装飾を行う。 <p>学習成果：①乳児期の造形遊びについて知る。②描いたり作ったりすることで身の回りを楽しく飾る表現を意識する。</p> <p>予習と宿題：教科書14頁-21頁を読んで本時の復習をしておく。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
4 回	<p>〈前回の活動の振り返り：発達過程と表現〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達過程を踏まえ、乳幼児期は生活経験や意欲と遊離した特定の技能の習得に偏らないよう配慮することを確認する。 <p>〈幼児の造形活動の環境作りについて〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者が行う環境作りについて、教員がプリントを配付し解説する。 <p>学習成果：保育者が子どもの造形活動のために保育室の内外にどのように環境を設定するのか学ぶ。</p> <p>〈幼児のための材料の紹介と使い方 2. 描画材 ③水彩絵の具〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水彩絵の具の特徴と留意点を教員が説明をする。 ・発達段階に合わせた活動例を紹介、それらの演習をする。 <p>〈表現技法 1. デカルコマニー〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画用紙を折って指絵具でデカルコマニーをしてみる。デカルコマニーを活かした幼児の活動例の紹介、また美術史の視点からモダンテクニックと作家作品について知る。 <p>学習効果：水彩絵の具の特徴を知り、それを活かした表現（はじき、吹き流し、混色など）と場の設定、援助のポイントを習得する。</p> <p>予習と宿題：教科書に掲載されている水彩絵の具を使った活動例を確認しておく。</p>
5 回	<p>〈前回の活動の振り返り：モダンテクニックについて〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・偶然生まれた形や色を手掛かりにイメージを広げていくモダンテクニックについてまとめたプリントで確認する。 <p>〈表現技法 2. スタンピング〉</p> <p>教員がスタンピングのスタンプ台、野菜等について説明する。</p> <p>野菜や身近なものを使ったスタンピングをする。</p> <p>学習成果：スタンピング遊びを知り、その環境設定、援助のポイントを習得する。</p> <p>予習と宿題：①教科書 72 頁～73 頁「スタンプ遊び」を確認しておく。②次回は A4 サイズのコットンバッグにスタンプで装飾するをするのでスタンプの材料を自分で集めておき、デザインも考えておく。</p>
6 回	<p>〈前回の活動の振り返り：デザインを考える楽しさ・形を発見する楽しさ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4歳半ばからレイアウトを考えはじめるので、帽子やTシャツ、バッグや絵皿など、実際に使えるものに装飾を施す活動も可能になることを、実例を交えて教師が説明する。 <p>〈幼児のための材料の紹介と使い方 2. 描画材 ⑤アクリル絵の具〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員がアクリル絵の具の特性と扱い方を説明する。 ・コットンバッグにアクリル絵の具で野菜をスタンピングする。 <p>学習成果：①アクリル絵の具について知り、で活動の際の環境設定、援助のポイントを習得する。②使って楽しくなるようなデザインを工夫することができる。</p> <p>予習と宿題：次回の制作用に裁縫セット、ボタンを準備しておくよう告げる</p>
7 回	<p>〈前回の活動の振り返り：デザインを考える楽しさ・形を発見する楽しさ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタンピングの魅力は「描写力の差が表れにくい」「アクションがすぐ形になって現れること」「リズムや動きなど抽象的な表現にまで高めることもできること」「複数性」などであることを確認する。 <p>〈表現技法 3. 布による表現〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オペレッタでの衣装制作の前段階として、コットンバッグに手縫いで内ポケットとボタンをつける演習を行う。針と糸の基本的な扱い方を確認する。 <p>学習成果：手縫いの基本、ボタンなどの取り付け方法を習得できる。</p> <p>予習と宿題：次回までにコットンバッグを仕上げしておく。</p>

8 回	<p>〈オペレッタ大道具、小道具、変身道具制作①〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オペレッタ大道具、小道具、変身道具を計画書に合わせて製作する。 <p>学習成果 : オペレッタに必要な大道具や衣装を制作することを通じて様々な材料の処理や道具の使い方、制作物の構造や強度について考えることを習得する。</p> <p>予習と宿題 : オペレッタの内容の進み具合に合わせて時間外でも作業をするとともに、大道具や衣装等に必要な特殊な材料を調達する。</p>
9 回	<p>〈オペレッタ大道具・小道具・変身道具制作②〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オペレッタ大道具・小道具・変身道具を計画書に合わせて製作する。 <p>学習成果 : ①制作することを通じて様々な材料の処理や道具の使い方、制作物の構造や強度について考えることを習得する。②大きな制作物の協同作業を経験する。</p> <p>予習と宿題 : 大道具や衣装等に追加が必要になったものは時間外に製作する。(道具・材料等については教員に相談する)</p>
10 回	<p>〈表現技法 4. 版画①紙版画〉</p> <p>教員が版画遊びについて説明をする。</p> <p>「紙版画」を演習する。</p> <p>学習成果 : 版画のさまざまな種類を知り、それぞれについての環境構成と援助のポイントを習得する。</p> <p>予習と宿題 : 次回はスチレン版画を行うので、スーパーで手に入る食品トレー(可能なら白)を持参するよう告げる。</p>
11 回	<p>〈前回の活動の振り返り：版画を楽しむために〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 版画は大量の絵の具を使い、道具の片付けも大変であるが、版から紙をめくったときに現れる形は子どもに大きな喜びを与える。一人ひとりの発達過程を踏まえ柔軟な援助をすることが肝要であることを確認する。乾燥棚に置いた作品を後日スケッチブックに貼るなど記録を整理する。 <p>〈表現技法 4. 版画②スチレン版画〉</p> <p>引っかく、切り抜く、割るなど、アクションがそのまま版画作品になるスチレン版画の技法を説明する。今回は食品トレーの底部分で版を作成、版画の上に額に見立てたトレーの縁を貼り付けて仕上げる。縁は、作品が引き立つよう自由に着色する。</p> <p>学習成果 : ①スチレン版画について理解をすることができる。②作品を引き立てる額装について意識することができる。</p> <p>予習と宿題 : 飛び出す絵本、飛び出すカードなどを調べておくよう告げる。</p>
12 回	<p>〈前回の活動の振り返り：もらって楽しいカードとは?〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員が持参した様々なカードを皆で鑑賞、もらって楽しいカードについてグループ内で意見交換をする。 <p>〈幼児のための材料の紹介と使い方 3. 紙① 飛び出すカードづくり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な紙に実際に触れながら、それぞれの特徴を知り用途に合った紙を選べるようになる。 ・ 立体カードをプリントを参照しながら作成する。 ・ 色画用紙を効果的に活用する方法について教員が参考作品を用いて解説する。 <p>学習成果 : 紙を立体化する方法を知り、与えられたテーマに合わせてカード作りを計画することを体験的に習得する。</p> <p>予習と宿題 : クリスマスカードのアイデアを練っておく</p>
13 回	<p>〈幼児のための材料の紹介と使い方 3. 紙② クリスマスカードづくり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回学んだ飛び出す仕組みを応用し、オリジナルクリスマスカード作りをする。 <p>学習成果 : カード開閉時の表情の変化をつけたり、デザインにストーリー性をもたせるなどの工夫をし、相手の反応を考えながら制作を進めることができる。</p> <p>予習と宿題 : スケッチブックの未完成部分を確認し、少しずつ仕上げていく。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

<p>14 回</p>	<p>〈幼児のための材料の紹介と使い方 3. 紙 ③切り紙〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プリントと教員の説明を参考にしてサクラ、星の切り紙を行う ・ その他の花なども同じようにして作ってみる。 <p>学習成果 : 5 弁折を覚え、星や桜のほか梅、ナデシコ等の応用的製作ができるようになる。 予習と宿題 : スケッチブックの未完成部分を確認し、次回までに仕上げしておく。</p>
<p>15 回</p>	<p>〈ビデオ視聴 : 子どもとアート〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもとアートに関する 2 本の DVD を視聴、それらを通して子どもとアートを巡る今日的な課題について考察する。 <p>《まとめ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スケッチブックの資料整理とチェックポイントを確認する。 ・ 表現ⅡA まとめプリントの記入をする。 <p>学習成果 : 造形表現の学習をまとめ、将来にも役立つ記録資料の作成ができるようになる。 予習と宿題 : 表現ⅡA で学んだ内容を復習しておく。</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	表現Ⅱ(B)(保育内容)	授業回数	15	単位数	1	担当教員	関野智子
質問受付：E棟105研究室 金曜日12:20～12:50 e-mail: sekinotomoko@gmail.com							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：</p> <p>保育者として、幼児の造形表現活動の場で適切な指導と援助をするための知識と基礎技術の習得を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児の造形活動に対し適切な評価を行い、発達に応じた適切な援助ができる能力を習得する。 2. 造形遊びや児童文化を通して幼児とコミュニケーションを図る技能を身につける。 3. 造形指導の適切な造形環境を設定し、支援する視点を学ぶ。 <p>学生の学習成果：</p> <p>専門的学習成果として、教育目標に掲げる3項目を習得する。</p> <p>また、汎用的学習成果として、①保育者としての態度・信念の形成に自助努力し②幼児を指導するのにふさわしい価値基準と判断力を備え、適正な意見をもつ姿勢を涵養する。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 保育における位置づけ、留意事項等を教員が説明する。 ② 課題の演習を通じて、体験的に学ぶ。 ③ 準備と片付けまでを含めて授業内容として扱う。 ④ 解説、計画、製作等を通して学んだことを文章、イラスト、写真等で記録する。 ⑤ 予習、復習等について教員が説明する。 	<p>予習・復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題に関する図書を調べたり、目的に沿って材料を調達したりする。 ・ 課題の達成速度は個人差があるので、十分に課題を理解し技術を獲得するための演習を必要に応じて時間外に行う。 ・ 必要に応じて写真を撮り、記録をまとめる。 	<p>ステキ</p> <p>『保育園・幼稚園の造形あそび』 鮫島良一 馬場千晶／著，成美堂出版</p>			
	学習評価の方法	<p>以下の5つの学習成果についてその度合いを作品・記録等を含むスケッチブックによって満点を100点とし、おおむね4:2:2:1:1の比重で評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 幼児の造形活動に対する知識を身に付け、発達に応じた適切な援助ができる能力を習得した。 ② 造形遊びや児童文化を通して幼児とコミュニケーションを図る技能を身につけた。 ③ 造形指導の適切な造形環境を設定し、支援する視点を学んだ。 ④ 保育者としての態度・信念の形成に自助努力している。 ⑤ 幼児を指導するのにふさわしい価値基準と判断力を備え、適正な意見をもつ 					
注意事項	特になし						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>〈オリエンテーション〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の進め方及び評価について、教員が説明する。 ・ 学習の姿勢と視点について、記録の作成について、教員が説明する。 <p>〈これまでの活動の振り返り：表現Ⅱ（A）のまとめ〉 各種表現技法も織り交ぜながら、描画材や紙など、主に平面的な造形活動に関することを学習したことを振り返る。表現Ⅱ（B）では学習したことを基に、空間や立体的な造形活動ならびに発達過程に配慮した指導案作成も行うことを説明する。</p> <p>〈幼児のための材料の紹介と使い方 3. 紙 壁面構成①＊グループ制作〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬保育室で保育室と壁面構成について、教員が説明する。 ・ 模擬保育室の壁面構成の要素について、教員が説明する。 ・ グループごとに担当となった月の壁面構成の内容を相談して計画を立てる。→第4回目の授業内に計画完成を目標に進めることを告げる。 <p>学習成果：保育室の状況と壁面構成を具体的にイメージする。 予習と宿題：パクパク人形作りで必要な材料・用具を準備する。</p>
2 回	<p>〈前回の活動の振り返り：壁面構成について〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 壁面構成の実際について写真資料等で知る。 <p>〈幼児のための材料の紹介と使い方 4. 布 パクパク人形制作①＊個人制作〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2体の計画図を描き、着色する。 ・ パクパク人形の材料となる靴下を裏返し、厚紙を貼り付ける。 <p>学習成果：パクパク人形をデザインし、素材等を含めた計画図を描くことができる。 予習と宿題：デザインが完成しなかった場合は仕上げておく。</p>
3 回	<p>〈前回の活動の振り返り：布の玩具について①〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界各国の布製の玩具とその特徴について図版資料を交えて紹介する。 <p>〈幼児のための材料の紹介と使い方 4. 布 パクパク人形製作②〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 口、目を取り付け、耳や角、髪の毛など必要なパーツを取り付ける。 <p>学習成果：糸と針を使って布を用いた製作の基礎を習得する。 予習と宿題：パクパク人形の製作を進める。</p>
4 回	<p>〈前回の活動の振り返り：布の種類について②〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の活動で使用することが多い生地の紹介。 <p>〈幼児のための材料の紹介と使い方 3. 紙 壁面構成②〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループで計画を完成させ、部分ごとの分担を決める。 <p>学習成果：身の回りのものを調達法やコストを考慮して制作に取り入れる力が付く。 予習・宿題：材料を分担して調達する</p> <p>〈幼児のための材料の紹介と使い方 4. 布 パクパク人形製作③〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パクパク人形の製作を進める。 <p>学習成果・予習と宿題：第3回と同じ。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
5 回	<p>〈前回の活動の振り返り：材料の工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色画用紙以外の身近な素材で壁面構成に活用できる材料について実例を紹介。 <p>〈幼児のための材料の紹介と使い方 4. 布 パクパク人形制作④〉 写真記録</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成・提出 <p>学習成果：①製作の目的に沿って計画を立て、図を描き、材料を調達して製作し、手直して完成することを習得する。②布を縫うこと、ボタンを付けること綿を入れてパーツを作ることなどができるようになる。</p> <p>予習・宿題：壁面構成製作のグループで材料の調達を確認し、不足しているものは調達する。</p>
6 回	<p>〈前回の活動の振り返り：質感の工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙を加工して質感表現を工夫している実例を紹介。 <p>〈幼児のための材料の紹介と使い方 3. 紙 壁面構成③〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで計画に沿って壁面製作をする。 <p>学習成果：制作上の問題点を相談し工夫して克服していくことができるようになる。</p> <p>予習・宿題：各自の分担作業を必要に応じて進めておく。</p>
7 回	<p>〈前回の活動の振り返り：バランスについて〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型壁面構成を仕上げるポイントを説明。 <p>〈幼児のための材料の紹介と使い方 3. 紙 壁面構成④〉 写真記録</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壁面構成を完成させ、記録写真を撮るとともにスケッチブックにまとめる。 <p>学習成果：壁面製作全体を通して、保育室の環境としての壁面を計画し、材料を考え、強度や安全性、美的バランスを考えながらグループ製作することができるようになる。</p> <p>予習と宿題：これまでの写真や課題終了後の自己評価をまとめるなどスケッチブックの整理をする。</p>
8 回	<p>〈幼児のための材料の紹介と使い方 5. 小麦粉粘土〉 写真記録</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員が小麦粉粘土の作り方と留意点を説明する。 ・グループで小麦粉粘土を作り、どのように表現できるか試作してみる。 <p>学習成果：小麦粉粘土の作り方、遊び方、留意点を体験的に知ることができる。</p> <p>予習と宿題：次回は土粘土を使用するので汚れても良い服を準備する。</p>
9 回	<p>〈幼児のための材料の紹介と使い方 6. 土粘土①〉 写真記録</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土粘土による表現の可能性等について、また用具、保管について教員が説明する。 ・土粘土を練り、固さを調整して遊びや制作を試みる。 <p>学習成果：土粘土の保管法について、また遊び方を体験的に知り、作ったり援助をしたりできる。</p> <p>予習と復習：次回は運動会のお土産作りを行うので必要な用具を準備しておく。</p>
10 回	<p>〈運動会のお土産制作〉</p> <p>子どもと一緒に運動会のお土産制作を行う。</p> <p>学習成果：お土産を効率よく、且つ美しく仕上げるための役割分担の方法を知る。</p> <p>予習と復習：次回は土粘土を使用するので汚れても良い服を準備する。</p>
11 回	<p>〈幼児のための材料の紹介と使い方 6. 土粘土②〉 写真記録</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土粘土による年齢別造形遊びの様子をビデオで視聴し、実際に自分達で体験してみる。 <p>学習成果：土粘土の保管法について、また遊び方を体験的に知り、作ったり援助をしたりできる。</p> <p>予習と復習：今回の活動を次回指導案に書き起こすので、活動の流れをメモしておく。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
12 回	<p>〈造形遊びの指導案 1. 幼児の発達と造形遊びの援助〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校～高等学校までの図画工作並びに美術の指導要領から、子どもの発達の特性とその過程を理解し、発達と生活の連続性の中で活動を行うことの重要性を確認する。 ・乳幼児の造形表現について、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」から確認する。 ・同じテーマの題材も発達過程により造形遊びでの「子どもの姿」「ねらい」がかわってくることをサンプルを通して確認する。 ・造形遊びの指導案自己チェックについて教員がプリントを配付して説明する。 <p>学習成果：保育内容としての造形表現について再確認し、発達とそれに応じた援助の仕方を考える。</p> <p>予習と宿題：配付されたプリントを復習する。</p>
13 回	<p>〈前回の活動の振り返り：3歳未満、3歳以上〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「乳児期の生活と造形」に関するプリントで発達過程と表現活動、援助の際の留意点を確認する。 <p>〈造形遊びの指導案 2 指導案の作成〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造形遊びの指導案自己チェックの項目についてサンプルを点検する。 ・造形遊びにおける「子どもの姿」「ねらい」についての演習をする。 <p>学習成果：造形遊びの指導案の書き方を理解する。</p> <p>予習と宿題：造形遊びの指導案の書き方を復習する。</p>
14 回	<p>〈前回の活動の振り返り：対象年齢を想定してみる〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案作成で、発達過程に配慮した造形活動とその援助について学んだので、以後の課題についても、対象年齢を自分なりに想定して指導案を考えるとより専門性を高めることができる」と助言する。希望者には指導案のチェックを行うことも告げる。 <p>〈造形活動の発表会①〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成した作品だけではなく、活動の過程、その時の子どもの様子や言葉が見える形にして展示することの意義について知る。保護者に向け、造形活動の様子が伝わる掲示物を作成する。 <p>学習成果：活動の振り返りの大切さを確認し、子どもの活動や成長の喜びを保護者と共有するためのツールについて考えることができる。</p> <p>予習と宿題：時間内に完成出来なかった班は次回までに仕上げておく。</p>
15 回	<p>〈造形活動の発表会②〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回作成した掲示物を展示、相互鑑賞を行う。 <p>学習成果：造形表現の学習をまとめ、将来にも役立つ記録資料の作成ができるようになる。</p> <p>予習と宿題：表現ⅡBで学んだ内容を復習しておく。</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	音楽 I (A)	授業回数	15	単位数	1	担当教員	白神 厚子、他
質問受付の方法 オフィスアワー：授業日 13：00～16：10							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標： 本科目では、幼児教育現場での実践的音楽表現力・指導力を修得するため、以下の3項目を目標として適切な練習の積み重ねを前提に実演授業を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ピアノ演奏に関する基本的な知識・技能を理解・修得する。 2. ピアノ演奏に必要な練習準備の方法・必要性を理解・修得する。 3. ピアノ演奏を通して音楽活動の楽しさ・喜びを体験し、仲間と共有する。 <p>学生の学習成果： ・専門的学習成果：教育目標に掲げる3項目を修得するため、2年間の音楽 I A・B・C・Dの段階を追って自主的・自立的・意欲的に技能を向上させる基礎力を身につける。 ・汎用的学習成果：音楽 I の2年間を通じた継続的な学びと努力で、社会人としてのモラルや責任を果たすために必要な自己管理能力を身につける。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な練習を積み重ねてきた課題曲を各人のピアノ技能に応じて個人レッスンすることで、レベルアップへの具体的な方法を伝える。 ・適切な練習を積み重ねてきた自由課題曲を各人のピアノ技能に応じて交替で個人レッスンする中で、人の演奏を聴いて自分の学びとすることを課す。 ・適切な練習を積み重ねてきた課題曲を人前で演奏することで、社会人に求められる態度や責任感を獲得することを課す。 <p>予習・復習 予習事項：各人に指定された課題曲を適切に予習・練習すること。 復習事項：授業で個人レッスンを受けた課題曲を適切に復習・練習すること。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。 ※練習時間と課題曲は指定の記録用紙に記入し、授業開始時に提出する。 ※授業時間内でマスターできなかった課題曲は補習に出席して復習・練習する。</p> <p>テキスト 「全訳ハノンピアノ教本」全音楽譜出版社 「指づかいつきバイエルピアノ教本」木村ケイ編 全音楽譜出版社 「ツェルニー100番・30番・40番」全音楽譜出版社</p>					
学習評価の方法	<p>① 専門的学習成果において</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各人の予習・復習による学習成果 $2 \text{点} \times 12 \text{回} = 24 \text{点}$ ・ハノン実技人前実演 (2回実施) $10 \text{点} \times 2 \text{回} = 20 \text{点}$ ・自由曲実技人前実演 (1回実施) $56 \text{点} \times 1 \text{回} = 56 \text{点}$ <p>以上の配分とし、人前実演で弾く曲は全曲暗譜でマスターすることを必須とし、総合評価する。</p> <p>② 汎用的学習成果において 社会人、保育者としての態度や責任感が十分でない判断した場合、以下を減点対象とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演奏に適した身だしなみ (適切な長さの爪、等々) でないこと 1点減点 ・練習時間記録用紙の未提出 1点減点 ・授業態度不良 (私語、携帯使用、自分勝手な行動、等々) 1点減点 						
注意事項	参考図書等：						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><オリエンテーション></p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽Ⅰ(A)授業の進め方・スケジュール・学習方法・評価の方法について説明する。 ・担当分けをし、各担当別に各人の課題・練習方法・準備を確認する。 <p>学習成果：ピアノ実演技術の向上、社会人として責任を果たすための方法を理解する。 予習・復習事項：ハノンNo.1 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習する。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
2 回	<p><読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハノンNo.1：共通課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 ・バイエル・ツェルニー：各人の課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとする方法を伝える。 <p>学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：ハノンNo.2 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習する。 復習：ハノンNo.1 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習・暗譜する。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
3 回	<p><読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハノンNo.2：共通課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 ・バイエル・ツェルニー：各人の課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとする方法を伝える。 <p>学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：ハノンNo.3 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習する。 復習：ハノンNo.2 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習・暗譜する。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
4 回	<p><読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハノンNo.3：共通課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 ・バイエル・ツェルニー：各人の課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとする方法を伝える。 <p>学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：ハノンNo.4 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習する。 復習：ハノンNo.3 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習・暗譜する。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
5 回	<p><読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハノンNo.4：共通課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 ・バイエル・ツェルニー：各人の課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとする方法を伝える。 <p>学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：ハノンNo.1～No.5 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習する。 復習：ハノンNo.4 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習・暗譜する。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
6 回	<p><読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハノンNo.1～No.5：共通課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 ・バイエル・ツェルニー：各人の課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとする方法を伝える。 <p>学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：バイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習する。 復習：ハノンNo.1～No.5 を暗譜で実演できるよう適切に練習して人前実演に備える。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
7 回	<p><ハノン第1回目人前実演></p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通課題曲(No. 1~No. 5)から当日1曲指定した曲を暗譜で正確に演奏する。 <p>学習成果：人前で暗譜で演奏することに慣れ、適切な練習の必要性を実感する。</p> <p>予習：ハノン No. 6 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習する。</p> <p>復習：ハノン No. 1~No. 5 を指の練習に応用して練習開始時に毎回弾く。</p> <p>※ 予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
8 回	<p><読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハノン No. 6：共通課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 ・バイエル・ツェルニー：各人の課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとする方法を伝える。 <p>学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。</p> <p>予習：ハノン No. 7 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習する。</p> <p>復習：ハノン No. 6 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習・暗譜する。</p> <p>※ 予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
9 回	<p><読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハノン No. 7：共通課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 ・バイエル・ツェルニー：各人の課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとする方法を伝える。 <p>学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。</p> <p>予習：ハノン No. 8 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習する。</p> <p>復習：ハノン No. 7 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習・暗譜する。</p> <p>※ 予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
10 回	<p><読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハノン No. 8：共通課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 ・バイエル・ツェルニー：各人の課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとする方法を伝える。 <p>学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。</p> <p>予習：ハノン No. 9 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習する。</p> <p>復習：ハノン No. 8 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習・暗譜する。</p> <p>※ 予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
11 回	<p><読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハノン No. 9：共通課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 ・バイエル・ツェルニー：各人の課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとする方法を伝える。 <p>学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。</p> <p>予習：ハノン No. 6~No. 10 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習する。</p> <p>復習：ハノン No. 9 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習・暗譜する。</p> <p>※ 予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
12 回	<p><読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハノン No. 6~10：共通課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 ・バイエル・ツェルニー：各人の課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとする方法を伝える。 <p>学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。</p> <p>予習：バイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習・暗譜する。</p> <p>復習：ハノン No. 6~No. 10 を暗譜で実演できるよう適切に練習して人前実演に備える。</p> <p>※ 予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 回	<p><ハノン第2回目人前実演></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共通課題曲 (No. 6~No. 10) から当日 1 曲指定した曲を暗譜で正確に演奏する。 <p>学習成果：人前で暗譜で演奏することに慣れ、適切な練習の必要性を実感する。</p> <p>予習：バイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習・暗譜する。</p> <p>復習：ハノン No. 1~No. 10 を指の練習に応用して練習開始時に毎回弾く。</p> <p>※ 予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
14 回	<p><読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バイエル・ツェルニー：各人の課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 <p>学習成果：人前で暗譜で演奏するために必要な練習の成果を精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。</p> <p>予習：バイエル・ツェルニーから各人の課題曲を暗譜で実演できるよう適切に練習して人前実演に備える。</p> <p>復習：ハノン No. 1~No. 10 を指の練習に応用して練習開始時に毎回弾く。</p> <p>※ 予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
15 回	<p><自由曲人前実演></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自由曲 (バイエル・ツェルニー) から各人の課題曲を当日 1 曲指定し、暗譜で正確に演奏する。 <p>学習成果：人前で演奏することに慣れ、適切な練習の必要性を実感する。</p> <p>予習：夏休み弾き歌い課題曲「おおきなたいこ」「むすんでひらいて」を夏休み明けの音楽 I (B) 1 回目授業時に 2 曲とも暗譜で弾き歌いできるような適切な練習を積み重ねる。</p> <p>復習：ハノン No. 1~No. 10 を指の練習に応用して練習開始時に毎回弾く。</p> <p>※ 予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画																			
科目名	音楽 I (B)	授業回数	15	単位数	1	担当教員	白神 厚子、他												
質問受付の方法 オフィスアワー：授業日 13：00～16：10																			
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標： 本科目では幼児教育現場での実践的音楽表現力・指導力を修得するため、以下の4項目を目標として適切な練習の積み重ねを前提に実演授業を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ピアノ演奏に関する基本的な知識・技能を理解・修得する。 2. ピアノ演奏に必要な練習準備の方法・必要性を理解・修得する。 3. 歌いながらピアノ伴奏を一人で演奏する弾き歌いに関する基本的な知識・技術を理解・修得する。 4. ピアノ演奏・弾き歌い演奏を通して、音楽活動の楽しさ・喜びを体験し、仲間と共有する。 <p>学生の学習成果： 専門的学習成果：教育目標に掲げる4項目を修得するため、2年間の音楽IA・B・C・Dの段階を追って自主的・自立的・意欲的に技能を向上させる基礎力を身につける。 汎用的学習成果：音楽Iの2年間を通じた継続的な学びと努力で、社会人としてのモラルや責任を果たすために必要な自己管理能力を身につける。</p>																		
	教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な練習を積み重ねてきた課題曲を各人のピアノ技能に応じて個人レッスンすることで、レベルアップへの具体的な方法を伝える。 ・適切な練習を積み重ねてきた共通弾き歌い課題曲を交替で個人レッスンする中で、人の演奏を聴いて自分の学びとすることを課す。 ・適切な練習を積み重ねてきた自由課題曲を各人のピアノ技能に応じて交替で個人レッスンする中で、人の演奏を聴いて自分の学びとすることを課す。 ・適切な練習を積み重ねてきた課題曲を人前で演奏することで、社会人に求められる態度や責任感を獲得することを課す。 																
		予習・復習	<p>予習事項：各人に指定された課題曲を適切に予習・練習すること。 復習事項：授業で個人レッスンを受けた課題曲を適切に復習・練習すること。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。 ※練習時間と課題曲は指定の記録用紙に記入し授業開始時に提出する。 ※授業時間内でマスターできなかった課題曲は補習に出席して復習・練習する。</p>																
	テキスト	<p>「指づかいつきバイエルピアノ教本」木村ケイ編 全音楽譜出版社 「ブルグミュラー25の練習曲」全音楽譜出版社 「ソナチネアルバム1・2」全音楽譜出版社 「保育ソング」明治図書出版社、「こどものうた200」チャイルド社</p>																	
学習評価の方法	<p>① 専門的学習成果において</p> <table border="0"> <tr> <td>・各人の予習・復習による学習成果</td> <td>2点×10回</td> <td>=</td> <td>20点</td> </tr> <tr> <td>・弾き歌い実技人前実演(4回実施)</td> <td>2点×14曲</td> <td>=</td> <td>28点</td> </tr> <tr> <td>・自由曲実技人前実演(1回実施)</td> <td>52点×1回</td> <td>=</td> <td>52点</td> </tr> </table> <p>以上の配分とし、人前実演で弾く曲は全曲暗譜でマスターすることを必須とし、総合評価する。</p> <p>② 汎用的学習成果において 社会人、保育者としての態度や責任感が十分でないと判断した場合、以下を減点対象とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演奏に適した身だしなみ(適切な長さの爪、等々)でないこと 1点減点 ・練習時間記録用紙の未提出 1点減点 ・授業態度不良(私語、携帯使用、自分勝手な行動、等々) 1点減点 							・各人の予習・復習による学習成果	2点×10回	=	20点	・弾き歌い実技人前実演(4回実施)	2点×14曲	=	28点	・自由曲実技人前実演(1回実施)	52点×1回	=	52点
・各人の予習・復習による学習成果	2点×10回	=	20点																
・弾き歌い実技人前実演(4回実施)	2点×14曲	=	28点																
・自由曲実技人前実演(1回実施)	52点×1回	=	52点																
注意事項	参考図書等：																		

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><オリエンテーション></p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽Ⅰ(B)授業の進め方・スケジュール・学習方法・評価の方法について説明する。 <p><実演></p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休み課題曲①「おおきなたいこ」②「むすんでひらいて」を2曲とも暗譜で弾き歌い演奏する。 <p>学習成果：人前で暗譜で弾き歌い演奏することに慣れ、適切な練習の必要性を実感する。</p> <p>予習：おおきなくりの木のしたで の共通弾き歌い課題曲を適切に練習する。</p> <p>復習：実演した曲の問題点を適切に練習してレベルアップする。</p> <p>※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
2 回	<p><読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・おおきなくりの木のしたで を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 <p>学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。</p> <p>予習：おかたづけ（共通課題曲）バイエル・ブルグミュラー・ソナチネから各人の技能に合わせた課題曲(自由曲)を練習する。</p> <p>復習：おおきなくりの木のしたで を正確に弾き歌いできるよう、ていねいに練習する。 ：各自の自由曲をていねいに正確に練習する。</p> <p>※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
3 回	<p><読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・おかたづけ・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 <p>学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。</p> <p>予習：おそうじ・チューリップ・自由曲をていねいに正確に練習する。</p> <p>復習：おおきなくりの木のしたで・おかたづけ を正確に弾き歌いできるよう、ていねいに練習する。 ：各自の自由曲をていねいに正確に練習する。</p> <p>※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
4 回	<p><読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・おおきなくりの木のしたで・おかたづけ・おそうじ・チューリップ・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 <p>学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。</p> <p>予習：おおきなくりの木のしたで・おかたづけ・おそうじ・チューリップ・自由曲をていねいに正確に練習する。</p> <p>復習：第1回目弾き歌い課題曲を4曲とも人前で暗譜で正確に弾き歌いできるよう、ていねいに練習する。 ：各自の自由曲をていねいに正確に練習する。</p> <p>※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
5 回	<p><第1回目弾き歌い課題曲人前実演></p> <ul style="list-style-type: none"> ・③おおきなくりの木のしたで・④おかたづけ・⑤おそうじ・⑥チューリップ を4曲とも暗譜で弾き歌い演奏する。 <p>学習成果：人前で暗譜で弾き歌い演奏することに慣れ、教育実習に備える。</p> <p>予習：あくしゅでこんにちは2・おへんじ・自由曲をていねいに正確に練習する。</p> <p>復習：第1回弾き歌い課題曲の問題点と自由曲をていねいに正確に練習してレベルアップする。</p> <p>※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
6 回	<p><読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・あくしゅでこんにちは2・おへんじ・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 <p>学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。</p> <p>予習：おててをあらいましょう・自由曲をていねいに正確に練習する。</p> <p>復習：あくしゅでこんにちは2・おへんじ・自由曲を正確に演奏できるよう、ていねいに練習する。</p> <p>※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
7 回	<p><読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する> ・おててをあらいましょう・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 学習成果：練習・準備してきたことを精一杯発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：ぶんぶんぶん・自由曲をていねいに正確に練習する。 復習：あくしゅでこんにちは2・おへんじ・おててをあらいましょう・自由曲を正確に演奏できるように、ていねいに練習する。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
8 回	<p><読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する> ・あくしゅでこんにちは2・おへんじ・おててをあらいましょう・ぶんぶんぶん・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：あくしゅでこんにちは2・おへんじ・おててをあらいましょう・ぶんぶんぶん・自由曲をていねいに正確に練習する。 復習：第2回目弾き歌い課題曲を4曲とも人前で暗譜で正確に弾き歌いできるように、ていねいに練習する。 ：各自の自由曲をていねいに正確に練習する。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
9 回	<p><第2回目弾き歌い課題曲人前実演> ・⑦あくしゅでこんにちは2・⑧おへんじ・⑨おててをあらいましょう・⑩ぶんぶんぶん を4曲とも暗譜で弾き歌い演奏する。 学習成果：人前で暗譜で弾き歌いすることに慣れ、教育実習に備える。 予習：こぎつね・ごあいさつ・自由曲をていねいに正確に練習する。 復習：第2回目弾き歌い課題曲をの問題点と自由曲をていねいに正確に練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
10 回	<p><読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する> ・こぎつね・ごあいさつ・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：まめまき・自由曲をていねいに正確に練習する。 復習：こぎつね・ごあいさつ・自由曲を正確に演奏できるように、ていねいに練習する。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
11 回	<p><読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する> ・まめまき・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：まつぼっくり・自由曲をていねいに正確に練習する。 復習：こぎつね・まめまき・ごあいさつ・自由曲を正確に演奏できるように、ていねいに練習する。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
12 回	<p><読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する> ・こぎつね・ごあいさつ・まめまき・まつぼっくり・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：こぎつね・ごあいさつ・まめまき・まつぼっくり・自由曲をていねいに正確に練習する。 復習：第3回目弾き歌い課題曲を4曲とも人前で暗譜で正確に弾き歌いできるように、ていねいに練習する。 ：各自の自由曲をていねいに正確に練習する。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 回	<p><第3回目弾き歌い課題曲人前実演> ・⑪こぎつね・⑫ごあいさつ・⑬まめまき・⑭まつぼっくり を4曲とも暗譜で弾き歌い演奏する。</p> <p>学習成果：人前で暗譜で弾き歌いすることに慣れ、教育実習に備える。 予習：自由曲をていねいに正確に練習する。 復習：第3回目弾き歌い課題曲の問題点と自由曲をていねいに正確に練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
14 回	<p><読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する> ・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。</p> <p>学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：自由曲を正確に暗譜で弾けるよう、人前実演に備えて、ていねいに練習する。 復習：弾き歌い課題曲の問題点と自由曲をていねいに正確に練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
15 回	<p><自由曲実技人前実演> ・バイエル・ブルグミュラー・ソナチネから各人の自由課題曲を1曲暗譜で演奏する。</p> <p>学習成果：人前で演奏することに慣れ、教育実習に備える。 予習：春休み弾き歌い課題曲「めだかのがっこう」「こいのぼり」を春休み明けの音楽I(C)1回目の授業時に2曲とも暗譜で弾き歌いできるよう、ていねいに正確に練習する。 復習：今までの課題曲の問題点を練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画																			
科目名	音楽 I (C)	授業回数	15	単位数	1	担当教員	白神 厚子、他												
質問受付の方法 オフィスアワー：授業日 13：00～16：10																			
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標： 本科目では幼児教育現場での実践的音楽表現力・指導力を修得するため、以下の4項目を目標として適切な練習の積み重ねを前提に実演授業を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ピアノ演奏に関する基本的な知識・技能を理解・修得する。 2. ピアノ演奏に必要な練習準備の方法・必要性を理解・修得する。 3. 歌いながらピアノ伴奏を一人で演奏する弾き歌いに関する基本的な知識・技術を理解・修得する。 4. ピアノ演奏・弾き歌い演奏を通して、音楽活動の楽しさ・喜びを体験し、仲間と共有し共に向上して行く。 <p>学生の学習成果： 専門的学習成果：教育目標に掲げる4項目を修得するため、2年間の音楽IA・B・C・Dの段階を追って自主的・自律的・意欲的に技能を向上させて行く。 汎用的学習成果：音楽Iの2年間を通じた継続的な学びと努力で、社会人としてのモラルや責任を果たすために必要な自己管理能力を身につける。</p>																		
	教育方法	<p>授業の進め方 (講義・演習・実験・実習・実技) ・適切な練習を積み重ねてきた課題曲を各人のピアノ技能に応じて個人レッスンすることで、レベルアップへの具体的な方法を伝える。 ・適切な練習を積み重ねてきた共通弾き歌い課題曲を交替で個人レッスンする中で、人の演奏を聴いて自分の学びとすることを課す。 ・適切な練習を積み重ねてきた自由課題曲を各人のピアノ技能に応じて交替で個人レッスンする中で、人の演奏を聴いて自分の学びとすることを課す。 ・適切な練習を積み重ねてきた課題曲を人前で交替で演奏することで、社会人に求められる態度や責任感を獲得することを課す。</p>	<p>予習・復習 予習事項：各人に指定された課題曲を適切に予習・練習すること。 復習事項：授業で個人レッスンを受けた課題曲を適切に復習・練習すること。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。 ※練習時間と課題曲は指定の記録用紙に記入し授業開始時に提出する。 ※授業時間内でマスターできなかった課題曲は補習に出席して復習・練習する。</p>	<p>テキスト 「ブルグミュラー25の練習曲」全音楽譜出版社 「ソナチネアルバム1・2」全音楽譜出版社 「こどものうた200」チャイルド本社 「保育ソング」明治図書出版社</p>															
学習評価の方法	<p>① 専門的学習成果において</p> <table border="0"> <tr> <td>・各人の予習・復習による学習成果</td> <td>2点×10回</td> <td>=</td> <td>20点</td> </tr> <tr> <td>・弾き歌い実技人前実演(4回実施)</td> <td>2点×14曲</td> <td>=</td> <td>28点</td> </tr> <tr> <td>・自由曲実技人前実演(1回実施)</td> <td>52点×1回</td> <td>=</td> <td>52点</td> </tr> </table> <p>以上の配分とし、人前実演で弾く曲は全曲暗譜でマスターすることを必須とし、総合評価する。</p> <p>② 汎用的学習成果において 社会人、保育者としての態度や責任感が十分でない判断した場合、以下を減点対象とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演奏に適した身だしなみ(適切な長さの爪、等々)でないこと 1点減点 ・練習時間記録用紙の未提出 1点減点 ・授業態度不良(私語、携帯使用、自分勝手な行動、等々) 1点減点 							・各人の予習・復習による学習成果	2点×10回	=	20点	・弾き歌い実技人前実演(4回実施)	2点×14曲	=	28点	・自由曲実技人前実演(1回実施)	52点×1回	=	52点
・各人の予習・復習による学習成果	2点×10回	=	20点																
・弾き歌い実技人前実演(4回実施)	2点×14曲	=	28点																
・自由曲実技人前実演(1回実施)	52点×1回	=	52点																
注意事項	参考図書等：																		

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><オリエンテーション></p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽Ⅰ(C)授業の進め方・スケジュール・学習方法・評価の方法について説明する。 <p><実演></p> <ul style="list-style-type: none"> ・春休み課題曲①「めだかのがっこう」②「こいのぼり」を2曲とも暗譜で弾き歌い演奏する。 <p>学習成果：人前で暗譜で弾き歌い演奏するレベルを向上させ、教育実習に備える。</p> <p>予習：ちょうちょう・おべんとう の共通弾き歌い課題曲をていねいに正確に練習する。</p> <p>復習：実演した曲の問題点を適切に練習してレベルアップする。</p> <p>※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
2 回	<p><読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちょうちょう・おべんとう を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 <p>学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。</p> <p>予習：かえるのがっしょう・自由曲をていねいに正確に練習する。</p> <p>復習：ちょうちょう・おべんとう を教育現場で活用できるよう、ていねいに正確に練習して演奏レベルを上げて行く。</p> <p>：各自の自由曲をていねいに正確に練習する。</p> <p>※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
3 回	<p><読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・かえるのがっしょう・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 <p>学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。</p> <p>予習：春がきた・自由曲をていねいに正確に練習する。</p> <p>復習：かえるのがっしょう・自由曲を教育現場で活用できるよう、ていねいに正確に練習して演奏レベルを上げて行く。</p> <p>※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
4 回	<p><読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちょうちょう・おべんとう・かえるのがっしょう・春がきた・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 <p>学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。</p> <p>予習：ちょうちょう・おべんとう・かえるのがっしょう・春がきた を暗譜で弾けるよう、ていねいに正確に練習する。</p> <p>復習：第1回目弾き歌い課題曲を教育現場で活用できるよう、ていねいに正確に練習して、暗譜での演奏レベルを上げて行く。</p> <p>：各自の自由曲をていねいに正確に練習する。</p> <p>※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
5 回	<p><第1回目弾き歌い課題曲人前実演></p> <ul style="list-style-type: none"> ・③ちょうちょう・④おべんとう・⑤かえるのがっしょう・⑥春がきた を4曲とも暗譜で弾き歌い演奏する。 <p>学習成果：練習・準備してきたことを効果的に活用し、暗譜での人前実演の質を上げる。</p> <p>予習：せんせいとおともだち・自由曲をていねいに正確に練習する。</p> <p>復習：第1回弾き歌い課題曲の問題点と自由曲をていねいに正確に練習してレベルアップする。</p> <p>※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
6 回	<p><読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する> ・せんせいとおともだち・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。 予習：おかえりのうた・かたつむり・自由曲をていねいに正確に練習する。 復習：せんせいとおともだち・自由曲を教育現場で活用できるよう、ていねいに正確に練習して演奏レベルを上げて行く。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
7 回	<p><読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する> ・おかえりのうた・かたつむり・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。 予習：みずあそび・自由曲をていねいに正確に練習する。 復習：おかえりのうた・かたつむり・自由曲を教育現場で活用できるよう、ていねいに正確に練習して演奏レベルを上げて行く。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
8 回	<p><読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する> ・せんせいとおともだち・おかえりのうた・かたつむり・みずあそび・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。 予習：せんせいとおともだち・おかえりのうた・かたつむり・みずあそび を暗譜で弾けるよう、ていねいに正確に練習する。 復習：第2回目弾き歌い課題曲を教育現場で活用できるよう、ていねいに正確に練習して暗譜での演奏レベルを上げて行く。 ：各自の自由曲をていねいに正確に練習する。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
9 回	<p><第2回目弾き歌い課題曲人前実演> ・⑦せんせいとおともだち・⑧おかえりのうた・⑨かたつむり・⑩みずあそび を4曲とも暗譜で弾き歌い演奏する。 学習成果：練習・準備してきたことを効果的に活用し、暗譜での人前実演の質を上げる。 予習：たなばたさま・しゃぼんだま・自由曲をていねいに正確に練習する。 復習：第2回弾き歌い課題曲の問題点と自由曲をていねいに正確に練習して演奏レベルを上げて行く。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
10 回	<p><読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する> ・たなばたさま・しゃぼんだま・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。 予習：おばけなんてないさ・自由曲をていねいに正確に練習する。 復習：たなばたさま・しゃぼんだま・自由曲を教育現場で活用できるよう、ていねいに正確に練習して演奏レベルを上げて行く。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
11 回	<p><読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する> ・おばけなんてないさ・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。 予習：おもちゃのチャチャチャ・自由曲をていねいに正確に練習する。 復習：おばけなんてないさ・自由曲を教育現場で活用できるよう、ていねいに正確に練習して演奏レベルを上げて行く。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
12 回	<p><読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する> ・たなばたさま・しゃぼんだま・おぼけなんてないさ・おもちゃのチャチャチャ・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。</p> <p>学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。</p> <p>予習：たなばたさま・しゃぼんだま・おぼけなんてないさ・おもちゃのチャチャチャ を暗譜で弾けるよう、ていねいに正確に練習する。</p> <p>復習：第3回目弾き歌い課題曲を教育現場で活用できるよう、ていねいに正確に練習して暗譜での演奏レベルを上げて行く。 ：各自の自由曲をていねいに正確に練習する。</p> <p>※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
13 回	<p><第3回目弾き歌い課題曲人前実演> ・⑪たなばたさま・⑫しゃぼんだま・⑬おぼけなんてないさ・⑭おもちゃのチャチャチャ を4曲とも暗譜で弾き歌い演奏する。</p> <p>学習成果：練習・準備してきたことを効果的に活用し、暗譜での人前実演の質を上げる。</p> <p>予習：自由曲をていねいに正確に練習する。</p> <p>復習：第3回目弾き歌い課題曲の問題点と自由曲をていねいに正確に練習して演奏レベルを上げて行く。</p> <p>※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
14 回	<p><読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する> ・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。</p> <p>学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。</p> <p>予習：自由曲を正確に暗譜で弾けるよう、人前実演に備えて、ていねいに練習する。</p> <p>復習：弾き歌い課題曲の問題点と自由曲をていねいに正確に練習してレベルアップする。</p> <p>※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
15 回	<p><自由曲実技人前実演> ・ブルグミュラー・ソナチネから各人の自由課題曲を1曲暗譜で演奏する。</p> <p>学習成果：人前で演奏する機会をレベルアップにつなげる。</p> <p>予習：夏休み弾き歌い課題曲「つき」「とんぼのめがね」を夏休み明けの音楽Ⅰ(D)1回目の授業時に2曲とも暗譜で弾き歌いできるよう、ていねいに正確に練習する。</p> <p>復習：今までの課題曲の問題点を練習してレベルアップする。</p> <p>※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	音楽 I (D)	授業回数	15	単位数	1	担当教員	白神 厚子、他
質問受付の方法 オフィスアワー：授業日 13：00～16：10							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標： 本科目では幼児教育現場での実践的音楽表現力・指導力を修得するため、以下の4項目を目標として適切な練習の積み重ねを前提に実演授業を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ピアノ演奏に関する基本的な知識・技能を理解・修得する。 2. ピアノ演奏に必要な練習準備の方法・必要性を理解・修得する。 3. 歌いながらピアノ伴奏を一人で演奏する弾き歌いに関する基本的な知識・技術を理解・修得する。 4. ピアノ演奏・弾き歌い演奏を通して、音楽活動の楽しさ・喜びを体験し、仲間と共有し共に向上して行く。 <p>学生の学習成果： 専門的学習成果：教育目標に掲げる4項目を修得するため、2年間の音楽IA・B・C・Dの段階を追って自主的・自律的・意欲的に努力して技能を向上させて行く。 汎用的学習成果：音楽Iの2年間を通じた継続的な学びと努力で、社会人としてのモラルや責任を果たすために必要な自己管理能力を身につける。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方 (講義・演習・実験・実習・実技) ・適切な練習を積み重ねてきた課題曲を各人のピアノ技能に応じて個人レッスンすることで、レベルアップへの具体的な方法を伝える。 ・適切な練習を積み重ねてきた共通弾き歌い課題曲を交替で個人レッスンする中で、人の演奏を聴いて自分の学びとすることを課す。 ・適切な練習を積み重ねてきた自由課題曲を各人のピアノ技能に応じて交替で個人レッスンする中で、人の演奏を聴いて自分の学びとすることを課す。 ・適切な練習を積み重ねてきた課題曲を人前で交替で演奏することで、社会人に求められる態度や責任感を獲得することを課す。</p> <p>予習・復習 予習事項：各人に指定された課題曲を適切に予習・練習すること。 復習事項：授業で個人レッスンを受けた課題曲を適切に復習・練習すること。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。 ※練習時間と課題曲は指定の記録用紙に記入し授業開始時に提出する。 ※授業時間内でマスターできなかった課題曲は補習に出席して復習・練習する。</p> <p>テキスト 「ブルグミュラー25の練習曲」全音楽譜出版社 「ソナチネアルバム1・2」全音楽譜出版社 「こどものうた200」チャイルド本社 「保育ソング」明治図書出版社</p>					
学習評価の方法	<p>① 専門的学習成果において</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各人の予習・復習による学習成果 2点×10回 = 20点 ・弾き歌い実技人前実演(4回実施) 2点×14曲 = 28点 ・自由曲実技人前実演(1回実施) 52点×1回 = 52点 <p>以上の配分とし、人前実演で弾く曲は全曲暗譜でマスターすることを必須とし、総合評価する。</p> <p>② 汎用的学習成果において 社会人、保育者としての態度や責任感が十分でないと判断した場合、以下を減点対象とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演奏に適した身だしなみ(適切な長さの爪、等々)でないこと 1点減点 ・練習時間記録用紙の未提出 1点減点 ・授業態度不良(私語、携帯使用、自分勝手な行動、等々) 1点減点 						
注意事項	参考図書等：						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><オリエンテーション></p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽Ⅰ(D)授業の進め方・スケジュール・学習方法・評価の方法について説明する。 <p><実演></p> <ul style="list-style-type: none"> ・春休み課題曲①「つき」②「とんぼのめがね」を2曲とも暗譜で弾き歌い演奏する。 <p>学習成果：暗譜で演奏するレベルを向上させ、音楽指導の質を上げる方法を修得する。</p> <p>予習：どんぐり・やまのおんがくか をていねいに正確に練習する。</p> <p>復習：実演した曲の問題点をていねいに正確に練習してレベルアップする。</p> <p>※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
2 回	<p><読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんぐりころころ・やまのおんがくか を個人レッスンしながら全員の学びを促す。 <p>学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。</p> <p>予習：もりのくまさん・自由曲をていねいに正確に練習する。</p> <p>復習：どんぐりころころ・やまのおんがくか を教育現場で活用できるよう、ていねいに正確に練習して、演奏レベルを上げて行く。</p> <p>：各自の自由曲をていねいに正確に練習する。</p> <p>※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
3 回	<p><読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・もりのくまさん・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びを促す。 <p>学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。</p> <p>予習：いもほりのうた・自由曲をていねいに正確に練習する。</p> <p>復習：もりのくまさん・自由曲を教育現場で活用できるよう、ていねいに正確に練習して、演奏レベルを上げて行く。</p> <p>※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
4 回	<p><読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんぐりころころ・やまのおんがくか・もりのくまさん・いもほりのうた 自由曲を個人レッスンしながら全員の学びを促す。 <p>学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。</p> <p>予習：どんぐりころころ・やまのおんがくか・もりのくまさん・いもほりのうた を暗譜で弾けるよう、ていねいに正確に練習する。</p> <p>復習：第1回目弾き歌い課題曲を暗譜で弾けるよう、ていねいに正確に練習して人前実演に備える。</p> <p>：各自の自由曲をていねいに正確に練習する。</p> <p>※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
5 回	<p><第1回目弾き歌い課題曲人前実演></p> <ul style="list-style-type: none"> ・③どんぐりころころ・④やまのおんがくか・⑤もりのくまさん・⑥いもほりのうた を4曲とも暗譜で弾き歌い演奏する。 <p>学習成果：暗譜での弾き歌い人前実演の質を上げる。</p> <p>予習：ぞうさん・ハッピーバースデー・自由曲をていねいに正確に練習する。</p> <p>復習：第1回弾き歌い課題曲の問題点と自由曲をていねいに正確に練習してレベルアップする。</p> <p>※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
6 回	<p><読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぞうさん・ハッピーバースデー・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びを促す。 <p>学習成果：演奏レベルを上げて行く方法を修得する。</p> <p>予習：サンタクロース・自由曲をていねいに正確に練習する。</p> <p>復習：ぞうさん・ハッピーバースデー・自由曲を、ていねいに正確に練習して、演奏レベルを上げて行く。</p> <p>※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
7 回	<p><読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する> ・サンタクロース・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びを促す。</p> <p>学習成果：演奏レベルを上げて行く方法を修得する。</p> <p>予習：ゆき・自由曲をていねいに正確に練習する。</p> <p>復習：サンタクロース・自由曲を、ていねいに正確に練習して、演奏レベルを上げて行く。</p> <p>※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
8 回	<p><読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する> ・ぞうさん・ハッピーバースデー・サンタクロース・ゆき・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びを促す。</p> <p>学習成果：暗譜で演奏するレベルを向上させて音楽指導の質を上げる方法を修得する。</p> <p>予習：ぞうさん・ハッピーバースデー・サンタクロース・ゆき を暗譜で弾けるよう、ていねいに正確に練習する。</p> <p>復習：第2回目弾き歌い課題曲を暗譜で弾けるよう、ていねいに正確に練習して人前実演に備える。</p> <p>：各自の自由曲をていねいに正確に練習する。</p> <p>※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
9 回	<p><第2回目弾き歌い課題曲人前実演> ・⑦ぞうさん・⑧ハッピーバースデー・⑨サンタクロース・⑩ゆき を4曲とも暗譜で弾き歌い演奏する。</p> <p>学習成果：暗譜での弾き歌い人前実演の質を上げる。</p> <p>予習：おしょうがつ・おもいで of アルバム・自由曲をていねいに正確に練習する。</p> <p>復習：第2回弾き歌い課題曲の問題点と自由曲をていねいに正確に練習してレベルアップする。</p> <p>※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
10 回	<p><読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する> ・おしょうがつ・おもいで of アルバム・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びを促す。</p> <p>学習成果：演奏レベルを上げて行く方法を修得する。</p> <p>予習：すうじのうた・自由曲をていねいに正確に練習する。</p> <p>復習：おしょうがつ・おもいで of アルバム・自由曲を、ていねいに正確に練習して、演奏レベルを上げて行く。</p> <p>※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
11 回	<p><読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する> ・すうじのうた・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びを促す。</p> <p>学習成果：演奏レベルを上げて行く方法を修得する。</p> <p>予習：メリーさんのひつじ・自由曲をていねいに正確に練習する。</p> <p>復習：すうじのうた・自由曲をていねいに正確に練習して、演奏レベルを上げて行く。</p> <p>※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
12 回	<p><読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する> ・おしょうがつ・おもいで of アルバム・すうじのうた・メリーさんのひつじ・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びを促す。</p> <p>学習成果：暗譜で演奏するレベルを向上させて音楽指導の質を上げる方法を修得する。</p> <p>予習：おしょうがつ・おもいで of アルバム・すうじのうた・メリーさんのひつじ を暗譜で弾けるよう、ていねいに正確に練習する。</p> <p>復習：第3回目弾き歌い課題曲を暗譜で弾けるよう、ていねいに正確に練習して人前実演に備える。</p> <p>：各自の自由曲をていねいに正確に練習する。</p> <p>※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 回	<p><第3回目弾き歌い課題曲人前実演> ・⑪おしょうがつ・⑫おもいでアルバム・⑬すうじのうた・⑭メリーさんのひつじ を4曲とも暗譜で弾き歌い演奏する。</p> <p>学習成果：暗譜での弾き歌い人前実演の質を上げる。 予習：自由曲をていねいに正確に練習する。 復習：第3回弾き歌い課題曲の問題点と自由曲をていねいに正確に練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
14 回	<p><読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する> ・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びを促す。</p> <p>学習成果：暗譜で演奏するレベルを向上させて人前実演に備える方法を修得する。 予習：自由曲を正確に暗譜で弾けるよう、人前実演に備えて、ていねいに練習する。 復習：弾き歌い課題曲の問題点と自由曲をていねいに正確に練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。</p>
15 回	<p><自由曲実技人前実演> ・自由課題曲を1曲暗譜で演奏する。</p> <p>学習成果：演奏レベルを自主的・自律的・意欲的に上げて行く方法を修得する。 復習：これまでの学びを活用して練習で実演をより向上させて行く方法を確認する。</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画												
科目名	音楽Ⅱ (A)	授業回数	15	単位数	1	担当教員	大羽敬子					
質問受付の方法 授業時間の前後												
教育目標と学生の学習成果	<p><教育目標></p> <p>わらべうた・童謡・唱歌には、言葉の響きやリズムを楽しみながら、季節の変化や人、ものとの関わりを感じることができる要素がある。幼児期に豊かな感性を育むうえで、重要な役割を果たす。幼児の伸び伸びとした表現能力を引き出し、育てることのできる保育者を目指して、以下の3点を教育目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な発声の仕方を理解し、わらべうた・童謡・唱歌を数多く習得する。 2. わらべうた・童謡・唱歌の、教材としての特徴を認識し、楽曲についての理解を深める。 3. わらべうた・童謡・唱歌を表情豊かに歌い、歌唱表現の楽しさを味わう。 <p><学生の学習成果></p> <p>専門的学習成果：教育目標に掲げる3項目を習得し、豊かな表現につなげることができる。</p> <p>汎用的学習成果：歌唱指導や弾き歌いをするために、日々の自主練習が必要となる。</p> <p>演奏技術の向上をめざして、努力する姿勢を身につけることができる。</p>											
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・<u>演習</u>・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腹式呼吸による発声練習をする。 ・幼児の歌について、教材としての留意点を解説しながら数多くの楽曲を歌う。 ・教材研究ノートを作成し、楽曲についての理解を深める。 										
	<p>予習・復習</p> <p>テキスト</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に、楽曲について予習をすることが望ましい。 ・授業後に、授業で扱った楽曲について復習し、ピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 <p>・教育芸術社「幼児のための音楽教育」</p>										
学習評価の方法	<p>専門的学習成果、汎用的学習成果について、以下の配分で判断し、学習評価を行う。</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 授業への取り組みの記録 (自己評価表の提出)</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>2. 教材研究ノートの作成 (ノート提出)</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>3. 歌唱実技試験</td> <td>50%</td> </tr> </table> <p>なお、自己評価表の提出は、各回授業内に実施する。</p> <p>歌唱実技試験は、第15回授業後に試験日を設定し、既習曲の中から指定した課題曲を歌うものとする。</p> <p>教材研究ノートの作成は各回の復習課題であり、歌唱実技試験実施日に提出する。</p>						1. 授業への取り組みの記録 (自己評価表の提出)	30%	2. 教材研究ノートの作成 (ノート提出)	20%	3. 歌唱実技試験	50%
1. 授業への取り組みの記録 (自己評価表の提出)	30%											
2. 教材研究ノートの作成 (ノート提出)	20%											
3. 歌唱実技試験	50%											
注意事項	<p>参考図書等：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャイルド本社「こどものうた 200」 											

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><オリエンテーション></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 授業の進め方、スケジュール、学習評価の方法について説明する。 <p><発声について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 腹式呼吸について説明し、実際に声を出して確かめる。 歌う時の姿勢について確認する。 幼児の声域について認識する。 ・学習成果 腹式呼吸による発声の仕方と歌う姿勢を意識できるようになる。 幼児の声域を知り、楽譜選びに活用できるようになる。 ・復習課題 腹式呼吸を再度確認する。
2 回	<p><こどものうた 4月教材> テキスト P31～41</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 4月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。 教材研究ノートを作成する。 4月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果 各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・復習課題 授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。
3 回	<p><こどものうた 5月教材> テキスト P42～49</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 5月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。 教材研究ノートを作成する。 5月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果 各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・復習課題 授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。
4 回	<p><こどものうた 6月教材> テキスト P50～57</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 6月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。 教材研究ノートを作成する。 6月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果 各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・復習課題 授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。
5 回	<p><こどものうた 7月教材> テキスト P58～65</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 7月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。 教材研究ノートを作成する。 7月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果 各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・復習課題 授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
6 回	<p><こどものうた 9月教材> テキスト P66～73</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 9月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。 教材研究ノートを作成する。 9月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果 各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・復習課題 授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。
7 回	<p><こどものうた 10月教材> テキスト P74～81</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 10月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。 教材研究ノートを作成する。 10月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果 各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・復習課題 授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。
8 回	<p><こどものうた 11月教材> テキスト P82～89</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 4月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。 教材研究ノートを作成する。 4月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果 各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・復習課題 授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。
9 回	<p><こどものうた 12月教材> テキスト P90～97</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 12月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。 教材研究ノートを作成する。 12月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果 各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・復習課題 授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。
10 回	<p><こどものうた 1月教材> テキスト P98～105</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 1月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。 教材研究ノートを作成する。 1月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果 各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・復習課題 授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
11 回	<p><こどものうた 2月教材> テキスト P106～111</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 2月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。 教材研究ノートを作成する。 2月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果 各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・復習課題 授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。
12 回	<p><こどものうた 3月教材> テキスト P112～121</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 4月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。 教材研究ノートを作成する。 4月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果 各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・復習課題 授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。
13 回	<p><わらべうた> テキスト P122～129</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 わらべうたの各楽曲を歌う際の留意点を解説する。 教材研究ノートを作成する。 わらべうたの各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果 各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・復習課題 授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。
14 回	<p><こどものうた 愛唱歌①> テキスト P130～141</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 愛唱歌の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。 教材研究ノートを作成する。 愛唱歌の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果 各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・復習課題 授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。
15 回	<p><こどものうた 愛唱歌②> テキスト P142～153</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 愛唱歌の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。 教材研究ノートを作成する。 愛唱歌の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果 各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・復習課題 授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	音楽Ⅱ（B）	授業回数	15	単位数	1	担当教員	大羽敬子
質問受付の方法 授業時間の前後							
教育目標と学生の学習成果	<p><教育目標></p> <p>音楽Ⅱ（A）で学んだ教材研究をより発展させて、保育・教育現場で幅広い表現指導ができるようになるために、実践的な知識と表現技能を身に付けることを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 伝統的な歌遊びを習得して、その楽しさを味わい、歌遊びの継承につなげる。 2. 身近にある平成の幼児の歌について、教材としての特徴を知り、指導に生かせるようにする。 3. 音楽遊びを発展させて、簡単な合唱、合奏などの指導実践につなげる。 <p><学生の学習成果></p> <p>専門的学習成果:教育目標に掲げた3項目を習得し、幅広い表現指導につなげることができる。</p> <p>汎用的学習成果:集団での音楽作りを通して、協力して成し遂げることの大切さを身に付けることができる。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・<u>演習</u>・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各楽曲について、歌遊びの種類、構成音、歌詞の内容を解説する。 ・歌詞、旋律を確認しながら正確に歌う。 ・テキストの遊び方を確認しながら、実際に遊びを体験する。 ・指導実践例を考えて教材研究ノートにまとめる。 	<p>予習・復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業前に、楽曲についての読譜、遊び方の予習をすることが望ましい。 ・授業後に、授業で扱った楽曲について復習を求める。 	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストA 教育芸術社「幼児のための音楽教育」 ・テキストB チャイルド本社「こどものうた 200 」 ・配布プリント 			
学習評価の方法	<p>専門的学習成果、汎用的学習成果について、以下の配分で判断し、学習評価を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への取り組み（自己評価表の提出） 20% 2. 教材研究ノートのまとめ（提出） 40% 3. 歌遊び模擬指導（第7回授業） 20% 4. アンサンブル発表（第15回授業） 20% <p>なお、自己評価表の提出は各回授業内で実施する。 教材研究ノートの作成は各回の復習課題であり、第15回授業内で提出する。</p>						
注意事項	<p>注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者数により、授業で扱う楽曲を変更する場合がある。 						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><オリエンテーション></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 授業の進め方、スケジュール、学習評価について説明する。 <p><幼児の遊びと音楽> テキストA P6～29</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 幼児の遊びと音楽について、わらべうたの音階、音・リズムと身体表現、身近にある平成の幼児音楽の特徴を認識し、指導上の留意点を解説する。 ・学習成果 幼児の発達段階に応じた音楽表現指導について認識することができる。具体的な指導上の留意点を認識することができる。 ・復習課題 教材研究ノートを作成する。
2 回	<p><あそびうた (1) > テキストA、 テキストB</p> <p>①なべなべそこぬけ ②あんたがたどこさ ③いっぽんばし ④おちやらかホイ ⑤お寺のおしょうさん ⑥げんこつやまのたぬきさん ⑦ずいずいずっころばし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 各あそびうたについて、種類と構成音、指導上の留意点を認識する。歌詞の内容、旋律を確認しながら歌う。テキストの遊び方解説を参考にしながら、実際に遊びを体験する。各曲について気づいたことを教材研究ノートに書く。 ・学習成果 あそびうたを習得し、指導上の留意点を認識することができる。 ・復習課題 教材研究ノートを作成する。
3 回	<p><あそびうた (2) > テキストA、テキストB</p> <p>①いとまき②ちゃちゃつぽちゃつぽ ③アルプス一万尺 ④ぼうが一本あったとき ⑤とうさんゆびどこです ⑥あがりめさがりめ ⑦これくらいのおべんとぼこに</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 各あそびうたについて、種類と構成音、指導上の留意点を認識する。歌詞の内容、旋律を確認しながら歌う。テキストの遊び方解説を参考にしながら、実際に遊びを体験する。各曲について気づいたことを教材研究ノートに書く。 ・学習成果 あそびうたを習得し、指導上の留意点を認識することができる。 ・復習課題 教材研究ノートを作成する。
4 回	<p><あそびうた (3) > テキストA、テキストB</p> <p>①かえるのがっしょう ②しずかなこはん ③むすんでひらいて ④かごめかごめ ⑤てをたたきましよう ⑥おおきなくりのきのしたで ⑦むっくりくまさん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 各あそびうたについて、種類と構成音、指導上の留意点を認識する。歌詞の内容、旋律を確認しながら歌う。テキストの遊び方解説を参考にしながら、実際に遊びを体験する。各曲について気づいたことを教材研究ノートに書く。 ・学習成果 あそびうたを習得し、指導上の留意点を認識することができる。 ・復習課題 教材研究ノートを作成する。
5 回	<p><あそびうた (4) > テキストA、テキストB</p> <p>①ロンドンばしがおちる ②しあわせならてをたたこう ③ホルディリアクック ④はないちもんめ ⑤みかんの花咲く丘 ⑥せんろはつづくよどこまでも ⑦ちゃつみ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 各あそびうたについて、種類と構成音、指導上の留意点を認識する。歌詞の内容、旋律を確認しながら歌う。テキストの遊び方解説を参考にしながら、実際に遊びを体験する。各曲について気づいたことを教材研究ノートに書く。 ・学習成果 あそびうたを習得し、指導上の留意点を認識することができる。 ・復習課題 教材研究ノートを作成する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
6 回	<p><あそびうた (5) > 配布プリント、テキストA ①あたまかたひざボン ②カレーライスのうた ③とんとんとんひげじいさん ④くいしんぼゴリラの歌 ⑤グーチョキパーでなにつくろう ⑥パン屋さんにおかいもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 各あそびうたについて、種類と構成音、指導上の留意点を認識する。 歌詞の内容、旋律を確認しながら歌う。 テキストの遊び方解説を参考にしながら、実際に遊びを体験する。 各曲について気づいたことを教材研究ノートに書く。 ・学習成果 あそびうたを習得し、指導上の留意点を認識することができる。 ・復習課題 教材研究ノートを作成する。
7 回	<p><あそびうた 模擬指導 発表> テキストA、テキストB</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 各自であそびうたを選択し、実際にクラス受講生を対象に模擬指導を行う。 発表後、ひとりひとりの模擬指導内容について、受講生全員で振り返る時間を設ける。指導実践の質を高めるために、留意点や課題について話し合う。 教材研究ノートに感想や気づきを記入し、完成させる。 ・学習成果 模擬指導を行うことで、保育実践への自信へとつながり、指導上の課題を見つけることができる。 ・復習課題 教材研究ノートを作成する。
8 回	<p><平成のこどものうた (1) > 配布プリント、テキストA ①どんな色が好き ②そうだったらいいのにな ③にじのむこうに ④ホ！ホ！ホ！ ⑤小さな世界 ⑥ミッキーマウスマーチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 上記の幼児の歌を習得する。 各楽曲の教材としての特徴を解説し、指導上の留意点を認識する。 表情豊かに生き生きと歌い、歌唱表現の楽しさを味わう。 ・学習成果 身近にある幼児の歌が、生き生きと歌えるようになり、レパートリーを広げることができる。 ・復習課題 習得した歌を繰り返し練習し、弾き歌いにも慣れる。 教材研究ノートを作成する。
9 回	<p><平成のこどものうた (2) > 配布プリント、テキストA ①さよならぼくたちのほいくえん (ようちえん) ②にじ ③世界中のこどもたちが ④ともだちになるために ⑤ドキドキドン！1年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 上記の幼児の歌を習得する。 各楽曲の教材としての特徴を解説し、指導上の留意点を認識する。 表情豊かに生き生きと歌い、歌唱表現の楽しさを味わう。 ・学習成果 身近にある幼児の歌が、生き生きと歌えるようになり、レパートリーを広げることができる。 ・復習課題 習得した歌を繰り返し練習し、弾き歌いにも慣れる。 教材研究ノートを作成する。
10 回	<p><平成のこどものうた (3) > 配布プリント、テキストA ①「おおきなかぶ」、②「てぶくろ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 配布プリントの教材について、台詞と歌と動きを確認し、練習する。 工夫点、改良点を見だし、完成させる。 教材研究ノートを作成する。 ・学習成果 音楽劇の楽しさを体験することができ、発表会での音楽劇作りに生かせるようになる。 ・復習課題 習得した歌を繰り返し練習する。 教材研究ノートを作成する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
11 回	<p><リズムあそび (1)> テキストA ①ブンブンブン ②ぞうさん ③アイアイ ④さんぽ ⑤アンパンマンのマーチ など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 手作り楽器あそび、リズムあそびについて認識する。 歌にあわせてテキストの簡単なリズム奏を練習する。 各自でリズムを考え、グループでそのリズムを組み合わせ、いろいろな楽曲の即興的リズム演奏をする。 教材研究ノートを作成する。 ・学習成果 リズムを創作し、自由に表現する楽しさを味わい、幼児の生き生きとした表現指導に役立てることができる。 ・復習課題 教材研究ノートを作成する。
12 回	<p><リズムあそび (2)> 配布プリント、テキストA ①さんぽ ②あんたがたどこさ ③はるがきた ④聖者の行進 ⑤トライアングルカノン ⑥波のかなたへ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 ボディパーカッションあそびについて認識する。 上記の曲の歌とリズム奏を練習する。 アンサンブルとして完成させる。 ・学習成果 歌に合わせて、ボディパーカッションで音楽表現できるようになり、幼児の生き生きとした表現指導に役立てることができる。 ・復習課題 教材研究ノートを作成する。
13 回	<p><リズムあそび (3)> 配布プリント、テキストA ①ふるさと ②てのひらをたいように ③かごめかごめ ④だるまさんメドレー ⑤みんなでグー・チョキ・パー ⑥ほかほかパン屋さん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 ボイスアンサンブルあそびについて認識する。 上記の曲の各パートを練習する。 アンサンブルとして完成させる。 ・学習成果 言葉の響きとリズムを楽しみながら、ボイスアンサンブルで音楽表現できるようになり、幼児の生き生きとした表現指導に役立てることができる。 ・復習課題 教材研究ノートを作成する。
14 回	<p><リズムあそび (4)> 配布プリント、テキストA、テキストB</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 グループで、合奏、ボディパーカッションまたはボイスアンサンブルの創作活動を体験する。 協力して、選曲・担当決め・リズムパターン作りをし、発表の準備をする。 話し合いの様子、合わせ練習の様子、改良点の気づきなどを教材研究ノートに記録する。 ・学習成果 リズムを創作し、自由に表現する楽しさを味わうことができる。また、グループ活動をすることで、協力して成し遂げる姿勢を身に付けることができる。 ・復習課題 アンサンブル発表に向けて練習する。 教材研究ノートを作成する。
15 回	<p><アンサンブル発表> テキストA</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容 グループで創作した音楽を発表する。 グループで演奏を振り返り、音楽の質を高めるために工夫する点を考える。 教材研究ノートに演奏後の感想や気づきを記入し、完成させる。 ・学習成果 アンサンブル演奏の楽しさを味わうことができる。 演奏の発表体験ができ、アンサンブル演奏の、技能向上につながる。 ・課題提出 教材研究ノートの提出をする。

平成30年度教育計画								
科目名	体育(A)	授業回数	15	単位数	1	担当教員	西谷 光正	
質問受付の方法：体育館 火曜日・水曜日 ～15：00 シャトルカード								
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標： 幼児期の心身の発育発達の特徴を踏まえた指導や援助方法を学習する。また、運動遊びの楽しさや安全について考慮できる指導力を身につける。</p> <p>学生の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的学習成果 <p>1. 幼児期における健全な心身の発達のために、一人ひとりの特性と発達の課題に即した指導力が身につく。</p> <p>2. 運動遊びの喜びや楽しさ、安全面に配慮した指導力が身につく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・汎用的学習成果 <p>保育者として必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力が身につく。</p> <p>保育者としての態度及び自己管理能力が身につく。</p>							
	教育方法	授業の進め方	<p>(講義・<u>演習</u>・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材用ビデオ、参考資料等を参考に、乳幼児の発達段階を把握する。 ・指導案を作成し、模擬指導の実践を行う。 ・身近にあるもの(ダンボールや新聞紙など)を使って遊びを考え実践を行う。 ・グループ編成で遊びの実践を行う。 					
	予習・復習	<p>予習事項：「授業回数別教育内容」に記された予習を行う。</p> <p>復習事項：授業内容をノートに記録する。 運動遊びの展開、援助方法、安全面についてまとめる。</p>						
教育方法	テキスト	必要に応じて参考資料を配布する。						
学習評価の方法	<p>専門的学習成果 模擬指導の評価：50点 鬼遊び 10点、幼児体操 10点、動物の模倣遊び 30点 見学・欠席した場合、レポートで補う</p> <p>汎用的学習成果 授業内容記録 10点 課題レポート 20点 保育者として必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力や態度 20点 学習評価より、遅刻・早退は1回につき2点減点、体操着を忘れた場合は3点減点、見学の場合は授業の内容についてのレポート提出。また、受講態度に問題があった場合は、保育者として倫理観が十分でないとして評価から減点する。</p>							
注意事項	<p>遅刻について：準備運動終了後入室した場合、怪我などの心配があるので、指導者の指示に従って授業に参加すること。</p> <p>トイレ等で退室する場合、入室時に帰ってきたことを伝えること。</p> <p>参考図書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石井美晴／菊池秀範 著「保育の中の運動遊び」萌文書林 ・竹井史／著「0～5歳児 どんこ遊び 水遊び プール遊び 180」ひかりのくに株式会社 							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方、注意事項、学習評価の方法について説明する。 ・運動遊びの意義、子どもの体力の現状、運動遊びの指導や援助方法について学習する。 <p>学習成果</p> <p>授業の進め方、学習評価の方法について理解する。 幼児理解や発達段階に基づいた環境構成、援助について理解する。</p>
2 ・ 3 回	<p>身近にあるものを使った遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物の特性を把握し、遊びを創造、工夫する遊びの実践をする。 <p>新聞紙、ダンボール、タオル、ペットボトルなどを使って遊びの指導方法を習得する。</p> <p>学習成果</p> <p>遊びが広がることばがけ・環境構成・援助について理解する。 安全面に配慮する指導が身に付く。</p> <p>・予習事項：身近にあるものを使った遊びの指導案を作成する。</p>
4 回	<p>身近にあるものを使った遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに遊びを考え、指導案の作成及び指導方法について話し合う <p>遊びが広がることばがけ・環境構成・援助について指導方法を考察する。</p> <p>学習成果</p> <p>遊びが広がることばがけ・環境構成・援助ができる指導が身に付く。 安全面に配慮する指導が身に付く。 保育者として必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力が身につく</p>
5 回	<p>身近にあるものを使って遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬指導の評価 <p>遊びの導入、物を使っての遊びの展開、援助について評価をする。 言葉使いや声の大きさ、遊びの伝達方法、子どもの誘導方法、援助、安全面に対する配慮について評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践の反省及び指導案の修正 <p>模擬指導の反省及び鬼遊び・幼児体操の指導が活かされた指導であったか振り返り、次の指導に役立てる。</p> <p>学習成果</p> <p>幼児期における健全な心身の発達のために、一人ひとりの特性と発達の課題に即した指導力が身に付く。 保育者として必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力が身につく。</p>
6 回	<p>遊びのいろいろ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じたジャンケン遊び、遊具・手具や新聞紙を使った遊びを実践する。 <p>幼児理解や発達段階に基づいた環境構成、援助をしていくことで人と関わる力が育つことを理解する。遊びの手順を理解する。</p> <p>学習成果</p> <p>遊びの指導方法を習得する。</p>
7 ・ 8 回	<p>幼児体操</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現やリズムカルな身体活動は、豊かな心身の発達を促すことを学習する。 ・グループごとに指導案の作成及び指導方法について話し合う <p>喜びや楽しさを味わえる指導、安全面に配慮した指導を考察する。 既成の幼児体操を習得、指導へ繋げる方法を考察する。運動会、学習発表会などを想定し、構成や隊形、衣装などの小物について創作する。</p> <p>学習成果</p> <p>表現力や指導力が身に付く。 保育者として必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力が身に付く。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 ・ 10 回	<p>幼児体操</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬指導の評価 幼児体操の導入、指導、構成や隊形、まとめについて ・言葉使いや声の大きさ、動きの伝達方法、子どもの誘導方法、援助、安全面に対して配慮、構成や隊形、衣装・小物などを評価する。 ・実践の反省及び指導案の修正について <p>模擬指導の反省及び鬼遊びでの反省が活かされた指導であったか振り返る。</p> <p>学習成果 学習発表会、運動会などで発表できる指導力が身に付く。 保育者として必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力が身につく。</p>
11 回	<p>水遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康と安全に関する諸注意、人の安全管理、水の安全管理、発達に応じた水遊びのいろいろを学習する。 ・参考ビデオ視聴：プール遊びの導入、用具を使って水遊び、泳ぐなどの指導法を理解する。 <p>学習成果 遊びが広がることばがけ・環境構成・援助について理解する。 安全面に配慮する指導が身に付く。</p>
12 回	<p>鬼遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じた鬼あそびを実践する。 <p>ルールや役割、グループやチームを作って行う鬼遊びをについて学習する。 素早く逃げる、追いかける、身をかかわすなどの全身運動が巧みになり運動機能や体力が高まることを理解する。遊びの手順を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案の作成及び指導方法について考察する。 <p>喜びや楽しさを味わえる指導、安全面に配慮した指導、保育者の援助のあり方について考察し指導へ繋げる。</p> <p>学習成果 鬼遊びの指導方法を身に付ける。 保育者として必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力が身に付く。 予習事項：3～5歳児の鬼遊びを調べ、指導案の作成をする。</p>
13 14 15 回	<p>鬼遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬指導の評価 遊びの導入、展開、まとめ、援助について ・言葉使いや声の大きさ、遊びの伝達方法、子どもの誘導方法、援助、安全面に対しての配慮について評価する。 ・実践の反省及び指導案の修正を行い、次の指導に役立てる。 <p>学習成果 鬼遊びの指導力が身に付く。 保育者として必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力が身につく。</p>

平成30年度教育計画							
科目名	体育(B)	授業回数	15	単位数	1	担当教員	西谷 光正
質問受付の方法：体育館 火曜日・水曜日 ～15：00 シャトルカード							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標： 大型遊具や用具の特徴を把握し、子どもたちの興味や関心もてる指導や援助について学習する。また、基礎技能の習得及び補助の必要性について学習する。</p> <p>学生の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的学習成果 1. 子ども一人ひとりの運動機能に合わせた指導、補助、援助ができる能力が身につく。 2. 子どもの興味や関心もてる指導力が身につく。 3. 基礎技能が身につく。 ・汎用的学習成果 <p>保育者としての必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力が身につく。保育者としての態度及び自己管理の能力が身につく。</p>						
	授業の進め方	<p>(講義・<u>演習</u>・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材用ビデオ、参考資料等を参考に発達段階や運動機能を把握する。 ・大型遊具や用具を使って運動遊びを行う。 ・体操系の技と補助の練習を行う。 ・大型遊具や用具を組み合わせた運動遊びを考え、指導案を作成し実践を行う。 ・大型遊具や用具の正しい扱い方、安全に対する配慮について学習する。 					
	予習・復習	<p>予習事項：「授業回数別教育内容」に記された予習を行う。</p> <p>復習事項：授業内容をノートに記録する。 運動遊びの展開、援助方法、安全面についてまとめる。</p>					
テキスト	必要に応じて参考資料を配布する。						
学習評価の方法	<p>専門的学習成果 模擬指導の評価 サーキット遊び 20点 (見学・欠席の場合、レポートで補う) 実技指導及び技能評価 跳び箱・マット遊び 30点 (欠席の場合、補講での実技評価を行う)</p> <p>汎用的学習成果 授業内容記録 10点 課題レポート 20点 保育者としての必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力や態度 20点 学習評価より、遅刻・早退1回につき2点減点、体操着を忘れた場合は3点減点、見学の場合は授業内容についてのレポート提出。また、受講態度に問題があった場合は保育者として倫理観が十分でないとして評価から減点する。</p>						
注意事項	<p>遅刻について：準備運動終了後入室した場合、怪我などの心配があるので、指導者の指示に従って授業に参加すること。</p> <p>トイレ等で退室する場合、入室時に帰ってきたことを伝えること。</p> <p>参考図書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石井美晴／菊池秀範 著「保育の中の運動遊び」萌文書林 ・梶谷信之／梶谷みどり著「幼児の器械運動あそび」大学教育出版 						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション 授業の進め方、安全面に対する留意点、学習評価の方法について説明する。 大型遊具や用具を使った運動遊びの指導方法について学習する。 これらの運動遊びは、「できる」「できない」がはっきりしているので、できるようになるための補助と援助、また、一人ひとりの特徴に合わせた補助と援助をしていく必要性を学習する。</p> <p>学習成果 授業の進め方や学習評価の方法を理解する。 大型遊具や用具の特徴、安全面に対する留意点を理解する。 子ども一人ひとりの特徴に合わせた指導が必要であることを理解する。</p>
2 ・ 3 ・ 4 回	<p>跳び箱運動（開脚跳び） ・子どもの発達段階や能力に応じた遊びを実践する。 子どもの興味や関心、能力に応じて、いろいろと工夫して遊ぶことを学習する。 ・身体機能の発達や社会面などが育つことを学習する。</p> <p>・補助の仕方を実践、習得する。 ・「できた」という達成感や喜び・楽しさを理解し、補助技能を習得する。</p> <p>環境構成、安全面の配慮について学習する。</p> <p>学習成果 子どもの年齢や発達に応じた遊びの指導力が身に付く。 子ども一人ひとりに合わせた補助技能が身に付く。</p>
5 回	<p>サーキット遊び ・発達段階に応じた遊具・用具・手具を組み合わせた運動遊びを実践する。 遊具・用具などの組み合わせた遊びは、たくさんの動きを可能にし、身体機能や運動能力を育て、調整力が身に付くことを学習する。 環境構成、安全面の配慮について学習する。遊びの手順を理解する。</p> <p>学習成果 発達段階に応じた指導力が身に付く。</p>
6 回	<p>サーキット遊び ・指導案を作成し指導方法を話し合う。 遊びの題材として、昔話、アニメ、日常生活に関心がある事柄（例：カレーを作ろう）を題材として取り上げ、遊具・用具・手具を組み合わせた運動遊びを考察する。また、興味・関心が持てる指導として、目・耳からの情報が大きいので、お話の世界観を演出するための創作をする。 安全面の配慮した指導、保育者の援助のあり方について考察する。</p> <p>学習成果 発達段階に応じた遊具・用具・手具を組み合わせた運動遊びの指導方法が身に付く。 保育者としての必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力が身に付く。 予習事項：5歳児のサーキット遊びの指導案を作成する。</p>
7 回	<p>サーキット遊び ・模擬指導の評価 遊びの導入、展開、援助について 言葉使いや声の大きさ、遊びの伝達方法、子どもの誘導方法、援助、安全面に対しての配慮について評価する。 実践の反省及び指導案の修正を行い、次の指導に役立てる。</p> <p>学習成果 発達段階に応じた遊具・用具・手具を組み合わせた運動遊びの指導が身に付く。 保育者としての必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力が身に付く。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	<p>ボール遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の発達段階や能力に応じた遊びを実践する。 遊具・用具と組み合わせた遊び、ドッジボールなどのルールのある集団遊び、伝承遊びを経験することにより身体機能や運動能力を育て、調整力を身に付けることができることを学習する。 <p>学習成果 年齢や発達段階に応じた指導力が身に付く。</p>
9 回	<p>フラフープ遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物を操作して遊ぶ、手で操作して遊ぶ、他の遊具と組み合わせた遊びを実践する <p>フープの特徴を把握し、年齢に応じた遊びや操作の仕方で遊びの工夫ができることを学習する。身体機能や運動能力を育て、調整力を身に付けることができることを学習する。</p> <p>学習成果 遊びの工夫ができ、年齢や発達段階に応じた指導力が身に付く。</p>
10 回	<p>鉄棒遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参考ビデオ視聴（一斉指導の様子） <p>幼児の運動機能及び能力に応じた遊びを理解し、補助や援助について学習する。 環境構成、安全に対する配慮について学習する。</p> <p>学習成果 一斉指導の指導力を身に付ける。</p>
11 回	<p>縄遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短なわ、長なわでいろいろな遊び方、跳び方の実践をする。 <p>幼児の発達段階や能力に応じた遊び、伝承遊びなどを経験することにより、リズム感、身体諸機能が発達することを学習する。また、ゲームや長なわ跳びでは、社会性や協調性が養われることを学習する。</p> <p>安全面に配慮した指導について学習する。</p> <p>学習成果 遊びの工夫ができ、年齢や発達段階に応じた指導力が身に付く。</p>
12 ・ 13 ・ 14 回	<p>マット遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の発達段階や能力に応じた遊びを実践する。 <p>模倣遊びや多種多様の動きを身に付けることにより、全身的な発育が促され、瞬発力・柔軟性・巧緻性が養われることを学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前転・後転・側転の基礎技能を習得する。 ・補助技能を習得する。 <p>「できた」という達成感や喜び・楽しさを理解する。 環境構成、安全面に配慮した指導について学習する。</p> <p>学習成果 年齢や発達段階に応じた指導力が身に付く。 基礎技能、補助・援助ができる能力が身に付く。</p>
15 回	<p>マット遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実技評価 <p>前転・後転・側転の基礎技能を評価する。 補助技能、援助方法を評価する。</p> <p>学習成果 環境構成、援助、安全面に配慮した指導力が身に付く。 基礎技能、補助・援助ができる能力が身に付く。</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	図画工作(図画A)	授業回数	15	単位数	1	担当教員	関野 智子
質問受付：E棟 105 研究室 金曜日 12：20～12：50 e-mail：sekinotomoko@gmail.com							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：</p> <p>保育者として必要な、図画に関わる表現技術の習得を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 図画の基本的な法則を理解し、習得して応用できる。 2. 描画素材・用具の特徴を知り特性を活かして使いこなせる。 3. 芸術性を意識し創造性を重視した表現ができる。 <p>学生の学習成果：</p> <p>専門的学習成果として、教育目標に掲げる3項目を習得する。 また、汎用的学習成果として、①保育者としての態度・信念の形成に自助努力し②幼児を指導する適正な価値・判断の基準を知り、明確に意見表明ができる力を育成する。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 課題の説明と、留意事項等を教員が説明する。 ② 課題の演習を通じて、体験的に学ぶ。 ③ 演習の過程では、教員が個別のアドバイスを適宜行う。 ④ 準備から片付けまでを含めて授業内容とする。 ⑤ 予習、復習等について教員が説明する。 	<p>予習・復習</p> <p>予習：パネルシアター並びにペープサートでは、絵本や保育者向けの図書を参考に制作の構想を練ったり、上演の練習をしたりする。 復習：課題を完成させる。授業での学びを踏まえ自分なりの制作を行う。</p>	<p>テキスト</p> <p>なし（必要に応じてプリント配付）</p>			
学習評価の方法	<p>以下の5つの学習成果についてその度合いを作品・記録等を含むスケッチブックによって満点を100点とし、おおむね4：2：2：1：1の比重で評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①図画の基本的な法則を理解し、習得して応用できる。 ②描画素材・用具の特徴を知り目的に応じて使いこなせる。 ③芸術性を意識し創造性を重視した表現ができる。 ④保育者としての態度・信念の形成に自助努力している。 ⑤視覚情報に対して保育者として価値・判断基準をもち意見表明ができる。 <p>専門的学習成果は上記①～③、汎用的学習成果は④、⑤に該当する。</p>						
注意事項	参考図書：各種保育絵本、パネルシアター・ペープサート関連図書						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>〈オリエンテーション〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方、評価、受講の注意について教員が説明する。 <p>〈形の捉え方① 線で描く〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダーマツトで線の練習をする。 ・人物をクロッキーする。以後図画の時間では最初の 15 分間を使ってクロッキーを続けることを説明する。 <p>学習成果：①消しゴムで消せないダーマツトの線を潔く描くことで後戻りしない描き方を修得する。②人物クロッキーを重ねることで、全体を大きくつかむ練習をする。</p> <p>予習と復習：次回は制作モチーフ（果物・野菜など）を持参する。</p>
2 回	<p>*2 回以降、毎時間人物クロッキーを 15 分行う。</p> <p>〈前回の活動の振り返り：線の楽しさ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の描く線、画家のクロッキーを紹介しながら線による表現の多様性について紹介。 <p>〈形の捉え方② パステル〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パステルの特徴について実際に触ってしながら確認する。 ・持参したモチーフを明暗・量感を意識して描く。 ・持参したモチーフをパステルで色彩豊かに表現する。 ・作品に定着液をスプレーし、保護する。 <p>学習成果：①パステルを使えるようになる。②造形要素としての「明暗」「量感」「色」を意識することができる。</p> <p>予習と復習：図書館などで手作り名札やメダルの作品例を見ておく。</p>
3 回	<p>〈前回の活動の振り返り：色と距離〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光があるから目で空間を把握できるということを確認する。遠くの山が青く見える現象を紹介し、色と距離の関係についても説明する。 <p>〈色と形〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「中華料理屋」「和菓子屋」のイメージを色紙の組み合わせで表現する。そのあと店のイメージをより強く伝える形に切り抜き、画用紙にレイアウトする。作品はグループ内で相互鑑賞する。 <p>学習成果：保育現場で応用できる簡単なデザイン作業ができるようになる。</p> <p>予習と復習：課題を完成させる。</p>
4 回	<p>〈前回の活動の振り返り：色と形で伝える〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常目にする様々なマークを紹介。色と形によるコミュニケーションについて確認する。 <p>〈透視図法について①〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古来からみられる様々な遠近の表し方を紹介し、透視図法の歴史とその方法について教員が解説する。 ・透視図法を用いて椅子をクレヨンで描く。 <p>学習成果：透視図法を知り、透視図法の基本を習得する。</p> <p>予習と復習：課題を完成させる。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
5 回	<p>〈前回の活動の振り返り：表現の多様性〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西洋美術史を「空間をどのように表現するのか」という切り口で解説。 <p>〈透視図法について②〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・透視図法の応用課題として、ある風景を説明している文章を読み、その風景を想像しながら描く。前回までに学んだ遠近の表現や色の形を意識しながら鉛筆、クレヨン使って表現する。 <p>学習成果：①透視図法の本質を考え、立体を平面に描く技法を理解できる。②色と形を自分なりに工夫し、イメージ豊かに表現することができる。</p> <p>予習と復習：課題を完成させる。</p>
6 回	<p>〈前回の活動の振り返り：表現の多様性〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の作品を全員で鑑賞。それぞれの良いところを教員が解説。 <p>〈特徴をとらえる〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員が持参した植物を観察しながらダーマツトで描き、その特徴についてまとめる。 ・季節の花の開花時期や形、色などを教員が図版を用いて説明する。 ・プリントの花の写真を参考に、特徴が伝わるイラストに単純化し、ペンで仕上げる。 <p>学習成果：保育者として知っておくべき季節ごとの花について知り、特徴をとらえて描くことを習得する。</p> <p>予習と復習：課題を完成させる。</p>
7 回	<p>〈前回の活動の振り返り：表現の多様性〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の作品を全員で鑑賞。それぞれの良いところを教員が解説。 <p>〈色彩の扱い方〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色の仕組みとして三原色（赤・青・黄）、三要素（明度・彩度・色相）、色相環について教員が説明する。 ・水彩絵の具を使い、混色をしながら簡単な色相環を描く。 ・補色の配色、近い色の配色を使って模様を描く。 <p>学習成果：混色の法則や色の関係について知り、目的に応じて配色することの基礎を習得する。</p> <p>予習と復習：課題を完成させる。</p>
8 回	<p>〈前回の活動の振り返り：配色イメージについて〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員が様々なイメージの配色パターンを提示、配色によるイメージの伝達について確認する。 <p>〈ペープサート①〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオによる説明を観る。 ・素材と製作方法について教員が説明をする。 ・シルエット遊び「これな～んだ」を説明、割りばしと画用紙を使って紙人形を制作する。描画材は自由。 <p>学習成果：①ペープサートについて知る。②シルエット遊びのための絵人形を工夫して作ることができる。</p> <p>予習と復習：課題を完成させる。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	<p>〈前回の活動の振り返り：ペープサート②〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自が完成させた紙人形を使ってペープサートをグループごとに実演する。 <p>学習成果：人前で上演する経験と他社の上演を観て、子どもと掛け合いながら遊ぶ活動の魅力を知る。</p> <p>予習と復習：ペープサート関連図書を調べておく。</p> <p>〈パネルシアター①〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオによる説明を観る。 ・素材と制作方法について教員が説明をする。 <p>学習効果：パネルシアターについて知る。</p> <p>予習と復習：グループごとに作りたい題材を考えてくる。</p>
10 回	<p>〈前回の活動の振り返り：パネルシアターに必要な材料〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々なパネルシアターの紹介 <p>〈パネルシアター②〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で役割分担を決め、役割分担表を作成する。 ・絵人形の下絵をつくり、パネルシアター用不織布に写し取る。 <p>学習成果：①パネルシアター制作に必要な材料を把握し、役割分担を考えることができる。 ②絵人形を作ることができる。</p> <p>予習と復習：次回着色に入れるよう、絵人形の配色計画を立ててくる。</p>
11 回	<p>〈前回の活動の振り返り：魅力的な絵人形にするために〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠くから見てもわかる、パネルシアターにふさわしい配色計画について確認する。 <p>〈パネルシアターの製作③〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パネルシアターの絵人形をアクリルガッシュやクレヨン等で着色する。 ・早く完成できた人から小道具や背景なども作成する。登場するモチーフのサイズに変化をつけることでメリハリのあるパネルシアターになることを確認する。 <p>学習成果：絵人形の着彩の手順を知り、計画的に制作をすることができる。</p> <p>予習と復習：小道具や背景を各自で完成させておく。</p>
12 回	<p>〈前回の活動の振り返り：上演する際の注意点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パネルの上でどう見せたら人形や小道具がちゃんと見えるか、上演する際の注意点について解説する。 <p>〈パネルシアターの制作④〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人形や小道具などが揃っているかグループ内で確認、遅れているものがあれば協力して仕上げる。 ・人形や小道具が完成したグループからパネルを使って上演練習をする。場面ごとに交代し、全員が上演するように計画をする。 <p>学習成果：パネルシアター上演の方法を学ぶ。</p> <p>予習と復習：次回上演できるよう練習をしておく。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

13 回	<p>〈前回の活動の振り返り：上演する際の注意点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パネルシアター上演に向け、再度注意点を確認する。 <p>〈パネルシアター上演〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに上演する。 ・鑑賞者は「絵人形・小道具」「パネルシアターの見やすさ」「上演の仕方」「そのほか良かった点」について評価をする。 ・パネルシアターのまとめをする。 <p>学習成果：①パネルシアターを人前で演じることを経験し、自己課題が確認できる。②パネルシアターの上演を鑑賞し、改善のためのアドバイスや、上演の助言とその言葉による表現を訓練する。</p> <p>予習と復習：スケッチブックを見直し、提出に向けて整理しておく。</p>
14 回	<p>〈前回の活動の振り返り：パネルシアターのまとめ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回提出された鑑賞者の評価を全員で共有する。 <p>〈まとめの課題 季節を表現する①〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壁面構成につながる課題として、季節を表現する絵を制作する。横長の画面に「季節の植物」と「季節の遊び」を「奥行きのある空間」に表現する。画面には必ず子どもか動物も登場させる。 ・色や形を単純化し、遠くから見てもわかるように工夫する。 ・描画材は自由。 <p>学習成果：①大きな空間を表現することができる。②色や形を単純化することができる。</p> <p>予習と復習：下描きまで完成させておく。</p>
15 回	<p>〈まとめの課題 季節を表現する②〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きな画材で楽しく着彩していく。 ・完成したら相互鑑賞する。 ・授業のまとめと自己課題を記述してスケッチブックを提出する。 <p>学習成果：絵画空間を条件満たしながらまとめていく活動を通し、壁面構成にも繋がる表現力を身に着けることができる。</p> <p>予習と宿題：図画Aで学んだ内容を復習しておく。</p>

平成 29 年 度 教 育 計 画							
科目名	図画工作（工作A）	授業回数	15	単位数	1	担当教員	関野 智子
質問受付：E棟105研究室 金曜日12：20～12：50 e-mail：sekinotomoko@gmail.com							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標： 保育者として必要な、工作に関わる表現技術の習得を目指す。 1. 工作の基本的な法則を理解し、習得して応用できる。 2. 工作素材・用具の特徴を知り特性を活かして使いこなせる。 3. 芸術性を意識し創造性を重視した表現ができる。</p> <p>学生の学習成果： 専門的学習成果として、教育目標に掲げる3項目を習得する。 また、汎用的学習成果として、①保育者としての態度・信念の形成に自助努力し②幼児を指導する適正な価値・判断の基準を知り、明確に意見表明ができる力を育成する。</p>						
	教育方法	<p>（講義・演習・実験・実習・実技）</p> <p>① 課題の説明と、留意事項等を教員が説明する。 ② 課題の演習を通じて、体験的に学ぶ。 ③ 演習の過程では、教員が個別のアドバイスを適宜行う。 ④ 準備から片付けまでを含めて授業内容とする。 予習、復習等について教員が説明する。</p> <p>予習：絵本や保育者向けの図書を参考に制作の構想を練ったり、目的に沿って材料を調達したりする。 復習：課題を完成させる。授業での学びを踏まえ自分なりの制作を行う。</p> <p>テキスト 『折り紙遊び』福井晴子／編集（貸与）</p>					
学習評価の方法	<p>以下の5つの学習成果についてその度合いを作品・記録等を含むスケッチブックによって満点を100点とし、おおむね4：2：2：1：1の比重で評価する。</p> <p>①工作の基本的な法則を理解し、習得して応用できる。 ②工作素材・用具の特徴を知り目的に応じて使いこなせる。 ③芸術性を意識し創造性を重視した表現ができる。 ④保育者としての態度・信念の形成に自助努力している。 ⑤視覚情報に対して保育者として価値・判断基準をもち意見表明ができる。 専門的学習成果は上記①～③、汎用的学習成果は④、⑤に該当する。</p>						
注意事項	特になし						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>〈オリエンテーション〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方、評価、受講の注意について教員が説明する。 <p>〈壁面構成① 保育の環境づくりとは〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布プリント、実際の幼稚園の壁面の写真、学生作品のミニスケールなどを鑑賞する。 ・グループごとに担当月を決める。 <p>学習成果：保育の環境づくりの大きな要素の一つである壁面構成の役割について知る。 予習と復習：自分の壁面構成のアイデアを考える。アイデアスケッチに必要な用具（鉛筆・色鉛筆）を準備しておく。</p>
2 回	<p>〈前回の活動の振り返り：楽しい構成とは？〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壁面構成の役割を確認、魅力的な構成にするためのポイントを解説。 <p>〈壁面構成② アイデアスケッチ～下絵制作①〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数パターンのアイデアをスケッチする。その中から良いものを選び、色鉛筆で配色計画も立てる。 ・早くできた学生から下絵制作に入る。 <p>学習成果：図画Aで学んだことを活かしながら魅力的な構成を考えることができる。 予習と復習：アイデアスケッチを完成させておく。</p>
3 回	<p>〈前回の活動の振り返り：明度の差をつける〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明度の近い色だけで構成をすると見えにくいことがあることを説明、自分のアイデアスケッチを明度に着目して確認する。 <p>〈壁面構成③ 下絵制作〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構図や配色計画に注意しながら下絵を完成させる。 ・早くできた学生は別の月の壁面構成のアイデアスケッチ～下絵も作成する。 <p>学習成果：下絵を丁寧に作成しておくことと実際の制作の場面で困らないことを知る。 予習と復習：下絵を完成させておく。次回から必要になる用具（はさみ、水性のり、カッターナイフ、色鉛筆）を準備しておく。</p>
4 回	<p>〈前回の活動の振り返り：色画用紙を活用する〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壁面構成での色画用紙の活用の仕方について。 <p>〈壁面構成④ ミニスケール制作①〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下絵を色画用紙にトレースダウンする。 ・カッターナイフで丁寧に切り抜く。 ・用紙の上で並べ、最終調整をする。変化に乏しい場合は、色画用紙に折り目をつける、異素材を貼るなどの工夫をする。 <p>学習成果：壁面構成制作手順を知ることができる。より良く見せるための工夫ができる。 予習と復習：各パーツの切り抜きが出来ていない場合は準備をしておく。</p>
5 回	<p>〈前回の活動の振り返り：半立体の効果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貼り方を工夫することで半立体の壁面構成となることを実例を挙げて教員が説明する。 <p>〈壁面構成⑤ ミニスケール制作②〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミニスケールを1～2作品制作する。 <p>学習成果：壁面構成のミニチュール制作を通じ、空間を楽しく作り上げて子たちを迎えることの意義について考えることができる。 予習と復習：次回から身近な素材を活用した工作に入るのので、表現ⅡAと同じ基本の道具セットを準備しておく。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
6 回	<p>〈前回の活動の振り返り：異素材の活用〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色画用紙以外の素材を工夫して活用している作品を紹介。この時間内に提出をすることを告げる。 <p>〈壁面構成⑥ ミニスケール制作③〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミニスケールを1～2作品制作する。 <p>学習成果：壁面構成のミニアチュール制作を通じ、空間を楽しく作り上げて子たちを迎えることの意義について考えることができる。</p> <p>予習と復習：次回から身近な素材を活用した工作に入るのので、表現ⅡAと同じ基本の道具セットを準備しておく。</p>
7 回	<p>〈前回の活動の振り返り：ミニスケールの鑑賞〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員のミニスケールを展示、その良さや工夫点を発見する。 <p>〈紙コップを使って〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとにまとまった数の紙コップを配布。紙コップを加工せずに遊ぶ方法を考える。 ・紙コップをハサミやカッターナイフで加工して、参考例を見ながら複数の工作を試す。学校が用意したほかの素材とミックスしても良い。 ・グループでテーマを決め、独自に考えた紙工作を発表する。 ・相互鑑賞を行う。 <p>学習成果：①身近な素材も工作に活用できることを知る。②素材の特徴や加工の方法を自分で発見しようとする力をつける。</p> <p>予習と復習：紙皿を活用した工作について考えておく。</p>
8 回	<p>〈前回の活動の振り返り：紙コップ工作の例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙コップを用いた工作の実例を紹介する。前回の記録写真をスケッチブックに貼る。 <p>〈紙皿を使って〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとにまとまった数の紙皿を配布。紙皿を加工せずに遊ぶ方法を考える。 ・紙皿をハサミやカッターナイフで加工して、参考例を見ながら複数の工作を試す。学校が用意したほかの素材とミックスしても良い。 ・グループでテーマを決め、独自に考えた紙工作を発表する。 <p>学習成果：①身近な素材も工作に活用できることを知る。②素材の特徴や加工の方法を自分で発見していく態度を養う。</p> <p>予習と復習：次回制作する車のデザインを考えておくよう告げる。</p>
9 回	<p>〈前回の活動の振り返り：紙皿工作の例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙皿を用いた工作の実例を紹介する。前回の記録写真をスケッチブックに貼る。 <p>〈段ボール工作①〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手に入りやすく強度もある段ボールは様々な工作で活用するが、他の素材に比べ加工が難しい。本時は段ボールと廃材による車作りを通し「切る」「曲げる」「貼る」「接合する」に着目し、安全に工作を進めるためポイントを押さえていく。 <p>学習成果：段ボールの基本的な加工方法、用具の安全な使い方、子どもにできる加工などを知る。</p> <p>予習と復習：車に使えるような廃材を集めておく。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
10 回	<p>〈前回の活動の振り返り：いろいろな車〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作後遊べる「車作り」は幼児の好きな題材である。様々な素材で作られた車を鑑賞する。 <p>〈段ボール工作②〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルのキャップを活用した車輪をとりつけ、実際に転がしてみる。車を走らせて遊ぶための環境構成について考える。 <p>学習成果：制作物を用いた次の遊びを考えることで、活動を展開させていくことの面白さに気付くことができる。</p> <p>予習と復習：単発で終わらない造形活動の実践例について調べておく。</p>
11 回	<p>〈張り子作り① 張り子技法について〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土玩具でも多く見られる張り子は、時間は掛かるが曲面を美しく表現できる技法である。また保育の現場でも、この技法を用いて様々な行事の小道具を作る場面がある。郷土玩具から保育の現場での実践例を紹介する。 ・招き猫をテーマ張り子を制作することを告げる。 <p>〈張り子づくり② 原型づくり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土粘土で原型をつくり、食品用ラップを巻く。 <p>学習成果：①張り子の技法について知ることが出来る。②張り子による成型であることを踏まえた、単純なフォルムの原型ができる。</p> <p>予習と宿題：原型を完成させる。</p>
12 回	<p>〈張り子づくり③ 紙を貼る〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品用ラップを巻いた原型に新聞紙を貼る。強度を出すために、3回以上重ね張りをする。 ・仕上げにちぎった障子紙を貼る。 <p>学習成果：貼り付ける紙のサイズと曲面の大きさの関係を知ることが出来る。</p> <p>予習と復習：乾燥時間が必要なので、時間内に貼る作業が終わらなかった場合は近日中に完成させておく。</p>
13 回	<p>〈張り子づくり④ 原型を抜く〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙の層の一部をカッターナイフで切り、中の原型を抜く。土粘土は粘土槽へ返却する。 ・和紙を使って切断した部分を修復し、乾燥させる。 <p>〈折り紙①〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員が折り紙遊びの保育における意義についてプリントを配付し説明する。 ・伝承折り紙を教科書を参考に折る。 <p>(かぶと、せみ、ボート、だましぶね、きょうりゅう、しゅりけん)</p> <p>学習成果：折り紙の保育における意義を知り、発達に応じて援助するポイントを習得する。</p> <p>予習と宿題：次回までに張り子を乾燥させておく。</p>
14 回	<p>〈張り子づくり⑤ 着彩〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水彩絵の具で自由に着彩をする。 <p>〈折り紙②〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の続きをする。完成したらスケッチブックに美しくレイアウトし、自由に加筆して楽しく仕上げる。 <p>学習成果：水の量を工夫し、表情豊かに水彩絵の具で招き猫を表現することができる。</p> <p>予習と宿題：次回提出できるようスケッチブックを仕上げしておく。</p>
15 回	<p>〈張り子作り⑥ 仕上げ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水性ニスを使って仕上げをする。ニスに「ツヤ出し」「つやなし(マット)」の2種類があることを知り、自分の作品にあったニスを選ぶ。 ・作品を相互鑑賞し、感想をまとめる。 <p>学習成果：ニスの扱い方、効果を知ることが出来る。目的に応じて種類を選ぶことができるようになる。</p> <p>予習と宿題：工作Aで学んだ内容を復習しておく。</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画								
科目名	図画工作(図画B)	授業回数	15	単位数	1	担当教員	関野 智子	
質問受付：E棟 105 研究室 金曜日 12：20～12：50 e-mail：sekinotomoko@gmail.com								
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：</p> <p>保育者として必要な、図画にかかわる表現技術の応用的習得を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 図画の基礎的技能を習得して応用ができる。 2. 描画素材・用具の特性を活かして目的に応じた表現ができる。 3. 児童文化財に対する選択眼を確立し、保育の中で自らが制作する絵画等に創造性を意識した表現ができる。 4. 作品制作後に自己課題が確認できる。 <p>学生の学習成果：</p> <p>専門的学習成果として、教育目標に掲げる4項目を習得する。</p> <p>また、汎用的学習成果として、①保育者としての態度・信念の形成に自助努力し②幼児を指導する適正な価値・判断の基準を知り、明確に意見表明ができる力を育成する。</p>							
	教育方法	授業の進め方	<p>(講義・<u>演習</u>・実験・実習・実技)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 課題の説明と、留意事項等を教員が説明する。 ② 演習を通じて、体験的に学ぶ。 ③ 演習の過程では、教員が個別のアドバイスを適宜行う。 ④ 準備から片付けまでを含めて授業内容として扱う。 ⑤ 予習、復習等について教員が説明する。 					
		予習・復習	<p>予習：絵本や保育者向けの図書を参考に制作の計画を立てる。</p> <p>復習：課題の達成速度は個人差があるので、十分に課題を研究し、技術を獲得するための演習を必要に応じて時間外に行う。授業での学習を踏まえ、自分なりの制作を行う。</p>					
	テキスト	なし (必要に応じてプリント配付)						
学習評価の方法	<p>以下の6つの学習成果についてその度合いを作品・記録等を含むスケッチブックによって満点を100点とし、おおむね3：2：2：1：1：1の比重で評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①図画の基本的な法則を習得して応用できる。 ②描画素材・用具の特性を活かして目的に応じた表現ができる。 ③保育を想定した絵画等に芸術性を意識し創造性を重視した表現ができる。 ④作品制作後に自己課題が確認できる。 ⑤課題製作の過程では、保育者としての態度信念に反しない行動ができる。 ⑥視覚情報に対して保育者として価値・判断基準をもち意見表明ができる。 <p>専門的学習成果は上記①～④、汎用的学習成果は⑤、⑥に該当する。</p>							
注意事項	参考図書： 各種の保育図書							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>〈オリエンテーション〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方および評価について、受講の注意について教員が説明する。 ・児童文化財・視覚情報への認識について教員が説明する。 <p>〈絵画練習①〉身近な生き物を描こう①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚、昆虫等の資料から教員がそれぞれについて特徴の説明をする。 ・クレヨン等を使って特徴や各部分のバランスに注意しながら描く。 ・いくつか描いた中から1つを選択、強調・単純化して表現し、色画用紙のコラージュで楽しく表現することができる。 <p>学習成果：魚・昆虫などの形態の特徴を意識しながら、親しみやすい色と形にディフォルメして表現することができる。</p> <p>予習と復習：身近な生き物について調べておく。</p>
2 回	<p>〈絵画練習②〉身近な生き物を描こう②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物などの資料から教員がそれぞれの特徴の説明をする。 ・クレヨン等を使って特徴や各部分のバランスに注意しながら描く。 ・いくつか描いた中から1つを選択、強調・単純化して表現し、色画用紙のコラージュで楽しく表現することができる。 <p>学習成果：動物の形態の特徴を意識しながら、親しみやすい色と形にディフォルメして表現することができる。</p> <p>予習と復習：課題を完成させる。</p>
3 回	<p>〈絵画練習③〉果物の写生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節の果物について教員が特徴と描き方の説明をする。今回は色画用紙を使用しその効果を確認めながら進めていく。 ・クレヨンや水彩絵の具を使って各部分のバランスに注意しながら描く。 ・背景を自分なりに工夫して仕上げる。 <p>学習成果：身近な果物について中身を想像しながら描く姿勢を習得する。色画用紙に描く際のポイントを知る。</p> <p>予習と復習：課題を完成させる。</p>
4 回	<p>〈絵画練習④〉野菜の写生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節の野菜について教員が特徴と描き方の説明をする。使用する絵の具の数を制限し、混色による色遊びの要素を織り交ぜながら進める。 ・クレヨンで下描きをしたあと、水彩絵の具で混色をしながら着彩。 ・背景を自分なりに工夫して仕上げる。 <p>学習成果：身近な野菜の質感等を配慮しながら描く姿勢を習得する。色の仕組みについて確認する。</p> <p>予習と復習：課題を完成させる。</p>
5 回	<p>〈絵画練習⑤〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物の年齢差の表現法、表情の描き方、動きのあるポーズの描き方をイラストレーションプリントを参考にして描く。 <p>学習成果：保育の中で必要な人のイラストを描くための基本を習得する。</p> <p>予習と復習：課題を完成させる。</p>
6 回	<p>〈絵画練習⑥-1〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車や自転車など身近な乗り物を含めて街角を鳥瞰図の技法でイラストレーションを描く。 <p>学習成果：壁面構成やポスター等、保育の中で必要な乗り物や建物等のイラストを描く方法を理解する。</p> <p>予習と復習：次回課題を完成させられるよう進めておく。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
7 回	<p>〈絵画練習⑥-2〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車や自転車など身近な乗り物を含めて街角を鳥瞰図の技法でイラストレーションを描きアクリルガッシュ、色鉛筆等で着色する。 <p>学習成果：壁面構成やポスター等、保育の中で必要な乗り物や建物等のイラストを描く方法を理解する。</p> <p>予習と復習：課題を完成させる。</p>
8 回	<p>〈絵画練習⑦-1〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の昔話絵本から人物や屋内外の背景のある一場面を選んで絵本を参考にして鉛筆やクレヨン等で下絵を描き、アクリル絵の具で描く。 <p>学習成果：中世または近世の風俗を描くことで昔の衣服や家の形、生活の一場面を知ることができ、参考図があれば描けるようになる。</p> <p>予習と復習：次回課題を完成させられるよう進めておく。</p>
9 回	<p>〈絵画練習⑦-2〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の昔話絵本から人物や屋内外の背景のある一場面を鉛筆やクレヨン等で下描きした後アクリル絵の具で描く。 <p>学習成果：①中世または近世の風俗を描くことで昔の衣服や家の形、生活の一場面を知ることができ、参考図があれば描けるようになる。②水彩絵の具の濃度を調節する、タッチを工夫するなど、絵画的な表現を深めることができる。</p> <p>予習と復習：課題を完成させる。次回に向け水性ペンと色鉛筆を準備しておく。</p>
10 回	<p>〈絵画発展課題①〉 形を重ねて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な道具を画用紙の上に置き、形をえどる。それを重ねながら画面いっぱいになり繰り返す、画面を埋めていく。偶然からできあがった形を活かして自由に着色する。 <p>学習成果：偶然できた形を手掛かりに、色と形を楽しむ感覚を養う。</p> <p>予習と復習：課題を完成させる。</p>
11 回	<p>〈絵画発展課題②〉 絵の中に入ろう①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回と同じ手法で保育園などで実践できる共同制作を行う。 ・縦2メートル×横(参加者数×0.5)メートルの模造紙を準備する。ペアになり1人は紙の上で自由にポーズをとり、もう1人はそのシルエットを丁寧に写す。交代しながら全面にシルエットの模様を描いていく。シルエットの重なりからできた形に自由に着色する。 <p>学習成果：①共同制作の面白さを味わうことができる。</p> <p>予習と復習：巨大な画面を仕上げるための援助について考えておく。</p>
12 回	<p>〈絵画発展課題②〉 絵の中に入ろう②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の続き。作品を完成させていく。 ・今回の制作の流れをプリントにまとめ、この手法を活かしてどのような造形遊びへと発展できるか考える。 <p>学習成果：①共同制作の面白さを味わうことができる。②大作を完成させるために保育者としてどのような援助をしたらよいかを考え、実践することができる。</p> <p>予習と復習：共同制作に関する資料を調べておく。</p>
13 回	<p>〈絵画発展課題③〉 思い出を描く①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思い出を自由に描く制作は年長児の活動で実践されることが多い。今回は実際に自分たちが取り組んでみて、思い出を描くために必要なこと、技術的に躓きやすいポイントなどを考察しながら進める。 ・1枚目は白画用紙にクレヨンで描く。水彩絵の具も併用しながら、1時間で完成させる。グループごとに困難だった点、保育士による具体的な手立てについて考察する。 <p>学習成果：経験したことを描く活動の際の援助のポイントを考えることができる。</p> <p>予習と復習：まとめのプリントを完成させる。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
14 回	<p>〈絵画発展課題③〉思い出を描く②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2枚目は白画用紙にクレヨンでモチーフをどんどん描き出し、色画用紙にコラージュして仕上げ ていく。コラージュにすることでレイアウトを工夫できることを確認する。水彩絵の具も併用しながら1時間で完成させる。 ・今回の制作についてグループごとに困難だった点、保育士による具体的な手立てについて考察する。 ・思い出を描く活動を実践する際のポイントを教員が解説する。 <p>学習成果 : 絵画制作で躓きやすいポイントを押さえ、制作手法を工夫することで思いを伝えやすくなることを知る。</p> <p>予習と復習 : できていない課題があれば完成させておく。</p>
15 回	<p>〈作品収納袋をつくる〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図画Bで制作した作品を収納する袋を制作する。表面をスタンプ技法で装飾する。 ・図画Bのまとめプリントを提出する。 <p>学習成果 : ①作品を大切に扱い保管することの意義について考える。②子どもの作品を保管、持ち帰らせる方法について知る。</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	図画工作（工作B）	授業回数	15	単位数	1	担当教員	関野 智子
質問受付：E棟105研究室 金曜日12：20～12：50 e-mail：sekinotomoko@gmail.com							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：</p> <p>保育者として必要な、工作にかかわる表現技術の応用的習得を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 工作の基礎的技能を習得して応用ができる。 2. 工作素材・用具の特性を活かして目的に応じた表現ができる。 3. 児童文化財に対する選択眼を確立し、保育の中で自らが制作する工作等に創造性を意識した表現ができる。 4. 作品制作後に自己課題が確認できる。 <p>学生の学習成果：</p> <p>専門的学習成果として、教育目標に掲げる4項目を習得する。</p> <p>また、汎用的学習成果として、①保育者としての態度・信念の形成に自助努力し②幼児を指導する適正な価値・判断の基準を知り、明確に意見表明ができる力を育成する。</p>						
	授業の進め方	<p>（講義・演習・実験・実習・実技）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 課題の説明と、留意事項等を教員が説明する。 ② 演習を通じて、体験的に学ぶ。 ③ 演習の過程では、教員が個別のアドバイスを適宜行う。 ④ 準備から片付けまでを含めて授業内容として扱う。 <p>予習、復習等について教員が説明する。</p>					
	予習・復習	<p>予習：絵本や保育者向けの図書を参考に制作の計画を立てる。</p> <p>復習：課題の達成速度は個人差があるので、十分に課題を研究し、技術を獲得するための演習を必要に応じて時間外に行う。授業での学習を踏まえ、自分なりの制作を行う。</p>					
テキスト	なし（必要に応じてプリント配付）						
学習評価の方法	<p>以下の6つの学習成果についてその度合いを作品・記録等を含むスケッチブックによって満点を100点とし、おおむね3：2：2：1：1：1の比重で評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①図画の基本的な法則を習得して応用できる。 ②描画素材・用具の特性を活かして目的に応じた表現ができる。 ③保育を想定した絵画等に芸術性を意識し創造性を重視した表現ができる。 ④作品制作後に自己課題が確認できる。 ⑤課題製作の過程では、保育者としての態度信念に反しない行動ができる。 ⑥視覚情報に対して保育者として価値・判断基準をもち意見表明ができる。 <p>専門的学習成果は上記①～④、汎用的学習成果は⑤、⑥に該当する。</p>						
注意事項	参考図書：各種の保育図書						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>〈オリエンテーション〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方および評価について、受講の注意について教員が説明する。 <p>〈毛糸で遊ぼう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毛糸を利用した造形遊び（ストリングアート／自然の枝に毛糸を巻く&板に打たれた釘に毛糸を巻く）を教員が紹介、それらを実際に制作してみる。 ・身近な材料と毛糸を組み合わせた作品をグループで制作し、相互鑑賞をする。教員がそれらについて助言をする。 <p>学習成果　：毛糸を用いた制作の特徴、援助のポイントを知る。 予習と復習：次回の制作用にアルミホイルを準備しておく。</p>
2 回	<p>〈アルミホイルで作ろう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員が扱い方について説明をする。 ・アルミホイルの可塑性を活かした造形遊びをグループで考え、制作をする。 ・作品の相互鑑賞のあと、教員がそれらについて助言をする。 <p>学習成果　：アルミホイルを用いた制作の特徴、援助のポイントを知る。 予習と復習：次回はメダル作りを行うので資料を調べておく。</p>
3 回	<p>〈メダルをつくろう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の現場では首にかけるメダルを複数作る場面が多いことを教員が説明する。 ・今回は誕生日のお祝い用の楽しいメダルを1人3つ作る。材料は厚紙、色紙、色画用紙、リボン。 ・同じものを複数作るための制作手順について教員が説明する。 ・相互鑑賞を行う。 <p>学習成果　：短時間で複数同じものを制作する手順を知ることができる。 予習と復習：課題を完成させておく。</p>
4 回	<p>〈糸鋸を活用しよう①〉　組み木パズル①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糸鋸の特徴、注意点などを教員が説明する。 ・はがき大の板を使って組み木パズルを考える。糸鋸で切り出しやすい形になるよう工夫する。 <p>学習成果　：用具の特性を理解したうえでアイデアを練ることができる。 予習と復習：下絵を完成させる。</p>
5 回	<p>〈糸鋸を活用しよう①〉　組み木パズル②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・切り抜きの計画について教員が説明をする。配色計画は、①着色なし、②部分的に着色、③全面に着色の3通りあることを述べる。 ・慎重に形を切り抜き、やすりで磨いて仕上げる。 ・着色をしてもよい。 ・相互鑑賞を行う。 <p>学習成果　：①安全に糸鋸を使うことができる。②紙やすりでの仕上げ方について知る。 予習と復習：課題を完成させておく。</p>
6 回	<p>〈糸鋸を活用しよう②〉　段ボール工作①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工作材料としてカットした段ボールをクラスの数分準備をする際、糸鋸を活用すると良いことを伝える。 ・段ボールを5枚（厚み2cm程度）重ねマスキングテープで束ねて切り出す。今回はクリスマスの工作用に靴下の形を切り出してみる。最初に吊下げ用の穴を卓上ボール盤であけ、そのあと形を糸鋸で切り出す。 ・切り出した5枚の靴下をすべて違う技法を用いて作品に仕上げていく。切り抜けた学生からアイデアスケッチを行う。 <p>学習成果　：材料を重ねて一気に切り出せるようになる。 予習と復習：靴下の作品に必要な材料を自分で調達しておく。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
7 回	<p>〈糸鋸を活用しよう②〉 段ボール工作②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回切り出した5枚の靴下をすべて違う技法で仕上げていく。 ・完成したら5枚をガーランドのようにつなげて展示、相互鑑賞をする。 <p>学習成果 : これまでに学習した表現技法を応用してバリエーション豊かに作品を仕上げることができる。</p> <p>予習と復習 : 課題を完成させておく。次回に向け刃の新しいカッターナイフを準備する。</p>
8 回	<p>〈断熱材での立体造形①〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームセンターで手に入る住宅用断熱材を用いた立体造形作品を教員が紹介、材料の特性について解説する。 ・ハートを半立体で表現する(黒板などに貼れるマグネットとして仕上げる)。カッターナイフで形を切り出し、丸みをつけていく。やすりで磨いて仕上げる。 <p>学習成果 : 断熱材の扱い方を知る。</p> <p>予習と復習 : 形を磨いておく。</p>
9 回	<p>〈断熱材での立体造形②〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハートの形にジェッツを塗り下地をつくる。 ・乾くのを待っている間に、断熱材でネームプレートを作る。自分の名前を板に下書きし、カッターナイフで切り抜く。糸鋸を使いたい場合は使用してもよい。文字を半分浮き出させ、半立体のプレートにする。その状態でジェッツを塗る <p>学習成果 : 着色のための下地づくりができる。</p> <p>予習と復習 : 次回までにハートとネームプレートの下地を乾かしておく。</p>
10 回	<p>〈断熱材での立体造形③〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半立体のハートの裏にマグネットが入る穴をあけ、マグネットを接着する。 ・半立体のハート、ネームプレートをアクリルガッシュで着彩する。重ね塗りをして古びた感じにするなど、着彩の方法を工夫する。 <p>学習成果 : 塗り方、道具などを工夫しながら着彩を施すことができる。</p> <p>予習と復習 : 次回までに着彩を済ませ、乾かしておく。</p>
11 回	<p>〈断熱材での立体造形④〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品に水性ニスを塗って完成させる。 ・相互鑑賞を行う。 ・保育の現場でどのように活用できるか考える。 <p>学習成果 : ①水性ニスの扱い方について知る。②断熱材をどのように応用するか考えることができる。</p> <p>〈カードによる立体造形①〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スリットの入ったカードを組み合わせることで抽象的な立体作品ができることを教員が説明。厚紙を糸鋸で加工してカードをつくる。作り方は段ボール工作で同じ形を一気に作った時と同じ。 ・カードの形は自由。複雑にしすぎないように注意する。またスリットの幅は厚紙の厚みになるようにする。 <p>学習成果 : 単一ユニットによる造形遊びについて知る。</p> <p>予習と復習 : カードを準備しておく。</p>
12 回	<p>〈カードによる立体造形②〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スリットの入ったカードを組み合わせ立体をつくる。強度が弱い部分についてはマスキングテープで補強する。 ・あらゆる方向から眺めても楽しめる作品になるよう工夫する。 ・相互鑑賞をしたあと、作品は解体し、保存用袋に入れる。 <p>学習成果 : ①立体造形をする際のポイントについて知る。②繰り返し遊べる素材の保管方法について考えることができる。</p> <p>予習と復習 : 帽子のデザインについて調べておく。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 回	<p>〈楽しい帽子〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段ボールと画用紙、不要になったチラシなどを活用したシルクハット型帽子の参考作品を見る。 ・段ボールをカットしてツバの部分をつくり、画用紙でのこりのパーツをつくる。 ・どうしたら頭にフィットするのか、各パーツをどのように接着するのか、教員が説明する。 ・完成したら実際にかぶって相互鑑賞する。 ・子どもが制作する場合、保育士はどのような援助をしたらよいかグループで考える。 <p>学習成果：①段ボールと画用紙による工作のポイントを知る。②保育士による援助のポイントについて考えることができる。③実際に身に着けることができる工作の楽しさを味わう。</p> <p>予習と復習：作品展示の方法について調べておく。</p>
14 回	<p>〈作品展覧会①〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の現場では作品を展示する場面が多々ある。子どもたちの作品をより魅力的に見せる展示の例を教員が紹介する。 ・工作Bで制作した作品の展示会をすると想定し、どのような設えにするかグループごとに計画を立てる。必ず作品説明のボードを添えることを条件とする。 <p>学習成果：魅力的な展示になるよう計画を立てることができる。</p> <p>予習と復習：次回飾りつけができるよう、必要な小道具を作成しておく。</p>
15 回	<p>〈作品展覧会②〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室内で作品展示を行う。 ・相互鑑賞を行う。 ・まとめのプリントを作成、提出。 ・展示を解体、作品は各自持ち帰る <p>学習の成果：展示を実際に行う際のポイントを知る。</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画									
科目名	国語	授業回数	15	単位数	2	担当教員	浦上博文		
質問受付の方法：B404 授業終了後、e-mail：urakami@owc.ac.jp									
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：</p> <p>国語力を向上させることは、将来の社会人として、また幼児の言葉の発達に大きな責任を負う将来の保育者として必要不可欠である。国語に関する専門的知識を身に付けた実践的指導力のある保育者を養成することを目指し、以下の4点を教育目標とする。</p> <p>① 国語基礎力（敬語・文法・語彙・言葉の意味・表記・漢字）を修得する。</p> <p>② 保育者として必要な書写に関する基礎的知識・技能を修得する。</p> <p>③ 保育の現場で作成する文章（連絡帳・クラスだより）の表現力を修得する。</p> <p>④ 文章によって自己の意見を表明する力（論理的思考力）を修得する。</p> <p>学生の学習成果：</p> <p>専門的学習成果として、教育目標に掲げる①～③に関する知識及び技能を修得する。また、汎用的学習成果として、学習態度及び論理的思考力を涵養する。</p>								
	教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>授業は、ほぼ次のように進める。</p> <p>① 毎回、授業はじめに漢字の学習（漢検レベルに挑戦！シリーズなど）を行う。</p> <p>② テキストあるいは配付資料に沿って、担当教員が学習内容に関する解説を行う。</p> <p>③ 学習内容を定着させるために、受講生が演習問題・課題に取り組む。</p>					予習・復習	<p>・毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。</p> <p>・毎授業回後に、「授業回数別教育内容」に記された復習を求める。</p>
テキスト		日本語検定委員会編『ステップアップ日本語講座 初級』東京書籍、2009年。							
学習評価の方法		<p>以下の5点の学習成果について、その獲得度合を量的に評価し、配点を「①+②：③+④：⑤=65：20：15」とする。</p> <p>① 国語基礎力（敬語・文法・語彙・言葉の意味・表記・漢字）を修得する（小テスト・期末試験）。</p> <p>② 保育者として必要な書写に関する基礎的知識・技能を修得する（課題・期末試験）。</p> <p>③ 保育の現場で作成する文章（連絡帳・クラスだより）の表現力を修得する（課題）。</p> <p>④ 文章によって自己の意見を表明する力（論理的思考力）を修得する（課題）。</p> <p>⑤ 自己の学習を振り返り、成果と課題とを認識する（シャトルカード）。</p> <p>なお、シャトルカード未提出は1回につき1点減点とする。</p> <p>担当教員の指導に従わず、学習態度が改善されない場合、評価点より減ずる（1件1点）。</p>							
注意事項	<p>参考図書等</p> <p>・玉井美智子（監修）『保育の実践アイデア事例集 2・3』学事出版、2003年。</p> <p>・岡崎比佐子・古川伸子（監修・執筆）『おたより・連絡帳・懇談会』小学館、2006年。</p>								

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>① オリエンテーション：シラバスを用いて本授業の概要を説明する。</p> <p>② 漢字の学習：「漢検レベルに挑戦！シリーズ（１）」を学習し漢字力を向上させる。</p> <p>③ 書写に関する知識（姿勢や筆記用具の持ち方、平仮名・片仮名の正しい書き方）を理解し、正しく実践できるようになる。</p> <p>予習：シラバスを通読する。</p> <p>復習：漢字、書写に関する知識・技能の復習を行う。</p>
2 回	<p>① 漢字の学習：「漢検レベルに挑戦！シリーズ（２）」を学習し漢字力を向上させる。</p> <p>② テキスト「敬語」の前半を学び演習問題に取り組んで、正しい敬語の使い方ができるようになる。</p> <p>予習：テキストの該当箇所を通読する。</p> <p>復習：漢字、「敬語（前半）」演習問題の復習を行う。</p>
3 回	<p>① 第１回漢字復習テストを行う。漢字の学習：「漢検レベルに挑戦！シリーズ（３）」を学習し漢字力を向上させる。</p> <p>② テキスト「敬語」の後半を学び演習問題に取り組んで、正しい敬語の使い方ができるようになる。</p> <p>予習：テキストの該当箇所を通読する。漢字復習テストに向けた学習を行う。</p> <p>復習：漢字、「敬語（後半）」演習問題の復習を行う。</p>
4 回	<p>① 漢字の学習：「漢検レベルに挑戦！シリーズ（４）」を学習し漢字力を向上させる。</p> <p>② テキスト「文法」を学び演習問題に取り組んで、文法に従った正しい表現ができるようになる。</p> <p>予習：テキストの該当箇所を通読する。</p> <p>復習：漢字、「文法」演習問題の復習を行う。</p>
5 回	<p>① 第２回漢字復習テストを行う。漢字の学習：「漢検レベルに挑戦！シリーズ（５）」を学習し漢字力を向上させる。</p> <p>③ テキスト「語彙」を学び演習問題に取り組んで、豊かな語彙を修得する。</p> <p>予習：テキストの該当箇所を通読する。漢字復習テストに向けた学習を行う。</p> <p>復習：漢字、「語彙」演習問題の復習を行う。</p>
6 回	<p>① 漢字の学習：「漢検レベルに挑戦！シリーズ（６）」を学習し漢字力を向上させる。</p> <p>② テキスト「言葉の意味」を学び演習問題に取り組んで、正しい言葉の意味を修得する。</p> <p>予習：テキストの該当箇所を通読する。</p> <p>復習：漢字、「言葉の意味」演習問題の復習を行う。</p>
7 回	<p>① 第３回漢字復習テストを行う。漢字の学習：「漢検レベルに挑戦！シリーズ（７）」を学習し漢字力を向上させる。</p> <p>② テキスト「表記」を学び演習問題に取り組んで、正しい表記ができるようになる。</p> <p>予習：テキストの該当箇所を通読する。漢字復習テストに向けた学習を行う。</p> <p>復習：漢字の復習を行う。漢字、「表記」演習問題の復習を行う。</p>
8 回	<p>① 漢字の学習：「漢検レベルに挑戦！シリーズ（８）」を学習し漢字力を向上させる。</p> <p>② テキスト「漢字」を学び演習問題に取り組んで、漢字力を向上させる。</p> <p>予習：配付資料を通読する。</p> <p>復習：漢字、「漢字」演習問題の復習を行う。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	<p>① 第4回漢字復習テストを行う。漢字の学習：「漢検レベルに挑戦！シリーズ（9）」を学習し漢字力を向上させる。</p> <p>② 「意見文（論説の文章）」の書き方（その1） 意見文の実例を通して、意見文の書き方を理解し、「文章作成の条件」決定から下書きまでの行為ができるようになる。</p> <p>予習：配付資料を通読する。漢字復習テストに向けた学習を行う。</p> <p>復習：漢字、意見文の書き方の復習を行う。</p>
10 回	<p>① 漢字の学習：「漢検レベルに挑戦！シリーズ（10）」を学習し漢字力を向上させる。</p> <p>② 「意見文（論説の文章）」の書き方（その2） 下書きした文章の推敲から文章の完成までの行為ができるようになる（完成した文章は提出）。</p> <p>予習：配付資料を通読する。</p> <p>復習：漢字、意見文の書き方の復習を行う。</p>
11 回	<p>① 第5回漢字復習テストを行う。漢字の学習：「漢検レベルに挑戦！シリーズ（11）」を学習し漢字力を向上させる。</p> <p>② 「連絡帳」の書き方（その1） 保育における連絡帳の役割を知る。幼児の年齢によるさまざまな連絡帳と記入の仕方を知る。連絡帳の内容と記載上の留意点を知る。</p> <p>予習：配付資料を通読する。漢字復習テストに向けた学習を行う。</p> <p>復習：漢字、連絡帳に関する復習を行う。</p>
12 回	<p>① 漢字の学習：「漢検レベルに挑戦！シリーズ（12）」を学習し漢字力を向上させる。</p> <p>② 「連絡帳」の書き方（その2） 「演習問題1」「演習問題2」に取り組み、連絡帳の文章を書くことができるようになる（完成した文章は提出）。</p> <p>予習：配付資料を通読する。</p> <p>復習：漢字、連絡帳に関する復習を行う。</p>
13 回	<p>① 第6回漢字復習テストを行う。漢字の学習：「漢検レベルに挑戦！シリーズ（13）」を学習し漢字力を向上させる。</p> <p>② 「クラスだより」の書き方（その1） 保育におけるクラスだよりの役割を知る。さまざまなクラスだよりと作成の仕方を知る。</p> <p>予習：配付資料を通読する。漢字復習テストに向けた学習を行う。</p> <p>復習：漢字、クラスだよりに関する復習を行う。</p>
14 回	<p>① 漢字の学習：「漢検レベルに挑戦！シリーズ（14）」を学習し漢字力を向上させる。</p> <p>② 「クラスだより」の書き方（その2） 「演習問題」に取り組み、クラスだよりを作成できるようになる。</p> <p>予習：配付資料を通読する。</p> <p>復習：漢字、クラスだよりに関する復習を行う。</p>
15 回	<p>① 第7回漢字復習テストを行う。</p> <p>② 「クラスだより」の書き方（その3）「演習問題」に取り組み、クラスだよりを作成できるようになる（完成した「たより」は提出）。</p> <p>③ 期末試験に関する説明を聞き、要点を理解する。</p> <p>予習：配付資料を通読する。漢字復習テストに向けた学習を行う。</p> <p>復習：漢字、クラスだよりに関する復習を行う。</p>

平成 30 年 度 教 育 計 画							
科目名	生活と科学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	鈴木 久子
質問受付： e-mail : hsuzuki@owc.ac.jp OH: 月曜日 3限 M棟 409室							
教育目標と学生の学習成果	教育目標 幼児期における日常生活は基本的な生活習慣の確立と遊びが中心であり、科学的世界への入り口は小学校以降と考えられている。しかし、子どもたちは白紙の状態では科学的の世界に入るわけではなく、日常生活上の活動の中から各教科の学習の基礎となる原理を獲得している。そこで本講では、近年の発達心理学や認知心理学等の知見を基に人間の学習能力の特徴に考察を加え、日常生活的世界観と科学的世界観との関係性の理解を目指す。さらに、小学校の「生活科」を踏まえて、身近な物事との主体的なかかわりを科学的思考の基礎の獲得として意味づけていく視点と、科学的思考力が育つための保育者としてのかかわり方の育成を目指す。						
	学習成果 専門的学習成果：子どもの発達・成長に重要な生活と科学に関する様々な知識を習得する。 汎用的学習成果：自主的に学ぶ姿勢を身につける。						
教育方法	授業の進め方	〔講義・演習・実験・実習〕 本科目は、グループディスカッション等も積極的に取り入れて科学的な概念について理解していく。また、演習も実施し、知識だけでなく体験を通して理解できるようにする。毎回、授業後に振り返りタイムを設定する。					
	予習・復習	講義内容を復習し、要点については理解を深めること。					
	テキスト	テキストは指定せず、資料や視聴覚教材を使用して進める。また、参考文献も適時紹介していく。					
学習評価の方法	学習成果と受講態度を学習評価の基準とする。 具体的には、受講態度、レポート、定期試験を総合的に評価する。 専門的学習成果：定期試験（70%） 汎用的学習成果：受講態度（20%）、レポート（10%） 受講中の私語や非協力的態度等の問題行動について、複数回の注意後も改善がみられない場合、各授業における当該事態1回につき「5点」を減ずる。但し、授業への貢献度や自己開発への意欲などを勘案し、1回につき1点の加点の機会をも設ける。						
注意事項	【参考図書】 ・高橋恵子ら編『発達科学入門 [2] 胎児期-児童期』 東京大学出版会 2012年 ・今井むつみら 新『人が学ぶということ 認知学習論の視点』北樹出版 2012年 ・市川伸一編 『現代認知心理学5 学習と発達』 北大路書房 2010年 ・福沢周亮監修『保育の心理学—子どもの心身の発達と保育実践—』教育出版 2012年 ・無藤隆ら編 『発達心理学』 ミネルヴァ書房 2010年						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>【オリエンテーション】本科目の目標，授業計画，学習評価方法等について理解する。</p> <p>【生活から科学へ】</p> <p>(学習成果)「生活と科学」のねらいや内容を知り，幼児がいかにして科学的世界に入っていくのかを理解する（アサガオの種の取り入れと生命の循環）。</p> <p>(復習事項) 幼児期の日常生活と科学との関連について復習する。</p> <p>(予習事項) 科学とは何かを調べてくる。</p>
2 回	<p>【生活とは何か】</p> <p>(学習成果) 幼児期を中心とした生活の特徴を理解し，生活の意味について考察する。</p> <p>(復習事項) 生活・遊びの特徴と意味について復習する。</p> <p>(予習事項) 子どもにとっての生活とは何か調べてくる。</p>
3 回	<p>【幼児にとって遊びとは何か】</p> <p>(学習成果) 幼児期を中心とした遊びの意味と機能を理解する（サツマイモの収穫、リースづくり、なわとびなど）。</p> <p>(復習事項) 子どもにとって遊びの意味を復習する。</p> <p>(予習事項) 子どもにとって遊びとは何か調べてくる。</p>
4 回	<p>【数学者としての子ども】 どんぐり拾い</p> <p>(学習成果) 子どもの数概念の特徴について体験を通して理解する（どんぐり拾い）。</p> <p>(復習事項) 数概念の特徴について復習する。</p> <p>(予習事項) 数概念とは何か調べてくる。</p>
5 回	<p>【生物学者としての子ども①】 チューリップ、パンジー。</p> <p>(学習成果) 子どもの生物学的概念の特徴について体験を通して理解する。</p> <p>(復習事項) 生物学的概念の特徴について復習する。</p> <p>(予習事項) 生物学的概念とは何か、サツマイモの使い方について調べてくる。</p>
6 回	<p>【生物学者としての子ども②】 どんぐりゴマ、焼き芋</p> <p>(学習成果) 子どもの生物学的概念の特徴について体験を通して理解する。</p> <p>(復習事項) 生物学的概念の特徴について復習する。</p> <p>(予習事項) コマの作り方について調べてくる。</p>
7 回	<p>【生物学者としての子ども③】 落葉・木の実拾い</p> <p>(学習成果) 子どもの生物学的概念の特徴について体験を通して理解する。</p> <p>(復習事項) 生物学的概念の特徴について復習する。</p> <p>(予習事項) 秋に紅葉する校内の樹々について調べてくる。</p>
8 回	<p>【物理学者としての子ども①】 磁石を使って</p> <p>(学習成果) 子どもの物理学的概念の特徴について体験を通して理解する。</p> <p>(復習事項) 物理的概念の特徴について復習する。</p> <p>(予習事項) 物理的概念とは何か調べてくる。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	<p>【物理学者としての子ども②】スライム (学習成果) 子どもの物理学的概念の特徴について体験を通して理解する。 (復習事項) 物理的概念の特徴について復習する。 (予習事項) ダイラタンシー現象について調べてくる。</p>
10 回	<p>【社会学者としての子ども】魚の流通、郵便物、銀行 (学習成果) 子どもの社会的認識の特徴について体験を通して理解する。 (復習事項) 社会的認識の特徴について復習する。 (予習事項) 社会的認識とは何か調べてくる。</p>
11 回	<p>【物理学者としての子ども③】凧 (学習成果) 子どもの物理学的概念の特徴について体験を通して理解する。 (復習事項) 物理的概念の特徴について復習する。 (予習事項) 物理的概念とは何か調べてくる。</p>
12 回	<p>【環境の現代的課題】ディベート⇒「子供に積ませたい経験は？」 (学習成果) ESDなどの幼児を取り巻く環境の現代的課題について考えることができる。 (復習事項) 現代的課題について振り返る。 (予習事項) ESDとは何か調べてくる。</p>
13 回	<p>【日常的世界観から科学的世界観へ】 (学習成果) 体験や素朴概念が科学的概念の学習を阻害する要因とならず、橋渡しを促進させるには、保育でどう支援すればよいのか理解する。 (復習事項) 科学的概念への橋渡しを促進する方法について復習する。 (予習事項) 科学的概念についての復習をしてくる。</p>
14 回	<p>【学ぶとは何か】 (学習成果) 行動主義的学習観（教授主義）から構成主義的学習観（深い学び）へ変化した学びについて理解する。また、保育園や幼稚園と小学校の違いについて考え、小1プロブレムについて知る。 (復習事項) 最近の定説である学びについて復習する。 (予習事項) 学ぶとは何か調べてくる。</p>
15 回	<p>【まとめ】 (学習成果) 幼児の生活における活動は科学的知識の基礎の獲得と意味づけし、保育者としてどう支援していけば科学的思考が育つのか理解する。 (復習事項) 日常生活における活動に対する捉え方や支援方法について復習する。 (予習事項) 今までの学習内容を振り返る。</p>

平成 30 年度 教 育 計 画							
科目名	児童文化	授業回数	15	単位数	2	担当教員	尾崎 聡
質問受付の方法：e-mail は osaki@owc.ac.jp、オフィスアワーは B308 土曜 0900～							
教育目標と学生の学習成果	<p>【教育目標】 児童文化に関する基本的問題や用語や実例について知る。抽象概念ではなく具体的イメージで捉えていくことが大事なので、児童文化の世界がよく表現されている紙芝居・絵本・昔話・映像など様々なメディアも利用して理解する。具体的には以下の通りである。 ①児童文化とは何か、その起源と展開について知る。 ②児童文化の内容の概略について知る。 ③日常生活の中で出会う児童文化の実例、自分たちが子どもの頃に体験した児童文化の例を思い出しながら語り合い、考察、発表する。 ④保育現場で展開されている児童文化の事例について学ぶ。 ⑤毎回のテーマや年中行事に関係した折り紙で幼児でもできるもの、保育者が作って壁面に張れるものを作ってみる。</p> <p>【学生の学習成果】 「専門的学習成果」(知識・技能) ①児童文化の起源と歴史、児童文化の現在的展開、児童文化の内容の概略、保育の場・日常生活における児童文化の実例についての知識が身につく。 ②児童文化を教育・保育の場で実践、応用する際の視点が形成される。</p> <p>「汎用的学習成果」(価値観、信念、態度) “子ども文化”と異なり、保育・教育的意味合いが強い“児童文化”に関する学習を通じて教育者・保育者としての価値観が形成され、信念・態度として身につく。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方 (講義・演習・実験・実習・実技) 抽象概念ではなく具体的イメージで捉えていくことが大事なので、児童文化の世界がよく表現されている紙芝居・絵本・昔話・映像など様々なメディアも利用して理解する。メディアは見放してはほとんど意味がないが、逆に予習・復習を加えると奥深い教養が形成されるのでこれを予習・復習の題材として利用する。 毎回の授業で自分の体験を順番に話してみるなど、アクティブな作業に取り組む。</p> <p>予習・復習 1回の授業に対して予習・復習が義務付けられる。予習・復習・課題の成果を残す場としては授業内容・参考文献・参考映像などに関する感想をシャトルカードに記述することとする。</p> <p>テキスト 特にテキストは指定しないが、毎回参考資料をプリントで配布する。</p>					
学習評価の方法	<p>【評価方法】 期末筆記試験によって児童文化に関する認識形成を確認する。提出物によって平生の努力を確認する。みんなの前で話したり、発表したりすることを演習として重視し、評価する。</p> <p>【学習成果の達成度の評価比率】 「専門的学習成果」 ①児童文化の起源、展開、内容の概略、保育の場・日常生活や文化における実例についての認識が身についているか (50%) ②上記の認識を保育の場で面白く実践、応用することができるか (50%) 「汎用的学習成果」(「態度・信念」) ③保育・教育的意味合いが強い児童文化に関する学習を通じて保育者の態度・信念が身についているか</p> <p>【点数配分】 期末筆記試験 (60%)、 ノート提出 (20%)、 演習参加 (20%) ※毎回の演習はノートに書く、提出時に確認する。提出物の一元化をはかる 上記以外に授業態度を汎用的学習成果として評価する。</p>						
注意事項	参考図書は古今東西の名著から毎回指示する						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーションおよび導入</p> <p>■オリエンテーション（授業の進め方、スケジュール、評価方法）</p> <p>■授業内容：、児童と児童文化について知る。児童期の記憶をもとに意見交換する。一部の者実演。（児童文化の定義、児童文化研究の最前線「子どものしぐさの世界」（“股覗き” “キツネの窓” “カギしめた” など世代を超えて伝承される遊びを考察する）</p> <p>■予習復習と課題：参考映像を見ての学びをノートに書き出す。次回授業でシャトルカードに書く。</p>
2 回	<p>子どもの心と生活世界①</p> <p>■授業内容：里山（身近な遊び場、自然と歴史が豊富な理想的な遊び場で生活経験の源）について知る。児童期の記憶をたどりながら里山の絵図を描く。意見交換と一部発表。</p> <p>■予習復習と課題：次回授業で予想されることや参考映像を見ての学びをノートに書き出す。次回授業でシャトルカードに書く。</p>
3 回	<p>子どもの心と生活世界②</p> <p>■授業内容：林の恵み（ドングリと葉っぱ）、森の名残＝鎮守の森（塚の森）、園行事（遠足と散歩）について知る。校庭でドングリを拾って持って帰り観察する。意見交換と一部の者発表。</p> <p>■予習復習と課題：次回授業で予想されることや参考映像を見ての学びをノートに書き出す。次回授業でシャトルカードに書く。</p>
4 回	<p>子どもの心と生活世界③</p> <p>■授業内容：昔話の世界観（「境界論」坂、穴＝おむすびころりん、橋、辻＝笠地藏、浜＝天の羽衣）について知る。児童期の記憶をもとに境界図を描いてみる。意見交換と一部の者発表。</p> <p>■予習復習と課題：次回授業で予想されることや参考映像を見ての学びをノートに書き出す。次回授業でシャトルカードに書く。</p>
5 回	<p>子どもの心と生活世界④</p> <p>■授業内容：現代民話の世界観（「同心円論」中心＝四角い教室、周縁＝特別教室、旧校舎、トイレ、ゴミ捨て場…）について知る。児童期の記憶をもとに同心円図を描いてみる。意見交換と一部の者発表。</p> <p>■予習復習と課題：次回授業で予想されることや参考映像を見ての学びをノートに書き出す。次回授業でシャトルカードに書く。</p>
6 回	<p>子どもの心と生活世界⑤</p> <p>■授業内容：お雛様と年中行事・お雛様の模型をノートに作って理解を深める。児童期の記憶をもとに意見交換する。意見交換と一部の者発表。</p> <p>■予習復習と課題：次回授業で予想されることや参考映像を見ての学びをノートに書き出す。次回授業でシャトルカードに書く。</p>
7 回	<p>子どもの心と生活世界⑥</p> <p>■授業内容：お雛様と年中行事・模擬保育室でお雛様の実物を手に取りながら観察して理解を深める。児童期の記憶をもとに意見交換する。意見交換と一部の者発表。</p> <p>■予習復習と課題：次回授業で予想されることや参考映像を見ての学びをノートに書き出す。次回授業でシャトルカードに書く。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	<p>児童文化の心 ～児童文化財とマンガ～</p> <p>■授業内容：児童文化の内容（児童自身が作り出す文化と大人が子供のために作り出す文化）について知る。児童期の記憶をもとにマンガを描いてみる。意見交換と一部の者発表。</p> <p>■予習復習と課題：次回授業で予想されることや参考映像を見ての学びをノートに書き出す。次回授業でシャトルカードに書く。</p>
9 回	<p>生活世界の環境変化と遊びの変化</p> <p>■授業内容：伝統的な遊び場（道、庭、空き地、原っぱ、神社、寺、校庭、小川…）について知る。児童期の記憶をもとに遊び場の絵図を描いてみる。意見交換と一部の者発表。</p> <p>■予習復習と課題：次回授業で予想されることや参考映像を見ての学びをノートに書き出す。次回授業でシャトルカードに書く。</p>
10 回	<p>児童文化と食育</p> <p>■授業内容：給食の文化（パン、脱脂粉乳と牛乳、鯨肉、冷凍食品と食の画一化、米飯給食、先割れスプーンとお箸問題、ランチプレートと犬食い問題）について知る。児童期の記憶をもとに給食の図を描いてみる。意見交換と一部の者発表。</p> <p>■予習復習と課題：次回授業で予想されることや参考映像を見ての学びをノートに書き出す。次回授業でシャトルカードに書く。</p>
11 回	<p>児童文学と語り・話し① ～神話・伝説・昔話の分析と解釈（前編）～</p> <p>■授業内容：文学を子どもに伝える方法（語りと話し、ストーリー・テリングなどの問題）について知る。児童期の記憶をもとに昔話を書き出してみる。意見交換と一部の者発表。</p> <p>■予習復習と課題：次回授業で予想されることや参考映像を見ての学びをノートに書き出す。次回授業でシャトルカードに書く。</p>
12 回	<p>児童文学と語り・話し② ～神話・伝説・昔話の分析と解釈（中編）～</p> <p>■授業内容：文学を子どもに伝える方法（語りと話し、ストーリー・テリングなどの問題）について知る。児童期の記憶をもとに神話を書き出してみる。意見交換と一部の者発表。</p> <p>■予習復習と課題：次回授業で予想されることや参考映像を見ての学びをノートに書き出す。次回授業でシャトルカードに書く。</p>
13 回	<p>児童文学と語り・話し③ ～神話・伝説・昔話の分析と解釈（後編）～</p> <p>■授業内容：文学を子どもに伝える方法（語りと話し、ストーリー・テリングなどの問題）について知る。児童期の記憶をもとに伝説を書き出してみる。意見交換と一部の者発表。</p> <p>■予習復習と課題：次回授業で予想されることや参考映像を見ての学びをノートに下書きする。次回授業でシャトルカードに書く。</p>
14 回	<p>児童文学とファンタジー① ～児童文学と深層心理学の問題（前編）～</p> <p>■授業内容：ファンタジー（空想と心の中の真実。象徴がいっぱい＝王家、姫・王子、騎士、剣、ドラゴンなど）について知る。児童期の記憶をもとに、ファンタジーを書き出してみる。意見交換と一部の者発表。</p> <p>■予習復習と課題：次回授業で予想されることや参考映像を見ての学びをノートに書き出す。次回授業でシャトルカードに書く。</p>
15 回	<p>児童文学とファンタジー② 児童文学と深層心理学の問題（後編）～</p> <p>■授業内容：ファンタジーの見方（主人公の成長と象徴の解釈＝抜けない剣が抜けるようになること）について知る。児童期の記憶をもとに意見交換する。一部の者発表。</p> <p>■参考文献：グウィン原作、ジブリ製作、アニメ『ゲド戦記』（心理学の世界では古くから注目された作品。人間の成長過程における“影”との戦いに注目。）</p> <p>■復習：授業全体を通じての疑問点をまとめ、試験までに質問しておく。</p>

平成30年度教育計画							
科目名	卒業予備研究(A)	授業回数	15	単位数	1	担当教員	学科教員
質問受付の方法(e-mail、オフィスアワー等)：随時							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：幼児教育者としての使命感を備えた実践的指導力のある保育者を養成することを目指し、以下の3点を教育目標とする。</p> <p>① 保育者になる上での自己課題を認識する。</p> <p>② ①で明らかにした自己課題を克服する方法を見出す。</p> <p>③ 「卒業予備研究(B)」「卒業研究(A)・(B)」に向けて自己の研究テーマを明確にする。</p> <p>学生の学習成果：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門的学習成果：3点の教育目標に関する知識を習得し、自身の課題を明確にする。 ・ 汎用的学習成果：保育者として身に付けるべき「態度・信念」を涵養する。 						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員による講義、保育士及び福祉施設職員による講演を実施する。 ・ 「保育所見学」および「子どもといっしょに運動会」を実施する。 ・ 講演や見学に際して、各自が事前に課題を設定し、終了後にまとめを行う。 	<p>予習・復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予習：毎時間、提示した内容について十分な予習を行うこと。 ・ 復習：毎時間、学習した内容について十分な復習を行うこと。 	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テキストは使用しない。 ・ 適宜、講義内容に即したプリントを使用する。 			
学習評価の方法	<p>下記3点の学習成果について、「1」は「第2回・第7回・第10回・第12回」提出の自己課題に関する課題「40点/4回提出・各10点」および「第11回」提出の保育所見学のまとめ「15点/1回提出」および「子どもといっしょに運動会」のまとめ「15点/1回提出」、「2」は「第15回」提出の『自己課題克服計画』の課題「15点/1回提出」、「3」は第「15回」後の指定期限に提出の「卒業予備研究(B)」「卒業研究(A)・(B)」に向けた研究課題「15点/1回提出」によって評価する。欠席1回「5点」、遅刻1回「3点」を減ずる。また、「汎用的学習成果」に対する点検として、私語や非協力的態度等の問題行動について、複数回の注意後も改善されない場合、各授業における当該事態1回「3点」を減ずる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者になる上での自己課題を認識する。 2. 「1」で明らかにした自己課題を克服する方法を見出す。 3. 「卒業予備研究(B)」「卒業研究(A)・(B)」に向けて研究課題を明確にする。 						
注意事項	<p>注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部への見学を伴う授業であることから、見学に際しては、服装や髪型等、「保育者として相応しい身だしなみ」を徹底すること。 						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	1. オリエンテーションにより、シラバスに記載された内容を理解する 2. 第2・3回の事前指導を行い、保育所に関する講義・講演に向けて自己課題を考える 予習：シラバスを通読する 復習：授業内容を振り返り、保育所に関する講義・講演に向けて自己課題をまとめる
2 回	1. 保育者として必要な資質について理解する 2. 目指す保育者像について記述する 予習：目指す保育者像について考える 復習：目指す保育者像に対して、自らが克服すべき課題をまとめる
3 回	1. 保育所保育士（卒業生）の講演により、保育所及び保育士の業務内容を理解する 2. 短大での望ましい学習について考えるとともに、講演による学習成果について記述する 予習：質問事項をまとめておく 復習：授業内容を振り返り、感想をまとめる
4 回	1. 園長経験者の講義により、保育の実際について理解する 2. 短大での望ましい学習について考えるとともに、講義による学習成果について記述する 予習：質問事項をまとめておく 復習：授業内容を振り返り、保育の実際に関して得た知識をまとめる
5 ・ 6 回	1. 「保育所見学」により、保育所及び保育士の業務内容の実際を理解する 2. 見学した内容について記録する 予習：「保育所見学」の課題及び注意事項を確認する 復習：見学記録を整理するとともに、保育所見学を通して得られた自己課題をまとめる
7 回	1. 保育現場における運動あそびの実際や、子どもへの具体的な援助についてイメージする 2. 「子どもといっしょに運動会」の準備・リハーサルを通して、自らの課題を見出す 予習：保育現場における運動あそびの実際について考える 復習：自らの担当部署について、担う役割や具体的な動きを確認する
8 ・ 9 回	1. 保育現場における運動会の業務内容や、具体的な援助の実際について理解する 2. 「子どもといっしょに運動会」の実施・片付けを通して、自らの課題を見出す 予習：保育現場における運動あそびの実際についてイメージする 復習：保育現場における運動あそびの実際及び具体的な援助について復習する

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
10 回	1. 見学記録をもとに「保育所見学」のまとめを行う 2. 「子どもとっしょに運動会」のまとめを行う 予習：見学記録を読む 復習：授業内容を振り返り、福祉施設に関する講義・講演の自己課題をまとめる
11 回	1. 「卒業予備研究(B)」・「卒業研究(A)・(B)」の履修に関する説明を行う（希望調査を含む） 2. 福祉施設に関する講義・講演に向けて自己課題を考える 予習：保育者になる夢を実現させるための自己課題を確認する 復習：福祉施設に関する講義・講演に向けて自己課題をまとめる
12 回	1. 講義により、福祉施設の概要について理解する 2. 講義による学習成果について記述する 予習：質問事項をまとめておく 復習：授業内容を振り返り、福祉施設の概要をまとめる
13 回	1. 福祉施設職員(卒業生)の講演により、福祉施設及び福祉施設職員の業務内容を理解する 2. 短大での望ましい学習について考えるとともに、講演による学習成果について記述する 予習：質問事項をまとめておく 復習：講演内容を振り返り、感想をまとめる
14 回	1. 福祉施設職員の講演により、福祉施設及び福祉施設職員の業務内容を理解する 2. 短大での望ましい学習について考えるとともに、講演による学習成果について記述する 3. 予習：質問事項をまとめておく 復習：これまでの授業内容を振り返り、自己課題克服計画を確認する講演内容を振り返り、感想をまとめる
15 回	1. これまでの授業内容を振り返り、自己課題克服計画を再確認する 2. 「卒業予備研究(B)」・「卒業研究(A)・(B)」の履修説明を行う（所属ゼミの発表を含む） 予習：これまでの授業を通して得られた自己課題を確認する 復習：これまでの授業内容を振り返るとともに、自己課題の克服について整理する